

2023 年度 年報



玉昌会グループ

医療法人玉昌会／社会福祉法人幸友会／株式会社JOY

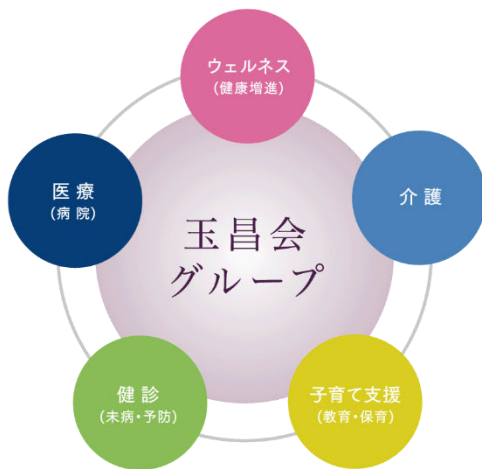
玉昌会グループ 基本理念

いつまでも健やかに……
——私たちの願いです。

行動指針



グループビジョン



玉昌会グループは、健康・医療・福祉・生活の総合ビジョンを掲げ、鹿児島市・始良市に密着した、きめ細やかな医療環境づくりをめざしています。

また、医療をとりまく環境や制度の変化、さらにはますます進む高齢化に向けて、より時代に即した医療環境の整備が求められています。こうした時代のニーズに応えるべく総合的な視点で、未来に向けた新しい医療環境を構築していきます。

玉昌会グループ年報

2023年4月1日～2024年3月31日

医療法人玉昌会

加治木温泉病院

キラメキテラスヘルスケアホスピタル

JOYメディカルクリニック・介護医療院おはな

在宅事業

社会福祉法人幸友会

株式会社JOY



◆公益財団法人 日本医療機能評価機構

キラメキテラスヘルスケアホスピタル

機能種別版評価項目 3rdG: Ver2.0 認定

加治木温泉病院 機能種別版評価項目 3rdG: Ver2.0 認定

加治木温泉病院 リハビリテーション付加機能 Ver3.0 認定

◆一般社団法人 日本慢性期医療協会

慢性期医療認定病院 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

加治木温泉病院

◆エコアクション21

認証事業所 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

加治木温泉病院

◆日本政策投資銀行(DBJ)

医療法人玉昌会 健康格付付与

〃 環境格付付与

〃 BCM格付付与

〃 ビジヨナリーホスピタル認定

◆健康経営優良法人認定制度(経済産業省)

医療法人玉昌会 健康経営優良法人2024(ホワイト500)認定

◆第7回日経スマートワーク経営調査 3つ星評価獲得

目 次

グループビジョン・法人理念		J0Yメディカルクリニック	
巻頭のことば	2	／介護医療院おはな	120
【医療法人玉昌会】		運営方針	
組織図	10	沿 革	
外部役員・嘱託講師	11	概 要	
派遣・ボランティア	15	統 計	
主な行事・出来事	16	部門別活動報告	
トピックス	18	各種委員会	
新聞掲載・マスコミ報道	24	在宅事業	130
2022年度業績一覧	29	運営方針	
法人事務局	35	概 要	
組織図		部門別活動報告	
人事		学術活動 院内研修	
環境経営マネジメント		【社会福祉法人 幸友会】	
加治木温泉病院	41	理念・保育目標	143
運営方針		組織図・沿革	144
沿 革		概要・かずみスペシャル保育	145
概 要		職員研修	146
組織図		主な年間行事	147
統 計		【株式会社 JOY】	
部門別活動報告		経営理念・行動指針	149
各種委員会		事業内容・組織図	150
地域リハビリテーション広域支援センター事業		各事業所の概要	151
学術活動 院内研修		トピックス	152
実習受入れ			
キラメキテラスヘルスケアホスピタル	84		
運営方針			
沿 革			
概 要			
組織図			
統 計			
部門別活動報告			
各種委員会			
学術活動 院内研修			
実習受入れ			

2023 年度玉昌会グループ年報の発刊にあたって

玉昌会グループ代表 高田 昌実
 医療法人玉昌会 理事長
 社会福祉法人幸友会 理事長



2023 年度も皆様方には法人グループ運営等に関し、大変お世話になり誠にありがとうございます。2023 年度のグループ年報が完成いたしました。2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症は 2 類相当から 5 類へと移行し社会活動は活気を取り戻してくると考えていました。しかし、新型コロナウイルスの感染力は衰えることはなく、5 類へ移行後もコロナウイルスが猛威を振るった時期もありましたが、職員が一丸となった対応と皆様方からのご支援でこれらを乗り越えられた事に対し感謝申し上げます。

2024 年 1 月 1 日、石川県能登地方で震度 7 の地震が発生し 230 名以上の方が犠牲になりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。グループは七尾市の恵寿総合病院のクラウドファンディング寄付やサンダーバードへの寄付並びに支援活動にも参加し、長期的支援活動を行っております。2024 年 2 月に玉昌会グループ 3 社で 10 年ぶりに大規模災害模擬訓練を実施しました。今後も継続して活動し多様な大規模災害等の発生時にも、多くのステークホルダーと相互に協力し、事業を継続し地域と社会に貢献していきたいと考えております。

当グループでは、日頃から心身共に健全でウェルネスな地域共生社会を支える地域包括ケアシステムネットワークの基盤となる「ヒューマンライフライン」の構築に協力し、全世代のヘルスケアに対応した医療・介護・福祉サービスを含めた多様な生活支援サービスを提供する事を目標として、目標達成の為に、「健康経営」と「竹林経営」をグループ経営の中核に据えて取り組んでおります。

「健康経営」では、職員と家族の「健やか」がグループの財産と位置付けし、職員の健康管理は持続可能な法人運営上の適切な活動と捉え、職員の心身の健康管理に適切な多種多様な対応を行っていますが、2024 年 3 月に経済産業省と日本健康会議が主催する「健康経営優良法人 2024（ホワイト 500）」認定制度で、当法人は 2019 年より 6 年連続の認定を取得しました。

「竹林経営」とは、竹は強風に対してしなやかになびき折れにくく、仮に折れても竹の子がすぐ出てきて何もなかったかの様にそこに存在し、その竹林の地下茎は地中で張り巡らされ地盤を強固にして、そこから新芽が次々と湧き出てくる様を強固なグループ経営の独自の概念を表現しています。玉昌会グループは、事業所の各機能が竹林の地下茎の様に繋がって、グループ全体で柔軟な経営をおこない、これからの激変する社会情勢も乗り越えていきたいと考えています。

鹿児島地区の活動は、2021年2月に開院し3年目を迎えたキラメキテラスヘルスケアホスピタルは「再入院を極力させない為の入院治療」を基本方針に掲げ、新しい医療概念の「病気も治し社会と生活を支える医療」に基づき、医療機能毎の適切な入院期間（50日～100日程度）を有意義に快適に過ごす事を目標に、チーム医療・介護の総合的医療・介護サービス機能向上に取り組んでいます。キラメキテラスは2023年5月16日にシェラトンホテル鹿児島と商業施設も開設されグランドオープンし、全国から多くの視察・見学を受け入れ、キラメキテラスの最大の特徴である、キラメキテラスヘルスケアホスピタルと隣接する「治す医療」の高度急性期医療を担う「昭和会 いまきいれ総合病院」と全国に類をみない強固な連携を実践して、安全安心なまちづくりを行っている事を紹介いたしました。

始良地区では、創業60周年記念事業の加治木温泉病院の新築移転計画における地域完結型医療システムの構築に向けて、「JOYタウン計画」の準備を進めています。2022年12月に「JOYメディカルクリニック」を併設した介護医療院Ⅱ（介護老人保健施設同等機能）「介護医療院おはな」を開設し、加治木温泉病院は230床の病院と介護医療院60床を併設する医療・介護サービスを兼ね備えた新しいケアミックス病院に機能を向上させることができました。今後も医療並びに介護サービス機能を見直し、皆様と共に始良市で必要とされる医療・介護・障害福祉サービスと生活支援サービスを総合的に提供できる体制の構築を目指します。

玉昌会グループは、医療連携先の昭和会と今後も毎月定期的に理事長ミーティング、理事長・院長ミーティングを開催し、両法人が運営する各病院の高度急性期機能（病気を治す医療）から回復期機能・在宅サービスを含む慢性期機能（病気も治し、社会と生活を支える医療）までを“シームレスに”提供する「鹿児島市の水平分業の地域完結型医療システム」を目指し、2040年までに両地区で必要とされる地域包括ケアシステムネットワークをベースとする地域共生社会に必要なプラットフォーム「ヒューマンライフライン」を、地域住民と行政や各医療機関、介護事業者と連携を構築し、全世代に対応した医療・介護・福祉を含めた生活支援サービスの提供を目指します。

グループは、法人理念の「いつまでも健やかに・・・私たちの願いです。」のもと、行動指針の「低・賞・感・微」を念頭に置き、両地区における計画を実行し、益々大きく激変する社会変化に対応し、常に地域の皆様が必要とされる生活支援サービスに当たる医療・介護・福祉サービスの充実と向上に努め、日々努力を重ね、多くの関係者と共に、笑顔の絶えない明るい社会を作りたいと考えております。

何卒、皆様方には今後もご指導ご鞭撻をお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

2023 年度玉昌会グループ年報の発刊に寄せて ーポストコロナから新たなフェーズにー

医療法人玉昌会 始良地区担当理事 夏越 祥次
加治木温泉病院 院長



新型コロナウイルス感染症は、2023 年 5 月 8 日より感染症取り扱いが 2 類相当から 5 類へ移行し、ようやく 4 年目を迎えポストコロナの兆しが見えてきています。しかしながら、2023 年度も 7 月～8 月に 50 名、10 月に 13 名、2024 年 2 月に 11 名のクラスターが発生しました。これまでの感染症に対する経験を生かすことができたこと、重症者が発生しなかったことより、病床稼働率を極端に低下させることなく運営することができました。これまでの歴史からみても、今後も予期しない感染症が起こりうることは、念頭に置いておく必要があります。今回のコロナウイルス感染症の事例も時が経てば記憶が薄れていくと思いますので、しっかりと記録にとどめ後世に語り継いでいくことが大事だと思います。

さて、ポストコロナの現在は、マスクを着けていない人が増え、海外からの観光客が増加してきています。次第に社会はビフォーコロナの状況に近づきつつあります。学会も現地参加をする機会が増え、会場内での熱い議論が行われるようになり、Web 参加では味わうことができない臨場感があります。各大学・病院の先生方と再会し、近況を報告しあうなど、以前のように活気がみられてきています。これからは学会、研究会、講演会を通じてもっと交流する機会が増え、研究の進捗状況、臨床での診断・治療の工夫、経営に関する相談などの情報交換により、コロナ禍で停滞していたムードを一気に解消していくチャンスになると思われます。

日本、特に地方では、人口減少と高齢化が顕著になってきています。2040 年問題と言われている現役世代の急減により、介護・福祉における人手不足、社会保障費のさらなる増大が懸念されています。最近報道でよく目にする単身の貧しい高齢者の増加、40%を超える空き家率、道路や水道などの老朽化など、直面する大きな社会問題が山積してきています。政府はこれらの問題の対策として、生涯現役社会、ロボット・AI・ICT などの実用化、健康寿命の延伸、そして地域包括ケアシステムを掲げています。地方病院の一つである当院も、2040 年問題に関して何らかの工夫が必要と考えられます。既存の市場で、競争をしながら差別化か低コストを選択するレッド・オーシャン戦略か、あるいは競争がない新しい市場を求めるブルー・オーシャン戦略を探すのか、検討する必要があります。いずれにしても、これまでの慣習にとらわれず、様々な視点からアイデアを創出しながら、高齢化社会の医療・介護を乗り切っていく必要があります。医療の質向上のためには、院内教育の充実、複数ライセンスの取得によるタスクシフト・タスクシェアの推進によるチーム医療の円滑化、特定行為看護師の養成など進めていくことが重要です。これらを達成するためには職員の皆さん一人一人の意識の向上が大事ですので自己研鑽をよろしくお願いいたします。

さて、4 月より働き方改革が開始されますが、いかにムダを省き効率的に仕事をこなして

巻頭のことば

いくつかのポイントになります。トヨタ自動車株式会社がムダをなくす7つの方法を示しています。①会議のムダ：決まらない会議、決めない人も出る会議は開催しない。②根回しのムダ：自分の安心のために、全員に事前回りしない。③資料のムダ：報告のためだけの資料は不要、A4/A3一枚以上の資料は準備しない。④調整のムダ：実務で調整しても進まない案件は頑張って調整せずに上位に相談する。⑤上司のプライドのムダ：自分に報告がなかったというだけで、私は聞いていないと言っていないか。上司がこう言うと②根回し③資料のムダが発生するので、情報は上司が自ら取りに行く。⑥マンネリのムダ：今までやっているからという理由だけで、続けている業務はないか。⑦ごっこのムダ：事前に練ったシナリオ通りのシャンシャン会議をしていないか。決めようとせずにその周辺ばかりをつつくことで議論した気になっていないか。以上、さすが世界のトヨタだけあって理路整然とした素晴らしい方法と思います。私たちもこれらの7つのムダの省き方を参考にして、効率よく仕事をするように努力していくことが大切です。特に時間短縮と情報共有のために、日々のメールのチェックや迅速な返信は必須です。

本年度は、ポストコロナから新たなフェーズに入っていきます。働き方改革の推進に向けて、職員一人一人が仕事のムダを省き、空いた時間で自らを高めるために自己研鑽を怠らないようにして、さらに進化した加治木温泉病院を目指して参りますので、本年度も何卒よろしく願い申し上げます。

2023 年度玉昌会グループ年報の発刊に寄せて

医療法人玉昌会 鹿児島地区担当理事 上村 章
キラメキテラスヘルスケアホスピタル 院長



2023年度玉昌会グループ年報の発刊に寄せて、一言御挨拶申し上げます。

まずは、2023年度も多くの医療機関や介護福祉分野の事業所、さらに地域の皆様方にキラメキテラスヘルスケアホスピタルならびに鹿児島地区の在宅サービス事業部がたいへんお世話になりました。厚く御礼申し上げます。

2023年もコロナは収束には至りませんでした。変異を繰り返しながら弱毒化も進み、社会も落ち着きを取り戻しつつあります。行動制限は前年から次第に緩和され、3月にはマスクの着用も任意となり、5月8日には5類に変更となりました。このような状況の変化を受けて当院も感染対策を見直しました。

面会はしばらくタブレットを用いたオンラインのみでしたが、対面での面会を再開しました。院内の各種会議や勉強会なども対面での開催を再開しましたが、マスクの着用や手指消毒、換気などの感染対策を徹底して、院外からの受け入れや、散発例はあるものの大きな院内流行は防ぐことができました。

病院の運営に関しましては2023年4月より小児リハビリを開始しました。

次世代育成の観点から、微力ながら今後も大いに注力していく所存です。

おなじく4月に国土交通省・短期入院協力病院認定を受けました。10月には回復期病棟を48床から55床に増床して、より迅速な患者さんの受け入れが可能になりました。

2023年は人手不足が頻繁に話題になった年でもありました。医療機関も例外ではなく、他の業種より深刻な印象さえあります。より効率的で働きやすい職場環境の整備が求められ、解決の手段のひとつとしてDX(デジタルトランスフォーメーション)が推進されています。

当院はDXの一環として電子カルテ上で動作するチャット機能を導入しました。

医師、看護師をはじめとした多職種間の情報交換や共有に大変有効で業務の効率化や働き方改革につながっています。

当院は今後も職員の働き方改革や健康経営をすすめ、より働きがいのある職場を目指します。一人一人の職員がより生き生きと熱意をもって働くことで、より安心して安全な医療を進めていきたいと存じます。

2023年度のご協力に改めて感謝申し上げます。2024年度も変わらぬご指導・ご鞭撻をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

2023 年度玉昌会グループ年報の発刊にあたって

玉昌会 理事 濱田 浩志
JOY メディカルクリニック 院長
介護医療院おはな 院長



2023 年度玉昌会グループ年報の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

2022 年 12 月 1 日に開設されました介護医療院おはな及び JOY メディカルクリニックは玉昌会グループはじめ地域の医療関係者や関係各位のご協力、ご支援をいただき無事開設 1 周年を迎えることができました。又、入所されている患者様、ご家族の方々におかれましては施設運営に関してご理解いただき誠にありがとうございます。並びに、多忙な職場環境の中ともに働いている全てのスタッフにも深く感謝いたします。

さて、2023 年度は国内、国外において様々な変化がありました。

国内では新型コロナウイルス感染症が 5 類となり行動制限が解除されました。医療機関においても対応は簡素化されていますが一旦クラスターが発生すると隔離含めた医療行為が必要となり依然大きな負担となっております。

経済的には物価高は歯止めがかからず、年度後半にかけての円安は石油や原材料の高騰に拍車をかけて国民の消費活動や産業に大きな影響を与えております。

国外では、ロシアのウクライナ進攻は 2 年となりましたが今だに戦闘は継続しております。中東ではイスラエルとハマスによるガザ紛争が勃発して停戦は難航しております。このような不安定な海外情勢に加え、気候変動による災害や環境の悪化は世界的な課題となってきています。又、社会情勢は大きく変貌し AI を駆使した DX（デジタルトランスフォーメーション）は今後もますます進歩し私たちの生活に大きな変革をもたらすと考えられます。社会は混沌としており数年先、数か月先も見通せないような状況が続いています。

私たちはこのような時代の大きな激動のなかで生きているのではと思います。

このような変化の中で私たちはどの様に対処していけばいいのかと考える時、なかなか難しいと思いますが、それぞれ個々の置かれた立場でなすべきことを行い、そして自分たちの行動が他の人々や地域に少しでも貢献できるように取り組んでいくことが重要ではないかと考えます。

そこで医療・介護の世界に身を置く私たちがなすべき事は病気やけがの治療に加え人々の健康維持や予防への取り組みはもちろんのこと災害などの発生時には治療や救助活動を行っていく、感染症などのパンデミックが発生したら感染拡大を防ぎ可能な医療を行う等様々にあります。これらの基本的な活動を継続して実行していくことが私たちに求められる使命かと考えます。

さて、玉昌会グループは年度末よりいくつかの在宅事業を閉鎖しました。これは限られた医療資源を集中して持続可能な事業活動への取り組みと考えております。昨今、介護職を中心に医療・介護の分野では人手不足が深刻となっております。介護医療院をはじめ介護施設においてもスタッフ確保は喫緊の課題です。

このような厳しい状況ではありますが医療・介護に従事する私たちは今後も与えられた使命を果たすべく努力してまいりたいと考えております。

最後になりますが、2023 年度の皆様方のご支援に感謝申し上げますとともに、今年度も皆様方の御理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2023 年度玉昌会グループ年報の発刊に寄せて

株式会社JOY 代表取締役 高田 和美



2023年度も関係各位、皆様方には大変お世話になり誠に有難うございました。各事業部の運営をつつがなく遂行できましたのも、皆様方のご支援の賜物でございます。心より御礼申し上げます。

3月にはWBC侍ジャパンが世界一に輝き、日本中に興奮や感動を届けてくれました。伝統と最新テクノロジーを融合させ、質の高い日本野球を世界に示してくれたと思います。また、プレーだけでなく、監督をはじめ選手やスタッフの言動も注目を浴び、世界中の人々にスポーツの素晴らしさを伝えてくれました。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し行動制限が解除となりましたが、情報化社会の進展・雇用形態の変化により快適で便利な生活ができるようになった反面、運動不足や人々の関わりが希薄になったことでストレスの増加につながり、これまでとは異なる側面から私たちの健康を脅かしています。

子どもたちにおいては、体を動かす機会の減少や生活習慣の乱れから、体格の向上に相反して、体力・運動能力が低下しているという現状が明らかになりました。

また、都市部の高齢化は急速に進行しており、団塊世代が75歳以上の後期高齢者になることに伴い、要介護認定者数も急速に増加すると見込まれています。

子どもたちの健全な発育・発達のための体力向上に向けた取り組みや、高齢期になっても必要な身体機能を維持するための環境整備などは、社会全体で取り組まなければならない大きな課題です。

グループの上位概念であり、弊社の事業基盤でもある「ウェルネスの推進」は、これからの社会課題の解決において、今後ますます必要とされる分野になると推測しております。

ウェルネスの推進により、健全な心身の発達を促し、多様な価値観を認めあう機会を創出、また、住民同士の新たな連携を促進するとともに、地域活力の醸成にも繋がります。

さらに、ウェルネスの振興により、人々の心身両面にわたる健康の保持増進に大きく貢献し、医療費節減の効果等が期待されるなど、経済発展にも寄与します。

弊社事業部におきましては、お客様にとって欠かせないウェルネス交流拠点として、ウェルネスを通じた繋がりを持ち続けることの大切さを伝え、新たな成長に向けた価値を創出し続けることを目標に今後も尽力して参る所存です。

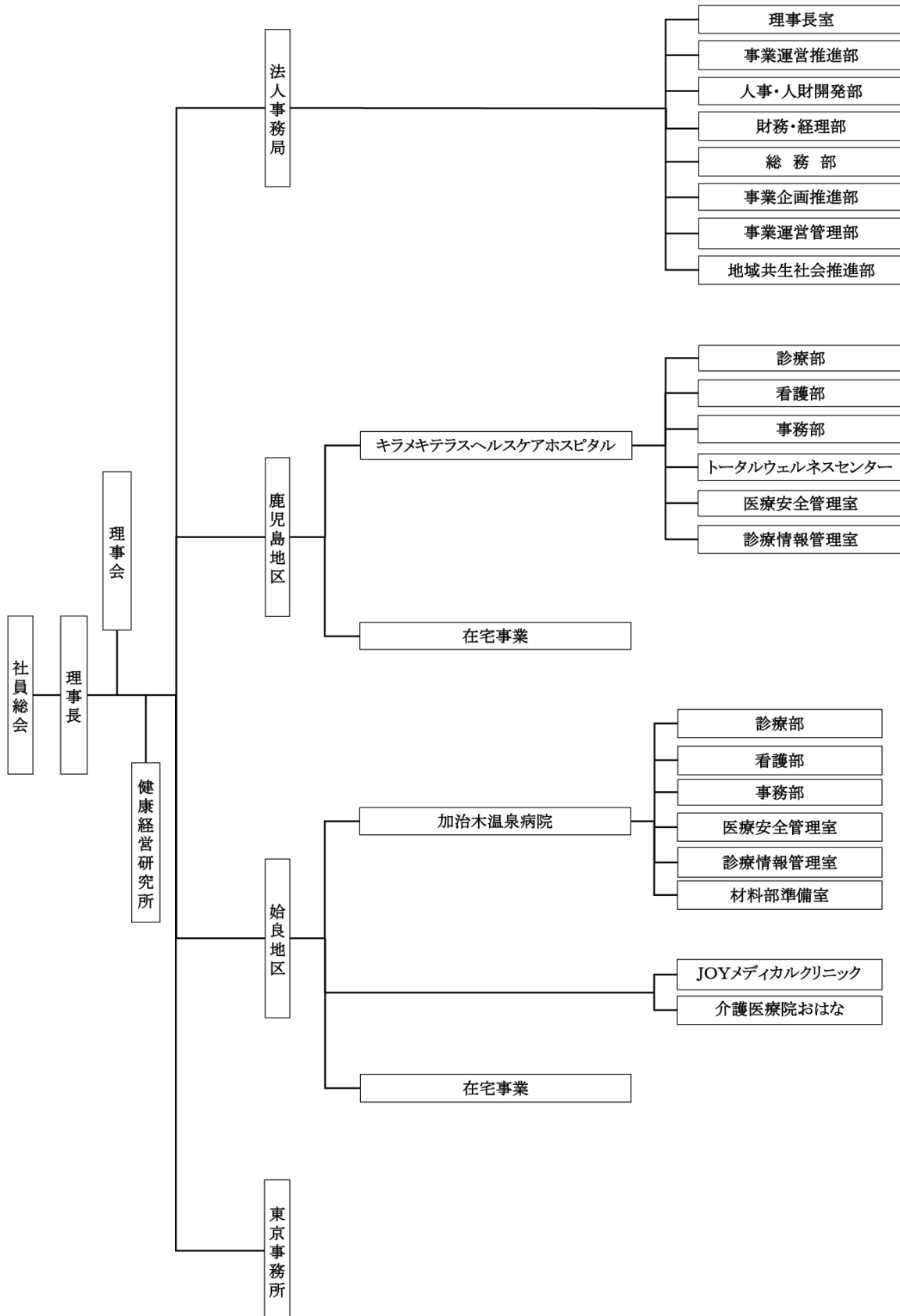
「Make your JOY」という基本理念のもと、これからも健康寿命の延伸に向け、新たなウェルネス文化を発信するとともに、お客様にとって安心安全な場である事をお約束し、常にお客様視点の進めを忘れることなく、事業に邁進して参ります。

最後になりますが、これからも事業活動を通じて地域に愛され、必要とされるよう社員一同一層の精進を重ねて参りますことをお誓い申し上げ、御礼のご挨拶とさせていただきます。

医療法人 玉昌会

医療法人 玉昌会 組織図

2024年4月現在



外部役員・嘱託講師（2023年度）

関連機関名	役職	担当者
日本医療経営実践協会	九州支部理事南九州支局長	高田 昌実
NPO法人 災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード	監 事／鹿児島支部長	高田 昌実
鹿児島県透析医会	会 長	萩原 隆二
鹿児島脳卒中地域連携ネットワーク研究会	世話人	萩原 隆二
鹿児島県慢性期医療協会	監 事	萩原 隆二
鹿児島県慢性腎臓病（CKD）対策協議会	委 員	萩原 隆二
鹿児島市慢性腎臓病（CKD）予防ネットワーク会議	委 員	萩原 隆二
鹿児島県移植医療アイバンク推進協会	理 事	萩原 隆二
日本外科学会	特別会員	夏越 祥次
日本消化器外科学会	名誉会長、名誉会員	夏越 祥次
日本食道学会	名誉会員	夏越 祥次
日本胸部外科学会	特別会員	夏越 祥次
日本胃癌学会	特別会員	夏越 祥次
日本癌治療学会	功労会員	夏越 祥次
日本臨床外科学会	評議員	夏越 祥次
日本消化器癌発生学会	名誉会員	夏越 祥次
日本リンパ学会	常任理事、編集委員	夏越 祥次
胃外科術後障害研究会	名誉会員	夏越 祥次
手術手技研究会	監 事	夏越 祥次
日本 SNNS 研究会	世話人	夏越 祥次
臨床解剖研究会	世話人	夏越 祥次
食道胃外科フォーラム	世話人	夏越 祥次
NPO 法人国際食道疾患会議	理 事	夏越 祥次
Digestive Surgery	Associate Editor	夏越 祥次
Japanese Journal of Lymphology	Editorial Board	夏越 祥次
鹿児島県地域医師育成	特別顧問	夏越 祥次
メディポリス医学研究所	理 事	夏越 祥次
始良地区地域医療構想調整会議	委 員	夏越 祥次
鹿児島県地域医療対策協議会	委 員	夏越 祥次
鹿児島大学病院地域医療センター運営協議会	委 員	夏越 祥次
地域枠制度の今後のあり方についてのWG	委 員	夏越 祥次
日本蛍光ガイド手術研究会	世話人	夏越 祥次
日本がん転移学会	名誉会員	夏越 祥次
日本胸部外科学会九州地方会	名誉会員	夏越 祥次
日本大腸肛門病学会九州支部	幹 事	夏越 祥次
日本癌局所療法研究会	特別会員	夏越 祥次
九州内視鏡・ロボット外科手術研究会	名誉会員	夏越 祥次
京都大学臨床研究審査委員会	技術専門員	夏越 祥次
始良市立加治木中学校	学校医	折田 悟
医療法人 大徳会 桜ヶ丘病院とその関連施設	産業医	有馬 卓志
株式会社 アクシーズ	産業医	有馬 卓志

外部役員・嘱託講師（2023年度）

関連機関名	役職	担当者
鹿児島大学医学部	臨床教授	三好 逸男
日本皮膚免疫アレルギー学会	評議員	三好 逸男
鹿児島大学水産学部	非常勤講師	福崎 誠
鹿児島船員労働安全衛生協議会	船員法指定医	福崎 誠
日本性機能学会	評議員	内田 洋介
日本思春期学会	理 事	内田 洋介
日本性科学会第39回学術集会	会 長	内田 洋介
鹿児島大学医学部	非常勤講師	内田 洋介
鹿児島県医療法人協会立看護専門学校	非常勤講師	内田 洋介
神村学園専修学校	非常勤講師	内田 洋介
神村学園高等部	非常勤講師	内田 洋介
鳳凰高等学校	非常勤講師	内田 洋介
鹿児島県立蒲生高等学校	講 師	内田 洋介
鹿児島県立伊佐農林高等学校	講 師	内田 洋介
鹿児島市立鹿児島商業高等学校	講 師	内田 洋介
鹿児島県立楠隼中学校	講 師	内田 洋介
鹿児島市立長田中学校	講 師	内田 洋介
始良市立山田中学校	講 師	内田 洋介
大村報徳学園	講 師	内田 洋介
始良市立加治木中学校	学校薬剤師	中村 真之
錦江幼稚園	学校薬剤師	中村 真之
鹿児島県病院薬剤師会	理 事	中村 真之
始良地区薬剤師会	理 事	中村 真之
始良地区学校保健会	副会長	中村 真之
始良市学校保健会	副会長	中村 真之
始良伊佐地区介護保険組合介護認定審査会	委 員	中村 真之
始良市成年後見利用促進協議会	委 員	渡辺 純子
始良市地域福祉計画策定委員会	委 員	渡辺 純子
鹿児島県理学療法士協会	代議員	大迫 尚仁
鹿児島県理学療法士協会	高麗・西田地区担当	大迫 尚仁
鹿児島市介護認定審査会	委 員	大迫 尚仁
鹿児島県理学療法士協会	臨床教育推進委員会 副委員長	増山 泰英
鹿児島県理学療法士協会	代議員	増山 泰英
第37回鹿児島県理学療法士学会	学会運営部長	増山 泰英
始良伊佐地区介護保険組合介護認定審査会	委 員	増山 泰英
第37回鹿児島県理学療法士学会	準備委員	徳満 ふみ
第37回鹿児島県理学療法士学会	準備委員	原口 徹郎
鹿児島県理学療法士協会	編集部長	原口 拓人
第37回鹿児島県理学療法士学会	準備委員	原口 拓人
鹿児島県理学療法士協会	編集部 委員	吉村 優希
鹿児島県理学療法士協会	編集部 委員	本村 楓

外部役員・嘱託講師（2023年度）

関連機関名	役職	担当者
第37回鹿児島県理学療法士学会	準備委員	本村 楓
鹿児島県理学療法士協会	編集部 委員	岡元 猛
鹿児島県理学療法士協会	始良地区 委員	畠中 博史
鹿児島県理学療法士協会	編集部 委員	寺師 はるか
鹿児島県理学療法士協会	始良地区 委員	寺師 はるか
鹿児島県臨床工学技士会 災害対策委員会	委員	梅橋 直史
鹿児島県言語聴覚士会	会長	原口 友子
日本言語聴覚士協会	代議員	原口 友子
鹿児島県理学療法士・作業療法士・言語聴覚士連絡協議会	副会長	原口 友子
鹿児島県災害リハビリテーション推進協議会（KJRA T）	世話人	原口 友子
鹿児島リハビリテーション医学研究会	世話人	原口 友子
鹿児島高次脳機能研究会	世話人	原口 友子
鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会	世話人	原口 友子
始良伊佐地区介護保険組合介護認定審査会	委員	原口 友子
鹿児島医療技術専門学校	非常勤講師	原口 友子
志学館大学	非常勤講師	原口 友子
始良市特別支援連携協議会	委員	原口 友子
第13回日本言語聴覚士協会九州合同学術集会鹿児島大会	大会長	原口 友子
日本高次脳機能学会	代議員	有川 瑛人
認知リハビリテーション研究会	世話人	有川 瑛人
鹿児島県言語聴覚士会	理事	有川 瑛人
志学館大学	非常勤講師	有川 瑛人
鹿児島医療技術専門学校	非常勤講師	有川 瑛人
第13回日本言語聴覚士協会九州合同学術集会鹿児島大会	実行委員	有川 瑛人
始良市自立支援協議会	こども部会 部員	原 有希
始良市教育支援委員会	委員	小崎 由果
鹿児島県作業療法士協会	代議員	藤本 皓也
宮崎保健福祉専門学校	非常勤講師	藤本 皓也
鹿児島県言語聴覚士会	理事	末吉 孝行
霧島・始良地区放射線技師会	学術担当世話人	川原 翔太
AMI株式会社	アドバイザー	川原 翔太
看護協会始良伊佐地区医療安全ネットワーク	委員	池田 かおり
看護協会鹿児島地区医療安全ネットワーク情報交換会	委員	成枝 真紀
始良市防火協会	理事	山元 直子
災害福祉広域支援ネットワーク・サンダーバード	講師	飯伏 真一
松原なぎさ校区コミュニティ協議会 まちづくり・環境部会	代議員	飯伏 真一
松原なぎさ校区コミュニティ協議会 健康福祉部会	代議員	鈴木 淑子
鹿児島脳卒中地域連携ネットワーク研究会 連携パスMSW小委員会	委員	尾ノ上 正実
鹿児島県社会保険委員会連合会	理事・会計監事	坂元 真一
鹿児島北社会保険委員会	副会長	坂元 真一
日本年金機構 鹿児島北年金事務所	年金委員	坂元 真一

外部役員・嘱託講師（2023年度）

関連機関名	役職	担当者
荒田校区社会福祉協議会	福祉委員	坂元 真一
日本年金機構 鹿児島北年金事務所	年金委員	西田 寿子
全国健康保険協会 鹿児島支部	健康保険委員	西田 寿子
全国健康保険協会 鹿児島支部	健康保険委員	佐藤 鳴美
鹿児島脳卒中地域連携ネットワーク研究会 看護連携小委員会	委員	毛井 美里
鹿児島脳卒中地域連携ネットワーク研究会 看護連携小委員会	委員	若松 優
鹿児島県整形外科地域連携研究会	委員	南 加奈
鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会	理事	南 加奈
始良伊佐支部介護支援専門員協議会	理事	恒吉 小夜子
一般社団法人 鹿児島県作業療法士協会	学術局研究班	平嶋 佑太郎
鹿児島県看護協会（鹿児島地区）	地域ケアサービス委員 副委員長	西別府 愛
鹿児島県看護協会（鹿児島地区）	教育委員	吉富 妙子

【キラメキテラスヘルスケアホスピタル】

- かごしまの風と光とナポリ祭 2023 救護班 2名
2023年11月11日
- 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会 式典練習会 救護班 9名
2023年4月～9月
- 特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」救護班 4名
2023年10月
- 鹿児島マラソン2024 救護ボランティア 1名
2024年3月3日
- 鹿児島市お達者クラブ 延べ17名
2023年4月～2024年3月
- 鹿児島市よかよか元気クラブ 延べ19名
2023年4月～2024年3月
- 高校野球肩肘検診 1名
2024年2月18日
- 健康づくりキャンペーン（イオンモール鹿児島） 2名
2023年8月20日
- まちの保健室（第41回看護展 山形屋） 1名
2023年9月3日
- 第39回市民健康まつり（西原商会アリーナ） 2名
2023年7月16日

【加治木温泉病院】

- 霧島市 新型コロナ宿泊施設医療従事者派遣 5名
2023年4月
- 燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会 式典練習会 救護班 8名
2023年4月～9月
- 燃ゆる感動かごしま国体(馬術競技)における救護業務 1名
2023年10月9日、15日
- 地域リハビリテーション広域支援センター
2023年度 始良市、霧島市、湧水町へ派遣 延べ165名
- 高校野球肩肘検診 2名
2024年2月18日、2月25日
- 十島村運動機能向上教室 1名
2023年10月9日～11日
- 東串良町 リハビリテーション専門職派遣 1名
2024年2月15日
- 蒲生総合支所 普通救命講習 3名
2023年12月
- 加治木消防本部 普通救命講習 2名
2024年2月

2023 年度 行事・主な出来事

◆2023 年度玉昌会グループ入社式

開催日：2023 年 4 月 3 日
 会場：そうしん本店ビル 6 階
 対象者：4 月 1 日新卒入職者 35 名
 主な内容：「理事長講話」「辞令交付」「新入職者 誓いのことば」

◆2023 年度新入職者オリエンテーション

開催日：2023 年 4 月 3 日・4 日・5 日・6 日・7 日・10 日
 会場：そうしん本店ビル 6 階、始良公民館、ウェルビークラブ・JOYTOWN ホール
 対象者：4 月 1 日新卒入職者
 主な内容：「法人理念・行動指針」「社会人の役割」「医療安全」「感染対策」「倫理教育」
 「アンガーマネジメント」「ハラスメント防止」

◆新役職者研修

開催日：①2023 年 4 月 13 日 ②2023 年 10 月 12 日
 会場：そうしん本店ビル 6 階会議室
 対象者：今年度、新しく役職者となった職員
 主な内容：「管理職の役割」「人事考課制度についての概要」「ザイオン決済法」

◆地域公開講座

開催日：2023 年 4 月 28 日
 会場：株式会社 JOY まなび舎
 主な内容：「今からを変えよう！」～健康寿命の延ばし方～
 講師：保健師/看護師 原田 美佳

◆Global Wellness Day イベント

開催日：2023 年 6 月 11 日
 会場：WellBe Club（始良地区）、キラメキテラスヘルスケアホスピタル（鹿児島地区）
 主な内容：WellBe Club、加治木温泉病院、キラメキテラスヘルスケアホスピタルが連携し、本当に価値のある「健康的な生活を送る」という事を見つめ直すきっかけづくりを提供するイベントを開催

◆地域公開講座

開催日：2023 年 6 月 16 日
 会場：株式会社 JOY まなび舎
 主な内容：「知らないうちに身体が衰えている！？」～大人の健康チェック～
 講師：作業療法士 井料 健勝

◆新人フォローアップ研修

開催日：①2023 年 7 月 27 日（3 か月後） ②2023 年 10 月 15 日（6 か月後）
 会場：①ウェルビークラブ・JOYTOWN ホール ②そうしん本店ビル 6F 会議室
 対象者：2023 年度の新卒入職者
 主な内容：「医療安全対策」「感染対策」「コミュニケーション」「メンタルヘルス」「読書を通して自分の強みを知る」

◆新役職者フォローアップ研修

開催日：2023 年 8 月 27 日
 会場：そうしん本店ビル 6F 会議室
 対象者：新役職者になって 2 年後の職員
 主な内容：「総務管理コンプライアンスの徹底と就業規則」「コミュニケーション研修」

◆新人指導者フォローアップ研修

開催日：2023 年 9 月 21 日
 会場：そうしん本店ビル 6 階会議室
 対象者：各部署の新人指導者で今年度指導者研修受講者
 主な内容：「コーチングの振り返り」「アンガーマネジメント」

行事・主な出来事

◆佐藤錬選手によるトーク&トレーニングイベント

開催日：2023年10月5日

会場：WellBe Club

主な内容：トライアスロンオリンピック強化選手で、世界で活躍するトップアスリート佐藤錬選手（玉昌会所属）の体験談やトレーニング方法に間近で触れられるトーク&トレーニングイベントを開催

◆地域公開講座

開催日：2023年10月13日

会場：株式会社JOYまなび舎

主な内容：「肩こり・肩の痛みを改善!？」～手軽にできるリンパケア～

講師：看護師 中山 優介

◆キラメキテラス連携の会 ～ミライテラス～

開催日：2023年11月21日

会場：城山ホテル鹿児島

主な内容：街づくりを目的とした地域連携の会で、日頃からご協力いただいている医療機関や介護保険事業所、地域の方々からの御支援の感謝の御礼を兼ね、南国殖産株式会社・公益社団法人 昭代会・医療法人 玉昌会の3法人による合同での開催

◆地域公開講座

開催日：2023年12月15日

会場：株式会社JOYまなび舎

主な内容：腰痛予防、毎日の活動へ「ストレッチで生活改善」

講師：作業療法士 道場 大祐

◆医療経営士南九州支局研修会

開催日：2024年2月8日

会場：そうしん本店ビル6階会議室、現地からのZOOM配信

主な内容：玉昌会グループが取り組むBCP・BCM活動とそのポイント

講師：医療法人玉昌会 法人事務局 施設管理部顧問 飯伏 真一

日本医療経営実践協会と玉昌会グループの共催

◆地域公開講座

開催日：2024年2月16日

会場：株式会社JOYまなび舎

主な内容：「食事未来を変えよう」～認知症予防の食事法～

講師：保健師/看護師 原田 美佳

◆九州大学名誉教授 尾形裕也先生 特別講演会

開催日：2024年3月5日

会場：キラメキテラスヘルスケアホスピタル、現地からのZOOM配信

主な内容：九州大学名誉教授 尾形裕也先生を講師にお招きし「医療制度改革の動向と医療機関経営」と題して特別講演会を開催

医療法人玉昌会、公益社団法人昭代会の合同主催

◆新人指導者研修

開催日：2024年3月14日

会場：そうしん本店ビル6階会議室

対象者：各部署の新人指導者

主な内容：「指導者の心構え」「コーチング」

◆地域公開講座「未来社会をあなたとともに」

開催日：2024年3月16日

会場：シェラトン鹿児島

主な内容：鹿児島大学医学部保健学科理学療法専攻教授 牧迫飛雄馬先生を講師にお招きし、「人生100年時代の健康づくり～健康寿命延伸のために今からできること～」をテーマに地域公開講座を開催

2023 年度 玉昌会トピックス

➤ 4 月

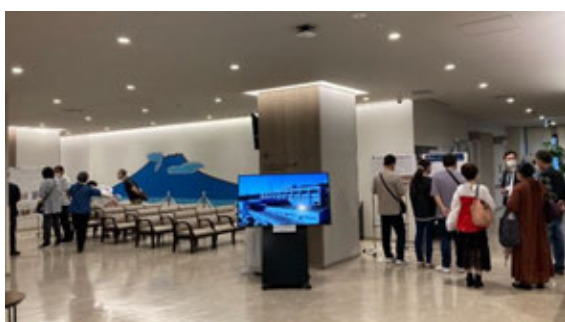
【玉昌会グループ入社式】



新しく玉昌会グループの仲間になる新入職者 35 名の入社式を開催しました。

➤ 5 月

【キラメキテラス グランドオープン】



キラメキテラスが全館開業しグランドオープンしました。

オープニングイベントに参加し、多くの方々が病院見学してくださいました。

【南日本新聞に鼎談企画掲載】



5 月 30 日付南日本新聞に、

高田理事長

南国殖産株式会社 永山在紀社長

公益社団法人昭和会 今給黎和幸理事長

の鼎談企画「キラメキテラスが変える鹿児島
のまちづくり」が掲載されました。

➤ 7 月

【キラメキテラスヘルスケアホスピタル 大王製紙 WEB セミナーで取り組みを紹介されました】

大王製紙 WEB セミナー企画にて、キラメキテラスヘルスケアホスピタルの「夜間排泄ケアの改善事例」を紹介されました。

【キラメキテラスヘルスケアホスピタル 鹿児島地区地域連携ネットワークス情報交換会】



シェラトン鹿児島にて4年ぶりの開催となりましたが、地域の方々とのネットワーク作りや情報交換の場として「多くの方と情報交換ができた」という声を頂きました。

➤ 8月

【加治木温泉病院 始良地区地域連携ネットワークス情報交換会】



始良地区もかごしま空港ホテルにて4年ぶりの開催となりました。多くの方々にご出席いただきました。

【キラメキテラスヘルスケアホスピタル 第17回 若手病院経営者の会 in 鹿児島】



第17回 若手病院経営者の会参加60名の先生方が、研修の一環としてキラメキテラスヘルスケアホスピタルの見学に來られました。高度急性期を担ういまきいれ総合病院と、回復期・慢性期機能を主軸としたキラメキテラスヘルスケアホスピタルの、経営母体の異なる2法人間の日本初の試みの事など研修を受けておられます。

【医療法人玉昌会 看護部 エコテラス夏まつり ワークワクお仕事体験】



センテラス天文館お仕事体験イベントに玉昌会看護部合同で参加しました。2日間で500名近くの子供達がお仕事体験をしました。

➤ 9月

【「DBJ健康経営（ヘルスマネジメント）格付」最高ランクの格付を取得】



当法人は、2023年9月1日付でDBJ（独立行政法人）より「DBJ健康経営（ヘルスマネジメント）格付」に基づき、総合評価「従業員の健康配慮への取り組みが特に優れている」という最高ランクの格付を取得しました。

医療法人玉昌会は、株式会社日本政策投資銀行より、「DBJ健康経営（ヘルスマネジメント）格付」に基づく融資を受け、その結果、総合評価「従業員の健康配慮への取り組みが特に優れている」という最高ランクの格付を取得しました。

➤ 10月

【玉昌会所属 佐藤 錬選手 かがしま国体出場】



佐藤 錬選手のかごしま国体出場が決まり、大会前に玉昌会グループ各施設を表敬訪問しました。

【佐藤錬 選手 トライアスロン成年男子かがしま国体県勢過去最高の2位！】



10月8日、徳之島 天城町にて行われたトライアスロン成年男子決勝で、鹿児島県代表として出場した佐藤錬選手が県勢過去最高の2位という素晴らしい成績を残しました。

【南日本新聞「この人に聞く」にて高田理事長の取材記事が掲載】



10月29日付 南日本新聞「この人に聞く④9」に、高田理事長への取材記事が掲載されました。少子高齢化が進展する中、持続可能な経営に着目し、「健康経営」や「健康経営優良法人ホワイト500」更に「DX」や「新たな街づくり」に取り組むこと等が紹介されています。

➤ 11月

【在宅事業レクリエーション再開】



在宅サービス利用者の外出レクリエーションを夏頃から再開し、またいろいろな場所へ外出できるようになりました。

➤ 12月

【「てげてげ的大人の社会科見学」玉昌会グループ2施設が紹介されました】



MBC南日本放送の年末特番にて、
鹿児島地区：キラメキテラスヘルスケアホスピタル
始良地区：WellBe Club
が紹介されました。

➤ 1月

【加治木温泉病院 先生の取材多数】

2023年度は加治木温泉病院先生方の雑誌取材が多い1年でした。

- ・5月「日本が誇るビジネス大賞 2023年度版」 有馬 卓志医師
- ・9月「名医のいる病院 整形外科編 2024」 川路 幸仁医師
- ・10月「明日の高齢者医療を拓く信頼のドクター2024」 夏越 祥次院長
- ・1月「ブームの最前線 2024年度版」 夏越 祥次院長

【スポーツ庁「スポーツエールカンパニー2024」に認定されました】



医療法人玉昌会、社会福祉法人幸友会、株式会社JOYは、従業員が行うスポーツ活動の支援や促進に向けた取組を実施している企業として、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー2024」に認定されました。

【キラメキテラスヘルスケアホスピタル 「グリーンオフィスかごしま優良事業所」に認定】



キラメキテラスヘルスケアホスピタルは、環境に配慮した事業活動に取り組む優秀な事業所 5社に選ばれ、「令和 5 年度グリーンオフィスかごしま（環境管理事業所）優良事業所」として表彰されました。

➤ 2 月

【玉昌会グループ 「BCP大規模災害模擬訓練」を実施】



玉昌会グループ各施設・事業所にてBCPの見直しを行った事に伴う初動対応の模擬訓練を行いました。

【加治木温泉病院・介護医療院おはな 埼玉県富家病院様が見学に来られました】



病院と介護施設の電子カルテ 1 患者 1ID 運用、“有料老人ホーム”から“介護医療院”に転換した介護医療院おはなに興味を持たれたとの事で、ご説明させていただきました。

【医療経営士南九州支局研修会を開催】



日本医療経営実践協会と玉昌会グループの共催で、医療経営士南九州支局研修会を開催し、ハイブリッド形式で全国 100 名近くの方々にご参加いただきました。

「玉昌会グループが取り組むBCP・BCM活動とそのポイント」と題し、講師を医療法人玉昌会 法人事務局 施設管理部顧問 飯伏真一が務めました。

➤ 3月

【介護医療院おはな 初午祭の御神馬 施設訪問がありました】



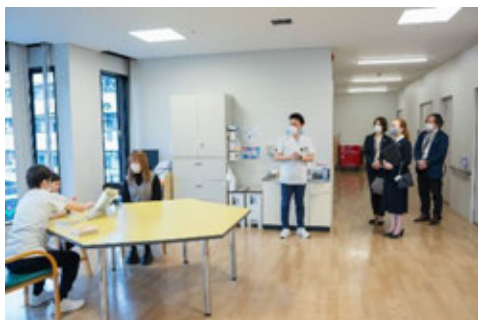
3月2日に初午祭の御神馬、加治木木田地区の方が施設訪問、馬踊りのお披露目がありました。皆さん喜ばれ、久しぶりに馬踊りを見て、涙を流される入所者さまもいらっしゃいました。

【地域公開講座 「未来社会をあなたとともに」を5年ぶりに開催】



鹿児島大学医学部保健学科理学療法学専攻教授 牧迫飛雄馬先生を講師にお招きし、「人生100年時代の健康づくり～健康寿命延伸のために今からできること～」をテーマにご講演いただき、100名を超える方々にご参加いただきました。

【三笠宮家 瑤子女王殿下 キラメキテラスヘルスケアホスピタルご視察】



NPO法人 日本ユニバーサル・サウンドデザイン協会の名誉総裁であられる三笠宮家の瑤子女王殿下が、福祉機器展&セミナー御臨席及び地方事情御視察のため鹿児島県にお成りになり、キラメキテラスヘルスケアホスピタルにおけるヒアリングフレイル予防に対する活動等を御視察いただきました。

南日本新聞 2023年10月9日掲載

※南日本新聞社の「著作物使用許諾」を受け掲載しております。

本 業 千 局 第3種郵便物認可



鉄人県勢最高2位

成年男子・佐藤

成年男子のバイクでトップに立つ鹿児島県勢の佐藤=天城町特設トライアスロン会場

過酷レース 達成感

ゴール後はほとんどの選手が倒れ込むような戦いだった。高校までは競泳選手だが、自信があるのはランとバイク。スイムでトップ集団に入り、追い通りバイクで先頭に入った。競泳だったのはラン。2〜3人で脱走状態になり、追走してきた競泳の選手に抜かれると、差を広げられた。「いつ抜かれたか記憶がないほどだった」というが、「苦しいときこそ練習の成果が出る」と無敵のまなざしを誇った。

東京都出身で昨年のアジア選手権覇者。来年のパリ五輪を目指し「二喜一憂せずしっかり準備していきたい」と先を思届えた。(木下瑛尚)

ゴールテープを切った瞬間、おおむけに倒れ込んだ。トライアスロン成年男子の佐藤(医療法人玉昌会)は過酷なレースを走りきり、県勢過去最高の2位に入った。自身2度目の頂点はならなかったが、「男女の順位で争う」天皇杯獲得で最低限責任は果たせた」とほおを緩めた。

ランとバイクの周回コースには約1℃、高低差は約100メートル(村場拓樹監督「ムラバ建設」という農所の上り坂がある。高湿度で気温は30度を超えた。世界自然遺産の徳之島を育んだ独特の気候が選手に牙をむき、

ゴール後はほとんどの選手が倒れ込むような戦いだった。高校までは競泳選手だが、自信があるのはランとバイク。スイムでトップ集団に入り、追い通りバイクで先頭に入った。競泳だったのはラン。2〜3人で脱走状態になり、追走してきた競泳の選手に抜かれると、差を広げられた。「いつ抜かれたか記憶がないほどだった」というが、「苦しいときこそ練習の成果が出る」と無敵のまなざしを誇った。

東京都出身で昨年のアジア選手権覇者。来年のパリ五輪を目指し「二喜一憂せずしっかり準備していきたい」と先を思届えた。(木下瑛尚)

トライアスロン

南海日日新聞 2023年10月9日掲載

※南海日日新聞の「著作物使用許諾」を受け掲載しております。

かごしま国体、競技開始

12競技で熱戦展開

雨で中止の競技も



コース難所の急な坂の登り坂で降り合した男子の元鹿児島118日、天城町松原上区

天城町でトライアスロン

男女総合で鹿児島1位

【徳之島総局】特別国民
 体育大会（徳之島感動かご
 しま国体）のトライアスロ
 ン競技が8日、天城町の松
 原海岸と周辺コースで開
 かれた。全国から集ったト
 ライアスリート男子90人、
 女子84人が出場。地元鹿児
 島チームは男女ともに2位
 と活躍し男女総合最優秀
 チームに選ばれる天皇杯を

受賞した。会場やコース沿
 道には島内外から訪れた
 多数の観客が詰め掛け、已
 の闘争に挑む選手たちに送

（2、8面に関連記事）

南海日日新聞 2023年10月9日掲載

※南海日日新聞の「著作物使用許諾」を受け掲載しております。



男女総合1位で表彰台に立つ鹿児島チーム。右から女子監督の白井克昌、中山彩理香、一松菜央、原口大空、佐藤錬、男子監督の村場祐樹＝8日、天城町松原漁港

「見せ場のあるレースできた」

女子の白井克昌監督(名瀬徳洲会病院)

鹿児島チームの男女総合優勝喜ぶ

【徳之島総局】徳之島開催のトリアスロン競技で地元鹿児島チームが男女総合1位と輝かしい成績を残した。チーム女子を率いた白井克昌監督(53)は名瀬徳洲会病院に「男女ともに地元で見せ場のあるレースができ、結果を出してくれた。苦しいレースの中で結果を残してくれた選手、活躍を共に支えたスタッフや県協会に感謝したい」と喜びを語った。

午前8時スタートの女子は、東京都出身の中山彩理香(23)が県スポーツ協会、新堀自動車会がスイム、バイクで上位をキープしランで追いついて2位でゴールした。中山は「徳之島の人たちの応援が力になった。合宿でまた島に来たい」と笑顔を見せ、「連戦が続くので来年のバリオリンピック出場を目指してパフォーマンスを上げていきたい」と力を込めた。

同日は秋らしくない暑さで午後には気温31度に達した。午前11時半スタートの男子は、ゴール後に救護が必要な選手が続出し拍撃が足りなくなるほどの過酷なレースとなった。

東京都出身の佐藤錬(27)は医療法人玉昌会はランで一時トップに立つ

たものの2位でフィニッシュ。ゴール後に倒れ救護された佐藤は「ランの2、3分で熱中症の症状が出て、その後の記憶があまりない。結果は悔しいが、走る姿を鹿児島の子どもたちに見せてもらえて少しは仕事ができただかなと思う」とレースを振り返り、「来年のオリンピックで男子3枠を獲得できるようチームジャパンの一員として結果を出していきたい」と次の目標を掲げた。

学会発表

■加治木温泉病院

1. 夏越祥次: QOLと安全性を考慮した食道胃接合部癌に対する再建法(特別発言). 第123回日本外科学会定期学術集会(パネルディスカッション), 東京, 4月28日, 2023.
2. 夏越祥次: 胸部食道癌に対する縦隔鏡アプローチの主義と工夫(特別発言). 第78回日本消化器外科学会総会(ワークショップ), 函館市, 7月14日, 2023.
3. 原口友子, 瀬戸宇治友紀, 有川瑛人, 松本航, 夏越祥次: 失語症者に対するADOCを用いた目標設定支援の取り組みについて(第2報). 第12回日本言語聴覚士協会九州合同学術集会, 大分市, 1月27日, 2023.
4. 小川耕平, 春田千幸, 鮫島亮子, 藤本皓也, 夏越祥次, 窪田正大: 注意障害とUSNを認める脳卒中患者の非麻痺側上肢機能の特徴について. 第38回鹿児島高次脳機能研究会, 鹿児島市, 4月21日, 2023.
5. 瀬戸宇治友紀, 藤本皓也, 小村真理奈, 中川原勇太郎, 増山泰英, 原口友子, 松本航, 夏越祥次: 失語症者に対するADOCを用いた目標設定支援の取り組みについて. 第38回鹿児島高次脳機能研究会, 鹿児島市, 4月21日, 2023.
6. 堂森めぐみ, 満山まどか, 内野智草, 藤井みゆき, 穂満博文, 夏越祥次, 高田昌実: 腎臓リハビリテーション導入を試みて. 第68回日本透析医学会学術集会・総会, 神戸市, 6月16日, 2023.
7. 小崎由果, 福元康弘, 夏越祥次, 井上和博, 窪田正大: 応用行動分析学に基づく作業療法実践により食事動作の改善を認めた精神遅滞児の一例. 九州作業療法学会2023, 鹿児島市, 7月8日, 2023.
8. 松元菜津美, 野間美和, 下忠美輪, 藤井みゆき, 高田昌実, 夏越祥次: アドバンスケアプランニングシートを導入しての取り組み. 第31回日本慢性期学会, 大阪市, 10月19日, 2023.
9. 柏木友絵, 北山希望, 辻岳あずさ, 今村香織, 竹之内靖子, 山元直子, 高田昌実, 夏越祥次: 医事課の新入職者教育体制における成果 ~指導者に必要な心構え・支援の在り方とは~. 第63回全日病学会学術集会, 広島市, 10月14日, 2023.
10. 竹之内靖子, 辻岳あずさ, 岩城百合香, 田中ゆりあ, 尾堂千佳, 柏木友絵, 今村香織, 山元直子, 高田昌実, 夏越祥次: 医師働き方改革実現へ向けての医療クラークの取り組み. 第12回日本医師事務作業補助者協会全国学術集会, 大阪市, 10月28日, 2023.
11. 辻岳あずさ, 竹之内靖子, 岩城百合香, 尾堂千佳, 田中ゆりあ, 今村香織, 柏木友絵, 山元直子, 高田昌実, 夏越祥次: 医師事務作業補助者増員に向けた新人教育プログラムの効果. 第12回日本医師事務作業補助者協会全国学術集会, 大阪市, 10月28日, 2023.
12. 梅橋直史, 中西祐介, 穂満博文, 川原翔太, 小川晋平, 夏越祥次: 慢性維持透析患者における心音と透析時血圧の比較. 第68回日本透析医学会, 6月16~18日, 2023.
13. 川原翔太, 梅橋直史, 中西祐介, 穂満博文, 小川晋平, 夏越祥次, 高田昌実: 心音の3次元グラフと心臓超音波の比較. 第68回日本透析医学会, 6月16~18日, 2023.
14. 有川瑛人, 亀川桃歌, 津田哲也: 左頭頂葉病変例が呈した書字障害-この特徴は純粋失書か? 失行性失書か?. 第33回認知リハビリテーション研究会, 東京, 10月7日, 2023.
15. 有川瑛人, 原口友子, 窪田正大, 船山道隆: 両側前頭葉腹内側損傷による書字過多: 書字課題時のdefault mode networkの抑制障害. 第47回日本高次脳機能障害学会, 10月29日,

仙台, 2023.

16. 徳満ふみ, 寺師はるか, 飯山春樹, 藤本皓也, 原口徹郎, 有川瑛人, 堂森めぐみ, 木山良二, 中西祐介, 穂満博文: 透析日の運動療法と日中の歩数計測による運動量増加への取り組み. 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 新潟市, 3月17日, 2024.
17. 田實佑也, 椎原史佳, 川添博司, 飯山春樹: 通所リハビリテーションにおける自主練習と身体能力の経時的変化. 第37回鹿児島県理学療法士学会, 霧島市, 2月23日, 2024
18. 佐々木翔健, 吉村優希, 木山良二, 松本航: 慣性センサーを用いた杖の有無による歩容変化の分析. 第37回鹿児島県理学療法士学会, 霧島市, 2月23日, 2024.
19. 佐久間透也, 川平和美, 木山良二, 中川原勇太郎, 吉村優希: 股関節疾患を呈しトレンドレンプルク歩行への訓練法. 第37回鹿児島県理学療法士学会, 霧島市, 2月23日, 2024.
20. 佐々木翔健, 吉村優希, 原口徹郎, 木山良二, 松本航: 慣性センサを用いた補助具による歩容変化の分析. 第28回日本基礎理学療法学術大会, 広島, 12月2日・3日, 2023.
21. 藤本皓也, 鎌田克也, 小川耕平, 飯山春樹, 下堂蘭恵: 回復期の脳卒中重度麻痺から軽度上肢麻痺に対する上肢リハビリ装置の実行可能性と有用性の検討. 九州作業療法学会2023, 鹿児島市, 7月8日, 2023.
22. 藤本皓也, 鎌田克也, 小川耕平, 飯山春樹, 下堂蘭恵: 回復期の脳卒中軽度上肢麻痺に対する前腕回内回外リハビリ装置CoCoroePR2が上肢手指機能, 物品操作能力に与える影響: 第60回日本リハビリテーション医学研究会, 福岡, 6月29日, 2023.
23. 藤本皓也, 小川耕平, 夏越祥次, 窪田正大: 回復期における脳卒中重度上肢麻痺の垂脱臼に対し, 免荷式ロボットによる肩関節外転運動を実施した一症例. 第57回日本作業療法学会, 沖縄, 11月10日, 2023.
24. 小川耕平, 藤本皓也, 鎌田克也, 夏越祥次, 窪田正大: 上肢リハビリ装置 (CoCoroeAR2) を用いた介入が麻痺側上肢機能と注意障害に変化をもたらした生活期脳卒中患者の一症例. 第57回日本作業療法学会, 沖縄, 11月10日, 2023.
25. 藤本皓也, 小川耕平, 衛藤誠二: 回復期における脳卒中重度上肢麻痺に対し, 課題指向型促通反復療法とロボット療法を組み合わせた1症例. 鹿児島リハビリテーション医学研究会, 鹿児島, 3月9日, 2024.
26. 岩城優, 藤本皓也, 小川千穂, 増山泰英, 有川瑛人, 原口友子, 原口久未子, 南加奈, 松本航, 夏越祥次: 回復期リハビリテーション病棟における自動車運転再開に関する要因の分析. 第43回 回復期リハビリテーション研究大会in熊本, 熊本市, 3月8日, 2024.
27. 藤本皓也, 原口友子, 瀬戸宇治友紀, 中川原勇太郎, 小川千穂, 原口徹郎, 夏越祥次: 回復期リハビリテーション病棟の血液透析患者における大切な活動の検討. 第14回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 新潟市, 3月16日, 2024.

■介護医療院おはな

1. 内村隼秀, 垂水梨菜, 山元直子, 外園美貴子, 濱田浩志, 高田昌実, 夏越祥次: 介護医療院でのクラスターを経験して. 第63回全日病学会学術集会, 広島市, 10月14日, 2023.

■キラメキテラスヘルスケアホスピタル

1. 田島紘己: キラメキテラス～30年後の鹿児島への贈り物～. 第64回全日本病院学会, 広島市, 10月14日, 2023.

業績一覧

2. 元村友美, 西別府愛, 三反田美保, 萩原隆二, 上村章, 高田昌実: 新型コロナウイルス感染に対する当院透析室での取り組み. 第64回全日本病院学会, 広島市, 10月14日, 2023.
3. 古川佳世, 岩城依央理, 前田直之, 上村恵, 上奥誠, 宮口光太, 坂元真一, 田島紘己, 上村章, 高田昌実: 実践! レセプト業務改善と働き方改革. 第64回全日本病院学会, 広島市, 10月14日, 2023.
4. 前田明彦, 繁田琢人, 野平光輝, 早稲田彬子, 土井聡子, 川渕順子, 上真之, 大迫尚仁, 平川智士, 上村章: 通所リハビリテーションにおける転倒予防の取り組み~FBSから3群への分類と、本人・家族との共同意思決定を目指して~. 第64回全日本病院学会, 広島市, 10月14日, 2023.
5. 岩城依央理, 宮口光太, 坂元真一, 上村章, 高田昌実: 中途オリエンテーション参加率向上を目指して. 第64回全日本病院学会, 広島市, 10月14日, 2023.
6. 土井聡子, 早稲田彬子, 上真之, 迫里香, 三反田美保, 上村章, 高田昌実: 通所リハビリテーションにおける業務改善の取り組み. 第31回日本慢性期医療学会, 大阪市, 10月19日, 2023.
7. 福永みか, 木場さくら, 若松優, 脇田歩, 井手下直美, 三反田美保, 上村章, 高田昌実: 退院支援に関わる病棟看護師の直面する問題. 第31回日本慢性期医療学会, 大阪市, 10月19日, 2023.
8. 野平光輝, 海陸優貴, 東畑耕平, 福山拓明, 大迫尚仁, 平川智士, 上村章: 転倒予防に繋げる多職種協働での歩行自立度評価の取り組み. 第31回日本慢性期医療学会, 大阪市, 10月19日, 2023.
9. 福山拓明, 平川智士, 堀ノ内啓介, 川平和美: 眼球運動障害と眼瞼下垂への促通反復療法変法が有効であった頭部外傷の一例. 第60回リハビリテーション医学会学術集会, 福岡市, 6月29日, 2023.
10. 平嶋佑太郎, 平川智士: ビデオ通話システム「ami」を用いた在宅高齢者の見守り・コミュニケーション支援の一例. 九州作業療法学会In鹿児島, 鹿児島市, 7月8日, 2023.
11. 萩由梨香, 平川智士, 上村章, 萩原隆二, 川平和美: 等尺性筋収縮による失調抑制と促通反復療法、Task-oriented training にて運動失調が改善した小脳出血の一例. 第7回日本リハビリテーション医学会学術集会, 宮崎市, 11月3日, 2023.
12. 丸山元大, 平嶋佑太郎, 大迫尚仁, 平川智士, 上村章: ご家族の介護負担について. 第10回日本地域理学療法学会学術集会, 東京都, 12月15日, 2023.
13. 大迫尚仁, 五十峯かずみ, 平川智士, 井料健勝, 菊池博之, 中村真之, 田島紘己, 夏越祥次, 高田昌実, 窪田昌行, 馬場園明: 訪問リハビリテーションにおける生産性向上を目指した取り組み. 日本医療福祉経営マーケティング研究会学術集会, Zoom開催, 3月2日, 2024.

■法人事務局

1. 西田寿子, 児之原菜央子, 村田梓織, 西川玲, 富田なおみ, 島田親房, 高田昌実: 『働き方改革』を見据えた給与計算業務効率化の取組. 第64回全日本病院学会, 広島市, 10月14日, 2023.

論文掲載

■加治木温泉病院

1. Arikawa E, Kubota M, Haraguchi T, Takata M, Natsugoe S. Implicit motor learning strategies benefit dual-task performance in patients with stroke. *Medicina Sep* 16;59(9): 1673. doi: 10.3390/medicina59091673. 59:1673, 2023.
2. 春田千幸, 原口友子, 高田昌実, 夏越祥次, 大迫尚仁, 山元奈穂子: 保育のICT化を通じて地域の未来を育む *医事業務* 644:16 - 19, 2023.
3. 山元直子, 岡元英昭, 藤井みゆき, 小杉正生, 井前明浩, 折田 悟, 高田昌実, 夏越祥次: 回復期・慢性期病院での新型コロナウイルス感染症への対応と工夫 *日病協雑誌* 34: 137-140, 2023.
4. 原口友子, 原有希, 野口千扇, 中村真之, 夏越祥次, 高田昌実, 窪田昌行, 馬場園明: 加治木温泉病院が地域小児リハビリテーションを支える病院となるまでの5年間の過程と現状と展望 *医療福祉経営マーケティング研究* 18:39-49, 2023.
5. 有川瑛人, 池村里菜, 瀬戸宇治友紀, 原口友子, 窪田正大, 飯干紀代子: 新造語が出現するウェルニッケ失語1例に対するSemantic feature analysis の効果. *認知リハビリテーション*, 28:15-26, 2023.
6. Fujimoto K, Ueno M, Eto S, Simodozono M. Combined repetitive facilitative exercise under continuous neuromuscular electrical stimulation and task-oriented training for hemiplegic upper extremity during convalescent phase after stroke: before-and-after feasibility trial. *Frontiers in Neurology* 15 22 February 2024. doi:10.3389/fneur.2024.1356732.
7. 小川耕平, 春田千幸, 鮫島亮子, 藤本皓也, 夏越祥次: 注意障害とUSNを認める脳卒中患者の非麻痺側上肢機能の特徴について: 第38回鹿児島高次脳機能研究会, 4月, 2023.

■キラメキテラスヘルスケアホスピタル

1. 田島紘己, 坂元真一, 上村 章, 夏越祥次, 高田昌実, 濱崎秀一, 今給黎和幸. 地域完結型医療介護サービス提供を実現する本邦初の取り組み～30年後の鹿児島への贈り物～ *日病協雑誌* 34: 25-28, 2023.
2. 大迫尚仁, 五十嵐かずみ, 平川智士, 井料健勝, 菊池博之, 中村真之, 田島紘己, 夏越祥次, 高田昌実, 窪田昌行, 馬場園明: 訪問リハビリテーションの生産性向上を目指した取り組み～住み慣れた地域で人生の最期まで、その人らしい生活を提供できる支援体制を目指して～ *医療福祉経営マーケティング研究* 18:31-37, 2023.
3. 上奥 誠, 田島紘己, 坂元真一, 上村 章, 高田昌実, 夏越祥次: 病床稼働率から見る地域一般病床の立ち上げの効果 *日病協雑誌* 34: 96-98, 2023.

講演

■加治木温泉病院

1. 夏越祥次: 多様な医療体制 ～高度急性期から慢性期までの経験から～ 医療経営士南九州支部研修会 鹿児島市, 2月9日, 2023.
2. 夏越祥次: 地方のケアミックス病院の取り組み 厚生労働省 令和4年度トップマネジメント研修 医師の働き方改革に係る「トップマネジメント研修」(Web) 2月28日
3. 夏越祥次: 地域枠新入生に期待すること 令和5年度地域枠新入生オリエンテーション 鹿児島市, 4月7日, 2023.
4. 夏越祥次: 皆様と共に支える地域医療 ～加治木温泉病院の役割～ 第15回始良地区地域連携Net Works情報交換会, 始良市, 8月24日, 2023.
5. 夏越祥次: 僻地・離島実習の意義 長島町, 8月31日, 2023.
6. 梅橋直史: 災害対策セミナー ZOOM開催, 8月24日, 2023

■キラメキテラスヘルスケアホスピタル

1. 小西昭慶: 谷山中学校にて総合的な学習の時間 職業人講和 鹿児島県庁義務教育課依頼, 6月23日, 2023.

■法人事務局

1. 高田昌実: 2030年の先にある2040年日本の最大のヘルスケア産業の医療を知るための前提条件 ネスレ日本株式会社社内講演会WEB配信, 5月18日, 2023.
2. 飯伏真一: 玉昌会グループが取り組むBCP・BCM活動とそのポイント 医療経営士南九州支局研修会 鹿児島市, 2月2日, 2024.

座長・司会

■加治木温泉病院

1. 夏越祥次: 鹿児島CART講演会 鹿児島市, 3月24日, 2023.
2. 夏越祥次: 第47回日本リンパ学会総会 (シンポジウム), 浜松市, 6月10日, 2023.
3. 夏越祥次: International Gastric Cancer Congress 2023 (シンポジウム), 横浜市, 6月17日, 2023.
4. 夏越祥次: 第85回日本臨床外科学会総会 (総会特別企画) 岡山市, 11月16日, 2023.
5. 夏越祥次: 第85回日本臨床外科学会総会 (学術セミナー) 岡山市, 11月16日, 2023.
6. 原口友子, 鹿児島県リハビリテーション施設協議会20周年記念事業, 鹿児島リハビリテーションフェスティバル, シンポジウム: 地域包括ケアシステム構築に向けた取り組みと現状と課題, 座長, 2月25日, 鹿児島, 2024

症例報告・その他

■加治木温泉病院

1. 夏越祥次: リンパ節転移の治療 - これまでとこれから - リンパ学 46:31, 2023.
2. 夏越祥次: 編集後記 リンパ学 46, 101, 2023
3. 夏越祥次: 異なる医療機能でも経営の重要ポイントは共通する 「医療経営士」情報誌

148:26-27, 2023.

4. 夏越祥次:明日の高齢者医療を拓く信頼のドクター 加治木温泉病院 ぎょうけい新聞社 p132-141, 2023.
5. 夏越祥次:ブームの最前線 最前線医療の現場と頼れるドクター. ミスターパートナー 星雲社, p76-77, 2023.
6. 夏越祥次:いよいよ4月から「医師の働き方改革」がスタート 日刊ゲンダイ オンライン 2月29日公開
7. 粟博志, 高田昌実, 田島紘己, 上村 章, 夏越祥次, 粟 隆志, 大西浩之, 海江田寛, 牧野智礼: 歌と写真で綴る薩摩の脇道-歌三昧の史跡巡礼, その6-2 鹿児島市医報 62(3):39-46, 2023.
8. 粟博志, 高田昌実, 田島紘己, 上村章, 夏越祥次, 粟隆志, 大西浩之, 海江田寛, 牧野智礼: 音楽の散歩道 -ジャズは世につれ, アメリカの歴史とジャズ- 鹿児島市医報 62(11):33-42, 2023.
9. 有馬卓志:日本が誇るビジネス大賞2023年度版 株式会社ミスター・パートナー, p364, 2023.
10. 川路幸仁: 名医のいる病院 整形外科編2024 医療新聞社, 2023.
11. 原口友子, 夏越祥次:始良・伊佐圏域リハ広域支援センター 県リハビリテーション施設協議会報19:27, 2023.
12. 原口友子, 第12回日本言語聴覚士会九州合同学術集会大分大会, シンポジウム:言語聴覚士の未来を紡ぐ, シンポジスト, 1月27日, 大分, 2024.

■キラメキテラスヘルスケアホスピタル

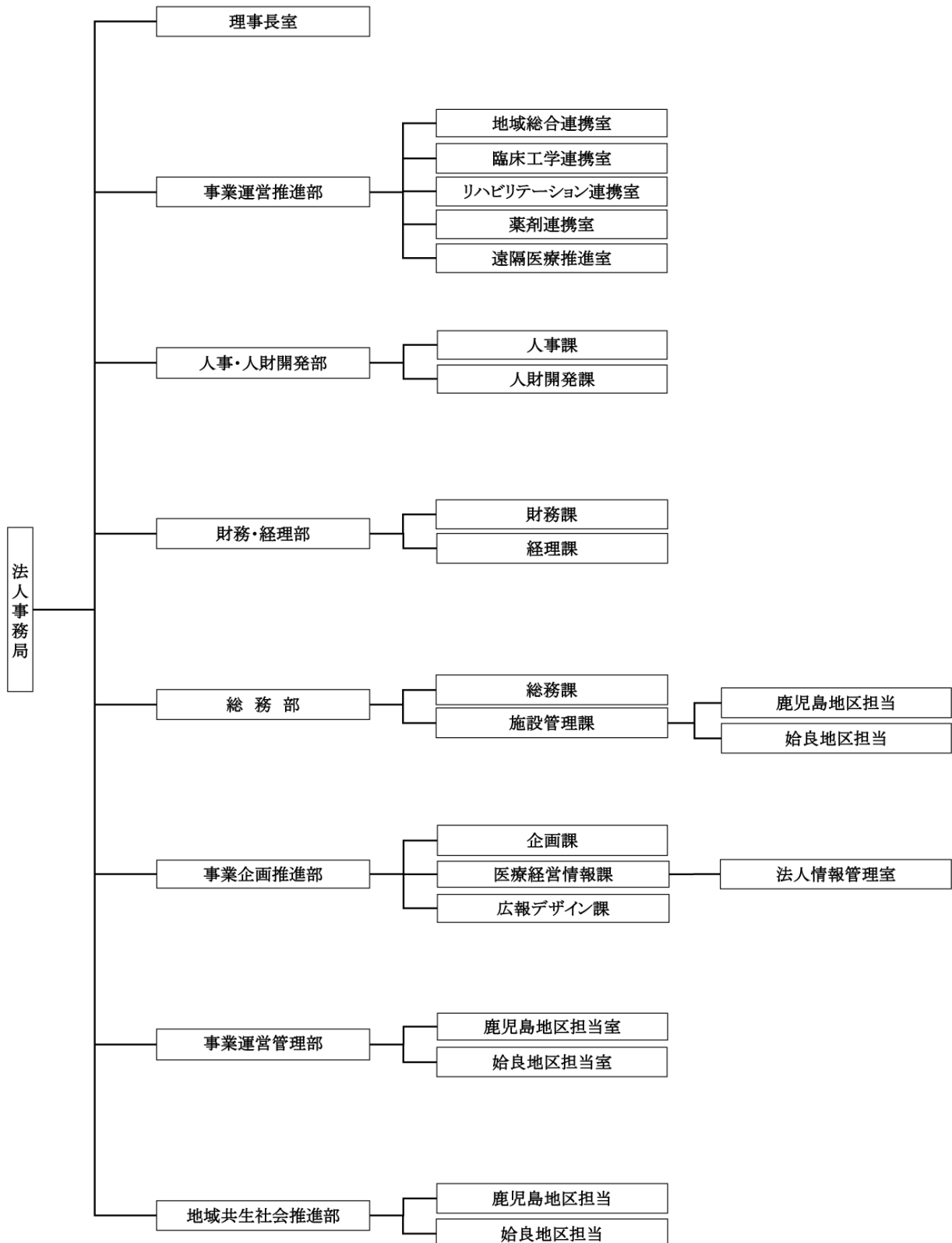
1. 三反田美保, 迫里香: 大王製紙株式会社WEBセミナー「「介護の快護化」に向けた睡眠マネジメント!」プレゼン資料に夜間排泄ケアの改善事例として資料提供・紹介, WEB開催 7月20日・22日, 2023.
2. 三反田美保, 迫里香: 総説論文「排泄ケアと睡眠」の引用文献 機関紙「睡眠と環境」一般社団法人 日本睡眠環境学会雑誌, 第17巻2号, 2023.

■法人事務局

3. 高田昌実:月刊医業経営情報誌「機関誌JAHMC (ジャーマック)」11月号, 2023.
4. 高田昌実:月刊医業経営情報誌「機関誌JAHMC (ジャーマック)」1月号, 2024.
5. 高田昌実:南日本新聞連載記事「この人に聞く④9」10月29日, 2023.
6. 田島紘己, 菊池博之, 藤崎工: QT PROサービス導入事例取材 株式会社QTnet, 6月, 2023
7. 佐藤錬:かごしま国体トライアスロン成年男子決勝2位, 10月8日, 2023.

法人事務局

医療法人 玉昌会 法人事務局 組織図 2024年4月現在



職員数

2023年3月31日現在

職 種		法人事務局	キラメキラス ヘルスケアホスピタル	加治木温泉 病院	介護医療院 おはな	在宅サービス 事業部	計	
常勤職員	医 師	1	14	14	1	0	30	
	歯科医師	0	0	1	0	0	1	
	医療技術職	薬剤師	1	4	4	1	0	10
		診療放射線技師	1	4	3	1	0	9
		臨床検査技師	0	3	5	0	0	8
		理学療法士	0	37	35	1	2	75
		作業療法士	0	25	32	1	3	61
		言語聴覚士	0	10	20	1	0	31
		公認心理師	0	1	4	0	0	5
		義肢装具士	0	0	2	0	0	2
		鍼灸マッサージ師	0	0	0	0	0	0
		管理栄養士(含む栄養士)	0	4	5	2	0	11
		臨床工学技士	0	6	6	0	0	12
		医療ソーシャルワーカー	1	5	4	0	0	10
		歯科衛生士	0	0	5	0	0	5
		その他(補助者等)	0	1	3	0	0	4
	小 計	4	114	143	8	5	274	
	看護部門	看護師	0	95	130	9	32	266
		准看護師	0	6	7	3	8	24
		介護支援専門員	0	0	1	1	12	14
		介護福祉士	0	35	39	6	43	123
		ケアワーカー	0	14	16	1	1	32
		小 計	0	150	193	20	96	459
	その他	保育士	0	0	4	0	0	4
		部次課長	6	4	3	0	0	13
		その他(事務員等)	21	25	34	1	3	84
		小 計	27	29	41	1	3	101
合 計	31	293	377	29	104	834		
非常勤職員	医師	0	1	0	0	0	1	
	診療放射線技師	0	0	1	0	0	1	
	臨床工学技士	0	1	0	0	0	1	
	理学療法士	0	0	1	0	0	1	
	作業療法士	0	2	2	0	1	5	
	公認心理師	0	1	2	0	0	3	
	鍼灸マッサージ師	0	0	0	0	1	1	
	歯科衛生士	0	0	0	0	0	0	
	看護師	0	7	13	2	6	28	
	准看護師	0	5	5	3	7	20	
	介護福祉士	0	6	8	1	12	27	
	ケアワーカー	0	8	9	0	12	29	
	保育士	0	0	2	0	0	2	
	医療ソーシャルワーカー	0	0	0	1	1	2	
	その他	3	14	10	4	1	32	
	合 計	3	45	53	11	41	153	
	総 合 計	34	338	430	40	145	987	

2023 年度学校訪問及び就職説明会

月 日	訪問先・主催先	対象者
4 月 18 日	医療法人協会立看護専門学校	看護師・奨学生
4 月 24 日	神村学園高等部・神村学園専修学校	看護師・奨学生
4 月 25 日	鹿児島医療福祉専門学校	看護師
4 月 27 日	鹿児島情報ビジネス公務員専門学校	SE・CE
4 月 27 日	鹿児島医療技術専門学校	看護師
4 月 28 日	KCS鹿児島情報専門学校	SE・CE
4 月 28 日	ヒューマンアカデミー鹿児島	SE・CE
6 月 17 日	鹿児島県医療ソーシャルワーカー協会 ZOOM	MSW
6 月 22 日	龍桜高等学校・加治木看護専門学校	看護師・奨学生
7 月 13 日	鹿児島大学 ZOOM	OT
7 月 18 日	鳳凰高等学校	看護師・奨学生
7 月 19 日	鹿児島医療技術専門学校	PT・OT・ST
9 月 22 日	鹿児島城西高等学校	作業補助
9 月 26 日	神村学園専修学校	PT・OT
10 月 13 日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校	PT・OT・ST
1 月 22 日	鹿児島国際大学	看護師
3 月 26 日	鹿児島医療技術専門学校	看護師

P T : 理学療法士 O T : 作業療法士 S T : 言語聴覚士 M S W : 社会福祉士

環境経営マネジメントへの取り組み

世界が達成可能な開発目標「SDGs」を掲げ、玉昌会としても環境経営に積極的に取り組んでいます。環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム（EMS）、「エコアクション21」への取り組みは2023年度で12年を数え、中央事務局より永年取組事業者として感謝状を受けました。



11年間の取組の間には、環境省が主催する「環境コミュニケーション大賞」の「環境経営レポート部門・優良賞」を2020年度に受賞したほか、NPO法人九州環境カウンセラー協会主催の「環境経営レポート大賞・九州」では、最上位賞の大賞を含めて2016年度から7回の受賞を頂きました。昨年は「外部コミュニケーション賞」を受賞。

また、鹿児島市の「かごしまSDGs推進パートナー」に医療法人として初の登録事業者となり、市と連携して「SDGs」の普及・啓発に積極的に取り組んでいます。

○玉昌会の環境理念

「いつまでも健やかに・・・私たちの願いです。」の基本理念と行動指針を柱に地域社会に医療サービスと福祉サービスを提供させて頂いている私たちは、今後も地域の皆様と共に、より良い社会を築き上げていくために、企業活動においても地球環境を経営上の優先課題として取り組みます。

○環境経営方針

環境への負荷削減を始めとする環境保全活動に積極的かつ継続的に取り組み、環境経営を通してSDGsの達成に貢献するため、以下に環境経営方針を定めます。

1. 事業活動に関わる環境関連法・条例その他のコンプライアンスを徹底します。
2. 環境への負荷の削減や環境改善を図るために下記事項に取り組みます。
 - (1) 地球温暖化対策のため省エネルギーに取り組み二酸化炭素の削減に努めます。
 - (2) 資源の有効的活用を図り、リデュース・リユース・リサイクルの3Rを推進します。
 - (3) 廃棄物の削減及び適正管理に努めます。
 - (4) 水使用量の削減に努めます。
 - (5) 化学物質の使用量の削減、安全な管理を行います。
 - (6) 医療、福祉サービスを効率的に提供し資源を有効的に活用します。
 - (7) 地域清掃活動を継続します。
3. この環境経営方針を推進するために、教育・研修を継続し全職員に周知します。

○玉昌会が重点的に取り組む「SDGs」のゴール

- ・ 二酸化炭素の削減に努めます。



- ・ リサイクル 3Rの推進、廃棄物の削減、化学物質の使用量削減。



- ・ 水使用量の削減



- ・ 福祉サービスを効率的に提供し資源を有効活用します。



- ・ 地域ボランティア清掃。



- ・ 教育と研修



○地域貢献活動



加治木温泉病院

2023 年度 医療法人玉昌会 加治木温泉病院

《理 念》

行動指針「低賞感微」に沿った医療・介護サービスを提供します。

《基本方針》

1. 患者さんの尊厳と権利を尊重します
2. 患者さんの視点に立ち、安心・安全な治療に努めます
3. 地域包括ケアシステムを基に、全世代に生活支援サービスを提供します
4. 『健康経営宣言』に則り、安心して働きがいのある職場づくりに取り組みます
5. 地域住民や職員の健診事業や健康増進事業に取り組みます

《運営方針》

1. 患者さんの医療・介護の質の確保と安全に努めます
2. 慢性腎臓病（CKD）を中心とした腎疾患診療部門の充実を図ります
3. 健診事業による5疾病の未病・予防に取り組みます
4. 『健康経営宣言』に則り、療養・職場環境の改善に努めます
5. 人財の確保および育成に努めます
6. 地域共生社会の実現に取り組みます
7. 地域のニーズにあった病院機能の見直しを行います
8. 将来の病院機能を見据えた病床機能の再編に取り組みます
9. 病院の新築移転に向けての取り組みを進めます

加治木温泉病院の沿革

加治木温泉病院の沿革

- 1978年 6月 加治木温泉病院開設 病床数 100 床
- 1985年 7月 増改築により増床 人工腎臓センター開設・人工透析開始
- 1989年 7月 C T・M R I 導入
- 1994年 5月 人工腎臓センターを別棟として増設
- 1997年 11月 浴室・管理棟を増設
- 1997年 12月 350 床に増築
- 1998年 12月 療養二群入院医療管理（Ⅰ）基準承認
療養型病床群療養環境（Ⅱ）（Ⅲ）基準承認
- 1999年 6月 総合リハビリテーション施設承認
- 2000年 2月 介護療養型医療施設承認（91 床）
- 2001年 4月 療養病棟入院基本料Ⅰ基準承認
介護療養型医療施設 117 床に増床
療養型病床群療養環境（Ⅰ）（Ⅱ）基準承認
- 2001年 5月 回復期リハビリテーション病棟基準承認（54 床）
- 2002年 4月 地域リハビリテーション広域支援センター認定
- 2002年 5月 日本医療機能評価機構 認定証取得
- 2002年 10月 特殊疾患療養病棟入院料 2 基準承認
- 2007年 5月 日本医療機能評価機構 Ver. 5 認定証取得
- 2008年 12月 日本医療機能評価付加機能（リハビリテーション機能）認定
- 2009年 1月 一般病棟入院基本料（13：1）承認（30 床）
- 2009年 2月 亜急性期入院医療管理料（Ⅰ）承認（10 床）
- 2010年 2月 介護療養型医療施設（57 床）
療養病棟入院基本料 2（149 床）
- 2010年 4月 療養病棟入院基本料 1（119 床）
療養病棟入院基本料 2（90 床）
- 2010年 10月 国土交通省（J C A B）指定航空身体検査機関認定
- 2010年 11月 一般病棟入院基本料（13：1）承認（60 床）
療養病棟入院基本料 2（60 床）
- 2010年 12月 16 列マルチスライス C T 装置導入
- 2012年 5月 日本医療機能評価機構「Ver. 6 認定証」取得
- 2013年 4月 日本慢性期医療協会「慢性期医療認定病院」認定
- 2013年 8月 持続性推進機構「エコアクション 21」認定
- 2013年 12月 日本医療機能評価機構付加機能（リハビリテーション機能 Ver. 3.0）認定

- 2014年 10月 外科・消化器外科開設
- 2014年 12月 在宅療養後方支援病院基準承認
- 2015年 1月 回復期リハビリテーション病棟入院料1承認（54床）
- 2015年 2月 アメリカ連邦航空局（F A A）指定航空身体検査機関認定
- 2015年 3月 電子カルテ導入
- 2015年 4月 回復期リハビリテーション病棟入院料1体制強化加算承認
標榜科目に神経内科、頭頸部外科を追加
- 2015年 5月 一般病棟（13：1）60床を地域包括ケア病棟入院料2へ転換
- 2015年 6月 がん患者リハビリテーション料承認
- 2015年 7月 地域包括ケア病棟入院料1承認
- 2015年 11月 介護療養型医療施設（57床）療養機能強化型B承認
- 2015年 12月 介護療養型医療施設（57床）療養機能強化型A承認
- 2016年 1月 標榜科目に肝臓内科を追加
- 2016年 9月 開放型病院基準承認
- 2017年 3月 日本医療機能評価機構 3rdG：Ver. 1.1 認定証取得
- 2017年 12月 超電導型MRI装置（1.5T）導入
- 2018年 4月 皮膚科外来開設
- 2018年 5月 救急告示病院指定
- 2018年 6月 整形外科開設
- 2018年 7月 神経内科を脳神経内科へ変更
- 2018年 12月 介護療養型医療施設（57床）を介護医療院へ転換
- 2019年 4月 日本医療機能評価機構付加機能（リハビリテーション機能Ver. 3.0）更新
- 2019年 8月 介護医療院 80床へ（23床増床）
歯科用CTの導入
- 2019年 12月 療養病棟入院基本料2を地域一般入院料3へ転換
- 2020年 1月 脳神経外科を開設
- 2020年 4月 国土交通省 短期入院協力病院 認定
- 2020年 11月 診療・検査医療機関 指定
- 2021年 5月 地域一般入院料3（37床）→1へ転換
- 2022年 10月 日本医療機能評価機構 3rdG：Ver. 2.0 認定証取得
- 2022年 12月 加治木温泉病院の療養病床40床と介護医療院の療養病床20床を「介護医療院おはな」へ移したため、許可病床を変更。
療養173床→133床、介護医療院80床→60床
- 2023年 2月 新型コロナウイルス感染症受け入れ医療機関 指定

加治木温泉病院の概要

加治木温泉病院 2023 年度概要

名 称 医療法人玉昌会 加治木温泉病院

所 在 地 〒899-5241

鹿児島県始良市加治木町木田 4714

TEL (0995) 62-0001 FAX (0995) 62-3778

開 設 者 理事長 高田 昌実

管 理 者 病院長 夏越 祥次

診 療 科 目 内科 腎臓内科(人工透析) リハビリテーション科 整形外科
脳神経内科 脳神経外科 消化器内科 消化器外科 外科 肝臓内科
循環器内科 糖尿病内科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 皮膚科 泌尿器科
心療内科 歯科

病 床 数 230 床

- ・ 地域包括ケア病棟入院料 2 (60 床)
- ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (54 床)
- ・ 療養病棟入院基本料 1 (79 床)
- ・ 地域一般入院料 1 (37 床)

介護医療院 I 型 (60 床)

社会保険等指定

健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護、身体障害者福祉法指定医、
結核予防法、原子爆弾被爆者一般疾病医療、自立支援医療

施 設 基 準 療養病棟入院基本料、診療録管理体制加算 2、医師事務作業補助体制加算 2、
療養病棟療養環境加算 1、療養病棟療養環境改善加算 1、栄養サポートチー
ム加算、医療安全対策加算 2、感染防止対策加算 3、総合評価加算、データ
提出加算、入退院支援加算、認知症ケア加算、回復期リハビリテーション
病棟入院料 1、地域包括ケア病棟入院料 2、喘息治療管理料、糖尿病合併症
管理料、糖尿病透析予防指導管理料、ニコチン依存症管理料、開放型病院
共同指導料、排尿自立指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料 1、在
宅療養後方支援病院、検体検査管理加算 (I)、神経学的検査、CT 撮影及び
MRI 撮影、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、無菌製剤処理料、脳血管疾患等リハ
ビリテーション料 (I)、運動器リハビリテーション料 (I)、呼吸器リハビ
リテーション料 (I)、がん患者リハビリテーション料、集団コミュニケー

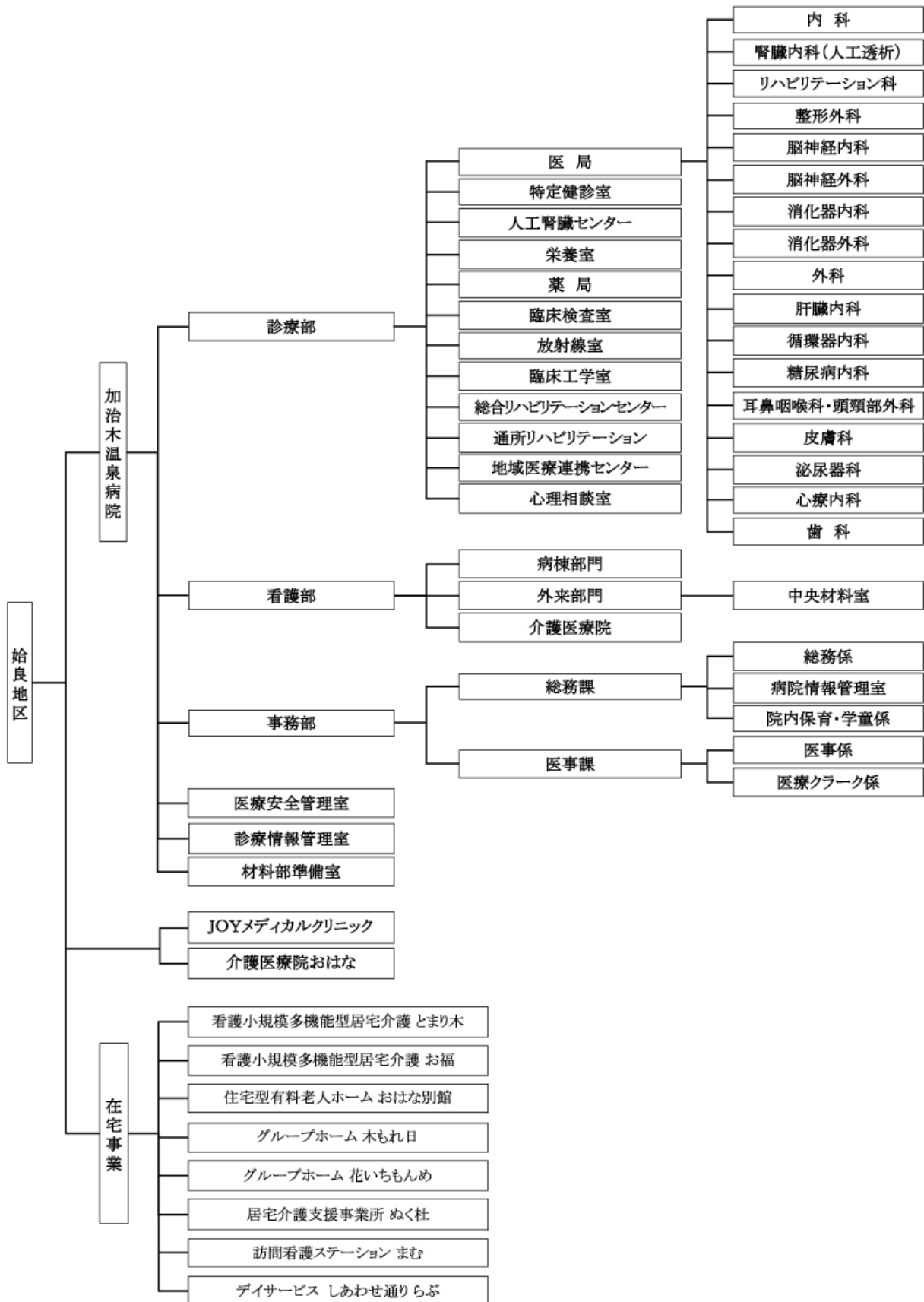
ション療法料、人工腎臓、導入期加算 1、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術、輸血管管理料Ⅱ、胃瘻造設時嚥下機能評価加算、入院時食事療養(Ⅰ)・入院時生活療養(Ⅰ)、酸素単価、地域連携診療計画加算、二次性骨折予防継続管理料 2・3、がん性疼痛緩和指導管理料、地域一般病棟入院料 1、下肢創傷処理管理料、看護補助加算、後発医薬品使用体制加算 1、重症者等療養環境特別加算、情報通信機器を用いた診療に係る基準 歯科外来診療環境体制加算 1、歯科治療時医療管理料、在宅患者歯科治療時医療管理料、CAD/CAM 冠、クラウン・ブリッジ維持管理料、レーザー機器加算、口腔粘膜処置、有床義歯咀嚼機能検査 1 の口及び咀嚼能力検査、歯科口腔リハビリテーション料 2、歯周組織再生誘導術

広 報 誌 すこやか加温(年 4 回発行)

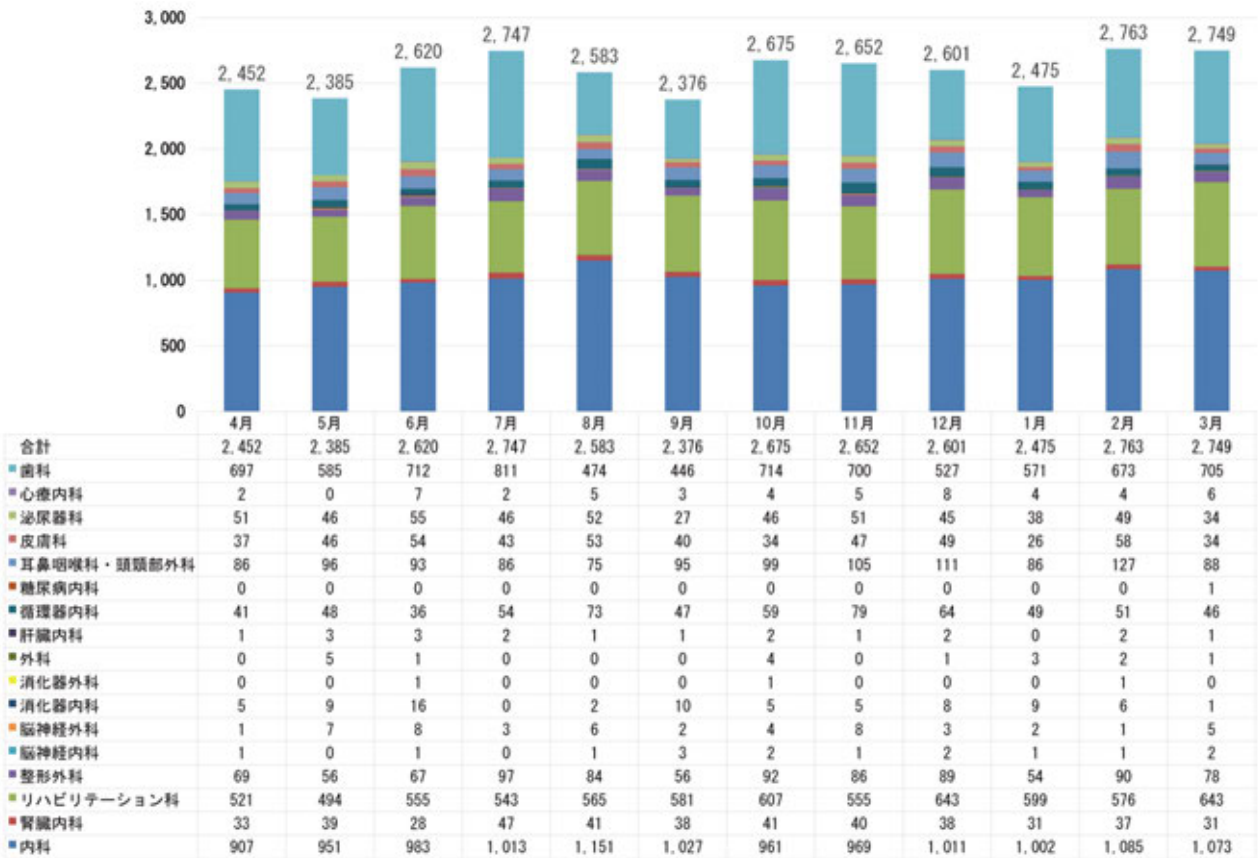
そ の 他 ・ 日本医療機能評価機構認定病院(3rdG:Ver. 2.0)

- ・ 日本医療機能評価機構付加機能
(リハビリテーション機能 Ver. 3.0 回復期)
- ・ 慢性期医療認定病院・日本温泉気候物医学会専門医教育研修施設
- ・ 日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・ 在宅療養後方支援病院
- ・ 開放型病院
- ・ 通所リハビリテーション
- ・ 訪問リハビリテーション
- ・ 始良・伊佐高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター
(脳血管疾患等)
- ・ 航空身体検査指定機関
(アメリカ連邦航空局指定、国土交通省指定)
- ・ 消化器・大腸・胃・前立腺がん・肺がん検診精密検査医療機関
- ・ 肝疾患治療かかりつけ医療機関
- ・ 難病患者医療等専門医療機関
- ・ 日帰り人間ドック実施指定病院
- ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定病院
- ・ 薬学生長期実務実習受入施設・看護学校実習病院・医療福祉実習病院
- ・ 持続性推進機構エコアクション 21(環境省推奨)認定
- ・ かごしま子育て応援企業登録
- ・ 救急告示病院
- ・ 短期入院協力病院
- ・ 始良・伊佐高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター
(整形疾患等分野)

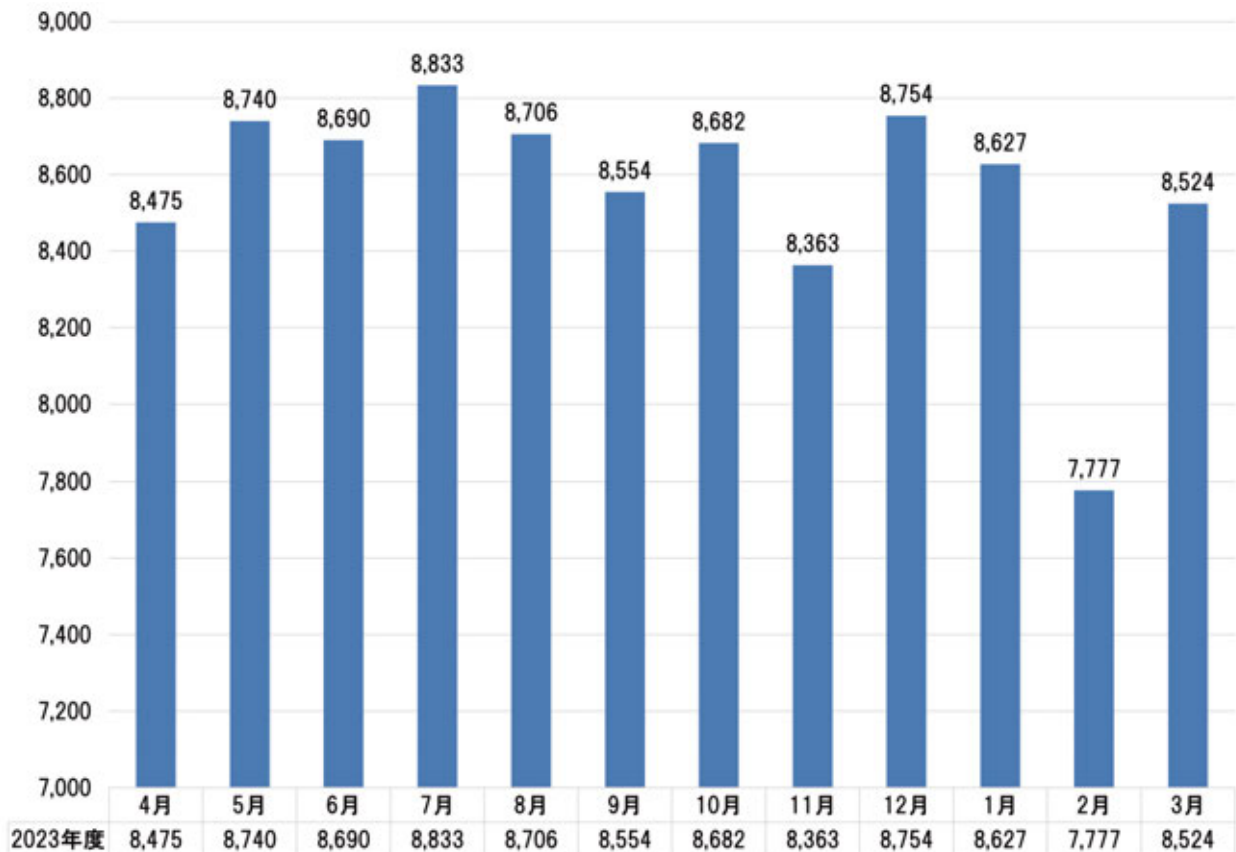
医療法人 玉昌会 始良地区 組織図 2024年4月現在



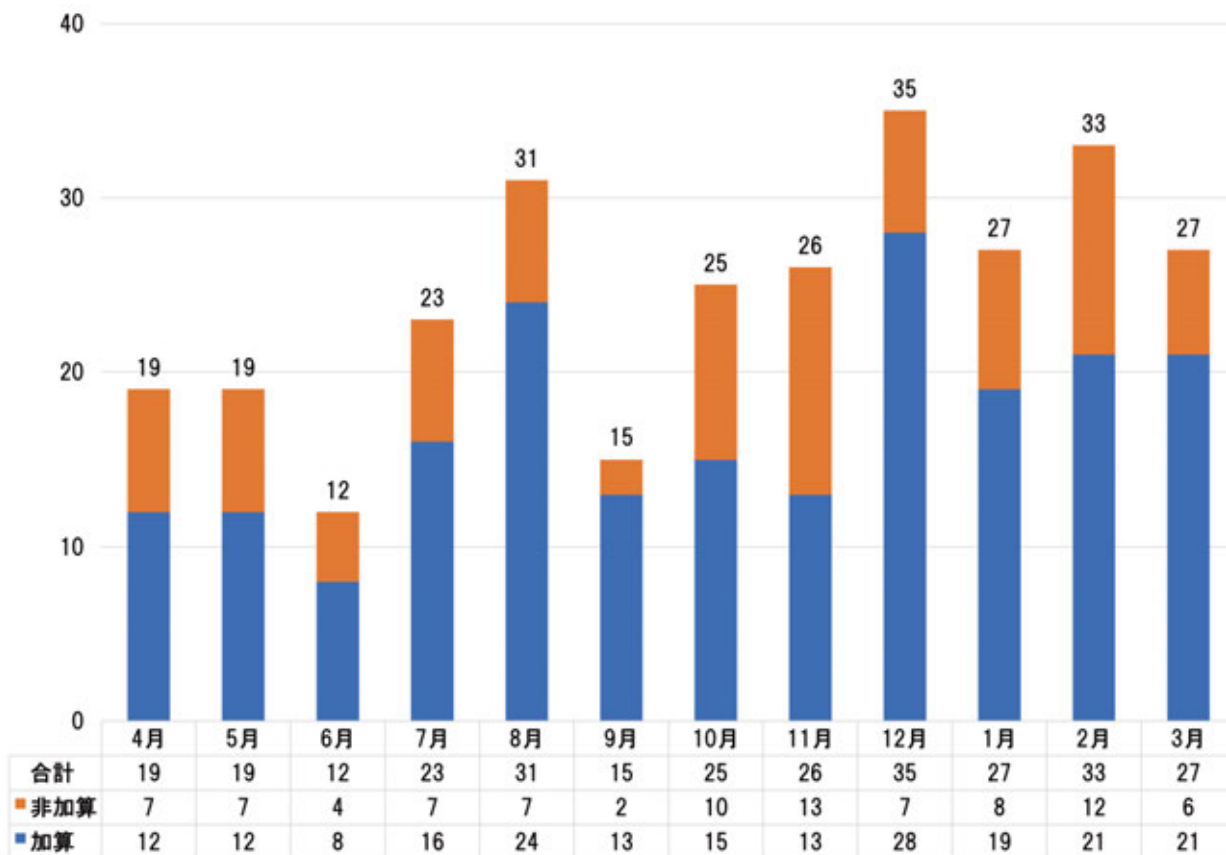
2023 年度 外来患者数診療科目別内訳



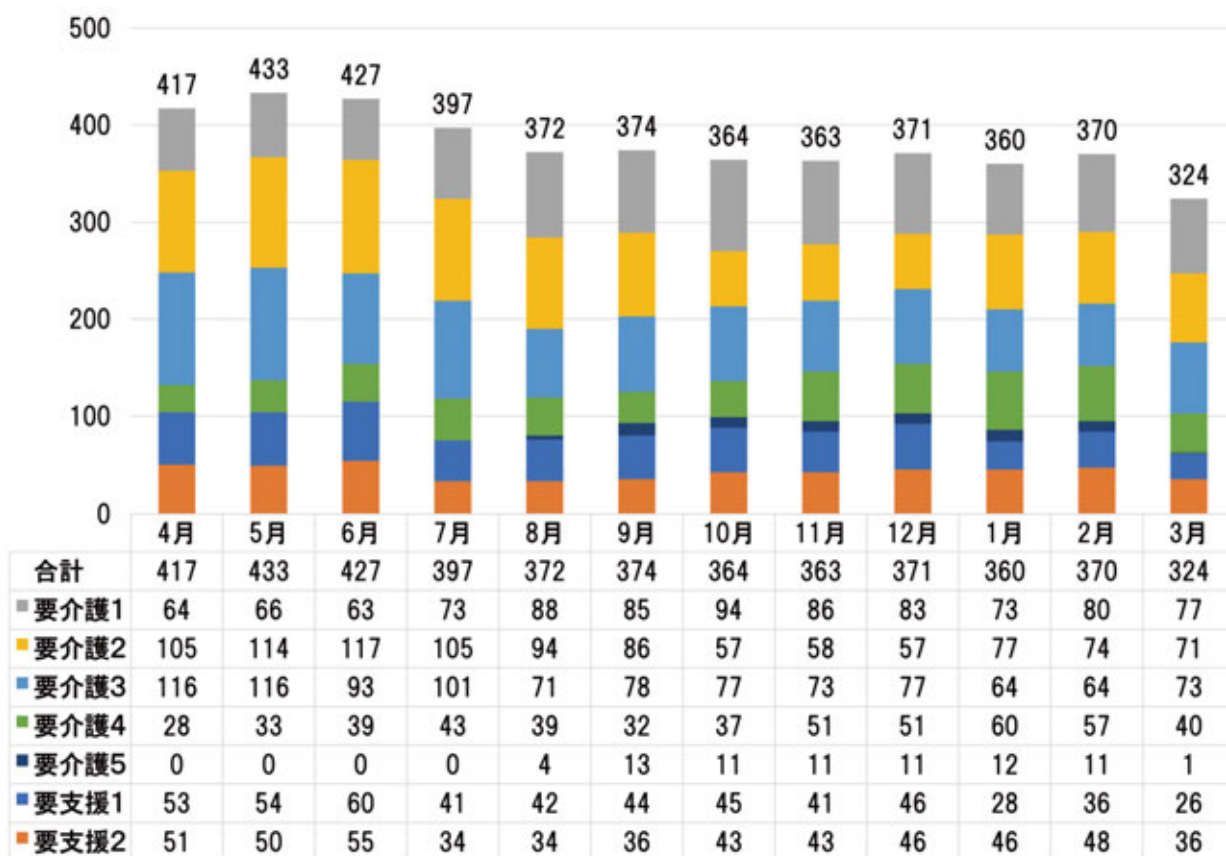
2023 年度 入院患者数



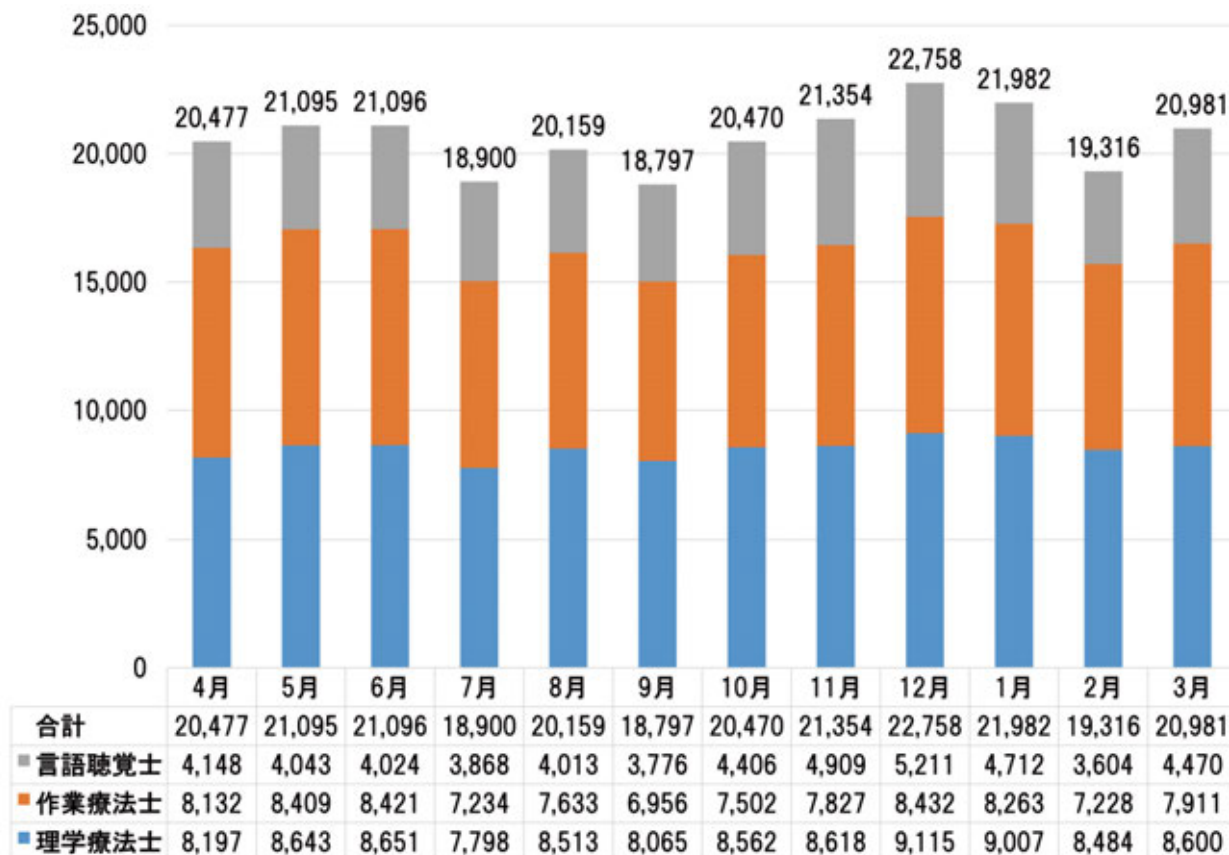
2023 年度 栄養指導件数



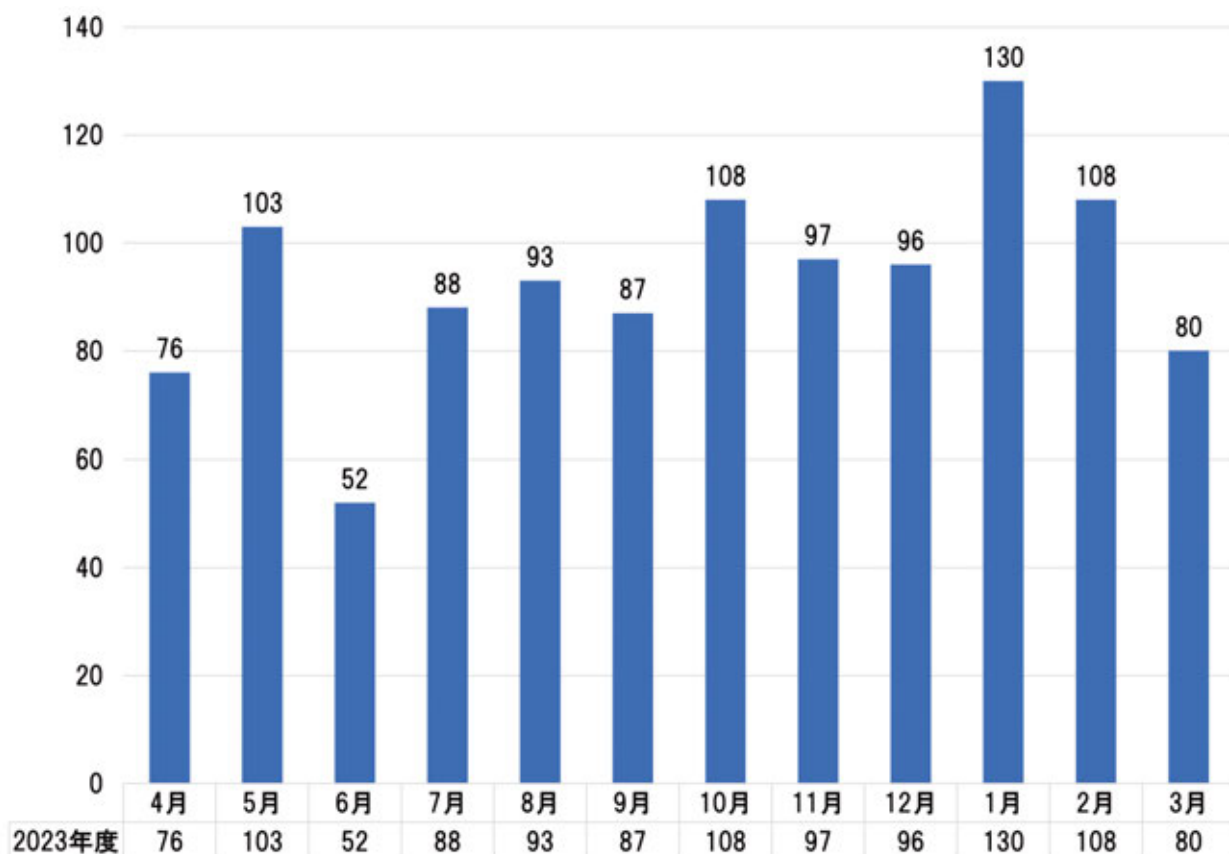
2023 年度 通所リハビリ利用者数



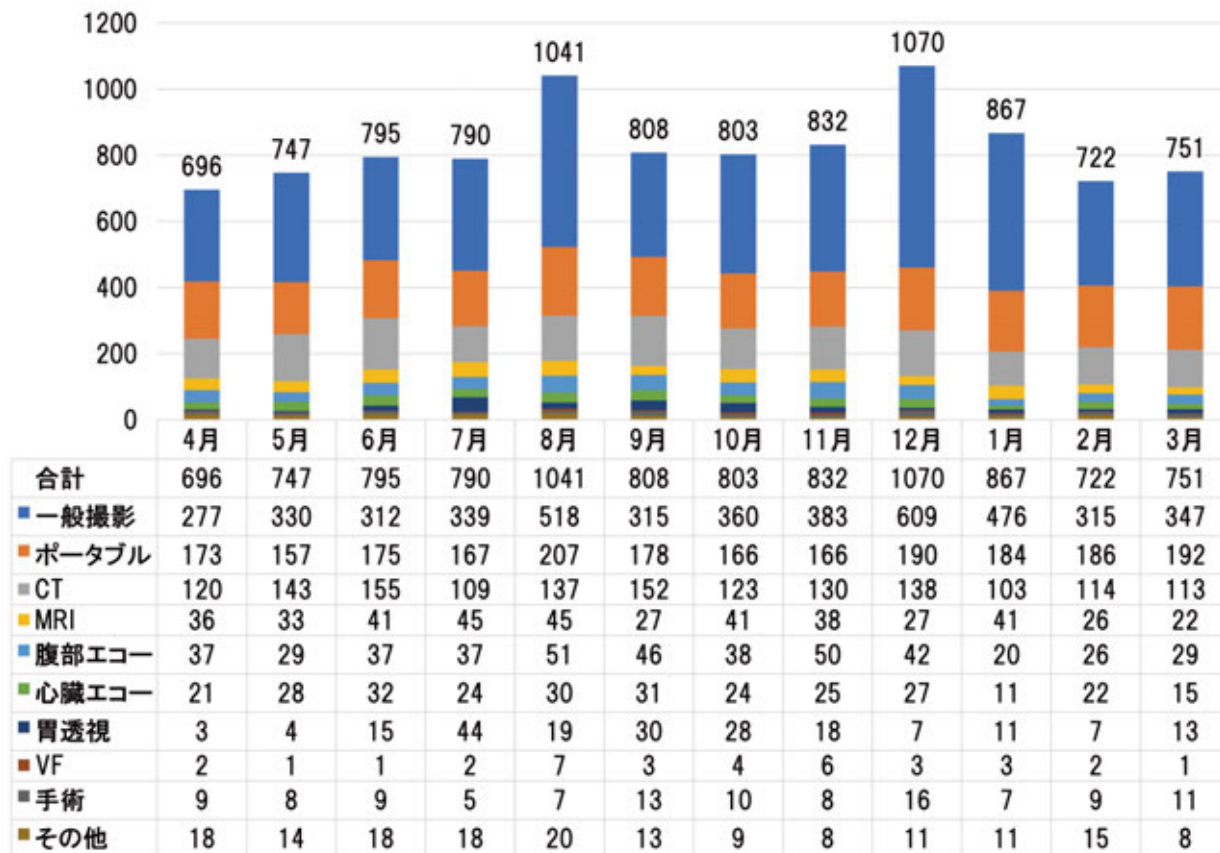
2023 年度 総合リハビリセンター患者取扱数



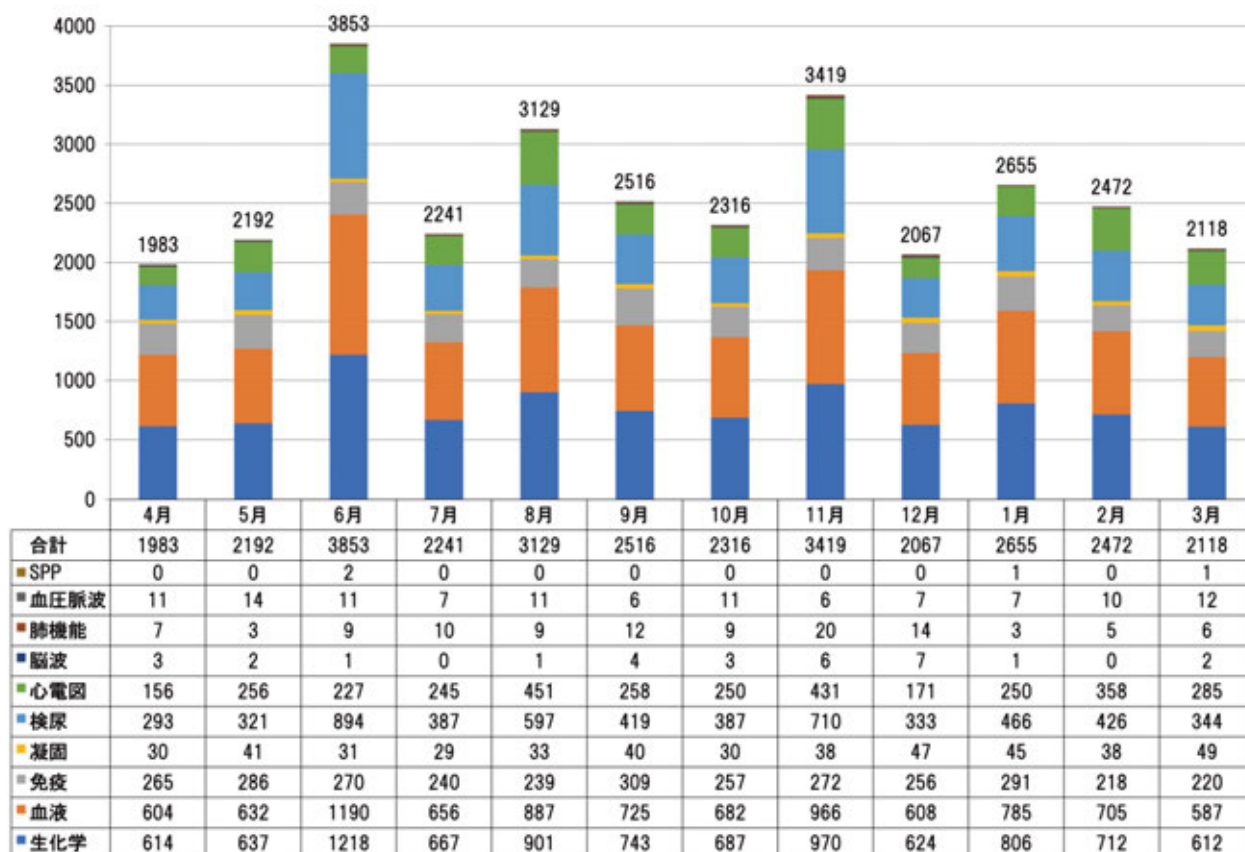
2023 年度 服薬指導件数



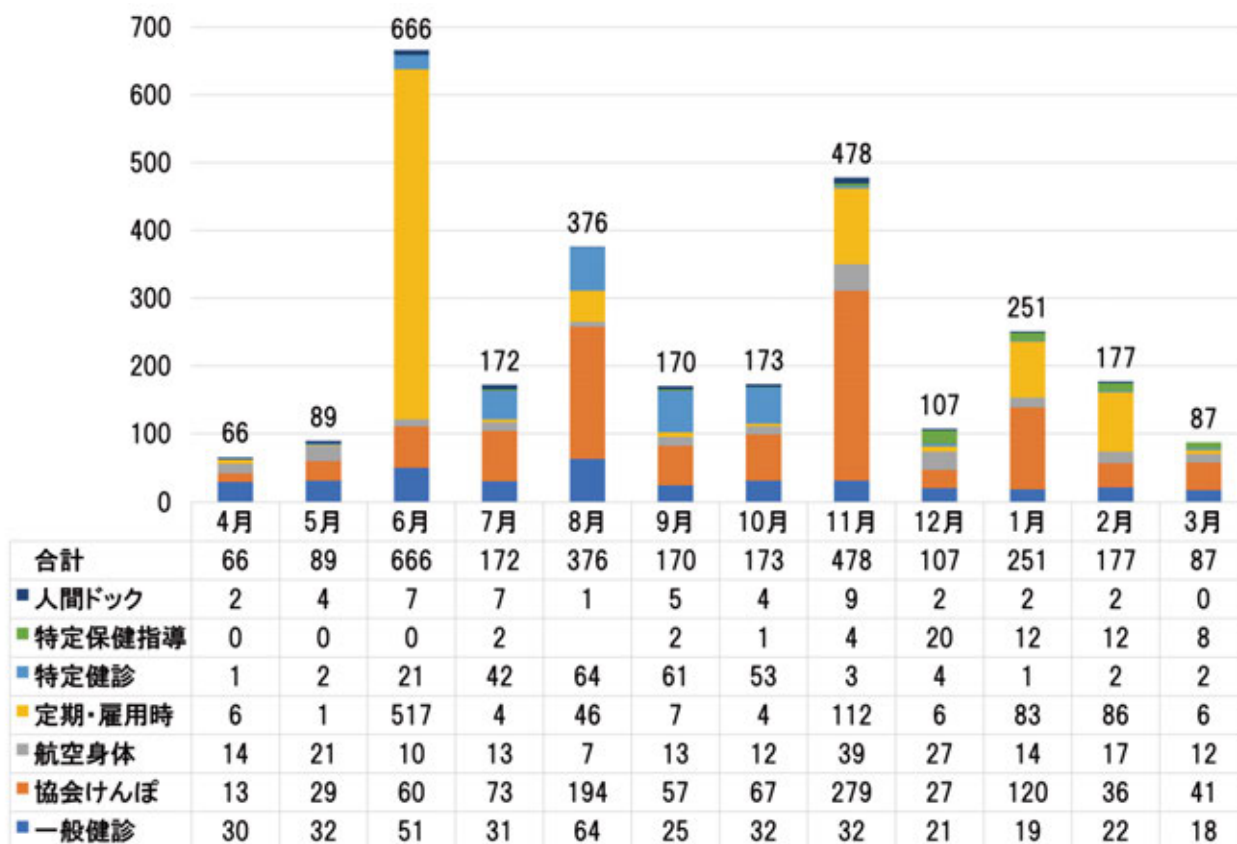
2023 年度 放射線室取扱件数



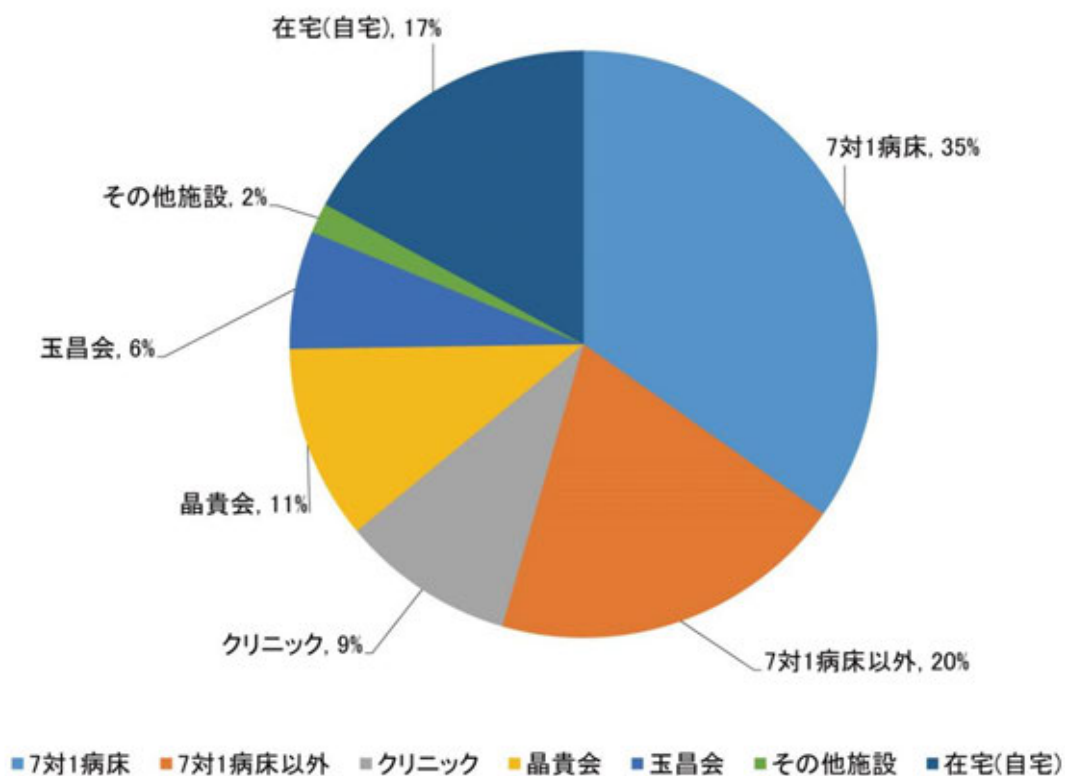
2023 年度 検査室取扱件数



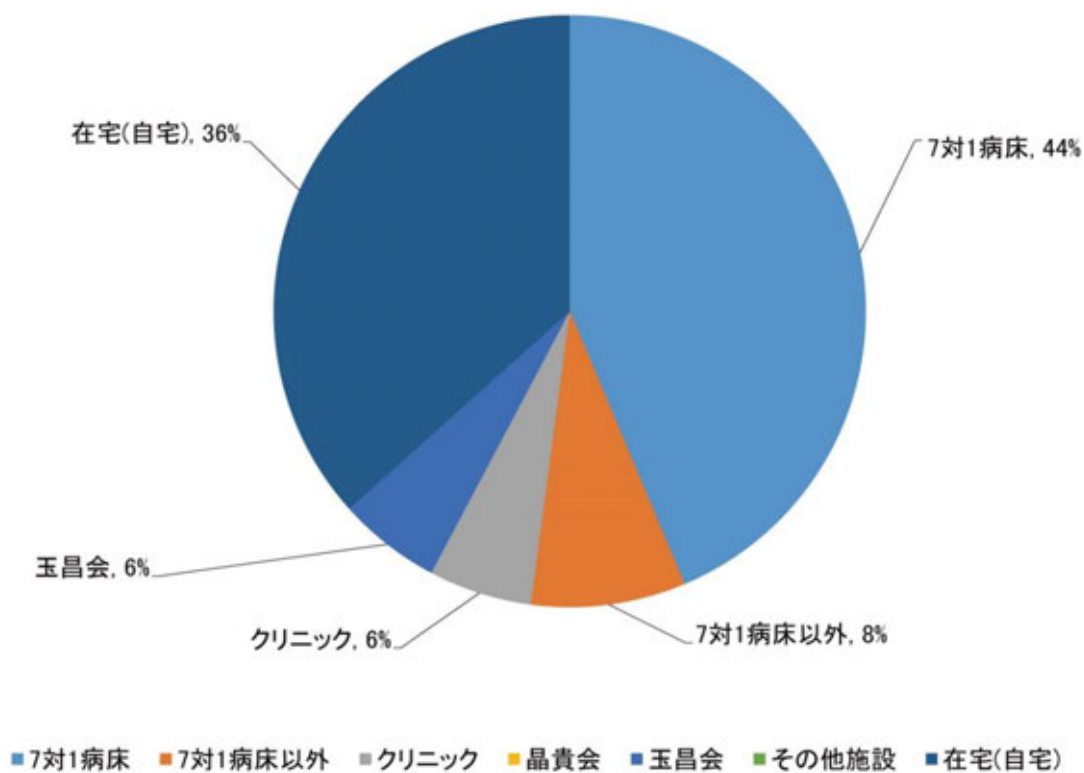
2023 年度 健康診断件数



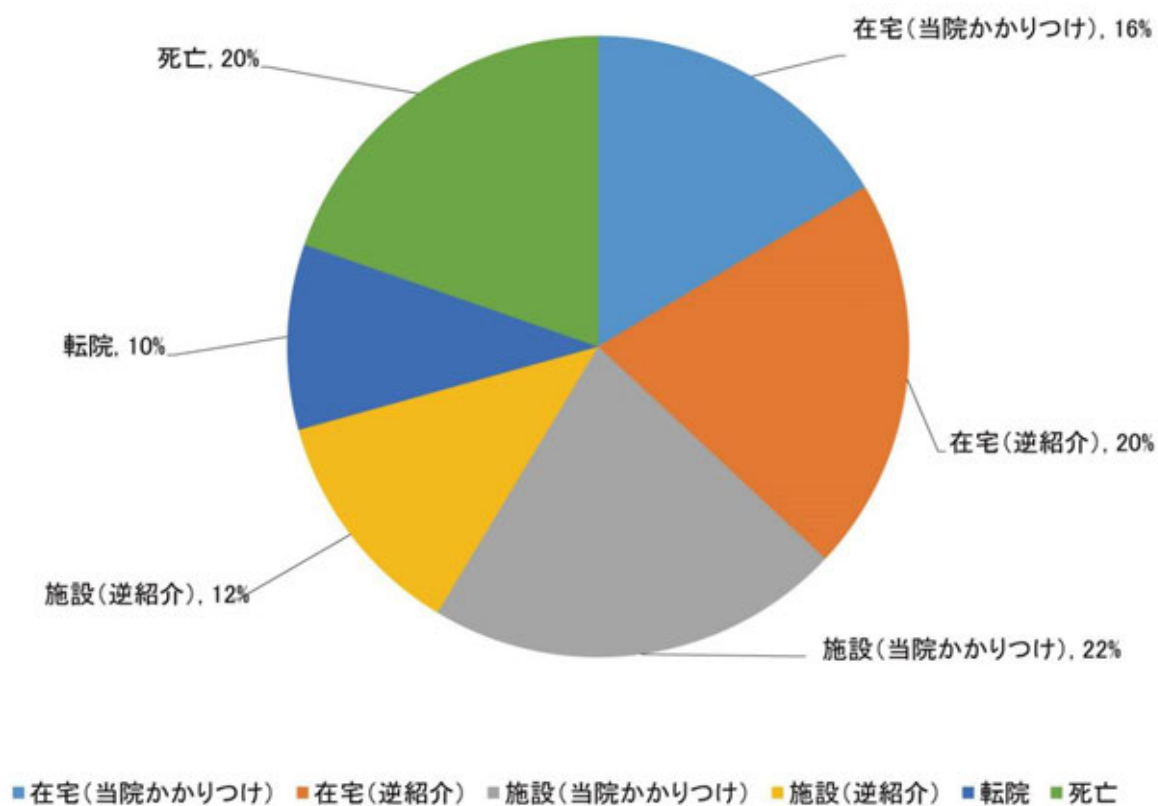
2023 年度 紹介元別割合



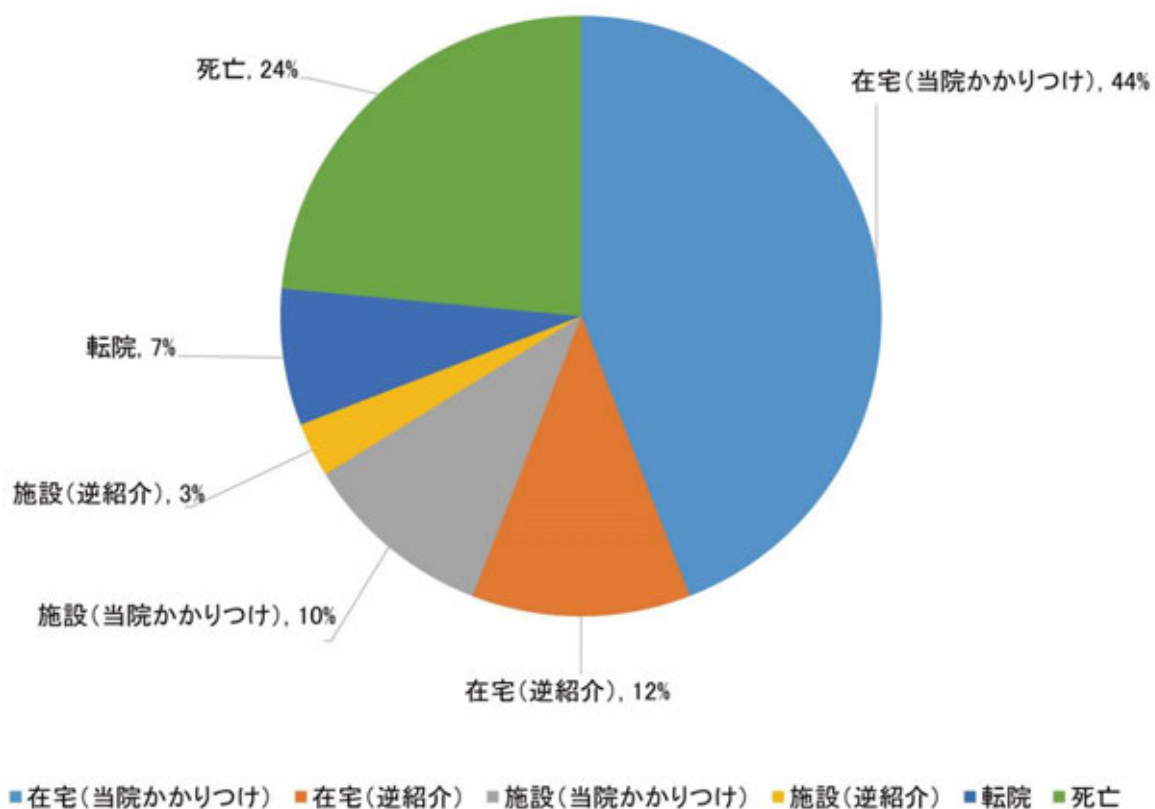
2023 年度 紹介元別割合 (透析)



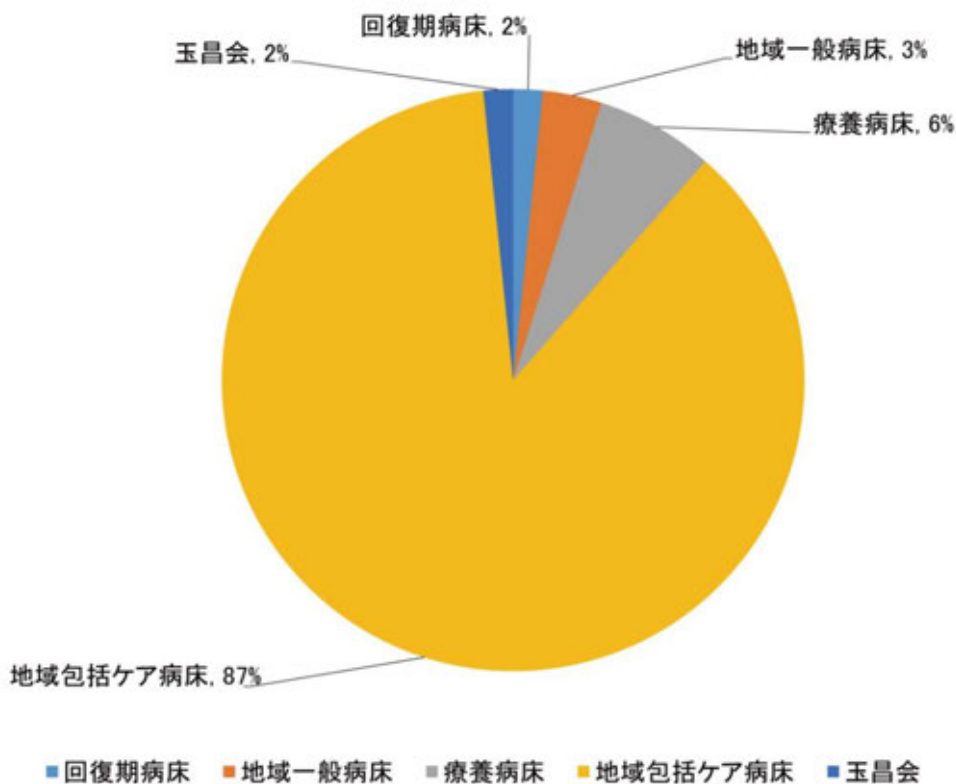
2023 年度 逆紹介元別割合



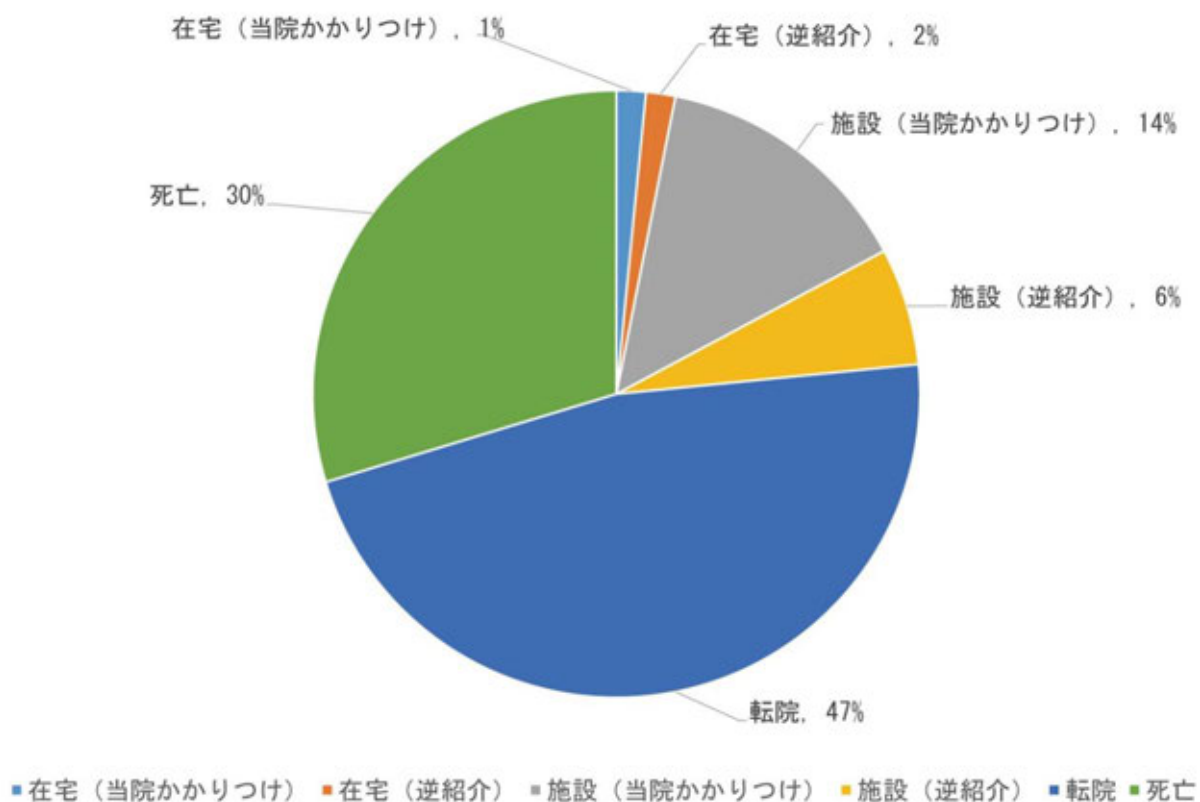
2023 年度 逆紹介元別割合 (透析)



2023 年度 紹介元別割合《介護医療院》

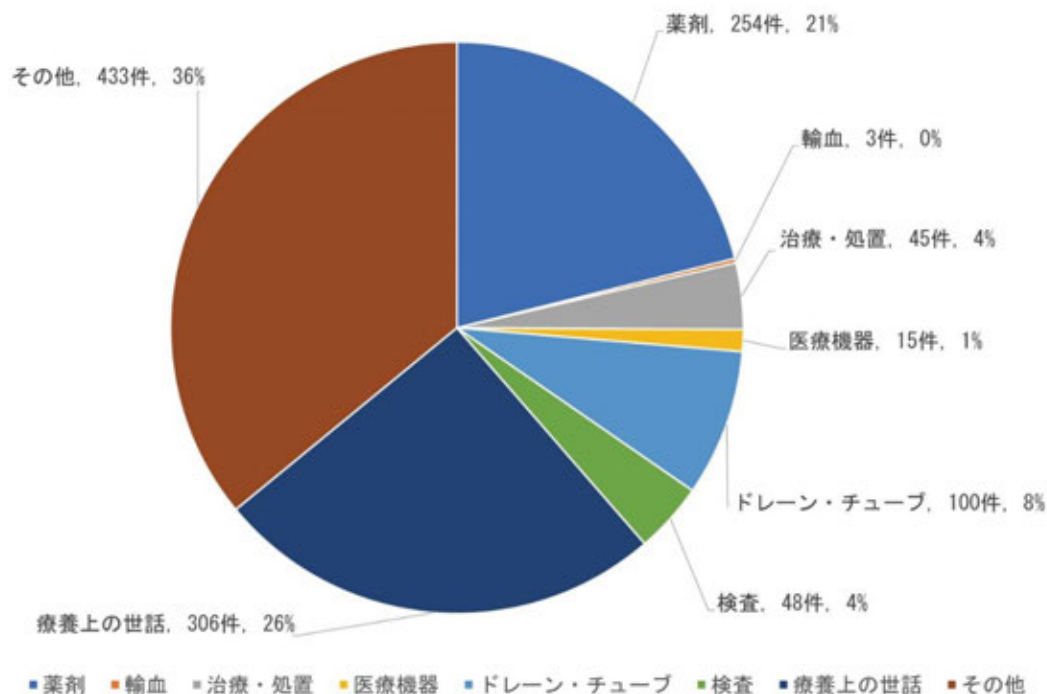


2023 年度 逆紹介先内訳《介護医療院》

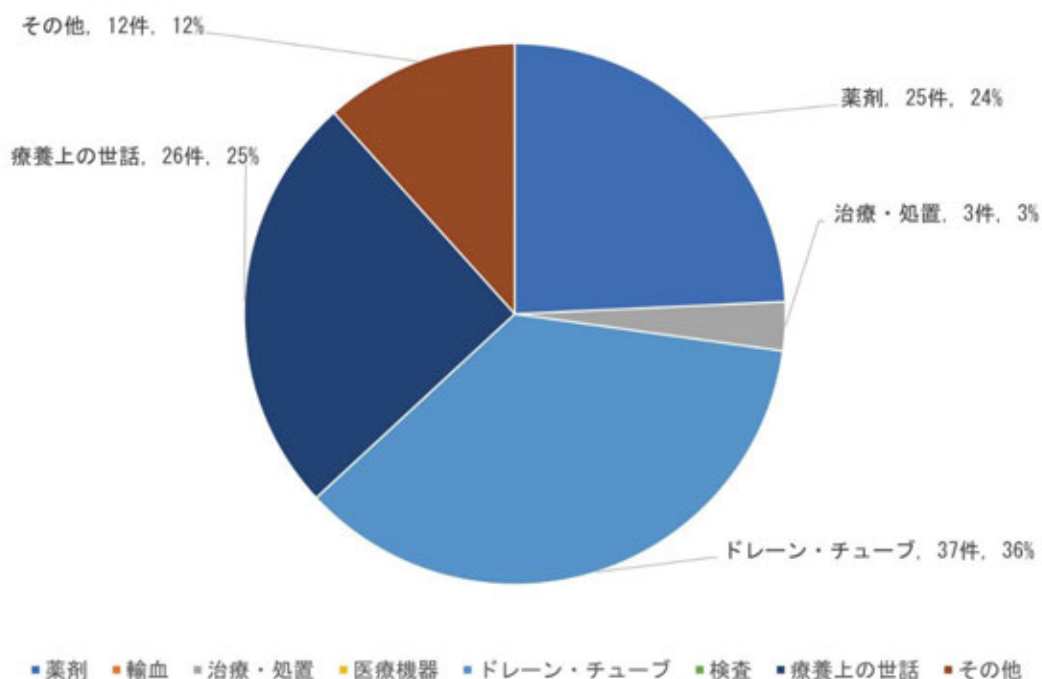


2023 年度 インシデント・アクシデント発生状況

要因別発生件数（加治木温泉病院）

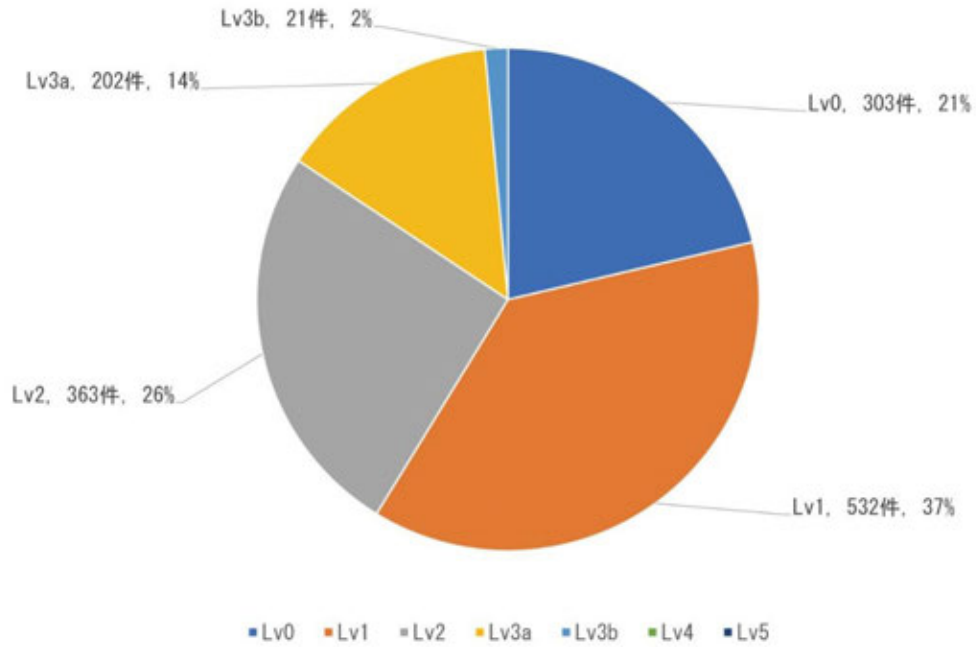


要因別発生件数（1型介護医療院）

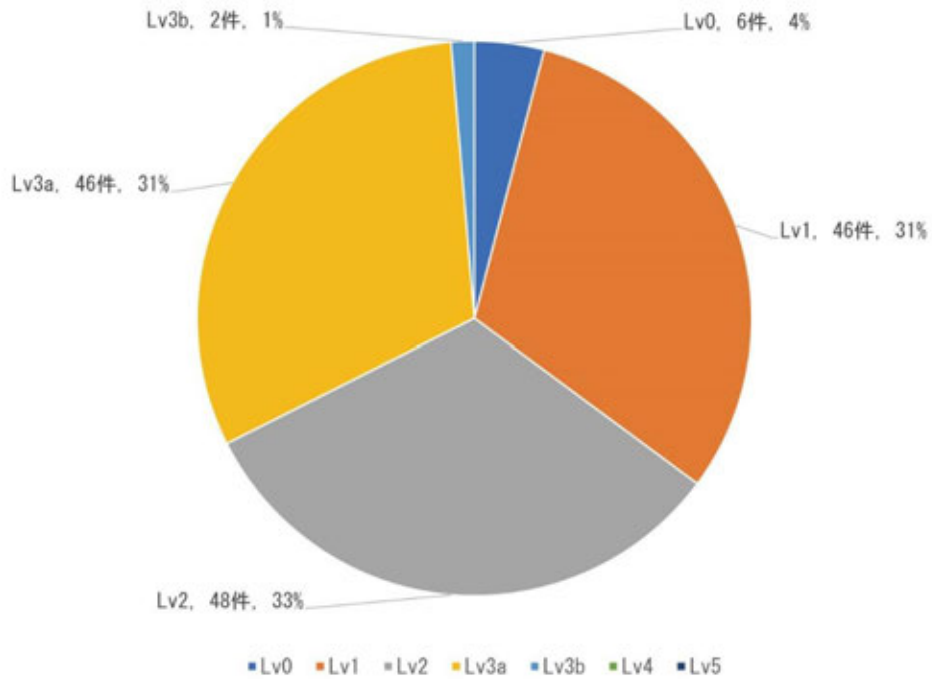


加治木温泉病院 統計

事故レベル別件数（加治木温泉病院）

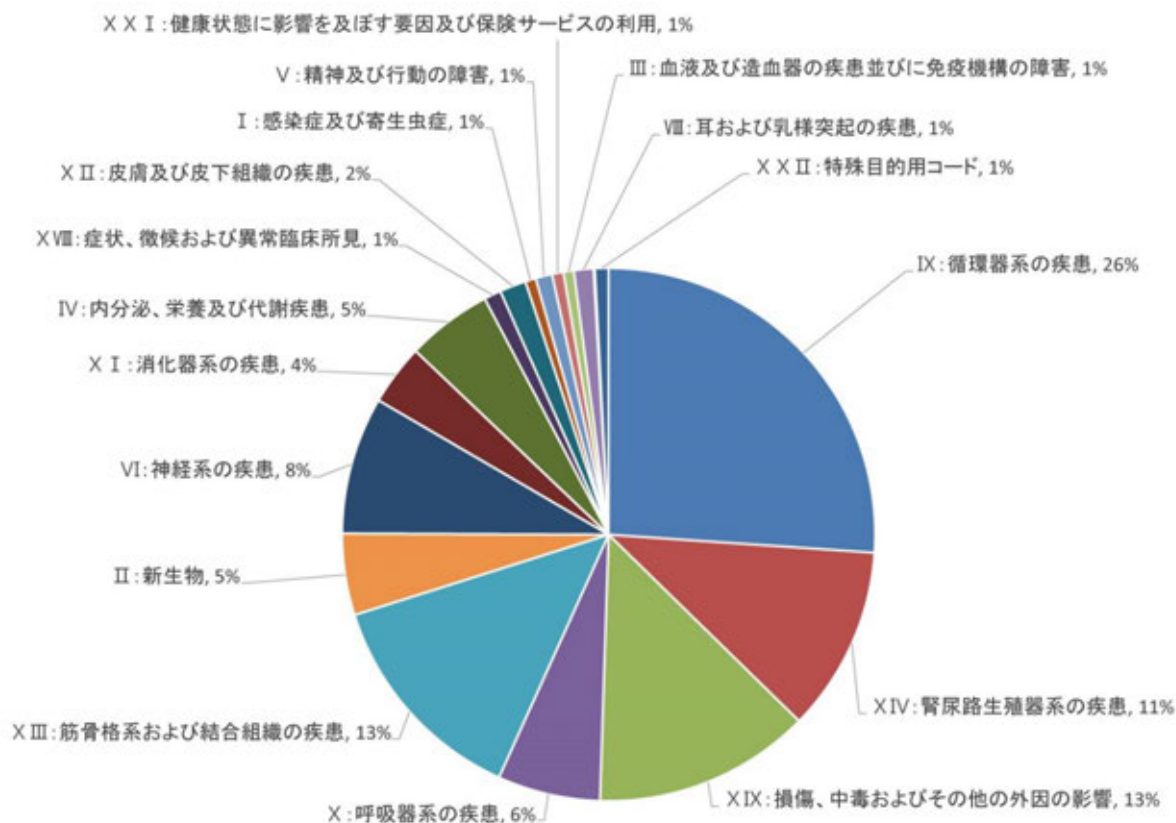


事故レベル別件数（1型介護医療院）



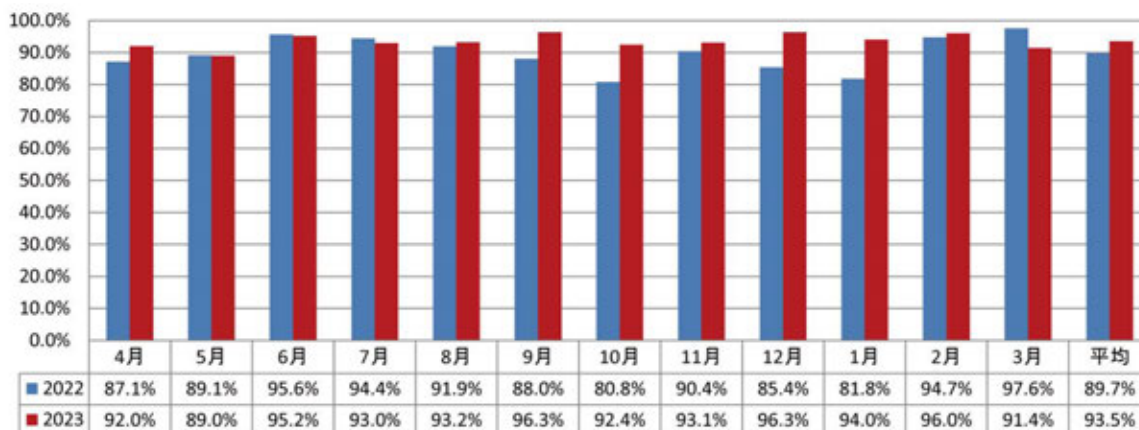
2023 年度 疾病別患者数

疾病別患者数	
大分類名	2023年度
IX:循環器系の疾患	105
XIV:腎尿路生殖器系の疾患	45
XIX:損傷、中毒およびその他の外因の影響	53
XIII:筋骨格系および結合組織の疾患	54
X:呼吸器系の疾患	25
VI:神経系の疾患	34
II:新生物	20
XI:消化器系の疾患	15
IV:内分泌、栄養及び代謝疾患	21
XVII:症状、徴候および異常臨床所見	4
V:精神及び行動の障害	4
XXI:健康状態に影響を及ぼす要因及び保険サービスの利用	3
I:感染症及び寄生虫症	3
XII:皮膚及び皮下組織の疾患	7
III:血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	3
VII:耳および乳様突起の疾患	5
XVIII:先天奇形、変形および染色体異常	0
VIII:眼および付属器の疾患	0
XXII:特殊目的用コード	3
総計	404

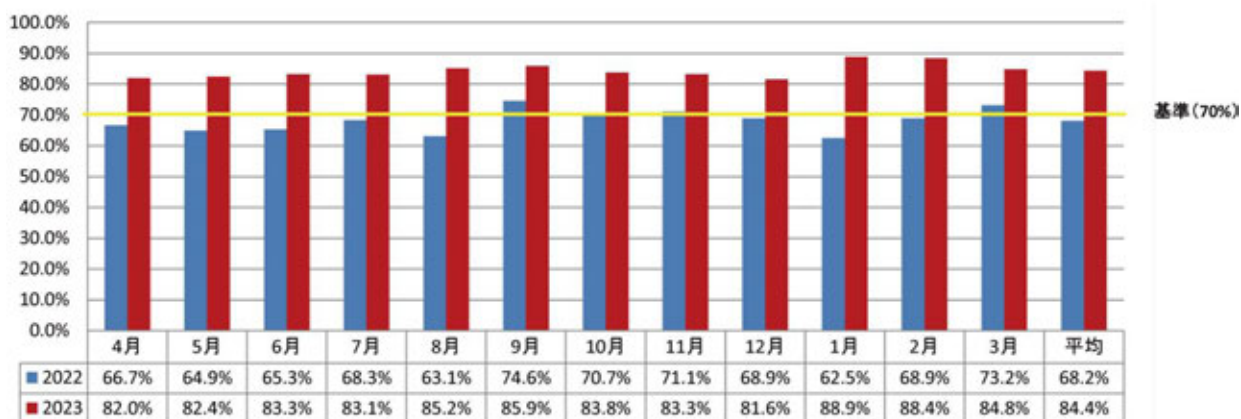


2023 年度 回復期リハビリテーション病棟の実績

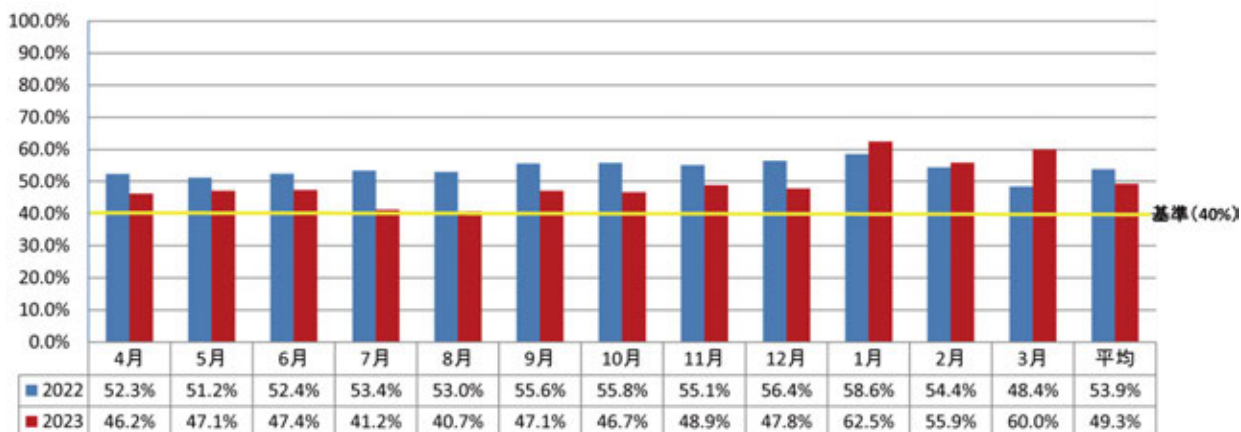
病棟稼働率（平均患者数／病床数）



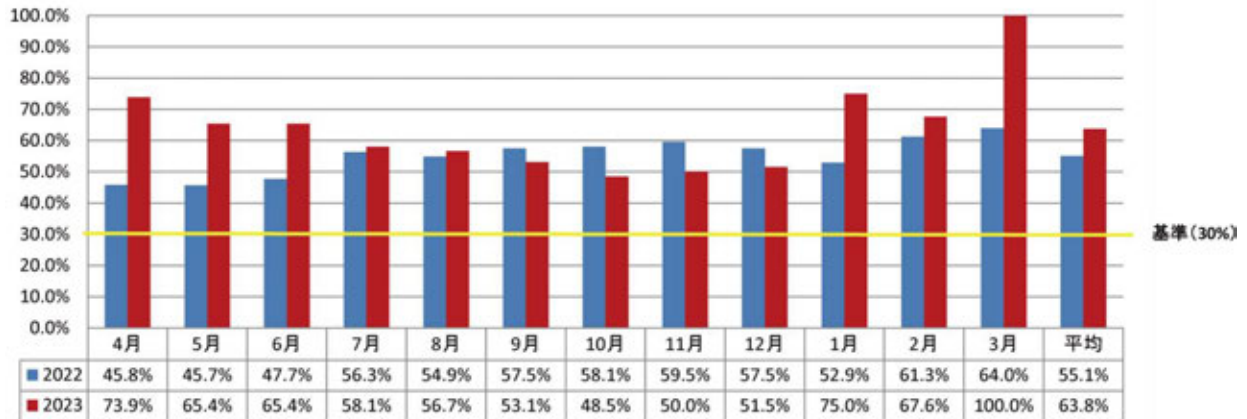
在宅復帰率（入院患者様が自宅等に退院される割合）



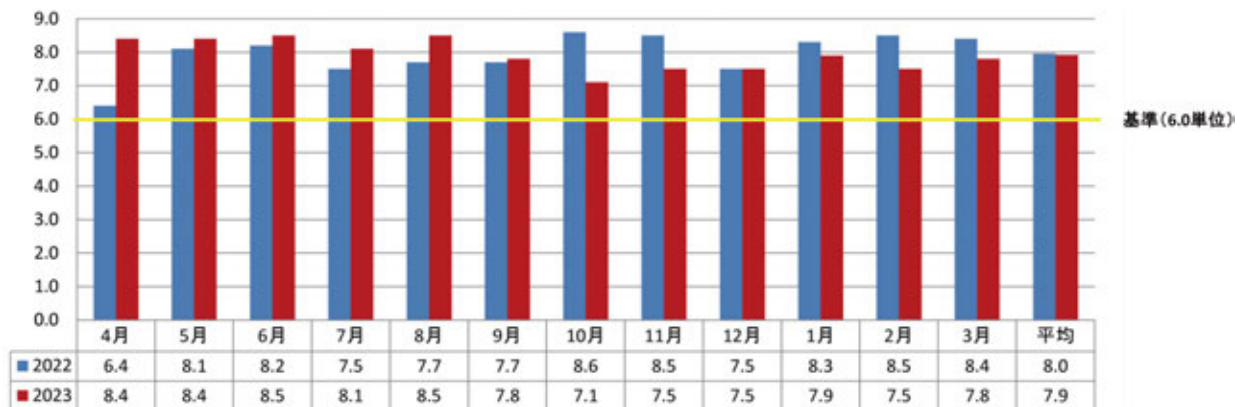
新規入院患者における重症者の割合（日常生活機能評価 10 点以上の患者の割合）



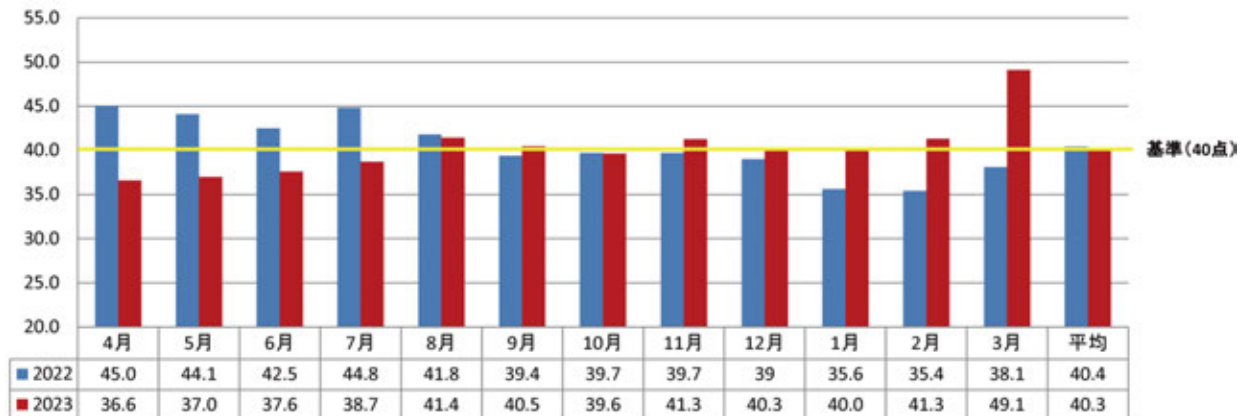
重症患者改善率（入院時重症患者のうち、日常生活機能評価4点以上改善した患者の割合）



リハビリ実施単位数（1日当たりのリハビリテーション提供単位数）



実績指数（退棟時FIM-入棟時FIM）／（入棟から退棟までの日数／厚生労働大臣が定める上限日数）



2 階南病棟

【今年度の取り組み】

A-1. ACPに関する取り組み

達成目標：意思決定支援やACPについてシートを活用して関わることができる。ACPシートの評価と改善項目があげられる。

B-1. 稼働率

達成目標：96%

C-1. 看護・介護の質の確保

達成目標：褥瘡を未然に防ぐ取り組みができる。現状課題の抽出と課題改善策の実施。

D-1. キャリアアップ

達成目標：個人の実践能力の評価とステップアップ支援

【今年度を振り返って】

2023 年度も、患者の尊厳や権利を尊重し、入院、転入後も安心・安全な医療・介護の提供が出来るよう患者・家族に寄り添い、継続した看護・ケアを多職種と行えるよう努めました。新型コロナウイルス感染症の位置づけは、5月から5類感染症へ移行しましたが、10月には新型コロナウイルス感染症が患者、職員において数名発生し一時期、病棟稼働率の低下がありました。今後も継続して感染症予防対策の徹底を行い、入院療養生活を安心して過ごせるように、又ご家族の気持ちに寄り添いながら、医療・看護を提供していきます。

2 階西病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 地域包括ケアシステムを意識した活動の強化

目標達成：患者の状態に合わせてACPシートを聴取し意思決定支援の実施率 67%

B-1. 入院病床稼働率の向上（94%以上）

目標未達成：93.3%（コロナ感染症受け入れに伴う稼働の減少）

C-1. 業務負担の軽減（リフレッシュ休暇の促進）

目標達成：92.3%が取得

D-1. 専門性の強化

達成目標：専門性の向上に繋がる個人目標の達成率 88.8%（特定行為 2 名、大規模災害支援ナース、BLS2 名、ACLS1 名の受講などあり）

【今年度を振り返って】

R5 年度は感染対応に関しては、多職種や他部署の看護部の連携・協力のもと対応力のスピードも上がり、安心安全な看護の提供に繋がったと思います。また、患者さんに質の高い看護を提供していくためには、スタッフ自身のセルフケアが重要と感じ、勉強会、アンケートを実施し、個人のヘルシーリテラシーの結果も向上していました。自分自身を大事にすることで、スタッフ同士の協力や配慮も多くみられるようになりました。また、自部署では特定行為看護師 2 名が研修を終え、ベッドサイドでのきめ細やかケアや、医師の負担軽減を進めるためにもチーム医療の促進を図れるよう今後も努めて参ります。今年度は、看護の間接業務の見直しを行い、スタッフ1人1人の提案から看護業務の効率化、看護サービスの質向上に繋がっていきたいと思います。また、地域包括ケア病棟として、地域と連携を図り、療養の場が多様化する中で患者、利用者にあった支援を行っていきたいと思います。

2 階東病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 地域包括ケアシステムを意識した活動の強化

達成目標：ACPシートを用いてプライマリー看護師が対象患者様へ意思確認が出来る。

B-1. 外来患者入院病床稼働率の向上

達成目標：年間稼働率96%以上を目標とし、在院日数の短縮を図る。

C-1. 業務負担の軽減

達成目標：業務改善を行い、タスクシェア・シフトが出来る。また、業務スケジュールを立て残業時間の短縮に努める。

D-1. 専門性の強化

達成目標：計画に沿った研修会を実施し、受講・テスト実施100%。実践能力の評価とステップアップ支援が出来る。

【今年度を振り返って】

- ACPシートにて意思確認が出来たが81.2%。新規入院や転入患者へACPシートにて確認を行った。直接面会時や郵送での聞き取りを行ったこと、看護計画への追加修正を行い、今後の方向性の統一と確認が出来た。
- 上期はオーバーベッドでのコントロールであった。下期病院内の感染拡大や予定外の療養で欠員はあったが、年間稼働率は98.8%と維持出来た。在院日数の短縮では、3年以上の入院患者6名のうち3名の退院へと繋がった。
- 平均残業時間9.8時間であった。予定外の人員不足もあり、残業時間の延長に繋がったと考えられる。残業時間の延長はあったが、業務改善案も上がり、実施できた。
- 上期、下期研修会実施100%、研修前後に実施したテストを実施し、学習習熟度も上がり、個人の意識が高まった。

3 階南病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足の視点

達成目標：意思決定支援やACPについての勉強会を行い、ACPシートの活用率100%を目指す

B-1. 稼働率の向上

達成目標：今年度の平均稼働率は96%を目標とする。

C-1. 業務負担の軽減

達成目標：業務改善チームを立ち上げ業務負担を軽減するための検討業務改善案を10個以上提案し計画を立てて残業時間を1/3に軽減する

D-1. 専門性の強化

達成目標：年2回の面談を行いラダー状況を本人に伝え必要なステップアップ支援を指導し個人目標を設定出来る。

【今年度を振り返って】

ACPの理解を深める為勉強会を実施。参加率は100%であったが患者さまからの聞き取りが困難な事例もあり活用率は91%であった。

稼働率もノロウイルスのアウトブレイクもあり、部屋調整、感染対策等強化したが93.9%と目標達成には至らなかった。

業務改善は看護補助者の人員不足や介護計画の導入で残業率が月平均19時間を上回っていたが、看護師で看護補助者の業務をタスクシフトシェアする事とモバイル端末を3個から7個へ増やした事で36%の残業削減できた。看護師の残業は月平均11時間と変化なし。

専門性の強化は院内研修参加率は88.9%院外研修は65.2%。FIMやICF、認知症ケア加算のフィードバック研修は実施。参加率は100%だった。

3 階西病棟

加治木温泉病院 部門別活動報告

【今年度の取り組み】

- A-1. 達成目標：意思決定支援やACPを活用し患者様・ご家族の意向を確認し看護の場面で実践できる
- B-1. 達成目標：平均稼働率94%以上を目指す
- C-1. 達成目標：感染予防に努め集団感染が発生しない
- D-1. ラダーに基づいた実践能力の評価とステップアップ支援

【今年度を振り返って】

入院・退院・転棟件数が多い病棟ですが、患者様に安心・安全な医療・看護が提供されるよう、取り組んでまいりました。入院される患者様・ご家族様向けの病棟パンフレットを随時更新し、入院時に患者様・ご家族へ入院生活について説明を行うことで、安心感をもっていただけるように努めました。また、コロナ禍で面会ができない状況でありましたが5類へ移行後面会が再開されました。面会に来られた際にご家族に患者様の状態を説明し現状を把握していただくように努めました。

今後も、患者様・ご家族が安心して入院生活を過ごされますよう、患者様に寄り添い、安心・安全な医療・看護・介護を提供していきます。

介護医療院

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域包括ケアシステムを意識した活動の強化
達成目標：ACPシートを活用・評価し統一化を図る
- B-1. 外来患者数、入院病床稼働率向上
達成目標：介護医療院年間稼働率98%
- C-1. 業務負担の軽減
達成目標：業務改善計画書の作成を行い、業務完全に関する提案・見直しができる。
- D-1. 専門性の強化
達成目標：クリニカルラダーに基づいた研修への参加ができフィードバックができる。

【今年度を振り返って】

令和5年度は看護師2名、看護補助者1名へ夜勤体制の変更を行った。また、業務負担軽減に関して業務改善計画書の作成し業務変更の提案・見直しをすることが出来た。

病棟での季節ごとの催しやボランティアの方を招いての催しなど開催することが出来た。今後も互いに協力し合いより良い職場環境となるよう努めていきたい。

また、入所者様・ご家族様が安心・安楽に療養できるよう環境調整を行うとともに、地域社会とのつながりも大切にしていきたい。

外来

【今年度の取り組み】

- A-1. 意思決定支援
達成目標：定期受診する患者へACP聞き取りを行った。
- B-1. 加算取得率アップ
達成目標：特定保健指導専門員の研修へ2名参加し、資格を取得。食生活の改善が必要な方へ積極的指導を行った。
達成目標：睡眠時無呼吸検査機器を購入したため、患者への検査案内がスムーズに行えた。検査だけに留まらず、PSG一泊入院や、CPAP導入患者が増えた。
- C-1. 業務負担の軽減
達成目標：職員で業務改善を行い、残業時間削減へつながった。
達成目標：大腸ポリペクトミーのマニュアルの見直しを行い、準備や介助が単独で行える職員が2人増えたことで、業務負担の軽減へつながった。
- D-1. 専門性の向上

達成目標：各ラダーに基づき、ステップアップ支援を行う。

【今年度を振り返って】

- ACPの聞き取りを行う際、患者と医療者のACPに対する意識に差があり、聴取時苦慮する場合もあった。医療者だけでなく患者側もACPの必要性が分かるような取組みが必要であった。
- 特定保健指導の研修に二人参加し資格が習得出来た。資格習得後は、支援のため面談を実施したが、スタッフの協力があり勤務内でスムーズに行えた。
- 睡眠時無呼吸検査機器を購入したため、患者への検査案内がスムーズに行えた。検査だけに留まらず、PSG一泊入院や、CPAP導入患者が増えた。
- 残業時間短縮のため、スタッフ全員で業務改善内容を考え実施した結果、残業時間の短縮へとつながった。
- 内視鏡技師が主体となり大腸ポリペクトミーのマニュアルの見直しを行い、準備や介助が単独で行える職員が2人増えたことで、業務負担の軽減へとつながった。
- コロナが落ち着いてきたため、院外研修案内が増えてきた。質の高い看護・介護が提供できるように自己研鑽に努めていきたい。また、基本理念・行動指針を念頭に患者様の尊厳や権利を尊重したあたたかい看護の提供とチームワーク・職場環境の充実に努めていきたいと思う。

人工腎臓センター

【今年度の取り組み】

A-1. ACP

達成目標：ACPシートを外来透析患者へ説明。実施率100%

B-1. 加算取得

達成目標：シャントエコー100件/年間・手術件数150件/年間

C-1. 残業時間の短縮

達成目標：1人当たりの平均残業時間数2時間以内

D-1. 専門性の強化

達成目標：急変シュミレーション・災害シュミレーションを多職種で実施する

【今年度を振り返って】

2024年1月に能登半島地震が発生。私たちも日頃から災害に関して意識を高め、災害シュミレーションを1年に1回は多職種で行い、落ち着いて対応できるよう訓練が必要であると学んだ。

新型コロナウイルス感染症の位置付けは、2023年5月から5類感染症となり、隔離期間・濃厚接触者の待機時間の見直しがあった。アウトブレイクを数回経験したが、経験値を基に職員もスムーズに対応していた。医療は感染症と隣り合わせであるため、日頃から感染対策を行い、安心・安全に透析看護ができるよう、専門知識を向上し、多職種と連携しながら取り組んで参ります。

臨床工学室

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足度の向上

達成目標：外来透析患者様の満足度調査のMEに対する意見・苦情を0件にする。

B-1. I-HDF、online HDF 施行患者の増加

達成目標：診療報酬を多く獲得する為に（主治医の意向に沿いながら）I-HDF、online HDF 施行の患者を70%以上に保つ。

C-1. 医療事故、医療過誤の防止

達成目標：年間で30件以上のインシデントレポートを提出する。

D-1. アクセス管理

達成目標：医師の指示したルーティンを順守しVA管理（VAエコー目標100件、VA関連手術参加目標100件手）を行う。

D-2. 学会発表

達成目標：院外の学会・研究会で年1回以上の発表を行う。

【今年度を振り返って】

今年度は人員が増加し7名体制で業務を行うことができた。増員に伴い患者様と接する機会も増加したためか臨床工学室に対する意見・苦情等は報告されなかった。血液浄化業務では血液透析（HD、on-line HDF、I-HDF）以外にもG-CAP1症例26回、レオカーナ5症例59回、CART19回と特殊血液浄化業務も多く行うことができた。on-line HDF、I-HDFの割合は今年度末時点で67.9%と目標である70%を達成できなかった。来年度は通年70%以上を達成できるよう努めたい。VA管理ではVAエコー118件、VA関連手術118件に参加し院内完結型のVA管理を行うことができた。学会発表では日本透析医学会での発表と鹿児島県臨床工学技士会災害対策セミナーでの講演を行うことができた。今後も積極的に学会参加・発表等おこなっていききたい。来年度も玉昌会基本理念・行動指針を念頭に患者様に安心・安全な医療を提供できるよう努めてまいります。

総合リハビリテーションセンター

【今年度の取り組み】

- A-1. 目標：回復期リハビリテーション病棟全患者を対象とした目標共同決定の仕組み（フロー）を構築し、ADOC対象外の回復期リハビリテーション病棟患者に対して、目標共同決定のフローを実行する。
- A-2. 目標：当院のリハビリテーションをPRするための素材（実績等）を決めて、広報の基盤をつくり、当院のリハビリテーションに関するHPの内容を大きくアップデートする。
- B-1. 目標：上期・下期の回復期リハ病棟平均提供単位が8.1単位を上回る。
- B-2. 目標：回復期リハビリテーション病棟退院後、訪問リハビリテーションへつなげる仕組み（フロー）を構築し、回復期リハビリテーション病棟から訪問リハビリテーションへ3件以上つなげる。
- C-1. 目標：機能評価で求められる事項について、目標を決め、実行計画を立案し、実行する。
- C-2. 目標：PX調査表をアップデート（ver.4）し、患者1名以上に試行する（テストケース）。さらに回復期リハビリテーション病棟患者を対象に、PX調査表の運用を開始する。
- D-1. 目標：小児リハビリテーションに関する育成計画（研修内容）を明文化する。育成計画に基づいて、PT1名、OT3名、ST5名に研修を開始する。
- D-2. 目標：各部門、1演題以上、全国規模の学会へエントリーする。各部門、1演題以上、全国規模の学会で発表する。

【今年度を振り返って】

2023年度は、5月には、コロナウィルスが5類感染症へと変更されたが、2023年度も院内ではコロナウィルスクラスター、等が発生しリハビリテーション提供時の嚴重な感染対策やレッドゾーンでのリハビリテーションの提供、さらに病棟業務の支援など、通常とは異なる状況での活動となった。そのような中ではあったが、スタッフ全員で協力し安心安全な質の高い医療の提供に努めた。

バランススコアカード（BSC）の4つの視点ごとに2023年度の活動について報告する。患者満足の見点では、患者さんご自身とセラピストが共同して目標設定を行える支援ソフトであるADOCを回復期リハビリテーション病棟の仕組みに組み入れることができた。一方、ADOC対象外の患者さんの目標共同決定のフローの実行まで至らなかった。当院のリハビリテーションに関するホームページに関して、2018年以降大幅な見直しが行われていなかったため、内容の見直しをおこない、アップデートを行うことができた。健全経営の見点では、回復期リハビリテーション病棟における1患者1日の平均提供単位目標を前年度を超える8.1単位としたが、クラスターやマンパワー不足により年平均7.9単位と未達成となった。訪問リハビリテーションの利用者獲得の取り組みとして、回復期リハビリテーション病棟退院後、訪問リハビリテーションにつなげる仕組みを構築し、目標件数3件を超える4件の新規利用者を獲得できた。医療の質向上の見点では、2024年5月受審予定の病院機能評価高度専門機能に向け計画的な準備を進めることができた。患者満足度を評価するためのツールとしてPX（患者経験価値）に基づく評価票を作成し、回復期リハビリテーション病棟での運用開始を目指したが、テストケースでの課題について十分な解決に至らず運用開始できなかった。学習と成長の見点では、小児リハビリテーション従事者の育成計画の明文化と計9名の新規の育成を目指し、計画通り9名育成することができた。病院の目標としての学術的活動の計画的推進（アカデミックホスピタルの実現）について各部門、1演題以上、全国規模の学会へエ

ントリー・発表する目標を立て、結果として、論文は、国外誌2編、全国誌2編、地方誌2編、研究会誌1編掲載。学会は、全国10演題、九州3演題、地方7演題を発表した。

2023年度は、コロナウィルス、その他の感染症の影響はあったが、患者満足度の向上を目指しつつ、病院機能評価高度専門機能で求められる質の高いリハビリテーション・医療の提供を実践できるような取り組みを進めることができた。また同時に、多くの学術活動にも取り組めた。2024年度4月には当院のリハスタッフは100名となった。大勢のスタッフが、法人・病院の目標、そして一人ひとりが掲げた目標に真摯に取り組み、結果として最高のリハビリテーション医療を提供できるリハセンターとなるよう努めたい。

総合リハビリテーションセンター 理学療法部門

【今年度の取り組み】

- A-1. PT部門の広報に関する内容をアップデートする
達成目標：当院のリハビリテーションに関する内容をアップデートする
- A-2. 住み慣れた地域における「参加」レベルで活動できる場へのリハの提供の場を支援する
達成目標：チームを作り、協力体制を確立し、依頼に対して通いの場などへ派遣対応していく
- B-1. 当院職員の腰痛発生率改善を図る
達成目標：腰痛予防の研修を3回以上開催する
- B-2. 回復期リハビリテーション病棟から訪問リハビリテーションへつなげる
達成目標：回復期リハビリテーション病棟から訪問リハビリテーションへ3件以上つなげる
- C-1. 腎臓リハビリのシステム作り・マニュアル化を行う
達成目標：腎リハに関わるスタッフがだれでも腎リハが行えるように過程を見直しマニュアルを作成する
- C-2. 院内および院外にて1演題以上の学会発表を行う
達成目標：全国学会1演題以上、合わせて2演題以上発表する
- D-1. 登録理学療法士取得の推進
達成目標：PTスタッフのうち登録理学療法士の資格を1名以上取得する
- D-2. 心リハ・腎臓リハ・骨粗鬆症リハ資格取得推進
達成目標：心リハ・腎臓リハ・骨粗鬆症の各資格取得の条件である学会の入会をいずれかに1名以上する

【今年度を振り返って】

令和4年度より3年計画として当院職員の腰痛発生率改善を図ることと、心臓リハ・腎臓リハ・骨粗鬆症に関するリハ資格取得推進の取り組みを開始した。これは当院職員の腰痛による離職を防ぐことや、診療報酬改定に伴い「必要とされる人材」の育成が重要と思われるため、リハ資格の取得推進のために新たな取り組みとして開始した。今後は、計画に沿って腰痛予防の取り組みや資格取得へ向けての取り組みを進めていきたい。また令和4年度診療報酬改定に対応する形でキラメキとともに情報共有や他部署との連携を行い、算定要件に必要な事項に対応しながら腎臓リハビリのシステム作り・運用を行うことができた。腎臓リハビリは今後も注目されている分野であるため、今後も内容の見直しを行い、継続した運用をすすめていきたい。当院職員の労働環境に配慮した取り組みや病院の健全運営のために、今後も理学療法部門として出来ることを継続していきたい。

総合リハビリテーションセンター 作業療法部門

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域で活躍できる人財を育成する。
達成目標：①地域リハ活動（サロン活動）に対応できる人財を1名以上増やす。
②子育て支援教室の講師を次年度から引き継げる人財を1名育成完了する。
- A-2. リハビリテーション目標共同決定の体系化。
達成目標：意思決定支援ソフト（ADOC）対象外の回復期リハ病棟患者に対して目標共同決定の仕組み（フロー）を周知し実行する。
- B-1. リハビリテーション実績の向上。

加治木温泉病院 部門別活動報告

達成目標：リハ実施提供単位数の上限目指す（達成指標：回復期リハ病棟の平均提供単位数が8.1を上回る。）

B-2. 小児リハ従事者の計画的育成。

達成目標：小児リハ対応出来る人財を2名以上育成し新人2名に対しても次年度からの開始を目指し計画的に育成していく。

C-1. 病院機能評価 高度専門機能リハの認定準備。

達成目標：機能評価で求められる事項について、機能評価委員を中心に OT 部署目標を決め、実行計画を立案し、実行する。

C-2. 臨床後の自由参加の症例検討会・勉強会の開催。

達成目標：自由参加の症例検討会・勉強会を計画的に開催する。1回はZOOM開催を行う。

D-1. 臨床実習生と新人育成の充実。

達成目標：昨今主流となってきた『診療（作業療法）参加型臨床実習』に則した臨床実習・新人教育内容について検討しOJTを中心とした指導が誰でも可能となるようマニュアル等の見直しを行う。

D-2. 学会・研究会発表もしくはその準備。

達成目標：上肢リハ装置研究や上肢機能回復に関する研究、県士会での発表などを推進する為の計画を立案・実践して、院内外で1演題以上は発表する。

【今年度を振り返って】

コロナ禍以降、依頼件数が減少していた地域リハ活動も増加してきており、対応できる人財を育成し増員できた。小児リハ分野も含めて今後も臨床現場での業務量を勘案しながら計画的に育成していく必要が有る。病院機能評価 高度専門機能の受審（2024年5月）に向けて他部署と協力しながら回復期リハ病棟のシステムも改善してきた。今後も継続してICFの活動・参加の視点から対象者の方と共に目標を立案し、作業療法を実践していく流れをブラッシュアップしていきたい。人口減少による働き手不足や働き方改革の影響もあり、今後ますます効率的な働き方を求められる中で、患者様と職員の双方とも健康を守ることが出来て、役立つ働き方をOT全員協力しながら目指していきたい。

総合リハビリテーションセンター 言語聴覚療法部門

【今年度の取り組み】

A-1. 地域包括ケアシステムに関わることのできる人材を育成する

達成目標：地域推進リーダー取得者を2名以上育成する

A-2. 地域リハ活動内容を体系化し、計画的に人材を派遣する

達成目標：地域リハ事業の依頼に100%対応する（コロナ禍による外部要因の影響を除く）

B-1. 介護医療院おはなで、集団コミュニケーション療法を安定的に算定する

達成目標：集団コミュニケーション療法のデータ集積を行い、病院ホームページに取り組みを掲載する事で、介護医療院おはなの広報を行う

B-2. 言語聴覚療法に係る診療報酬を安定的に算定する

達成目標：がん患者リハ料の提供体制を整え、令和4年度下期のがん患者リハ提供割合（77%）から、5%UPする

C-1. 摂食嚥下リハビリテーションの多職種連携を実践する

達成目標：回復期リハ病棟において摂食嚥下チームの活動を開始し、ミールラウンドやミーティングを6回以上開催する

C-2. 病院機能評価機構の認定を更新する

達成目標：実行計画のPDCAサイクルを回し、目標を達成する

D-1. 小児リハビリテーションに従事するスタッフ育成の流れを体系化する

達成目標：小児リハ人材育成マニュアルを活用し、3名以上に育成を開始する

D-2. 研究活動、学会発表を推進する

達成目標：3 演題以上、学会発表を行う

【今年度を振り返って】

2023 年度、S T 部門の成果は、1) 論文が 3 本掲載されたこと、2) 小児リハビリテーションに従事する S T を計画的に育成できたこと、3) 介護医療院での S T の活動が安定してきたこと、である。まず、掲載された論文のうち 2 編は査読あり論文で、論文を通して国内外に当院の S T の臨床を P R することができた。次に、小児リハビリテーションについては、院内での活動にとどまらず、地域の活動へスタッフを派遣したり、行政との会議に出席する機会が増えた。こうした機会でも専門性を発揮できる人材も育ち、対応できるスタッフが充実してきた。また、介護医療院では、集団コミュニケーション療法を安定的に算定できる体制が整い、サービスの質がさらに向上した。

2024 年度のトピックは、高度・専門機能の受審と、S T の九州学術集会在鹿児島で開催されることである。リハビリテーションの質を高めるためには、個人のスキルを高めるだけでは足りず、いかにそのスキルをチームのなかで発揮できるかが重要である。高度・専門機能はチームアプローチの基礎と応用を学ぶ絶好の機会である。その一方で、学際的な機会に積極的に参加し、学術的な経験を通して個人のスキルを高めることも重要である。2024 年度は、こうした機会を有効に活用し、S T 全体の臨床力を高められるよう活動を進めていきたい。

総合リハビリテーションセンター 義肢装具部門

【今年度の取り組み】

A-1. 介護医療院おはなでの業務計画。

達成目標：出向日程や回数などの計画を行いサービスを提供。

A-2. 鹿児島地区在宅サービスを利用されている（訪問リハ、施設）への対応。

達成目標：加治木で行っている ZOOM、ステラの活用対応を開始。

B-1. 適切な修理料金の徴収。

達成目標：修理代金の適性徴収を開始。

B-2. キラメキテラスヘルスケアホスピタルでの修理料金の徴収。

達成目標：P O 不在も多い為、マニュアルを作成。徴収を開始。

C-1. 装具療法、K A F O 利用者への介入件数拡大

達成目標：K A F O 利用者へは月平均 4 回介入。

C-2. キラメキテラスヘルスケアホスピタル通所リハ補装具定期メンテナンスの計画変更。

達成目標：補装具定期メンテナンス未実施 0。

D-1. 装具療法勉強会を拡大

達成目標：外部参加者の受け入れ。年 12 回開催。

【今年度を振り返って】

今年度は 3 人体制で行っていた業務を 2 名で行う事への変更や工夫を行う年度であった。整理をすることが難しい業務に関しては工夫を行い、利用者にしてできるだけ負担がかからないように行ったが難しい面も多く、掲げた目標を達成できない分野もあった。今後の反省点としてアイデアを出しながら来年度は業務を行っていきたいと思う。急性期と回復期を繋ぐ目的の一つとして装具療法勉強会を ZOOM 開催とし、玉昌会以外の参加者を受け入れることができた。1 年を通し延べ 339 名の参加があり、そのうち玉昌会以外の参加者は 65 名だった。様々な病院のセラピストが参加して下さり、機会の少ない装具に対しての勉強会を開催できたことは鹿児島県の装具療法にわずかながら貢献したのではないかと思います。来年度も引き続き行っていききたい。

臨床心理室

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足の視点

達成目標：加算の取得

B-1. 健全経営の視点

達成目標：算定率を上げる

加治木温泉病院 部門別活動報告

C-1. 医療の質向上の視点

達成目標：メンタルヘルス支援の充実

【今年度を振り返って】

算定の流れを見直すことで、算定漏れを減らすことができた。さらなる算定率向上のため工夫をしていきたい。また、加算の取得に向けスタッフ全員が研修を受けることができた。メンタルヘルス支援についても見直しを行い、新たな取り組みを始めることができた。

栄養室

【今年度の取り組み】

A-1. 食事満足度の向上

達成目標：入院時に病室訪問し、嗜好・摂取量を把握し、満足度の向上に努める。

B-1. 病院経営への貢献

達成目標：栄養食事指導料を年間 200 件以上算定する。

B-2. 病院経営への貢献

達成目標：特別加算食を医療 40%、介護 55%以上算定する。

C-1. 医療の質向上への取り組み

達成目標：栄養サポートチームで年間 70 件以上算定し、患者様の栄養状態改善に努める。

D-1. スタッフのスキルアップ

達成目標：院外(W e b)研修会へ年 2 回以上参加し、所属内研修を 24 回以上開催する。

【今年度を振り返って】

今年度も感染対応による入院患者様以外は、入院時に病室訪問し、嗜好・摂取量・食事形態などを把握し、患者満足度の向上や栄養管理計画に繋げることができた。栄養食事指導料は 200 件算定し、入院中の栄養教育・退院支援に努めることができた。特別加算食は医療 70%、介護 67%算定した。病態に合った療養食を提供し質の良い栄養管理を行うよう努めた。栄養サポートチームでは、加算算定件数が 41 件（介入件数 102 件）と目標達成できなかったが、多職種協働で患者様の栄養状態改善に努めた。

今後も院内外の研修会に積極的に参加しスキルアップに努め、よりよい栄養管理が提供できるよう取り組んでいきたい。

通所リハビリテーション

【今年度の取り組み】

A-1. 意思決定

達成目標：研修会に参加し、移行支援加算対象者16名中4名移行する。

B-1. 健全経営の視点

達成目標：平均稼働率 40%以上。

新規加算取得・平均 20 名来院

C-1. 業務負担軽減

達成目標：自主訓練時に 15～30 分取組に参加継続できる。成人病・腰痛等が改善または発症しない。

C-2. 業務負担軽減

達成目標：業務内にモニタリングや評価入力ができるよう、業務中に出来る。残業時間数平均 9 時間。

D-1. 専門性の強化

達成目標：介護保険について研修会を開催し、目標達成できる。(100%)

【今年度を振り返って】

- 移行支援は3名にとどまる。ACPの研修会は参加できた。
- 平均稼働率36.2% (2単位) 新規加算取得なし。収益も前年度と比較すると113%増加していた。
- 自主訓練参加100%。オンラインストレッチ体操（健康王国の導入）腰痛や便秘の改善あり。
- ADL低下にて車いす使用や歩行器の使用が増加。付き添いトイレ誘導等増えたため、業務中のモニタリング実施

ができなかった。送迎後に行ったり、病棟応援を行ったりしたため平均残業時間11時間であった。

- 通所内の必須の研修会は開催できていた。介護保険についての研修会は時間外では困難であった。自己研鑽はオンラインセミナー等で研修が行っていた。介護報酬改定の研修会に参加できた。

薬局

【今年度の取り組み】

- A-1. 入院患者への服薬指導の充実
達成目標：服薬指導を年間通算 1000 件目指す。
- B-1. 薬剤費の削減
達成目標：後発品で価格が上昇した品目について、安定供給の確保かつ薬価差益が大きいものに変更する。
- B-2. 処方薬剤の削減
達成目標：年間を通して薬剤総合調整加算 200 件および薬剤調整加算 50 件を目指す。
- C-1. 新型コロナワクチン接種の運用
達成目標：ワクチン接種体制を継続し、基本型接種施設として適切なワクチン管理を行う。
- D-1. 薬局勉強会の実施
達成目標：WEB講演会などの受講を活用し、薬局勉強会を 2 回継続して行う。

【今年度を振り返って】

今年度は前年度達成できなかった服薬指導の充実を年間の目標とし、薬局スタッフの退職や新型コロナのクラスターによる影響等もあったが、目標の 1000 件を達成することができた。薬剤費の削減については、今年度も加治木・キラメキで全採用薬の発注先を整理し、薬剤の購入費削減に努めた。また、薬価が上がった一部品目に対して、違うメーカーへの採用変更を行い、薬剤費の抑制に貢献した。新型コロナワクチンの管理については、3 月いっぱいまで当院のワクチン管理業務は終了したが、基本型接種施設として地域に貢献でき、職責を全うできたと考える。

年度末にコロナのクラスターやノロウイルスのアウトブレイクがあり、薬局からも病棟への応援として、配薬カートへの薬剤セットを一部担当した。これまで病棟での薬の管理を十分把握していなかったが、応援に行ったことで業務を知るいい機会となり、これまで病棟で手書きで日付を入れていた作業を薬局で印字できるようにシステムを見直し、看護部と連携をとりながら業務改善に繋げることができた。

薬剤師の人員が少ない状況が続くが、来年度もパフォーマンスを落とすことなく、患者満足度の向上や病棟スタッフの業務削減・使用薬剤の削減・医療安全等に繋げていきたい。

放射線室

【今年度の取り組み】

- A-1. インシデント・アクシデントの提出
達成目標：インシデントを 4 件以上提出する
- B-1. エラストグラフィーの確立
達成目標：年間 30 件行う。
- C-1. 未修得業務の取得
達成目標：スタッフ各自が未修得の検査を出来るようにする。

【今年度を振り返って】

インシデント提出が目標の 2 倍となりスタッフのインシデント意識が少しずつ高くなっている。
エラストグラフィーは医師への案内不足で目標の件数に達成しなかったため他の医師へも積極的に行う。
下半期は通所リハの人員不足のため一時的に送迎の協力も行った。また、スタッフ 1 名が法人事務局事業企画推進部医療経営情報課情報管理室を兼務することになり、業務体制も見直すことになった。各自がスキルを見直し未修得の検査を修得できるようになったので今後も効率的で精度の高い検査を行えるように取り組む。

検査室

加治木温泉病院 部門別活動報告

【今年度の取り組み】

- A-1. より安全、質の高い検査の提供
達成目標：内部精度管理及び外部精度管理ともに $\pm 2SD$ 内の測定値を目標とする。
- B-1. 試薬のコスト削減
達成目標：各試薬使用状況を見直し、削減できる試薬の調整を行う。
- C-1. 院内・院外の研修充実
達成目標：年間に6回以上の研修会参加を目標とする。
- D-1. 心エコー・下肢静脈エコー検査の技術向上
達成目標：検査技師2名による、心エコー・下肢エコー検査のルーチン業務習得。
- E-1. インシデント・アクシデントの提出
達成目標：インシデントの提出6件以上。

【今年度を振り返って】

内部精度管理は日常のメンテナンスの実施と適切な試薬管理により、良好な結果維持に繋がった。外部精度管理では、測定値に問題は無く、良好な結果を維持できた。試薬コスト削減の目標が達成できたことによりほかの検査項目の見直しも調整していきたい。また、昨年度よりインシデント・アクシデントの報告が積極的に行えた。来年度は、さらに報告を積極的に行い、業務効率化につなげていきたい。

特定健診室

【今年度の取り組み】

- A-1. 特定保健指導の実施・法人の健康経営への協力
達成目標：前年度末までに実施した方達を途中終了することなく最後まで支援し、完了する。また新規介入50名を目標とし、初回面談まで終了する。
- B-1. 健診の拡大
達成目標：職員健診で35歳以上は協会けんぽ生活習慣病予防健診を利用。胃部検査実施人数50名を目標。また女性職員に対し、検診車による婦人科検診を案内・計画・実施。
- B-2. 収益増
達成目標：収益を2022年度より5%アップする。
- C-1. 航空身体検査の拡大
達成目標：件数を2022年度より5%アップする。
- D-1. 知識の向上
達成目標：院内・院外研修会への積極的な参加と報告書の作成。

【今年度を振り返って】

今年度の目標は概ね達成することができた。特定保健指導については、栄養室・外来と連携し、職員と一般合わせて新規介入49名と大幅増、また始良市の委託契約を受け、動機づけ支援対象者への介入も開始した。職員の健康診断では、検査施行医師の増員により、胃内視鏡検査を62名に実施することができた。以上の結果、収益が前年度比7.5%アップとなり、病院に貢献することができた。また9月より業務開始時間を30分早め、健診者来院前にメールの確認やミーティング・申し送りをを行い、スタッフ間で情報共有し、トラブル・リスク回避に努めた。2024年度も健診事業や健康増進事業に取り組み、職員や地域住民の健康管理や病気および介護予防、また5疾病の未病・予防に取り組んでいきたい。

歯科

【今年度の取り組み】

- A-1. 入院から在宅までの歯科医療サービスを提供する。
達成目標：入院中に口腔内の改善に努め、歯科医療を提供する。退院後も口腔衛生、義歯管理が必要な患者様に対し、ご家族に説明をし、切れ目のない歯科診療をしていく。訪問歯科診療の件数30件

の維持、増加を目指す。

B-1. 患者様の増加

達成目標：入院時チェックの徹底、また現在入院中の患者様の口腔内の再評価を徹底し、患者様の初診件数、月 50 件以上を継続し、初診件数の増加を目標とする。

C-1. 専門領域の知識習得

達成目標：インシデント・アクシデントの報告を月 1 件以上提出する。起こった事を部署内で検討し、未然、再発防止に努める。

D-1. 院内勉強会への参加率向上

達成目標：院内勉強会は 6 回以上、院外勉強会は 3 回以上出席する。

【今年度を振り返って】

切れ目のない歯科診療を目指し、退院後の歯科介入に努めたが、目標達成できず。また、初診件数の維持・増加を目指したが人員不足により目標達成できなかった。インシデント・アクシデント報告の徹底に努めたが、中途入職者への指導不足により目標達成できなかった。今後もスタッフ同士で情報共有を行い、再発防止に努めるようにしていきたい。また、入院から在宅に移っても、切れ目のない口腔管理を継続し、口腔機能の改善に努めていきたい。

地域医療連携センター

【今年度の取り組み】

A-1. スタッフのリスク意識向上にむけた取り組みの実践。

達成目標：インシデント・アクシデント報告を年間 18 件以上。全スタッフが 1 件以上、ヒヤリ体験を報告できる

B-1. 将来の病院機能を見据えた病床機能再編への取り組みの実践。安定した経営への取り組みの実践。

達成目標：地域包括ケア病棟について

- ① 自院一般病棟からの転棟した患者の割合 60%未満
- ② 在宅復帰率 72.5%

平均稼働 96.0%、278 床以上を達成する

C-1. 地域共生社会における機能分化、地域連携促進の体制づくりに努める

達成目標：当院の診療機能では対応できない患者を除き、無床クリニックからの入院希望紹介患者のお断りをゼロとする

外来から 3 か月に 9 件以上の入院を受け入れる

C-2. 在宅サービス事業部との連携強化

達成目標：退院カンファ実施率前年比 15%増。

介護保険対象者の法人内サービスへの紹介 37%を目指す

D-1. スタッフの経営に対する意識向上

達成目標：介護連携指導料の算定を年間 20 件以上

【今年度を振り返って】

新型コロナウイルス感染拡大に伴い入院患者さまとの面会について制限を行っていたが、8 月 28 日より対面による面会が再開となった。直接面会が可能となったことで、直接ご家族と話をする機会も増え、入退院支援もいくらかスムーズに行えるようになった。しかし、クラスター発生時は入退院調整等も苦勞することもあった。スタッフの意識向上への取り組みとして、些細なことでも、インシデント報告を行うこととした。報告を行い、それをもとに業務改善や再発予防が行えた。しかし年間目標のインシデント報告は 25 件と目標を達成することはできなかったが、報告の提出のない職員もおり課題が残った。入院について、クラスターが発生したこともあったが、年間を通しての目標稼働率は 97.6%と目標を達成できた。後方支援連携先からの入院受入れを適宜行い、良好な連携を継続することができた。

地域医療連携センターは、今後も柔軟な対応が求められる。今後も地域連携の窓口として、当院が地域における機能を発揮し貢献していけるよう、地域と当院をつなぐための活動を取り組んでいきたい。

加治木温泉病院 部門別活動報告

事務部門 医事係

【今年度の取組】2023 年度

A-1. 接遇の向上、改善

達成目標：満足度調査 90%以上

B-1. 診療報酬の内容を把握し新規届出、減点の縮小

目標達成：新規届出 1 件、レセプト減点率 0.02%

C-1. インシデント・アクシデントレポートの提出の増加

目標達成：1 人 4 枚以上提出

D-1. 教育体制の向上

目標達成：事務部会にて勉強会の開催・学会発表 1 例、論文掲載

【今年度を振り返って】

医事内での減点への対策を行い減点の縮小、インシデント・アクシデントの提出の徹底により、概ね達成できた。

事務部門 クラーク係

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上、改善

達成目標：患者様に寄り添った接遇に努め、向上及び改善に取り組みます。

B-1. インシデント・アクシデント

達成目標：インシデント・アクシデントに対する意識の向上、改善に取り組みます。

C-1. 教育体制の向上

達成目標：人材の確保及び育成に努めます。

C-2. 外来補助業務の推進

達成目標：医師の負担軽減に取り組みます。

【今年度を振り返って】

医師事務作業補助者協会主催の全国学術集会に 2 演題発表した。

新人教育年間スケジュール表や業務チェック表を活用し、人材育成に努めた。

新たに小児リハ科外来診察補助業務を開始した。今後も医師の業務をタスクシフトできるように、個々のスキルアップや全体の質の向上に努めていきたい。

事務部門 総務係

【今年度の取り組み】

A-1. インシデント・アクシデント報告の徹底

達成目標：インシデント・アクシデントレポート提出昨年比+2.2%

B-1. 働き方改革

達成目標：残業時間の削減 上期平均 3.2H・下期平均 9.3H

C-1. 業務改善の見直し

達成目標：免許証・資格証・修了証等の整備

D-1. 教育体制の向上

達成目標：部署内勉強会 上期 2 回・年度末 4 回

【今年度を振り返って】

インシデント・アクシデントレポートの事案があった際、部署内で検討し作成を行った。今年度は退職者が続き苦悩したが、毎月面談を行い情報共有しコミュニケーションを図った。部署内の勉強会で情報共有・自己啓発に努めた。次年度は日本医療機能評価機構の『高度・専門機能(リハビリテーション 回復期)』の訪問審査を予定しており、無事更新出来るよう努めたい。

事務部門 院内保育・学童係

【今年度の取り組み】

A - 1. 保護者の満足度向上

達成目標：保育ICTサービスの活用

A - 2. 保育内容の充実

達成目標：グループホーム「花いちもんめ」との交流行事の計画・実施

B - 1. 経営状況の把握

達成目標：保育を取り巻く現状や最新の動向の把握・分析

C - 1. 保育の質の向上

達成目標：人権擁護の改善に向けたチェックリスト・ミーティングの実施

C - 2. 業務改善

達成目標：労働環境の改善に向けた取り組みの実施

D - 1. 自主研修会の実施

達成目標：自主研修会の開催、年間6回以上

D - 2. 院外研修会への参加と報告会の実施

達成目標：院外研修会にひとり年間5回以上参加・報告会の実施

【今年度を振り返って】

今年度は保育施設における重大事故や不適切保育が各地で相次ぎ発覚したことを受けて、保育の質の向上に向けた取り組みを強化しました。

保育の質を高める為に、職員間で話し合いを行う場を増やして情報共有を密に行いました。

また、職員が保育に関する研修を受講する機会を積極的に作り、職員一人ひとりが子どもの人権・人格を尊重する意識の共有化を図りました。

今年度は近隣の保育施設で重大事故が発生し、大変心を痛めました。

子どもの安全を最優先に、今後も質の高い保育が提供できるような環境作りに努めます。

加治木温泉病院 各種委員会

2023 年度 委員会・会議 一覧

	委員会名	開催日	目的
診療関係	診療情報管理委員会	第4火曜	診療録管理室の運営管理、診療録及び諸様式伝票類の検討等を行い、診療上の有効的効率的運営を図る
	診療情報提供委員会	カルテ開示要求時	診療情報の提供を適切に行うことを目的とする
	薬事委員会	2ヶ月に1回	薬物療法の合理的発展を図る
	栄養管理委員会	第3木曜	栄養管理・給食管理上の現状、その問題点・課題を把握し、改善策を検討・実施することにより円滑で適性な運営を図る
	NST委員会	第2火曜	症例個々に適切な栄養サポートを検討・実施していくことを目的とする
	輸血療法委員会	2ヶ月に1回	院内における輸血を安全かつ適正な輸血療法を推進し、輸血療法に関する事項について審議する
	臨床検査適正化委員会	2ヶ月に1回	臨床検査の精度管理・運営の適正化に関して必要な事項を協議する
	コーディング委員会	年2回	標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする
	口腔機能向上委員会	第3水曜	口腔に関する現状を討議し、健全に維持するために職員の知識・技術向上を図ることを目的とする
	回復期病棟運営会議	第1火曜	回復期リハ病棟業務の円滑な運営を図る
	FIM会議	第1・3木曜	回復期リハ病棟入院患者のアウトカム評価対象者の選定、ADL（FIM得点）の改善に基づいて予後を予測し、適正な在院日数を検討することを目的とする
	地域包括ケア病棟運営会議	第2月曜	地域包括ケア病棟業務に円滑な運営を図る
	リハビリミーティング	第1火曜	リハビリテーション業務の円滑な運営を図る
	ベッドコントロール会議	毎週火・金	紹介入院に関わる内容を多職種で情報共有し、スムーズな支援・調整を図る
	透析運営会議	第3月曜	透析の円滑な運営および業務の適切な管理を図る
	手術室運営委員会	第3月曜	手術室の安全管理、感染防止、機械・備品の整備等について協議し、効率的な運営を図る
介護医療院運営会議	第3木曜	介護医療院の円滑な運営および業務の適切な管理を図る	
教育関係	倫理委員会	年2回	倫理上問題のある症例への対応および倫理に関する教育・研修などにより、患者様中心の医療を推進するために必要な事項を定める
	倫理検討会	第4月曜	院内における倫理的な事例等について、多職種で協議・検討し医療の質を改善することを目的とする
	サービス向上委員会	第4月曜	患者・ご家族より寄せられた意見・苦情・提案等に関して病院として真摯に取り組み、サービスの向上を目的とする
	個人情報管理委員会	3ヶ月に1回	患者や職員等に関する個人情報を適切に取り扱い、患者から信頼されることを目的とする
	教育委員会	第2月曜	職員の知識、技術の向上を目的とする
	看護部教育委員会(合同)	3ヶ月に1回	看護職、介護職の知識・技術の向上と協同を目的とする
	看護部教育委員会(Ns)	第3木曜	知識・技術の向上、主体性と自主性のある看護職の育成
	看護部教育委員会(CW)	第1木曜	介護職の知識・技術の向上を目的とする
	情報管理委員会	第3木曜	院内における情報管理業務の円滑な運営を目的とする
	機能評価委員会	第1・3水曜	安全で安心な医療が提供できるよう、日本医療機能評価機構の評価項目を用いながら、医療の質の維持や向上に向けた取り組みを行うことを目的とする

医療安全対策関係	医療安全管理委員会	第2金曜	医療安全管理対策を総合的に企画、実施することを目的とする
	リスクマネジメント部会	第1月曜	医療安全管理対策を実行あるものとするを目的とする
	褥瘡対策委員会	第3・4火曜	褥瘡を予防することを目的とする
	身体抑制廃止委員会	第4木曜	身体抑制廃止へ向けて職員の意識向上を図る
	医療ガス安全管理委員会	年1回	医療ガスの使用上の安全確保を目的とする
	透析機器安全管理委員会	年1回	人工腎臓が安全円滑に行え、安心した透析を提供することを目的とする
	労働安全衛生委員会	第4木曜	職員の安全と健康を確保することによって病院業務の円滑な運営を図る
	防災・防火管理委員会	年1回以上	病院および職員寮における患者・職員等の生命・財産の安全確保を目的とする
	院内感染対策委員会	第3月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	ICT(感染対策小)委員会	第1月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	看護部リスクマネジメント委員会	第3水曜	看護部のリスクマネージャーによる院内ラウンドやグループワークを通して安全活動を推進する
	看護部記録委員会	第4木曜	看護記録について勉強会や監査を行い記録の充実を図る
	マニュアル委員会	第4金曜	看護介護に関するマニュアルの見直し
その他	未収金会議	第4火曜	病院の未収金発生を抑制するための院内の諸手続きを定め、個人未収金の減少を目的とした未収金管理の確立及び維持のために必要な事項を定める
	親和会	年4回程度	会員相互の親睦を図る
	エコアクション委員会	2ヶ月に1回	持続可能な社会を構築するために、院内外のエコ活動に取り組み、エコアクション21認定及びその更新を目的とする
	材料部準備委員会	第1月曜	加治木温泉病院で使用するすべての物品を整備し支出を減らすために、各部署の意見を聞きながら物品の変更、削減を行い、安全に治療・ケアが提供出来ることを目的とする
	新規医療機器及び技術評価委員会	第1月曜	加治木温泉病院にて実施したことのない治療を行うための医療機器導入や、技術に関する安全性、倫理的側面を評価することを目的とする

地域リハビリテーション広域支援センター事業

2023年度 始良・伊佐高齢者保健福祉圏域 地域リハビリテーション広域支援センター活動

加治木温泉病院は 2002 年に鹿児島県より始良高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センターとして指定されております。始良市・伊佐地域でのリハビリテーション技術支援、研修会の開催、地域住民の方の相談対応、地域包括ケアシステム構築のための協力活動を行っております。2023 年度も、2022 年度の地域へのリハ専門職の派遣は各機関のご協力の下、延べ 165 名を派遣することができました。各関係機関の皆さまのご理解とご協力に感謝申し上げます。2023 年度の活動内容は表の通りです。

表. 2023 年度 始良・伊佐圏域地域リハビリテーション広域支援センター活動

地域住民およびリハビリテーション従事者を対象とした研修会等			
年月日	対象（人数）	テーマ	講師
R5. ～R6. 3 (計 5 回)	萩原地区住民通いの 場ひまわりハウス	講話（難聴、危険予防、フレイル、嚥下、等） 体操（転倒予防、脳トレ）	PT6 名 OT4 名 ST2 名
R5. 6. 26 R6. 3. 18	始良市出前講座 (鍋倉地区)	フレイル体操	PT3 名 OT2 名
R5. 7. 31	特別養護老人ホーム 加治木望岳園	摂食嚥下障害の基礎と対応	ST1 名
R5. 11. 2	カトリック国分幼稚園	人工内耳術後の難聴児に対する幼稚園生活への 訪問支援指導	ST1 名
R5. 11. 14	鹿児島県精神保健福 祉センター	高次脳機能障害者支援のための専門職研修会	ST1 名
R5. 12. 7	住民通いの場 (小山田の里)	体力測定	PT1 名 OT1 名 ST1 名
R6. 1, 2, 3	始良市出前講座 (蒲生地区)	体力測定と体操指導	PT6 名 OT4 名
市町等・リハ関連施設への技術支援			
支援先	内容		職種
霧島市	霧島市児童発達支援事業所（全 24 回）		ST 24 名
霧島市	霧島市子ども発達相談事業（全 3 回）		CP3 名
始良市	始良市母子健康相談（全 12 回）		PT 12 名
始良市	始良市発達支援教室（全 20 回）		OT 20 名
始良市	始良市教育支援委員会（全 4 回）		OT 4 名
始良市	始良市地域自立支援協議会子ども部会		ST 6 名
始良市	始良市特別支援連携協議会（全 2 回）		ST 2 名
始良市	始良市 75 歳お誕生日おめでとう教室（全 12 回）		PT・OT24 名
始良市	通いの場（サロン等）健康教室（全 10 回）		PT・OT20 名
始良市	始良市地域ケア個別会議（全 8 回）		PT 2 名・OT 6 名・ST 8 名
始良市	始良市通いの場検討作業部会		ST1 名

加治木温泉病院 学術活動 院内研修

■全職員向け

2023 年度

開催 月日	研修内容	講師	研修分類
4 月	SDG s	配信動画	エコアクション
4 月	倫理の基本 ～医療機関において求められる倫理的な行動～	学研ナーシング	倫理
5 月	接遇・マナーの基本 ～患者・家族への関わり方～	学研ナーシング	接遇
5 月	基礎から学ぶ！医療安全	学研ナーシング	医療安全
6 月	労働安全衛生の基本的知識	学研ナーシング	労働安全
6 月	感染予防 ～手指衛生、標準予防策など～	学研ナーシング	感染対策
7 月	医療従事者が知っておくべき個人情報の適切な取り扱い方	学研ナーシング	個人情報
7 月	医療ガスの安全管理と事故防止作	学研ナーシング	医療ガス
8 月	災害医療対策における平時の備え	学研ナーシング	災害対策
8 月	認知症患者の対応	学研ナーシング	認知症
9 月	高齢者虐待における病院の役割	学研ナーシング	高齢者虐待
9 月	困ったときにも役立つアサーションの実際	学研ナーシング	看護共有コース
10 月	医療職のためのメンタルヘルス対策	学研ナーシング	社会人基礎力
10 月	感染経路別予防策をおさらい！ ～「もしも」に備えるアウトブレイク対策	学研ナーシング	感染対策
11 月	生活道路での交通事故を防ぐ」ために	配信動画	交通安全
11 月	チーム力を引き上げる！他職種で取り組む医療安全	学研ナーシング	医療安全
12 月	排尿自立指導料について	PowerPoint	排尿自立
12 月	身体拘束について	配信動画	身体拘束
1 月	診療用放射線の安全利用の研修	Y 配信動画	放射線科より
1 月	知っておきたい与薬の基本 ～安全で効果的な薬物療法のために～	学研ナーシング	薬局より
2 月	医療従事者・初学者向けサイバーセキュリティ研修	PowerPoint	遠隔医療推進室
3 月	患者の権利	PowerPoint 配信動画	患者の権利
3 月	「SDG s」	配信動画	エコアクション

■症例報告・最新情報カンファレンス

加治木温泉病院の症例カンファレンスは、治す医療から治し支える医療への医療の概念の変化に伴い、激変する医療・介護・福祉情勢を考慮し、会に参加する医療従事者並びに事務系の職員、多くのステークホルダーの方々が医療・介護・福祉・社会制度・社会的知識等の理解と見識を相互に深めることを目的とし、発表者が経験した症例や考察、専門知識等の発表並びに発表者が興味を持つ医療・介護以外の領域の発表も行っております。

開催月日	研修内容	講師
5月	レオカーナについて	中西先生
6月	体液組成と、末梢輸液	坂元先生
7月	葛根湯の小難しい話	宗岡先生
8月	働き方改革	夏越先生
9月	認知症～最近の治験も含めて～	折田先生
10月	ACP (advance care planning)	穂満先生
12月	上部消化管内視鏡検査（早期癌と内視鏡資料）	松田先生

■第22回 看護研究発表会

日時:2023年12月7日(木)

第一部 座長:大牟禮 和子(2階西病棟副主任)

演題1 介護医療院 拘縮手に対する汚染防止及び異臭改善の取り組み

発表者:東久保 友梨

演題2 人工腎臓センター 腎臓リハビリテーションが与える血圧への影響を考慮した支援

発表者:満山 まどか

演題3 2階東病棟 効果的なポジショニングによる褥瘡発生予防

発表者:池田 美鈴

演題4 2階南病棟 膀胱留置カテーテル閉塞予防に対する取り組み～衛生面、栄養面からのアプローチ～

発表者:白澤 一誠

演題5 3階西 病棟環境による高齢患者のせん妄発症と環境因子について

発表者:上猶 千尋

第二部 座長:中村 薫(2階南副主任)

演題6 外来 外来患者の待ち時間に対する実態調査～待ち時間のストレス軽減に向けた取り組み～

発表者:村田 渚

演題7 介護医療院おはな 介護医療院における職員の看取りに関する意識調査

発表者:堀内 麻紀

演題8 3階南病棟 ステップアップするための短期目標を取り入れることで得られる効果

発表者:東條 洋仁

演題9 2階西病棟 アドバンスケアプランニングシートを活用した退院支援への取り組み

発表者:岡元 忍

■第22回 介護研究発表会

日時:2024年1月31日(水)

司会進行:林 隆一郎(介護医療院おはな)

- 演題1 2階西病棟 陰部清拭用ワイプシートの視点から陰部洗浄を考える
発表者:中村 美智子
- 演題2 介護医療院 記憶力低下の改善を目的とした取り組み
発表者:木原 光輝
- 演題3 3階南病棟 更衣の自立に向けた取り組みについて
発表者:横山 優大
- 演題4 3階西病棟 ピクトグラムを用いた介護、看護、リハビリの連携
発表者:小路口 美登
- 演題5 介護医療院おはな 介護医療院におけるレクリエーションの取り組み
発表者:山田 かおり
- 演題6 2階南病棟 転倒・転落の予防~KYTへの取り組み~
発表者:濱島 由佳里
- 演題7 通所リハビリテーション 利用者の状態に応じた福祉機器の導入
発表者:宮本 翔平

■第11回 コメディカル研究発表会

2024年1月26日(金)

一、開会の言葉

一、一般演題発表

座長 鮫島 亮子 主任

演題1 新型コロナによる感染対策物品の消費量とコロナ禍による物品不足に対する対応

材料部準備室:川原 さつき

演題2 通所リハビリテーションにおける自主練習と身体能力の経時的変化

総合リハビリテーションセンター:田實 佑也

演題3 心音心電計を用いた心音と血圧変動の比較

臨床工学室:今泉 航洋

座長 柏木 友絵 副主任

演題4 退院支援強化に向けた後方連携促進の試み

地域医療連携センター:南 加奈

演題5 心音図検査の有用性の検証

遠隔医療推進室(法人事務局):川原 翔太

一、総評 小湊 裕一課長

一、閉会の言葉

■第 25 回 始良地区研究発表会

2024 年 4 月 8 日 月曜日（2024 年 3 月 21 日予定を新型コロナウイルス感染症拡大の為延期）

一、開会の言葉

一、挨拶 夏越 祥次院長

一、演題発表

座長 梅橋 直史

演題1 通所リハビリテーションにおける自主練習と身体能力の経時的変化

加治木温泉病院 総合リハビリテーション:田實 佑也

演題2 心音図検査の有用性の検証

法人事務局 遠隔医療推進室:川原 翔太

演題3 膀胱留置カテーテル閉塞予防に対する取り組み ～衛生面、栄養面からのアプローチ～

加治木温泉病院 2階南病棟:白澤 一誠

座長 原口 拓人

演題4 療育ケア児と家族を支える訪問看護導入の取り組み紹介

～療育ケアが必要な子どもと家族に、訪問看護スタッフができること～

訪問看護ステーションまむ:柳田 和江

演題5 介護医療院における職員の看取りに関する意識調査

介護医療院おはな:堀内 麻紀

演題6 ピクトグラムを用いた介護、看護、リハビリの連携

加治木温泉病院 3階西病棟:小路口 美都

一、総評 穂満 博文副院長

一、閉会の言葉

看護部

月 日	学校名	参加人員
5月9日～5月25日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	8名
5月29日～6月15日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	9名
7月3日～7月21日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	9名
8月28日～9月14日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	9名
9月19日～10月5日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	8名
10月10日～10月26日	龍桜高等学校 専門課程2年生 (在宅看護論実習)	8名
10月30日～11月17日	龍桜高等学校 基礎課程3年生 (成人実習)	25名
11月27日～12月8日	龍桜高等学校 基礎課程2年生 (基礎実習)	27名
R6.1月23日～2月6日	龍桜高等学校 基礎課程2・3年生 (施設実習)	14名
	計	117名

総合リハビリテーションセンター

月 日	学校名	参加人員
5月15日～7月7日	鹿児島大学 PT	1名
5月15日～7月7日	鹿児島医療福祉専門学校 PT	1名
11月13日～12月8日	鹿児島医療福祉専門学校 PT	1名
7月24日～9月15日	鹿児島医療技術専門学校 PT	1名
9月25日～9月29日	鹿児島医療技術専門学校 PT	1名
1月15日～1月26日	鹿児島医療技術専門学校 PT	1名
4月17日～6月10日	第一医療リハビリ専門学校 PT	1名
7月17日～9月9日	第一医療リハビリ専門学校 PT	1名
10月23日～11月24日	九州栄養福祉大学 PT	1名
4月17日～6月10日	神村学園専修学校 PT	1名
7月10日～7月22日	神村学園専修学校 PT	1名
11月20日～12月16日	神村学園専修学校 PT	1名
3月6日～3月11日	神村学園専修学校 PT	1名
4月17日～6月10日	神村学園専修学校 OT	1名
6月26日～8月19日	第一医療リハビリ専門学校 OT	1名
7月17日～9月9日	鹿児島大学 OT	1名
10月2日～10月6日	鹿児島医療技術専門学校 OT	1名
11月13日～12月9日	第一医療リハビリ専門学校 OT	1名
2月12日～3月2日	第一医療リハビリ専門学校 OT	1名
3月4日～3月9日	第一医療リハビリ専門学校 OT	1名
5月15日～7月8日	鹿児島医療技術専門学校 ST	1名
6月5日～7月31日	九州保健福祉大学 ST	1名
7月3日～8月11日	国際医療福祉大学 ST	1名
9月4日～10月27日	県立広島大学 ST	1名
10月2日～10月28日	鹿児島医療技術専門学校 ST	1名
	計	25名

加治木温泉病院 実習受入れ

放射線室

月 日	学校名	参加人員
10月2日～10月27日	鹿児島医療技術専門学校 診療放射線技術学科3年	1名

栄養室

月 日	学校名	参加人員
9月4日～9月15日	鹿児島純心大学 看護栄養学部 健康栄養学科	1名

地域医療連携センター

月 日	学校名	参加人員
8月1日～9月1日	宮崎福祉医療カレッジ 社会福祉士学科	1名
R6.2月5日～2月9日	鹿児島国際大学 福祉社会学部社会福祉学科	1名
R6.3月5日～3月9日	鹿児島国際大学 福祉社会学部社会福祉学科	1名
	計	3名

キラメキテラス ヘルスケアホスピタル

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 運営方針

2023 年度 医療法人玉昌会 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

《理 念》

患者さまの意思と権利を尊重し、「医療人としての感性（低賞感微）」に満ちた医療・福祉活動を提供します

《基本方針》

1. 慢性期病院としての豊かな「感性・知識」に基づいたヒューマン・サービスの提供を全職員で目指します。
2. 地域との連携及び病診連携を図り、在宅復帰に向けたシームレスでしかも一貫した高齢者医療や福祉を目指し、地域社会の幸福に貢献します。
3. 予防医学（健康診断・人間ドック）の充実を図り、生活習慣病の予防・早期発見を目指し、地域社会の発展に貢献します。
4. 職員の生活向上と幸福に寄与します。

《運営方針》

1. 「医療人としての感性」を磨く。
「目配り・気配りの心、気付きの心」の自己獲得に努める。
2. 昨年と同様にベッド稼働率の目標である年間稼働率 97%を達成するために各部署が緊密に連携してより一層円滑な入退院を進める。
3. 2023 年 10 月より 4 階回復期病棟を 48 床から 55 床に増床予定である。増床に向けた準備をしっかりと行い、増床後の安定した稼働を達成する。
4. 今後のキラメキテラスヘルスケアホスピタルの安定した運営に必要な不可欠である外来患者数の増加のために引き続き各員が目的意識をもって全員参加で取り組み、今年度は外来報酬の 10%増収を目指す。
5. 職員ひとりひとりが自らのスキルを高めると共に各部署・職種間で情報共有と連携を密にすることでチーム医療を推進し、外来・入院・健診において、より安全・安心な医療・サービスを提供する。
6. 病院機能の客観的評価基準として広く用いられ、当院も取得している病院機能評価認定を積極的に活用して高い病院機能を維持すると共に来年 2 月となった認定更新の準備を進める。
7. 新電子カルテを中心としたデジタルトランスフォーメーションを進めて業務の効率を図り、ゆとりのある働きやすい職場を整備する。学習環境の整備により職員の意欲を高め更なる成長を促す。

キラメキテラスヘルスケアホスピタルの沿革

- 1957年 1月 高田医院開設 病床数 19 床
- 1962年 8月 医療法人 玉昌会 設立認可
- 1976年 7月 人工透析治療開始
- 1985年 10月 高田内科病院を高田病院に名称変更
増改築により 167 床
- 1986年 4月 人間ドック開始
- 1986年 11月 12 床増床し、許可病床 179 床
- 1994年 8月 老人デイケア（Ⅱ）開始
- 1998年 12月 療養二群入院医療管理（Ⅰ）
- 2000年 4月 療養病棟入院基本料 1
介護療養型医療施設（106 床）
通所リハビリテーション開始
- 2000年 12月 介護療養型医療施設（105 床）
- 2003年 8月 （財）日本医療機能評価機構「認定証」取得
- 2005年 9月 介護療養型医療施設（60 床）
療養病棟入院基本料 1（119 床）
- 2006年 4月 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 2006年 8月 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 2007年 8月 訪問リハビリテーション開始
- 2008年 8月 日本医療機能評価機構「Ver. 5 認定証」取得
- 2009年 6月 療養病棟入院基本料（179 床）
- 2009年 9月 回復期リハビリテーション病棟基準承認（30 床）
療養病棟入院基本料（149 床）
- 2010年 4月 療養病棟入院基本料 1（45 床）
療養病棟入院基本料 2（104 床）
- 2010年 11月 療養病棟入院基本料 1（89 床）
療養病棟入院基本料 2（60 床）
- 2011年 4月 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定医療機関取得
- 2011年 6月 在宅療養支援病院
- 2012年 6月 日本慢性期医療協会「慢性期医療認定病院」認定
- 2013年 8月 日本医療機能評価機構「3rd G: Ver. 1. 0 認定証」取得
- 2013年 8月 持続性推進機構「エコアクション 21」認定
- 2014年 4月 在宅復帰機能強化加算（89 床）
呼吸器リハビリテーション（Ⅱ）

キラメキテラスヘルスケアホスピタルの沿革

- 2014年 10月 電子カルテ導入
- 2015年 4月 船員手帳の健康診断 開始
- 2015年 4月 呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）
- 2015年 6月 がん患者リハビリテーション料
- 2016年 3月 療養病棟療養環境改善加算 1
- 2016年 4月 下肢末梢動脈疾患指導管理加算
- 2016年 6月 回復期リハビリテーション病棟入院料 1
排尿自立指導料
- 2016年 9月 退院支援加算 1
認知症ケア加算 算定開始
- 2017年 4月 地域包括ケア入院医療管理料 2（14床）
- 2017年 7月 療養病棟入院基本料 1（135床）
地域包括ケア入院医療管理料 1（14床）
- 2017年 12月 療養病棟入院基本料 1（129床）
地域包括ケア入院医療管理料 1（20床）
- 2018年 8月 日本医療機能評価機構「3rd G: Ver. 2.0 認定証」取得
- 2019年 2月 新病院建設工事起工式
- 2019年 6月 地域包括ケア入院医療管理料 1（30床）
- 2021年 2月 高田病院をキラメキテラスヘルスケアホスピタルに名称変更
堀江町から高麗町に移転開院
- 2021年 6月 鯉坂クリニックを統合し、トータルウェルネスセンターを新設
- 2021年 9月 病床種別変更（療養 96床・一般 83床）
地域一般病棟入院料 1（13床）取得
- 2021年 10月 病床を 19床増床し、198床
- 2021年 12月 新電子カルテ導入
- 2022年 6月 回復期リハビリテーション病棟入院料 1（41床）
療養病棟入院基本料 1（103床）
- 2022年 12月 回復期リハビリテーション病棟入院料 1（48床）
療養病棟入院基本料 1（96床）
- 2022年 12月 救急告示病院指定
- 2023年 3月 国土交通省 短期入院協力病院 認定
- 2023年 6月 地域包括ケア病棟入院医療管理料 1（45床）
地域一般入院料 1（9床）
- 2023年 10月 回復期リハビリテーション病棟入院料 1（55床）
療養病棟入院基本料 1（89床）
- 2023年 2月 日本医療機能評価機構「3rd G: Ver. 3.0 認定」受審

キラメキテラスヘルスケアホスピタルの概要

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 2023 年度概要

名 称 キラメキテラスヘルスケアホスピタル

所 在 地 〒890-0051

鹿児島県鹿児島市高麗町 43 番 30 号

TEL (099) 250-5600 FAX (099) 250-5151

開 設 者 理事長 高田 昌実

管 理 者 病院長 上村 章

診 療 科 目 内科 腎臓内科(人工透析) 肝臓内科 消化器内科 循環器内科
呼吸器内科 糖尿病内科 脳神経内科 心療内科 泌尿器科 皮膚科
リハビリテーション科 整形外科

病 床 数 198 床

地域一般病棟入院料 1 9 床

地域包括ケア入院医療管理料 1 45 床

回復期リハビリテーション病棟入院料 1 55 床

療養病棟入院基本料 1 89 床

社会保険等指定

健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護、
身体障害者福祉法指定医、原子爆弾被爆者一般疾病医療、
自立支援医療(更正医療)、

施 設 基 準 療養病棟入院基本料 1 (89 床)

地域包括ケア入院医療管理料 1 (45 床)

地域一般病棟入院基本料 1 (9 床)

回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (55 床)

機能強化加算、看護補助加算 2

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)

運動器リハビリテーション料 (I)

呼吸器リハビリテーション料 (I)

がん患者リハビリテーション料

療養病棟療養環境加算 1、療養環境加算、医療機器安全管理料 1

感染防止対策加算 3、診療録管理体制加算 2、医療安全対策加算 2

キラメキテラスヘルスケアホスピタルの概要

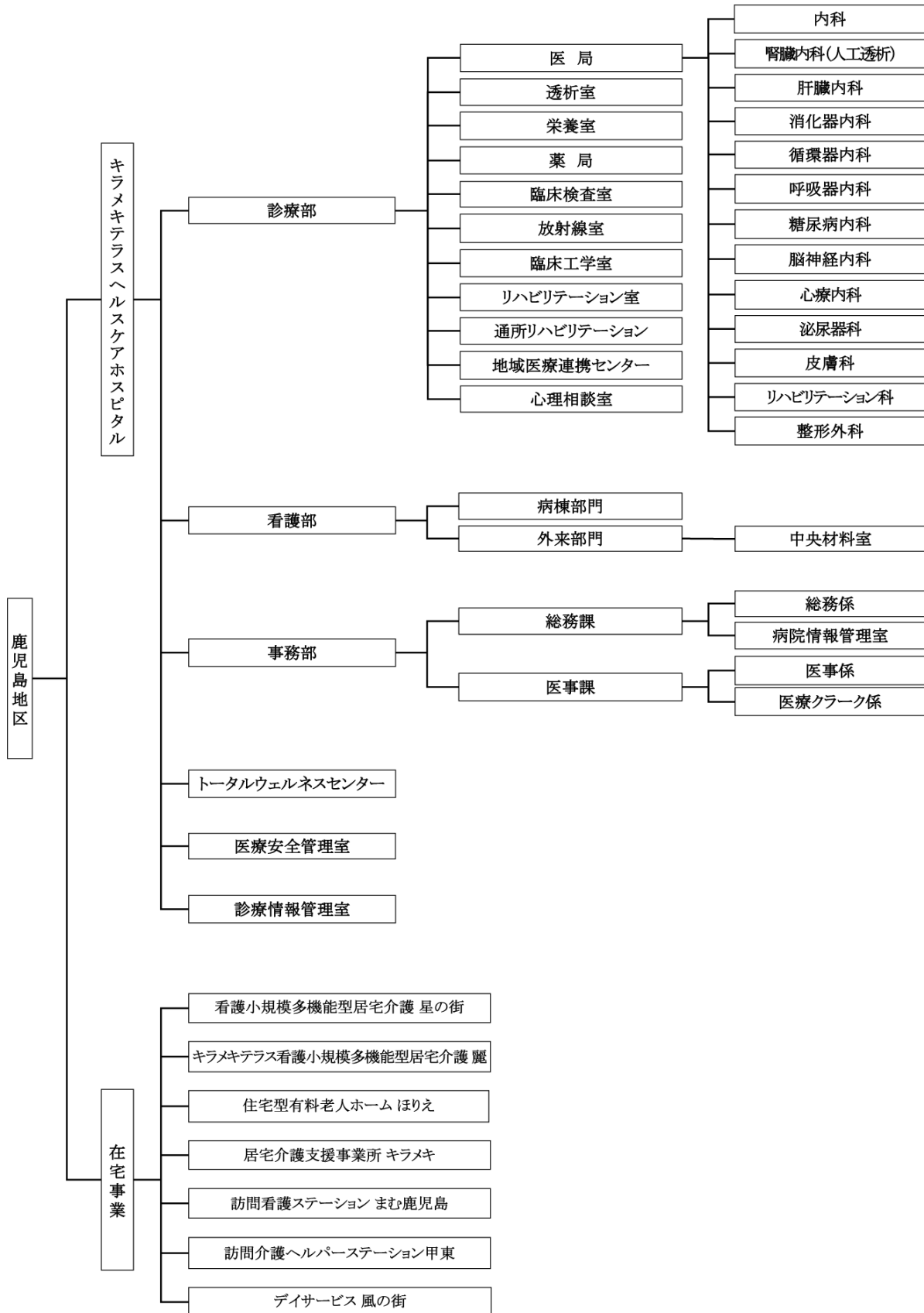
入退院支援加算 1、認知症ケア加算 3、外来排尿自立指導料
排尿自立支援加算、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
人工腎臓、導入期加算 1、下肢末梢動脈疾患指導管理加算
データ提出加算 2・4、薬剤管理指導料、
後発医薬品使用提供加算 1、地域連携診療計画退院時指導料 (I)
情報通信機器を用いた診療に係る基準
二次性骨折予防継続管理料 2・3
入院時食事療養 (I)・入院時生活療養 (I)、
在宅療養支援病院 3、在宅がん医療総合診療料
在宅時医学総合管理料及び施設入居時等医学総合管理料

広 報 誌 すこやかキラメキ (年 4 回発行)

そ の 他 ・ 日本医療機能評価機構 認定 (3rd G : Ver 3. 0)

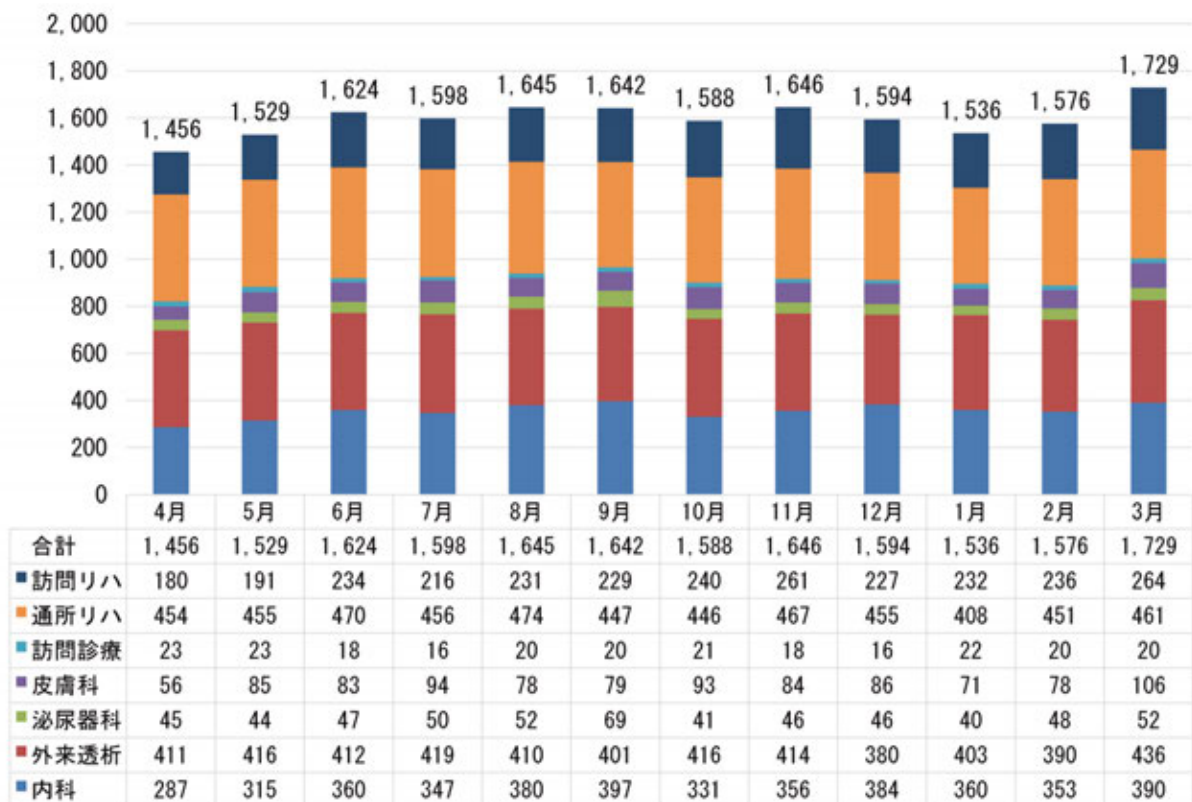
- ・ 慢性期医療認定病院
- ・ 日本リハビリテーション医学会研修施設
- ・ 在宅療養支援病院
- ・ 通所リハビリテーション
- ・ 訪問リハビリテーション
- ・ 人間ドック (1 日コース・2 日コース)
- ・ 健康診断 (特定健診・特定保健指導)
- ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診
- ・ 看護学校実習病院
- ・ 医療福祉実習病院 (リハビリ・社会福祉・栄養関係)
- ・ 医学生実習病院
- ・ 薬学生 長期実務実習受入施設
- ・ かごしま子育て応援企業登録
- ・ 持続性推進機構 エコアクション 21 (環境省推奨) 認定
- ・ 診療・検査医療機関 指定
- ・ 肝疾患治療かかりつけ医療機関
- ・ 救急告示病院
- ・ 国土交通省 短期入院協力病院

医療法人 玉昌会 鹿児島地区 組織図 2024年4月現在

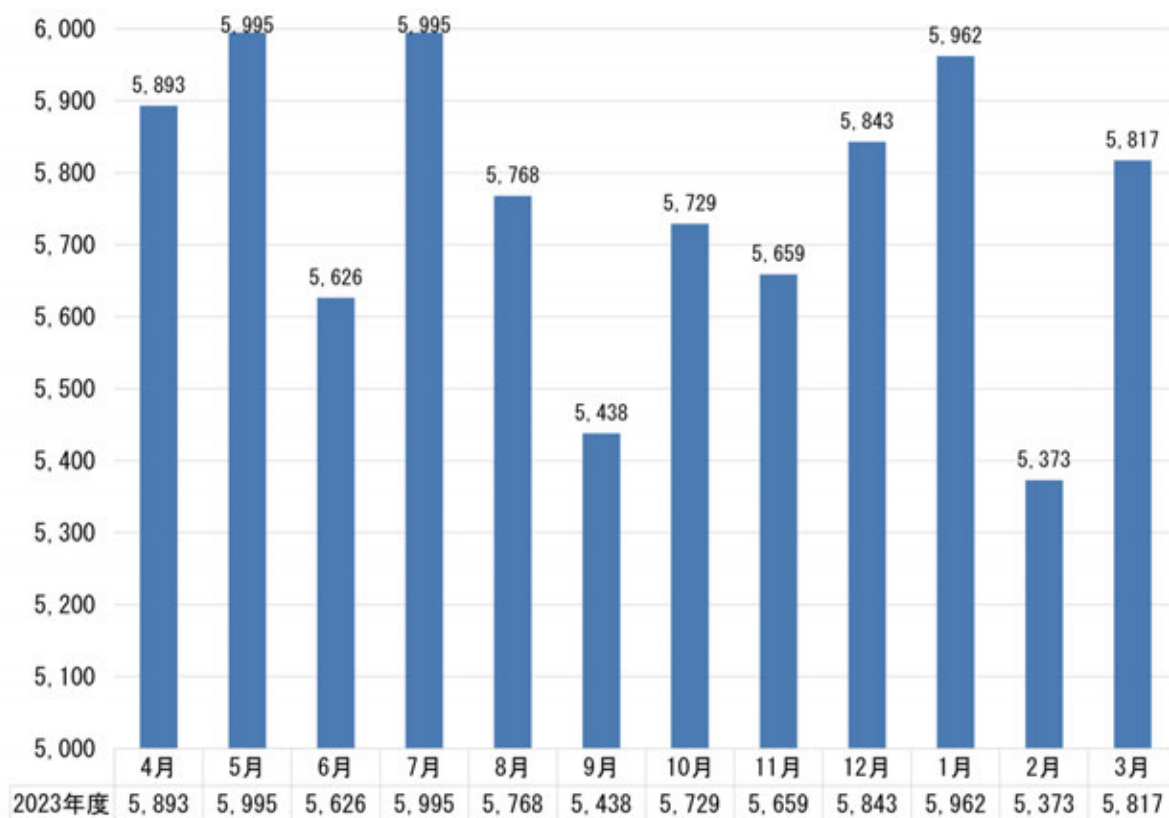


キラメキテラスヘルスケアホスピタル 統計

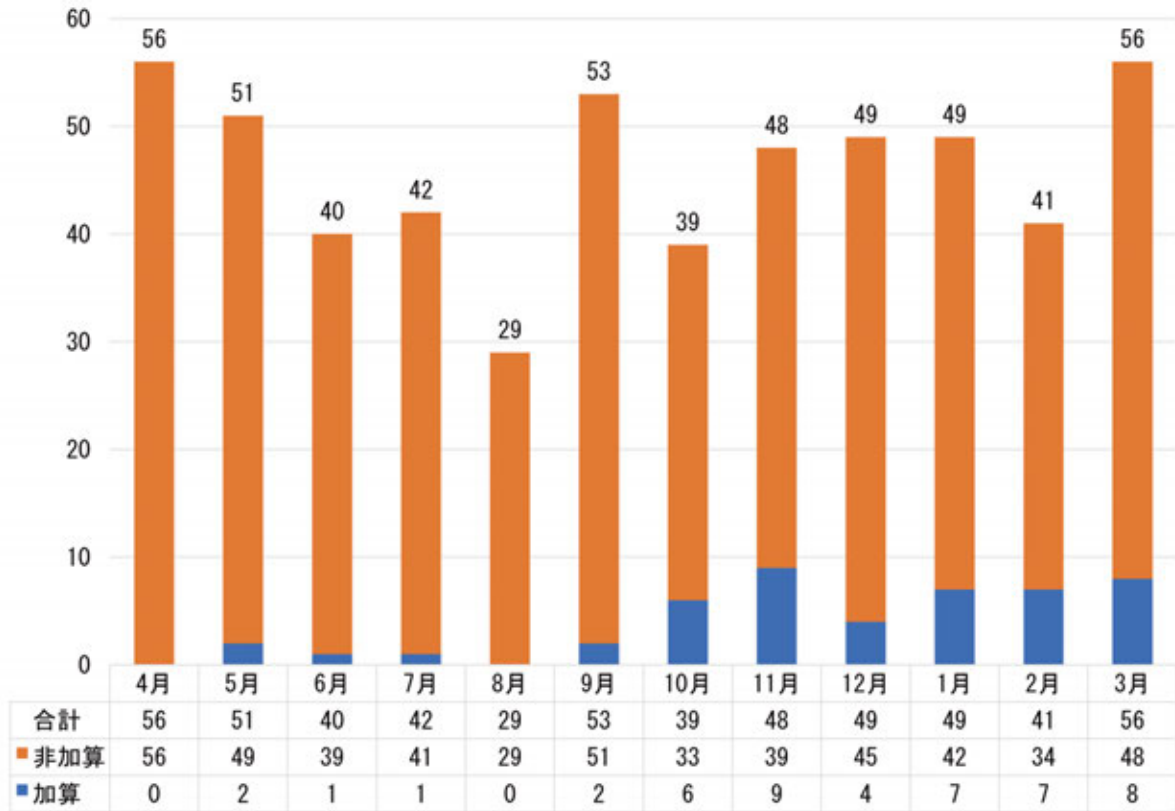
2023 年度 外来患者数診療科目別内訳



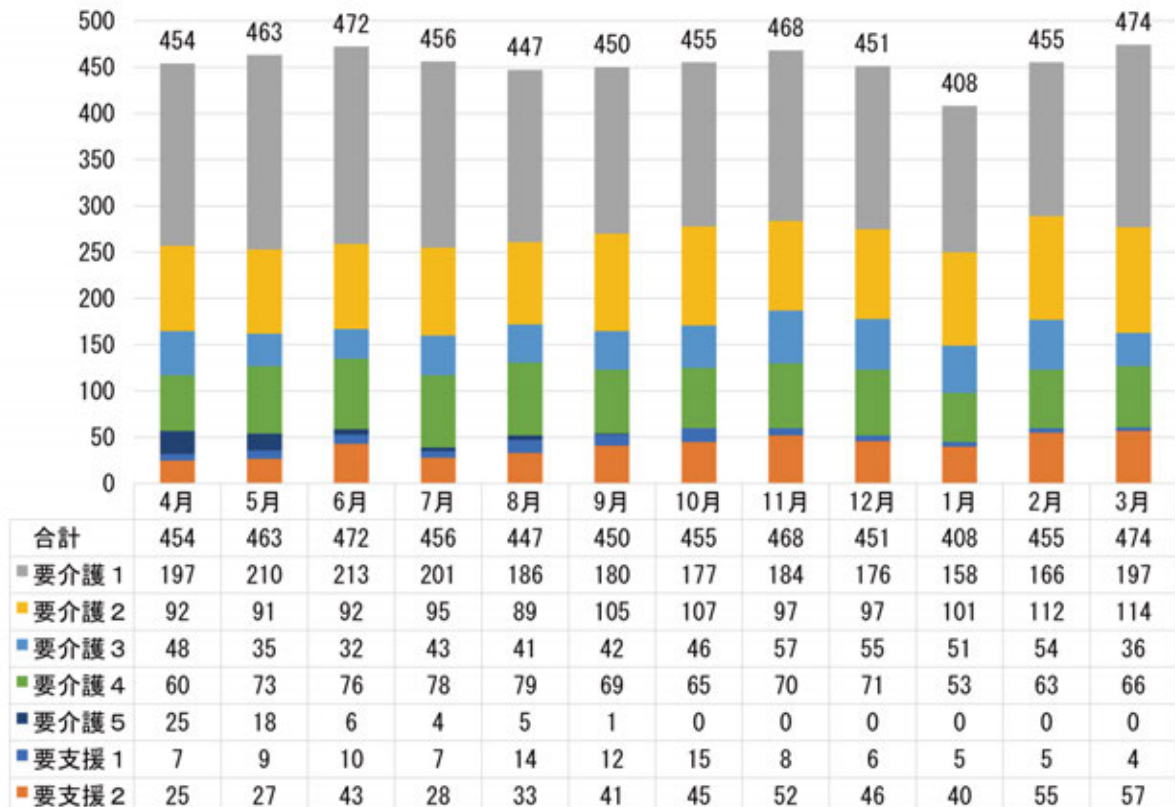
2023 年度 入院患者数



2023 年度 栄養指導件数

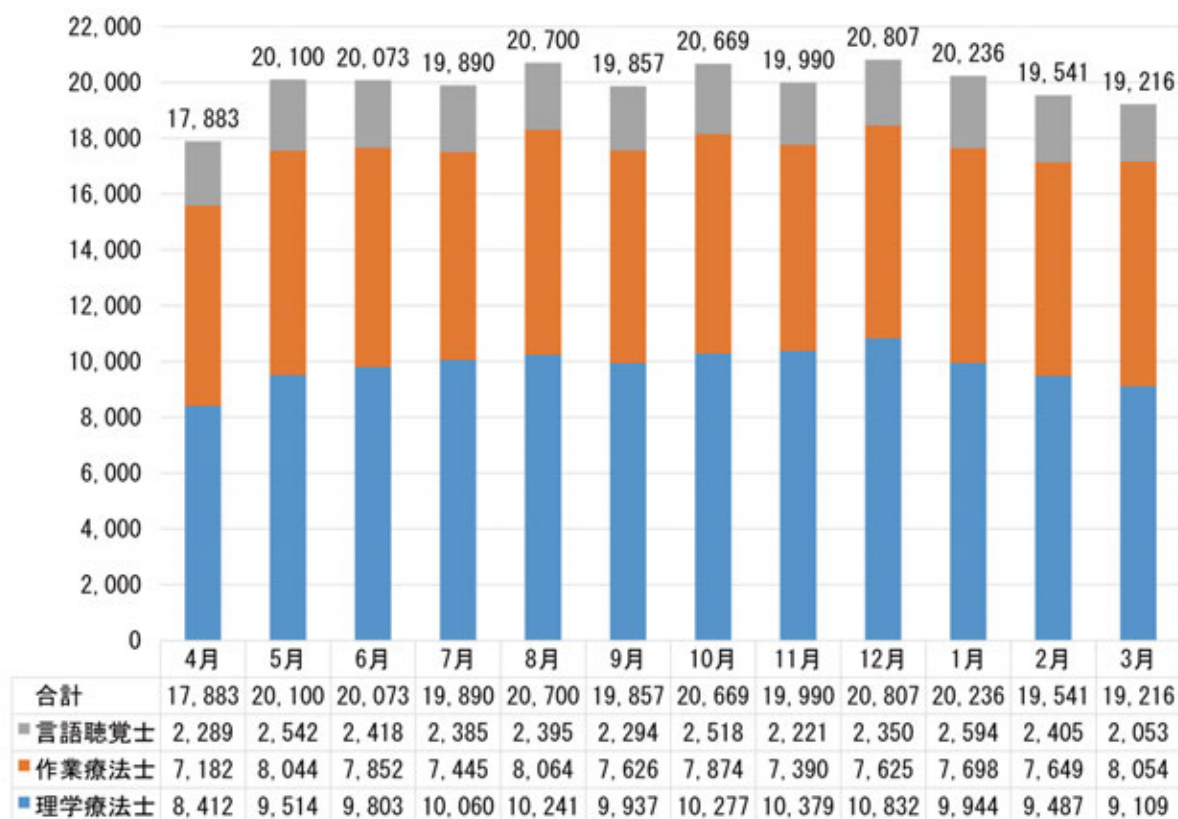


2023 年度 通所リハビリ利用者数

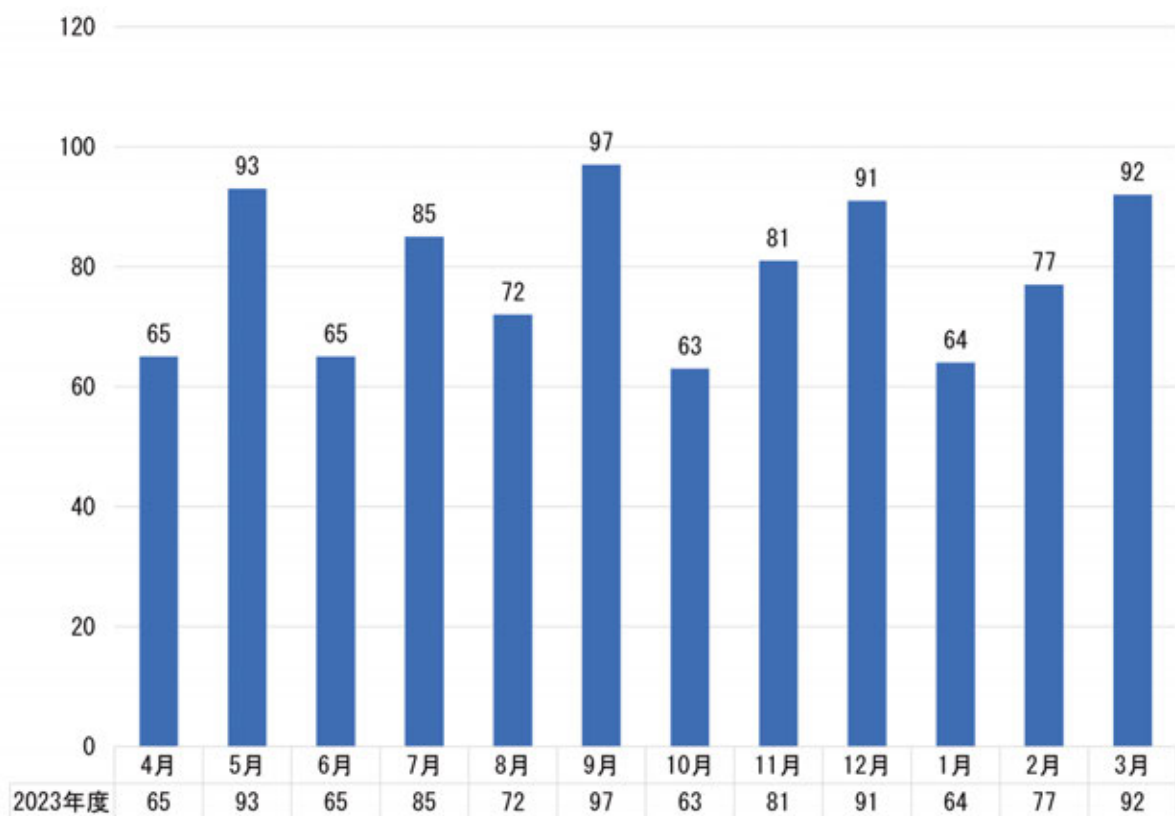


キラメキテラスヘルスケアホスピタル 統計

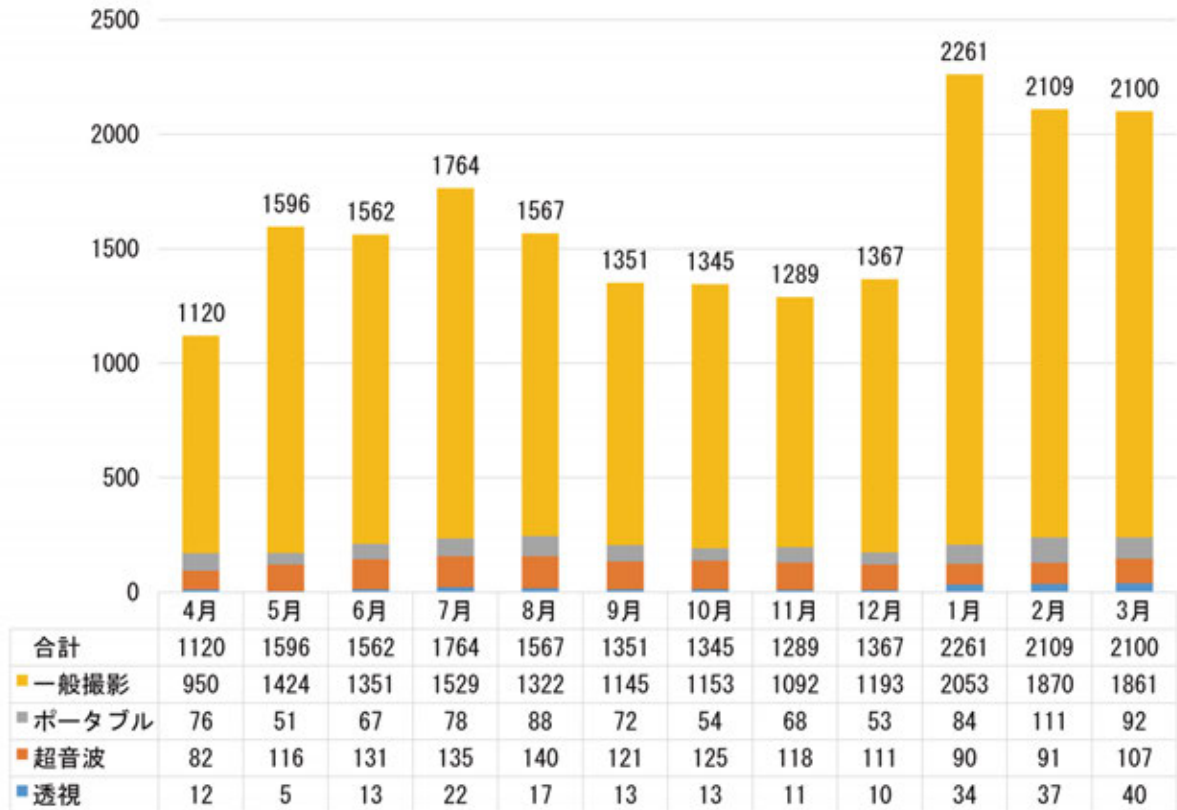
2023 年度 リハビリテーション室患者取扱数



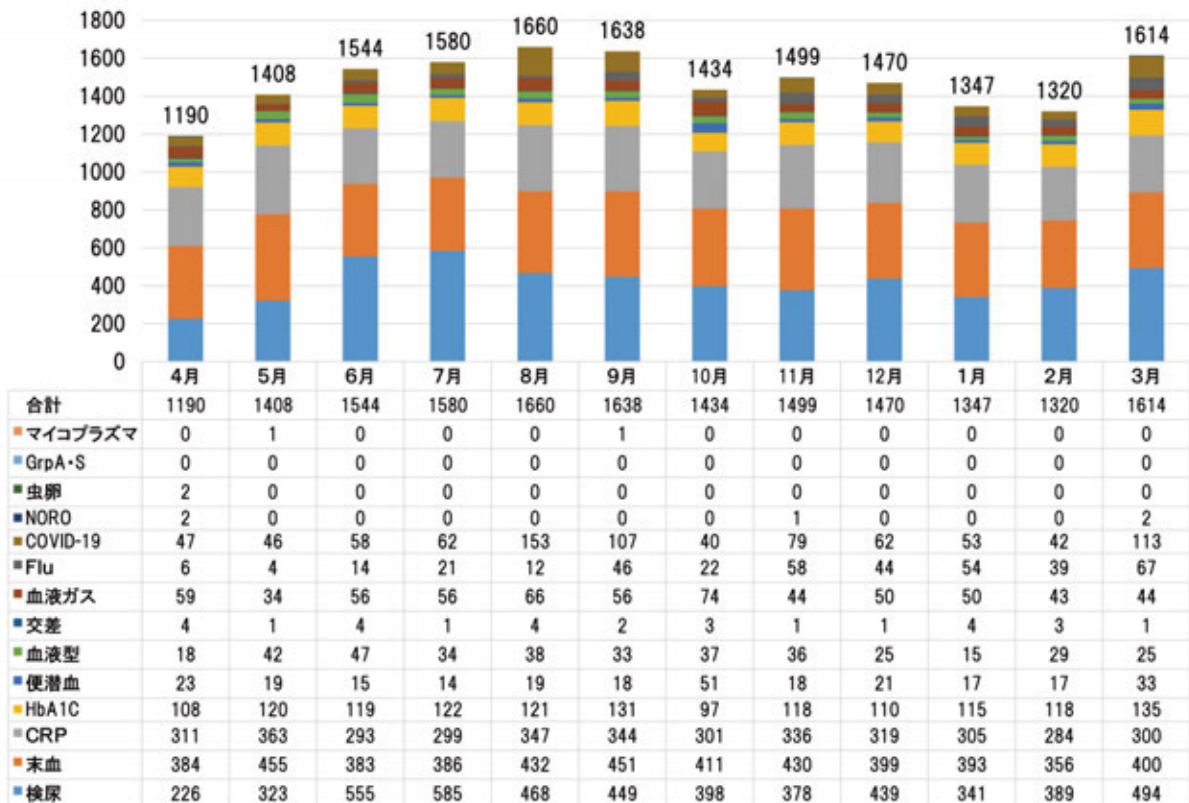
2023 年度 服薬指導件数



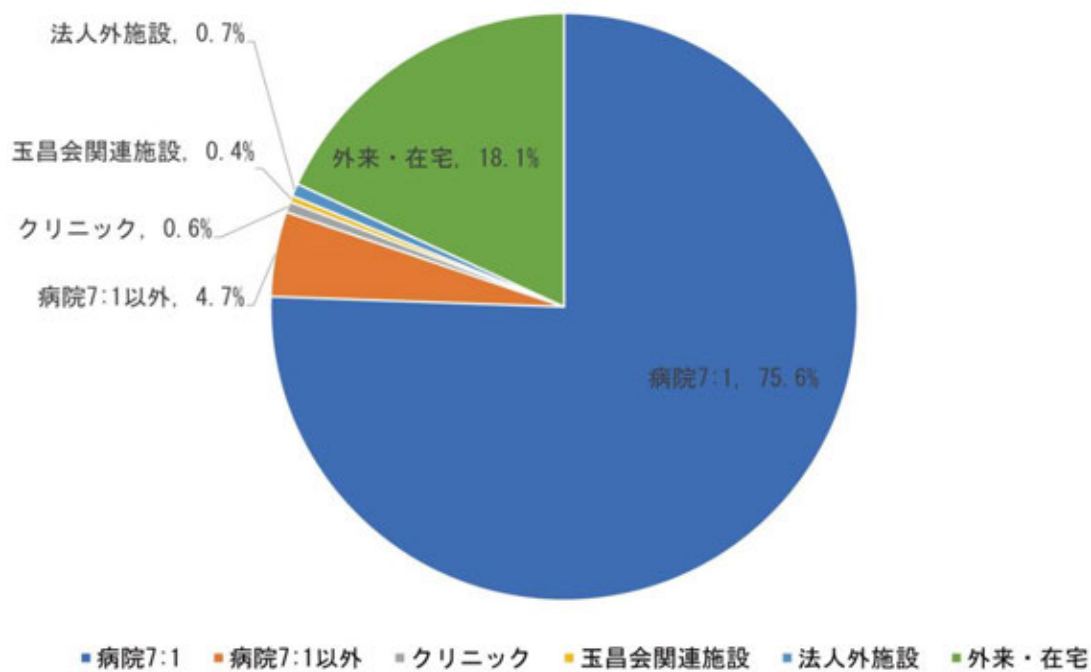
2023 年度 月別放射線室取扱件数



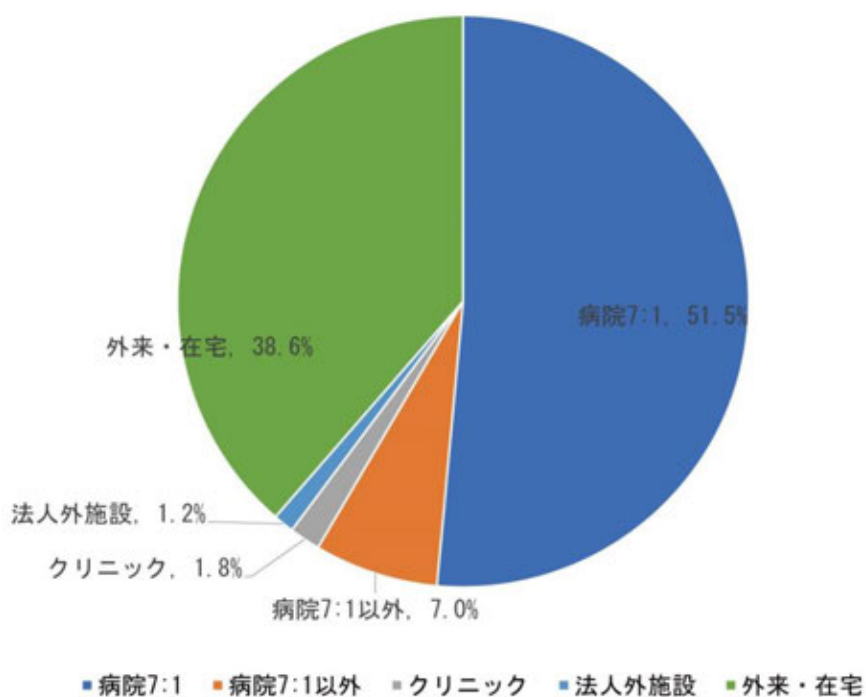
2023 年度 月別検査室取扱件数



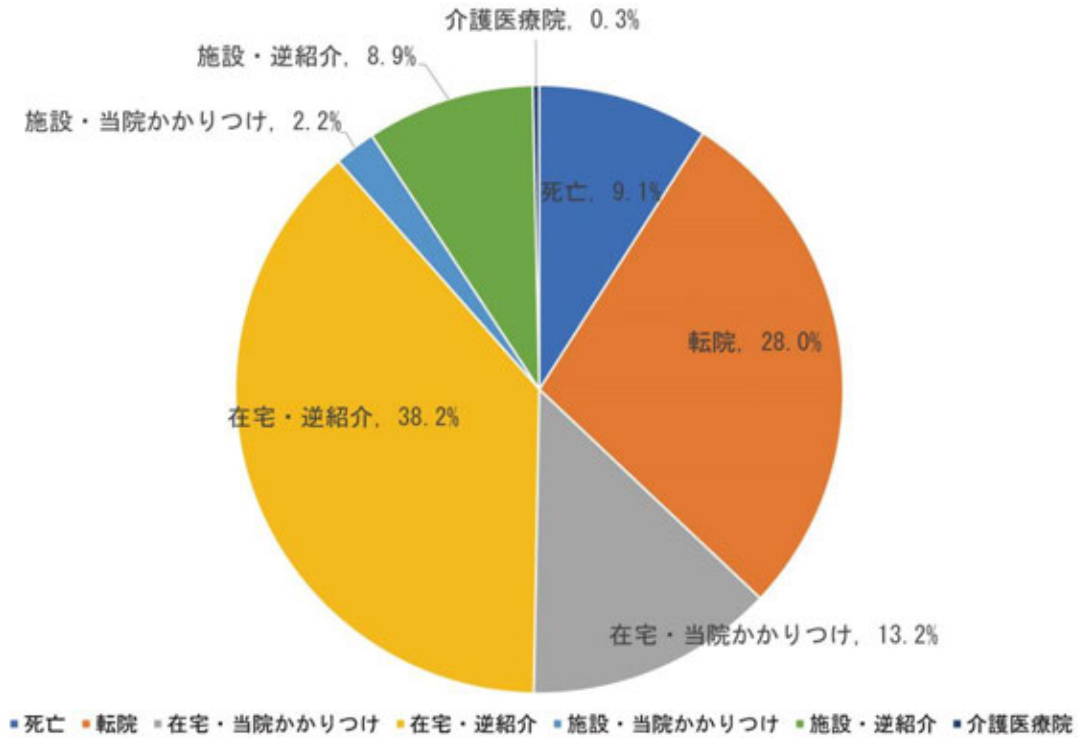
2023 年度 紹介元別割合



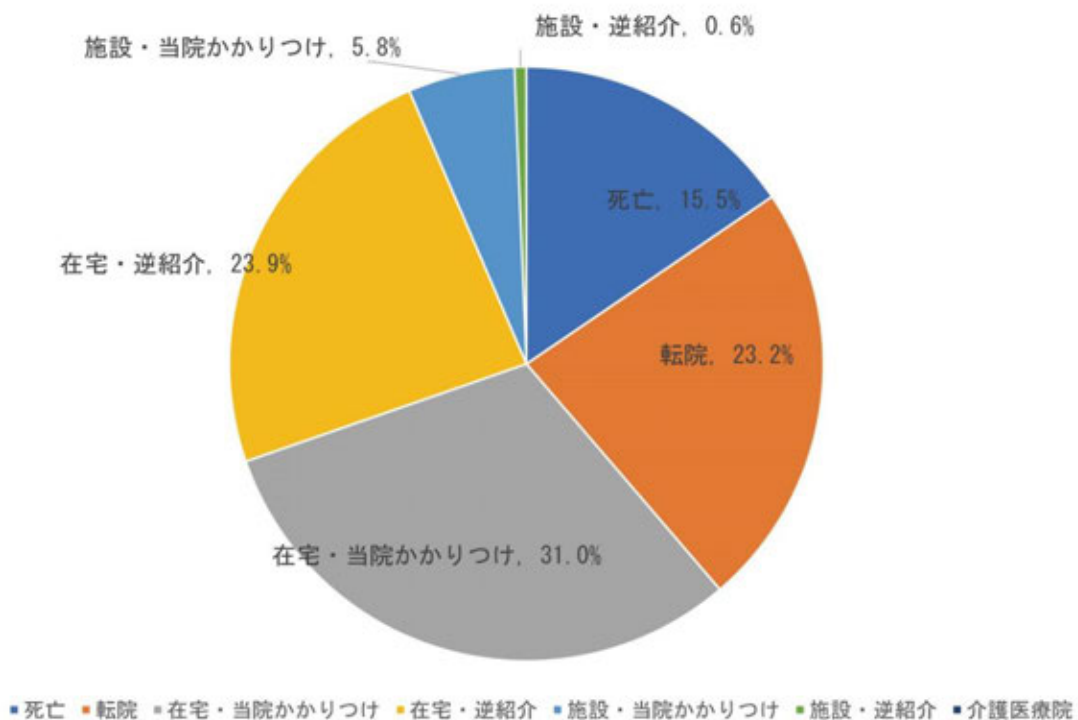
2023 年度 紹介元別割合（透析）



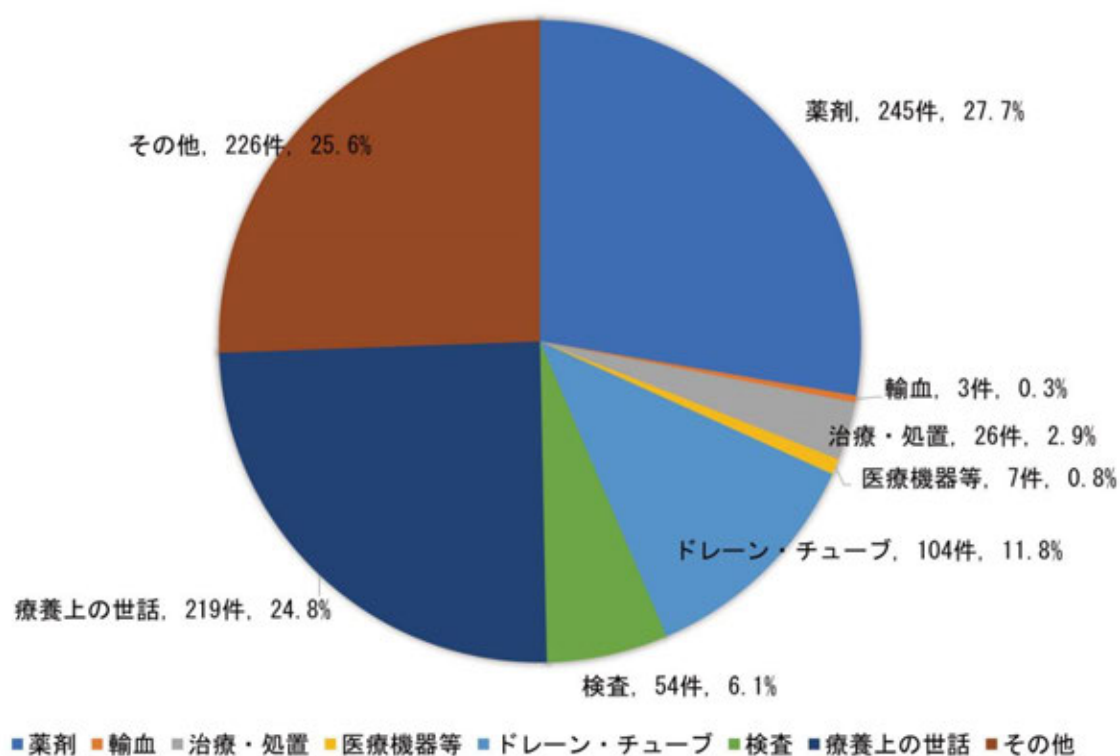
2023 年度 逆紹介元別割合



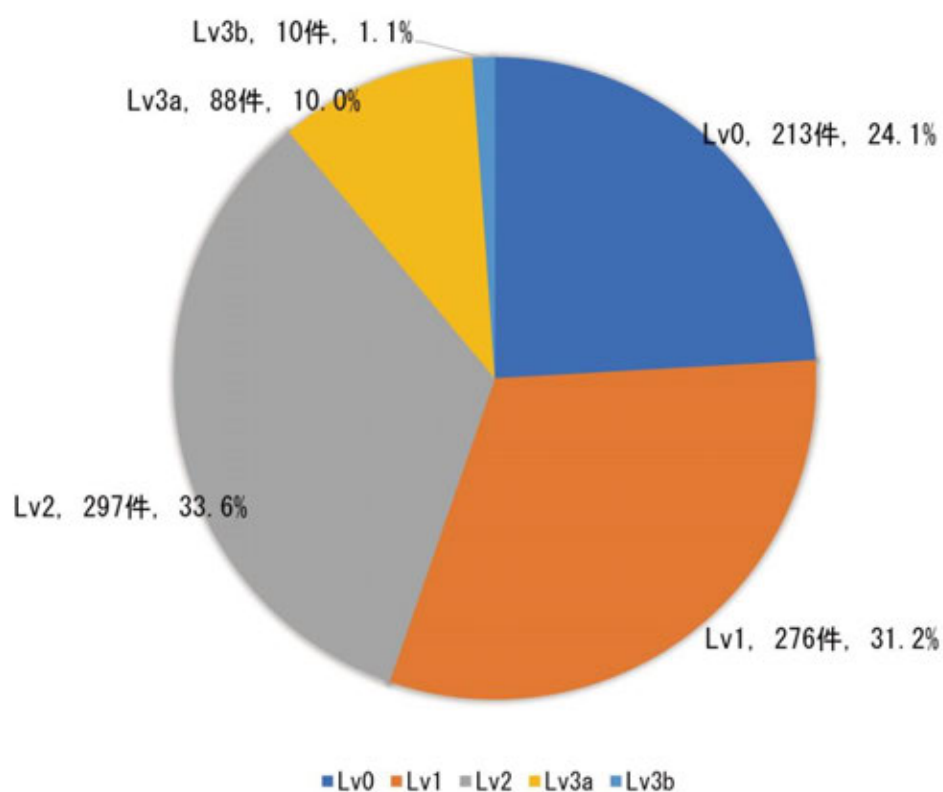
2023 年度 逆紹介元別割合（透析）



2023 年度 インシデント・アクシデント発生割合

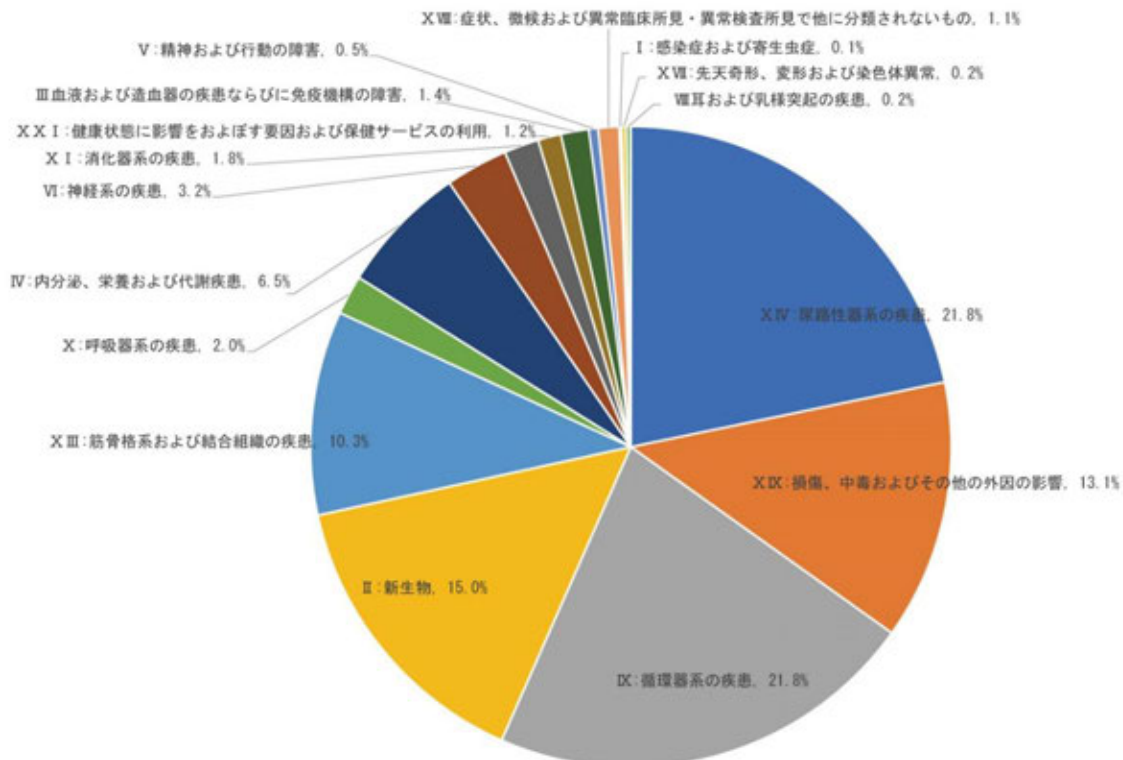


2023 年度 事故レベル別割合



2023 年度 疾病別患者数

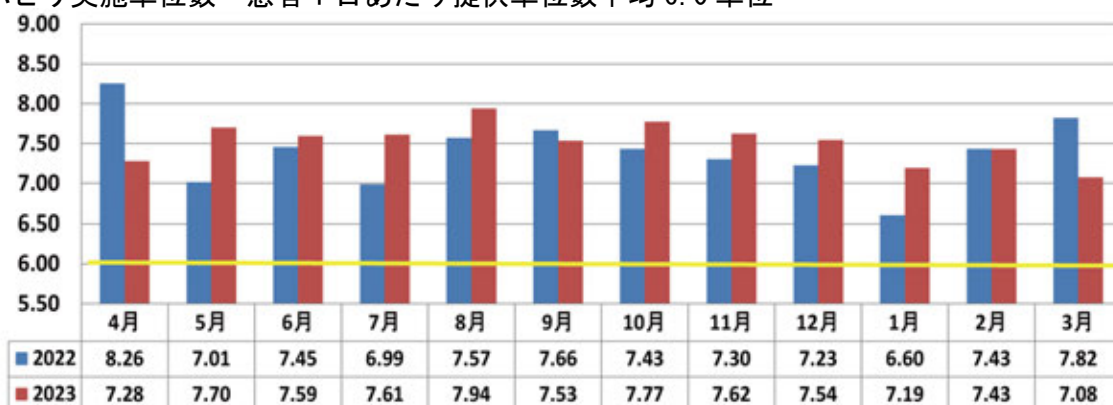
大分類名	2023年度
XIV: 尿路性器系の疾患	186
XIX: 損傷、中毒およびその他の外因の影響	112
IX: 循環器系の疾患	186
II: 新生物	128
XIII: 筋骨格系および結合組織の疾患	88
X: 呼吸器系の疾患	17
IV: 内分泌、栄養および代謝疾患	56
VI: 神経系の疾患	27
XI: 消化器系の疾患	15
XXI: 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	10
XII: 皮膚および皮下組織の疾患	
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	12
V: 精神および行動の障害	4
XVIII: 症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9
I: 感染症および寄生虫症	1
XVII: 先天奇形、変形および染色体異常	2
VII 眼および付属器の疾患	
VIII 耳および乳様突起の疾患	2
総計	855



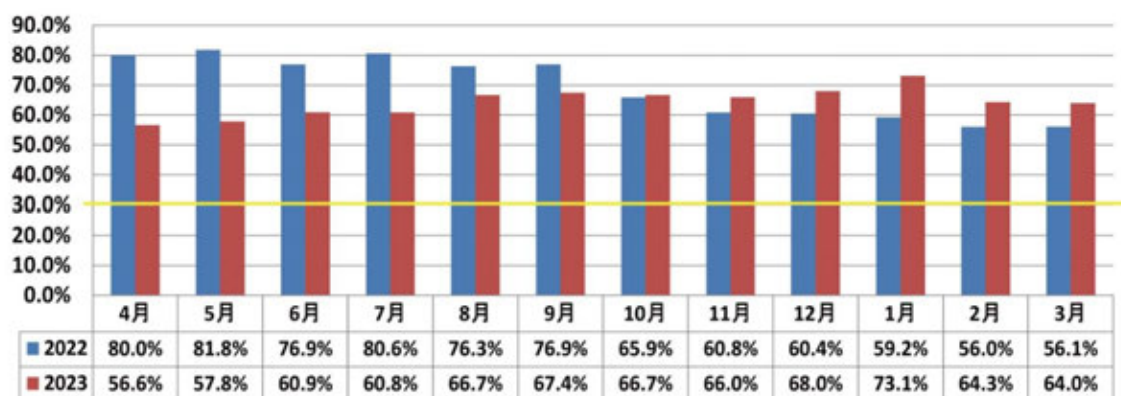
キラメキテラスヘルスケアホスピタル 統計

回復期リハビリテーション病棟の実績

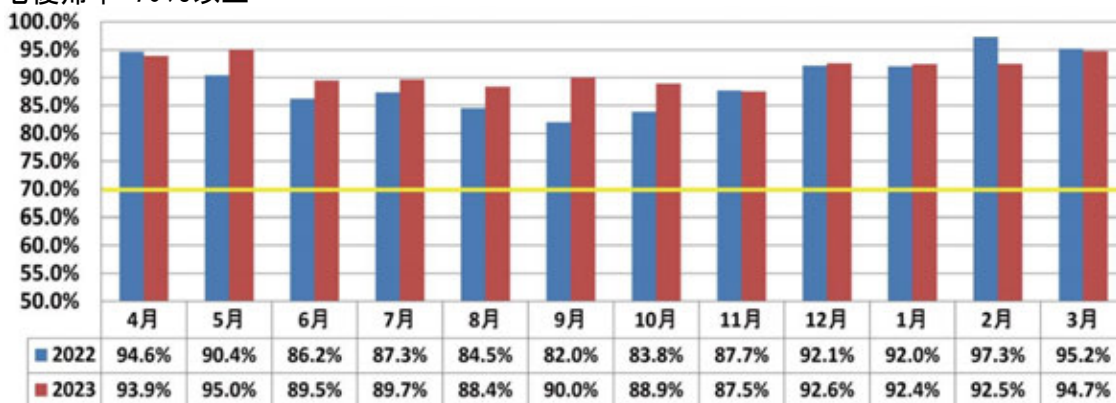
リハビリ実施単位数 患者1日あたり提供単位数平均 6.0 単位



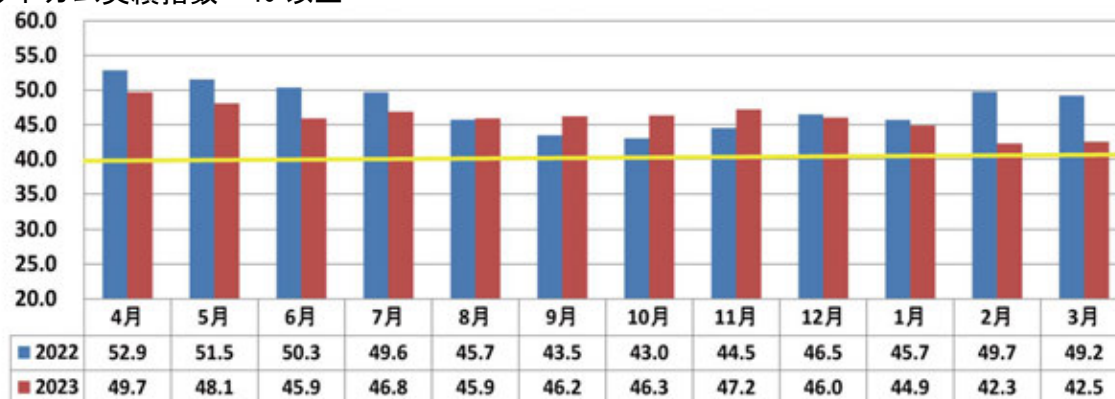
重症者改善率 30%以上 ※退院時：日常生活機能評価 4 点以上改善または FIM 総得点 16 点以上改善



在宅復帰率 70%以上

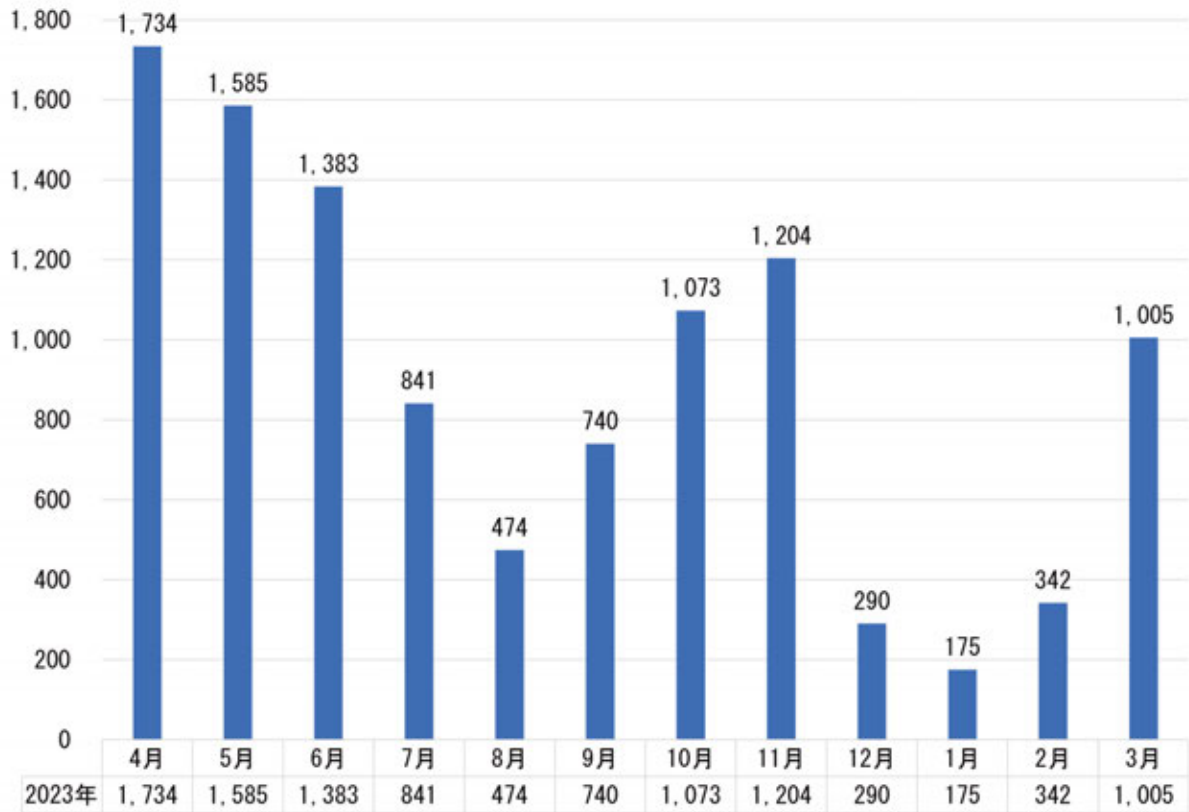


アウトカム実績指数 40 以上

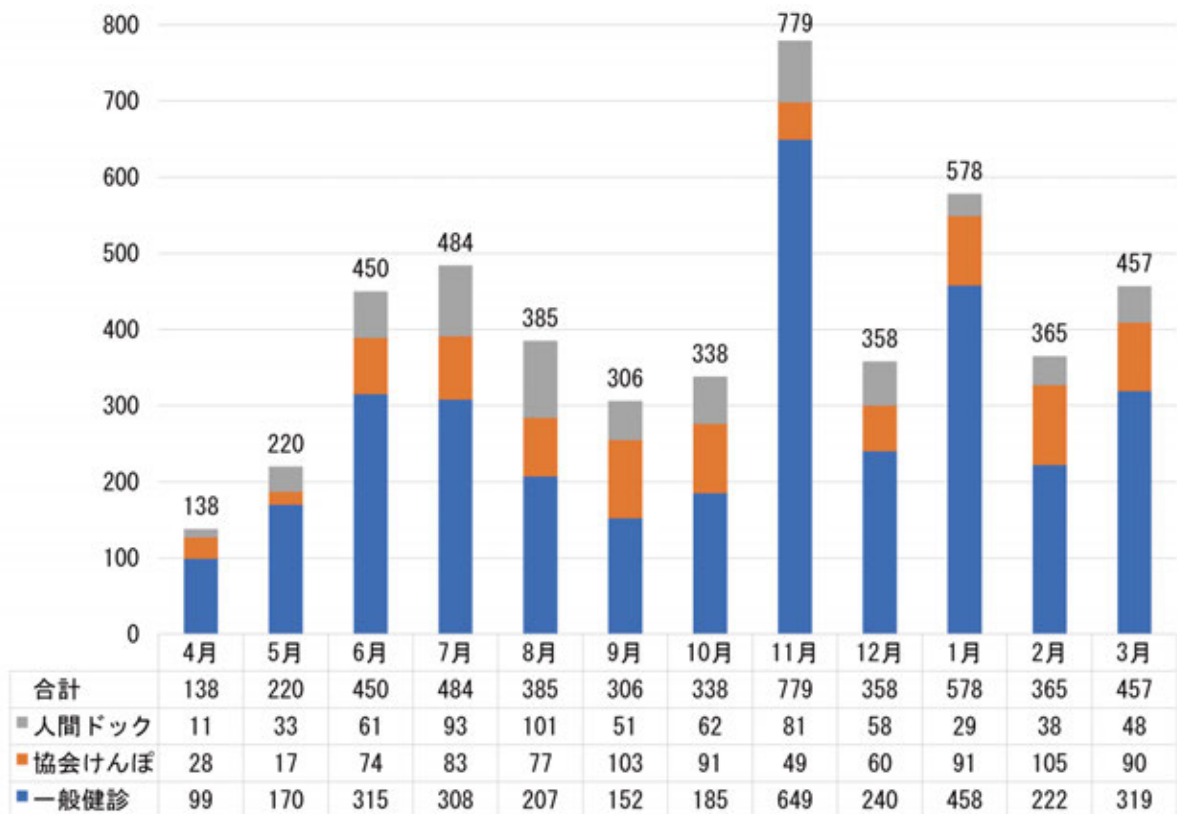


2023年度 トータルウェルネスセンター活動報告

巡回健診部門

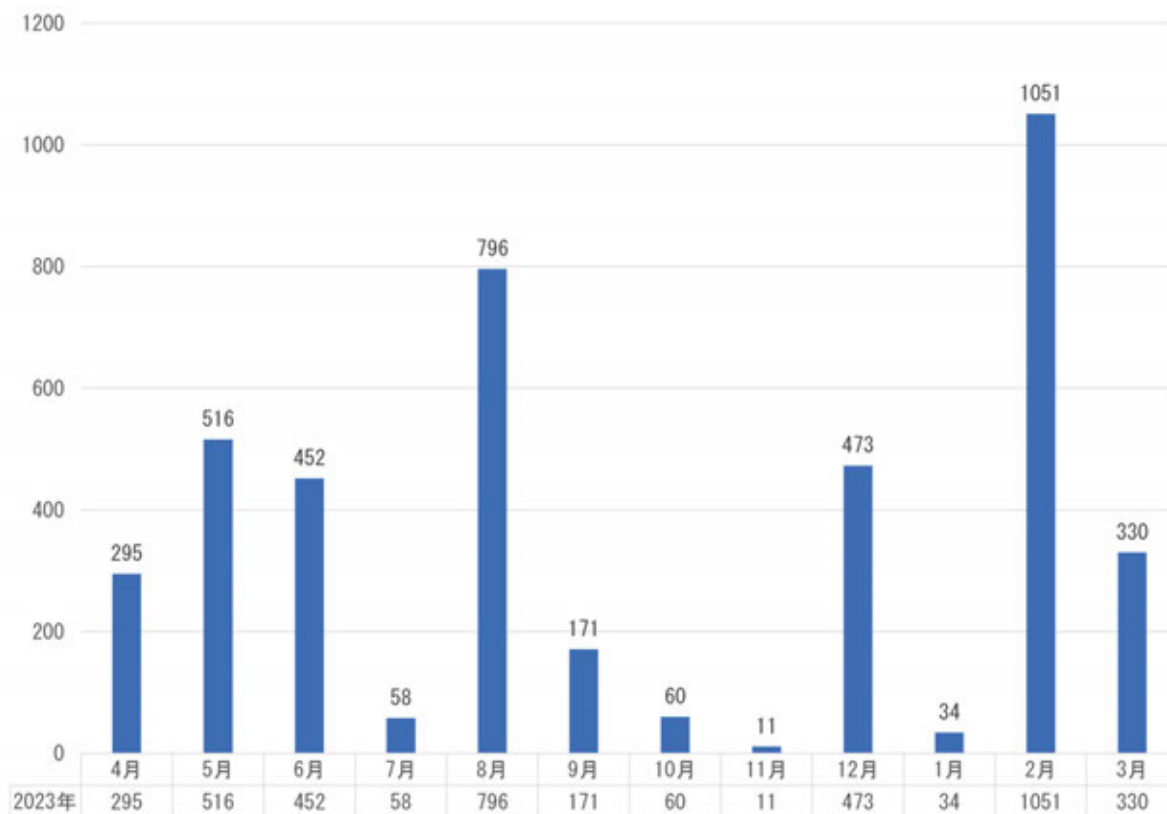


院内健診部門



キラメキテラスヘルスケアホスピタル 統計

ストレスチェック



キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

3 階病棟

【今年度の取り組み】

- A-1. ①接遇の向上
達成目標：スマイルカード6件提出
②患者・家族の意向に寄り添い適切な支援に努める
達成目標：苦情相談処理報告書2件以下
- B-1. ①ベッド稼働率の向上
達成目標：ベッド稼働率97%以上
②残業時間の削減
達成目標：月平均残業時間3.5時間以下
- C-1. ①マニュアルの改訂
達成目標：マニュアル改定率100%
②看護記録の充実
達成目標：退院患者のカルテ処理率1ヶ月以内処理率85%以上
③褥瘡の新規発生を減らす
達成目標：褥瘡の新規発生2件
- D-1. ①院内勉強会参加率の向上
達成目標：院内勉強会参加率94%以上
②臨床看護実践能力の向上
達成目標：学研ナーシング動画視聴10項目以上

【今年度を振り返って】

目標達成項目が9項目中6項目という結果となりました。

目標達成項目としては、A-①・②、C-①・②・③、D-②で、未達成の項目としては、B-①・②、D-①でした。

A-①・②に対しては、スマイルカードで職員同士がお互い様の気持ちを持つことができ、自分にしてあげたことに対して感謝の気持ちを表現できるようになりました。また、電話や面会などでの患者様・御家族様の対応に対し、職員各々が意識して対応し、意向に沿った対応ができてきたため、今後も継続して対応していきたいと思います。B-①・②に対しては、コロナによる入院・入棟受け入れ制限、個室隔離対応などにより、稼働率の低下に繋がったと考えます。また、残業に関しては、コロナ患者受け入れによる業務量増加や機能評価による書類準備作成などにより、残業時間が増加してしまった可能性が考えられます。コロナ患者発生も以前よりは落ち着いてきたことや、機能評価も終了していることにより、今後は職員各々がタイムスケジュールを管理し、そのタイムスケジュールを管理者が更に管理することで、残業時間を削減できるように努めていきます。

C-①・②・③に対しては、機能評価に向けたマニュアル改訂ができ、改定率100%を達成することができました。退院カルテ処理についても記録委員を中心に、職員に対して積極的に声かけで促し、カルテ処理率91.2%を達成しています。褥瘡に関しても、褥瘡委員を中心に、必要な患者様に体圧分散マットをすすめたり、ポジショニング表をリハビリに依頼したりして、褥瘡の新規発生・悪化予防に努めることができました。職員が各々委員会活動を実施し、その活動が身を結んだ結果であると考えられます。

D-①・②に対しては、看護師の勉強会参加率が94.8%だったのに対し、看護補助者の勉強会参加率が72.1%と低い値になってしまい、結果として目標未達成となってしまいました。看護補助者の勉強会に対する姿勢を変えるように取り組んでいきたいです。学研ナーシング動画に関しては、11.9項目と動画視聴することができているため、継続して視聴できるようにしていきます。

今年度は達成項目が多く、職員が各々の役割を果たした結果だと思えます。来年度も継続して実践し、未達成項目を達成にできるように取り組んでいきます。

4 階病棟

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

【今年度の取り組み】

- A-1. 接遇の向上
達成目標：スマイルカード4件以上提出
苦情相談報告2件以下
- B-1. ベッド稼働率の向上
達成目標：ベッド稼働率 月平均100%以上
- B-2. 残業時間の削減
達成目標：残業時間 月平均3.5時間以下
- C-1. 看護記録の充実
達成目標：退院カルテ処理 1ヶ月以内処理率97%以上
- C-2. 3褥瘡の新規発生を減らす
達成目標：褥瘡新規発生1件以下
- C-3. マニュアルの改訂
達成目標：マニュアルの改訂率100%
- D-1. 院内勉強会への参加率の向上
達成目標：院内勉強会率98%以上

【今年度を振り返って】

今年度は、上期オーバーベッド対応でベッド稼働100.2%であったが、10月より病床48床から55床増床後は97.48%へ低下みられた。病床数の増加のため患者対応に時間がかかる案件が多く、通常業務がずれこむため残業増加につながった。入院患者件数増加したが退院カルテの1か月処理完了率97%と高く維持し、記録委員と協力でき取り組む事ができた。欠員対応やタスクシフトで他部署からの協力をもらう事もあったが、スマイルカードを活用し、部署間で気持ちよく協力を得られる事ができた。コロナ発生あったが、感染拡大なく経過した。機能評価（副機能）あり、S評価をもらうことができた。高度・専門機能（回復期リハビリテーション）受診へ向けてさらなる取り組みができる様にリハビリとの連携を図っていきたいと思う。

5 階病棟

【今年度の取り組み】

- A-1. 接遇の向上
達成目標：スマイルカード10件提出
- A-2. 接遇の向上
達成目標：苦情相談報告書2件以下
- B-1. ベッド稼働率の向上
達成目標：ベッド稼働率97%以上
- B-2. 残業時間の削減
達成目標：月平均残業時間3.5時間以内。
- C-1. マニュアルの改定
達成目標：マニュアル改定率100%
- C-2. 看護記録の充実
達成目標：退院患者のカルテ処理率97%以上
- C-2. 褥瘡の新規発生を減らす
達成目標：褥瘡新規発生4件以内
- D-1. 院内勉強会の参加率向上
達成目標：院内勉強会参加率96%以上
- D-1. 臨床看護実践能力向上
達成目標：学研ナーシング動画視聴率10項目以上

【今年度を振り返って】

接遇の向上について、患者・家族へ寄り添った対応を継続していく。スマイルカードに関しては、スタッフから管理者へ報告があり代筆することがあったため今後は、スタッフ自らスマイルカードの提出ができるように声掛けを行いたい。

ベッド稼働率については、達成できていないが入院件数が過去最多であり断ることなく入院を受けることが出来ていた。今後も早期からの退院支援に取り組んでいけるように継続した指導、体制作りを行う。

機能評価審査に向けてマニュアル改定は、達成できた。残業時間については、緊急入院の受け入れや入院患者の疾患や症状に偏りがあることで残務になることがあった。そのため残業時間削減の達成は出来ていない。今後も、

続した勤務区分の活用を行い個々の業務量を把握し業務調整を行い残業時間削減に努めていく。
退院カルテの処理率や勉強会参加、動画視聴について、委員や職員間の呼びかけにて達成できた。今後、入院診療報酬改定に伴う入院期間の短縮化が予測され、入院対応が増加する見込みである。その中で、声掛けや協力し合える病棟であるため、柔軟に対応しカルテ処理・勉強会参加等を低迷させないように努力していきたい。
今年度未達成の項目があるため来年度も病棟全体で継続した取り組みや、達成につながる体制作りへの改善を行うよう努めていく。

6 階病棟

【今年度の取り組み】

- A-1. スマイルカードの提出
達成目標：スマイルカード 24 件提出
- A-2. 苦情の減少
達成目標：苦情相談処理報告書 2 件以下
- B-1. ベッド稼働率の向上
達成目標：ベッド稼働率 97%
- B-2. 残業時間の削減
達成目標：月平均残業時間 3.5 時間以下
- C-1. マニュアルの改訂
達成目標：マニュアル改定率 100%
- C-2. 看護記録の充実
達成目標：退院患者カルテ 1 ヶ月以内処理率 85%
- C-3. 褥瘡新規発生率の減少
達成目標：褥瘡新規発生率 4 件以下
- D-1. 院内勉強会参加率の向上
達成目標：院内勉強会参加率 94%
- D-2. 臨床看護実践能力向上
達成目標：学研ナーシング動画視聴 10 項目以上

【今年度を振り返って】

苦情の減少、ベッド稼働率の向上、マニュアル改訂、看護記録の充実、褥瘡新規発生率の減少、臨床看護実践能力向上については、スタッフの協力により目標達成できた。
スマイルカードの提出については、日ごろ伝えられていない感謝の気持ちを、スマイルカードを利用して伝えることができなかった。今後、感謝の気持ちを伝える手段としてスマイルカードの活用を勧めていく。
残業時間の削減については、円滑に業務ができるように業務改善に取り組んでいく。
院内勉強会参加率の向上については、教育委員を中心に声掛けを行うとともに、参加しやすい環境の整備に努めていく。

透析室

【今年度の取り組み】

- A-1. 接遇の向上
達成目標：スマイルカードの提出、苦情相談報告書 5 件以下
- B-1. 残業時間の削減
達成目標：残業時間月平均 30 分未満
- B-2. 透析患者の増加
達成目標：患者総数月平均 75 名
- C-1. 看護記録の充実
達成目標：1 ヶ月以内の退院加行処理率 80%
- C-2. 医療事故を起こさない
達成目標：レベル 3a 以上 3 件以下
- C-3. マニュアル改定

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

到達目標：マニュアル改定 100%

D-1. 看護部勉強会参加率の向上

達成目標：参加率平均 100%

【今年度を振り返って】

スマイルカードは提出状況が少なかったため今後も取り組みを継続していく。

苦情処理については日頃より積極的に患者さまとのコミュニケーションを図り患者さまの声に耳を傾けることで発生の防止へ繋がったと考える。

残業時間については、業務改善を繰り返したことで患者数が減少したことで大幅な削減へ繋がった。

透析患者数増加については今後も入院相談・外来通院の受け入れについてベッド調整を継続していく。カルテ処理率については、記録委員を中心に取り組んだ。

マニュアル改定についてはスタッフで分担し取り組めたことで今年度の改訂は完了出来た。

勉強会に関しては 100%維持の取り組みを継続していく。

外来

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：スマイルカード 6 件、苦情相談報告書 2 件

B-1. 健診・外来患者の増加

達成目標：巡回健診・院内健診 18336 件、外来患者 11658 件 合計 29994 件

B-2. 残業時間の削減

達成目標：7.9 時間

C-1. マニュアルの改訂

達成目標：マニュアルの改訂率 100%

C-2. 安定した治療ができる

達成目標：年間平均 AB I 72.2 件・シャントエコー13 件・下肢エコー31 件

C-3. 院内勉強会への参加率の向上

達成目標：参加率 92%

D-1. 専門知識の向上

達成目標：8 項目視聴

【今年度を振り返って】

外来において、接遇の向上に取り組んでいたが、苦情相談が 2 件あがってしまった。外来患者様だけでなく他部署のスタッフとの良い関係性を保つためにも接遇の教育を実施していく。

健診・外来患者数の増加については、目標は達成できず。今後当院の魅力や特化したもの、強みをいかし来院した外来患者様や家族の方、健診受診者に向け、満足度調査結果やポスター、テレビ画面でアピールしていく。

そして、2 次健診や保健指導を含めて外来にも繋げていく。

今年度は、機能評価やマニュアル改訂のため残業時間が増えてしまったため、今後は早目に計画立て残業時間の短縮ができるように改善し、取り組んでいく。

インシデント報告は目標の件数として不足しており、お互いに声をかけあい情報共有し報告につなげる。

学習に関して、外来に特化した研修に参加し、スタッフのスキルアップに努める。

栄養室

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足度の向上

達成目標：「季節御膳」（年 4 回）導入

A-2. 患者満足度の向上

達成目標：オリジナルの行事カードやおしながきを患者さまに提供

B-1. 栄養指導の推進

達成目標：栄養指導件数月平均 45 件以上（非加算含む）

- C-1. 病院機能評価認定更新に向けての準備
達成目標：各マニュアルの見直し・作成
- C-2. 専門性を活かした質の高い栄養管理
達成目標：栄養管理の見直し（栄養スクリーニングツール・栄養アセスメント、栄養診断の導入、実践）
- C-3. 栄養指導媒体の構築
達成目標：各疾患別栄養指導媒体の作成・栄養指導時に活用
- C-4. 低栄養患者へのアプローチ
達成目標：パワーライス導入、アウトカム評価実施
- C-5. 多職種との協働、連携強化
達成目標：NSTカンファレンス導入、各病棟で開催
- C-6. 臨床栄養学実習受入れ
達成目標：年間2名受入れ、教育計画の再構築
- D-1. 院外勉強会への参加
達成目標：年12回参加（全員）
- D-2. 院外勉強会への参加
学会や研究会、セミナーなど年5回以上参加

【今年度を振り返って】

栄養室の想い「患者ファースト」をモットーに前年度に掲げた給食部門：「きめ細やかな食事の提供」、栄養管理部門：「質の高い栄養管理」を2本柱に様々なことに取り組み、また2月に日本医療機能評価機構受審を控えていたため、多分野の更なる充実を図った。

給食部門では、通常の行事食に加え、四季折々の旬の食材を取り入れた「季節御膳」をスタート。またイベント毎に料理だけでなく楽しんでいただけるようなオリジナルのカードやおしながきを添え、患者さまに提供し大変喜ばれた。また、低栄養患者さまの栄養改善目的で、パワーライスを導入。委託会社の協力もあり、試作から導入、主治医や看護部の協力でアウトカム評価まで行うことができた。

栄養管理部門では、栄養管理の見直しを行った。慢性期・回復期毎に栄養管理の流れを作成、全病棟で「MNA-SF」や「GLIM基準」を用いて栄養評価し介入・支援を行い栄養改善に努めた。また、週1回各病棟毎に「NSTカンファレンス」を開催し、栄養について多職種で取り組んだ。

今後は、栄養サポートチームを組織化し活動していくことを目指していく。栄養指導に関しては、前年度より多く介入することができた。（前年度月平均15件以上、非加算を含む）主に退院支援で実施した。

引き続き積極的に取り組んでいきたい。

薬局

【今年度の取り組み】

- A . 薬剤管理指導業務の充実
達成目標：薬剤管理指導業務を、入院時・退院時には確実にを行う。必要な患者様に、適切な薬剤管理指導業務を行う。
- B-1. 後発医薬品への切り替え提案と変更
達成目標：後発医薬品使用体制加算Ⅰの算定
- B-2. チーム医療推進のための業務改善を図る
達成目標：回診や委員会ラウンド等に積極的に参加し、薬局以外での活動時間を増やす。
- C-1. 医療の質の向上のため適正な医薬品情報の提供
達成目標：院内医薬品集・薬局通信の発行と、薬剤のお知らせを定期的に発行する。
- C-2. チーム医療の推進のため業務改善を図る
達成目標：入院患者の薬剤を事前に把握し、入院後に問い合わせ等が発生しないようにする。
- D . 疾患と薬剤の基礎と実践に基づく知識の習得
達成目標：疾患と薬剤に対する理解を深め、臨床に応用できる知識を身に着ける。月1回テーマを決め、勉強会を実施する。

【今年度を振り返って】

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

今年度は、回診・委員会のラウンド等に取り組んではいたが、コロナ禍ということもあり、参加率は昨年度より下がった。部署内での業務改善を行い、病棟での活動時間を増やすことで、患者様へのよりよい医療の提供ができるよう、取り組みを深めていきたい。来年度も引き続き、チーム医療への積極的参加、薬の自己管理に向けて、服薬指導・服薬支援を行ってきたい。

また、後発医薬品の出荷調整など、医薬品の供給に支障をきたしかねない事象が未だ相次いで起こっているが、製薬メーカーや医薬品卸と協力して、迅速な情報収集に努め、各部署との連携を図り、安定供給に努め、患者様の薬物療法に影響が出ないようにしていく。

臨床検査室

【今年度の取り組み】

- C-1. インシデント・アクシデントの防止に努める
達成目標：インシデント・アクシデント発生なし。
- C-2. 内部精度管理の実施及び外部精度管理への参加
達成目標：内部精度管理、外部精度管理ともに±2SD内の測定値を目標とする。
- D-1. 院内勉強会への参加
達成目標：85%以上の参加。
- D-2. 院外勉強会、研修会及び講習会等への参加
達成目標：10回以上の参加。

【今年度を振り返って】

ルーチン検査は、定期採血検体も含め、至急性、測定時間等を考慮し、効率よく実施できた。

インシデント・アクシデントの防止については、各々が十分に注意を払い、更に、マルチチェックを徹底したため、発生なしであった。

内部精度管理は、毎日実施し、安定した測定値を維持することができた。その結果、外部精度管理の測定値についてもほぼ良好な結果となった。

測定機器の使用頻度上昇に伴い、メーカーとの定期保守点検を締結した。また、自身によるメンテナンスも定期的実施した。

これらにより、機器の故障も最小限に抑えられ、正確で精度の高い臨床検査データを提供することにつながったと思われる。

一方で、健診・ドックの受診者や院内・外注検査の増加、巡回健診派遣、COVID-19、インフルエンザ等の流行に伴う各種検査等、極めて多忙な検査体制となったが、他部門の協力を得ながら、例年通り、円滑な運営を維持することができた。

新型コロナウイルス、インフルエンザ流行の影響により、院外での研修会・講習会等が、かなり減少したなか、オンライン会議、動画配信等を含め、自己のスキルアップのため日程を調整して参加した。

トータルウェルネスセンター院内健診

【今年度の取り組み】

- A-1. 接遇の向上
達成目標：受診者からのクレーム「2件」以内
- B-1. 健診者数の増加
達成目標：健康診断受診者 月平均 396名(4,752名/年)
- B-2. いまきいれ総合病院への胃部検査の紹介
達成目標：胃部検査紹介数 月平均 15名(180名/年)
- C-1. 業務の安全性、効率化を高める
達成目標：5件以上報告
- D-1. 自己啓発に努める
達成目標：院内勉強会の実施

【今年度を振り返って】

新規企業や教職員への健診契約により、2023年度は院内健診5,137名(前年4,435名)・人間ドッグ666名(前年461

名)と約2割の受診者数の増加がみられた。また、前年に引き続き連携機関であるいまきいれ総合病院と胃部検査・婦人科健診を連携し提供できたことが受診者数増加の一因と考える。

巡回健診とは生活習慣病予防健診での胃部検査の連携や、人員のフォロー等で相互連携を図れたため、次年度も継続して連携を強化し受診者数の増加、生産性の向上に努めていきたい。

トータルウェルネスセンター巡回健診

【今年度の取り組み】

- A-1. 患者満足の視点
達成目標：接遇、待ち時間の短縮など意識し、業務改善を実施。
- B-1. 健全経営の視点（財務の視点）
達成目標：健康診断受診者の増加。
- C-1. 医療の質向上の視点（業務プロセスの視点）
達成目標：マニュアルの作成を行い、業務の安全性、効率化を高める。
- D-1. 学習と成長の視点
事業所内勉強会を開催し、チーム力の向上に努める。

【今年度を振り返って】

巡回健診においては、各企業先を訪問させていただき健康診断を実施することから、健診時間や接遇が非常に大切となります。全職員、意識して健康診断を実施し健診時間が短縮した。

巡回健診受診者数は、昨年度より減少しており、目標達成に至らなかった。次年度にむけては、サービス向上を目標に掲げて健診内容・料金を見直し、追加検査の内容の見直しをして受診者の満足度の向上に努める。

各検査項目に関するマニュアルの更新を実施。また、その中で受診票などの紙の使用数の削減しSDGsに貢献した。

事業所内勉強会を開催し、自己啓発、チーム力の向上に努めるという目標を設定したが、巡回健診業務との両立が困難で積極的な取り組みが出来なかった。院内研修については、毎月取り組んでいた。

また、コロナ感染症対策として手洗いうがい、手指消毒を徹底し、感染対策にも取り組むことが出来た。今年度は感染等による健診の延期などなく予定通りに健診を実施した。

今後は、健診企業先を訪問し担当者との関係づくりに努め、信頼関係の構築を行っていきたい。また、健診者の声を大切にしながら、より良い健診サービスの提供に努めたい。

リハビリテーション室

【今年度の取り組み】

- A-1. ヒューマンライフラインとして多世代を支え合う仕組みの一環である小児リハビリテーションを開始する
達成目標：新規受入患者数6名以上
- B-1. 回復期病棟55床へ増床体制において充実したリハビリテーション提供体制を目指す
達成目標：患者当たり1日平均8単位以上
- B-2. 外来リハビリテーション提供体制の更なる充実
達成目標：新規受入年間20名以上
- C-1. 透析時運動指導において透析時リハビリテーションを実施する
達成目標：新規導入数年間6名以上
- C-2. C o C o r o eを使用することで医療の質を向上すると共に入院中の活動量を増加する
達成目標：新規導入数年間10名以上
- D-1. 教育システムの強化を図る
達成目標：症例検討会・勉強会実施各35件以上
- D-2. 研究・学会発表へ取り組みスキルアップを図る
達成目標：全国学会で5演題を発表

【今年度を振り返って】

今年度は回復期病棟を10月に48床から55床へ増床する計画の中、新入職員PT:4名OT:3名ST:1名、中途入職者1名の合計9名増員して受入体制を整えることでより多くの患者さまへ充実したリハビリテーションを提供できる体制となりました。しかしながら5類へ移行した新型コロナウイルスが度々院内感染発生しており、リハビ

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

リハビリテーションの提供を一時的に中止した影響やスタッフ感染によるマンパワー不足により回復期病棟でのリハビリテーション提供時間の目標とC o C o r o e等の先端リハビリテーション機器の導入目標を達成することが出来ませんでした。一方、ヒューマンライフラインの一環として小児リハビリテーションを4月～STが開始、12月にはPT・OTも開始しており、プロジェクトリーダーやいまきれ総合病院・発達支援センターまあるでの研修を終えたスタッフの協力の下、目標達成することが出来ました。また、近隣の小児リハビリテーション提供医療機関が閉院し、受入先が少なく困っていた小児リハ患者さまを当院で受入れることで保護者の方や行政機関からも感謝の言葉を頂いております。外来リハビリテーションにおいても当院回復期病棟や地域包括ケア病棟からの退院患者さまだけでなく、地域の医療機関からの紹介や飛び込みでのリハビリ希望の患者さまを積極的に受け入れることで目標達成することが出来ています。教育システムの強化としては教育部門責任者を配置することでスケジュールングやスタッフの意識改革をすることで勉強会実施件数の目標を達成することが出来ました。

研究への取り組みにおいても教育部門責任者が積極的にスタッフに声掛けをして多くのスタッフに協力してもらい、論文掲載も含めて7演題も実施することが出来ました。地域リハビリテーションへの取り組みでは、コロナ禍の中、感染対策を徹底して協会や自治体からの介護予防事業へのセラピストの講師派遣協力を実施。また、高麗町・荒田地区においては地域の皆様に病院主催の地域公開講座や当院・いまきれ総合病院・A-c o o p3社共催のキラメキ健康ひろば、荒田校区コミュニティ協議会主催健康教室など様々な地域イベントにおいてリハビリテーション室のスタッフが参加・協力して予防的なりハビリテーションを積極的に提供することで地域貢献を図ることが出来ました。3月にはNPO法人日本ユニバーサル・サウンドデザイン協会総裁である三笠宮瑤子女王殿下が対話支援システムコミュニケーションの取組みのご視察に来られ、リハビリテーションにおける応用利用を説明しております。地域におけるフレイル予防事業の一環ではヒアリングフレイルへの取り組みを荒田校区コミュニティ内で開始し、地域の方々の難聴への意識向上や予防を目指しています。

来年度は、①ヒューマンライフラインとして多世代を支え合う仕組みの一環である小児リハビリテーションの充実②回復期病棟増床計画において充実したリハビリ提供を目指す③外来リハビリテーション提供体制の更なる充実④診療報酬改定で求められる月2回FIM評価体制確立及びFIM評価精度の向上⑤高度専門機能評価受審に向けて多職種勉強会の開催とFIM研修会の院内開催⑥教育システムの見直しを実施してより効果のあるリハビリテーションの提供を目指す⑦研究・学会発表へ取組みスキルアップを図ることを目標とする。

診療・介護報酬同時改定への取り組みや高度専門機能評価受審へ向けての準備と大変忙しい一年になりますが、リハビリテーションを取り巻く状況は制度的にも年々厳しさを増しております。『現状維持は退化』との認識をスタッフ一人ひとりが理解し、良き社会人として患者さまやご家族さまそして地域の方々へ対応することを念頭に、いまきれ総合病院との連携を深化し、近隣急性期病院やクリニック、介護事業所等との連携を更に推し進めることで地域包括ケアシステム・地域共生社会において地域の皆さま方に欠かすことが出来ない中核的な医療機関・リハビリテーション室として目標達成に向けて努力していく所存です。

通所リハビリテーション

【今年度の取り組み】

A-1. 質の高いサービスの提供

達成目標：満足度調査：年2回実施、接遇勉強会の開催、満足度85%以上

B-1. 新規利用者の獲得

達成目標：新規利用者：上半期6名、下半期6名

B-2. 1日平均利用者数の増加

達成目標：1日平均利用者数：上半期18名、下半期18名

B-3. 新規利用者の受け入れを継続し、移行支援者の流れを作る

達成目標：マニュアル作成、移行支援加算の継続、年間4名の卒業

C-1. 業務の一連の流れを統一して実施できる

達成目標：マニュアルの見直し、個別面談、業務遂行確認・スキル把握

C-2. 日々のサービス内容に変化をつけ、より安全・安心なりハビリ・介護サービスを提供する

達成目標：レクレーション・遊びりの新規企画、余暇時間の充実

D-1. 院内外勉強会参加

達成目標：部署内勉強会の開催（1回/月）、学会への参加

【今年度を振り返って】

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

今年度は年間の利用総数が前年度を上回ることができました。昨年度1月から感染予防対策として、病棟での機械浴を中止して営業を行っております。そのため一般浴での入浴が中心となり利用者の介護度が軽くなり、要介護4・5の利用者が減少し収益としては減少しています。曜日別利用者数を定員いっぱいとし、平均利用者数を増加して運営を行いました。ご利用者やご家族からは運営・サービス提供には大変喜ばれており暖かい言葉を頂戴しております。7月は看護スタッフの異動、10月・12月には介護スタッフの異動があり、円滑な業務が行えるよう日々指導を行ってきました。今後においても利用者の情報を他部署と連携・共有し、円滑な通所リハビリの運営を目指したいと考えます。来年度は医療・介護同時改定であり、スムーズな運営が行えるように情報収集を行い、準備していきたいと思っております。同時に利用総数の増加とともに1日利用平均利用者数が20名に近づけるように運営していきます。

心理相談室

【今年度の取り組み】

- A-1. 患者様のニーズの把握に努める
達成目標：気になる情報があるときは、声掛けを行い、ニーズを拾えるよう努める
- B-1. 職員のメンタルヘルスケアに柔軟に対応する
達成目標：相談しやすい体制を整え、利用拡大につなげる
- C-1. 他職種との連携の維持
達成目標：情報共有の機会を増やし、現場のニーズに合わせた関わりを提案できるようにする
- D-1. 専門知識の向上
達成目標：院内心理士でのケースカンファレンスを行い、事例の多方面からの検討を行う

【今年度を振り返って】

今年度は年度途中より入院患者への認知機能検査の介入や小児リハへの介入など新規性のある取組を複数行った。今年度は院内心理士不在の期間が多くあり、前年度まで積極的に行っていた病棟ラウンドや職員のメンタルヘルス対応等、これまで行ってきた取り組みを同じ質・量のまま行うことが出来ない状況であったが、限られた枠組みの中で実施可能な心理業務を行うことが出来た。認知機能検査での病棟患者への介入では、服薬管理の根拠となる心理検査を実施しつつ、精神面での落ち込みや関わりに工夫の必要な患者に早期に関わることでその後の心理介入をスムーズに行うことができた。小児リハでの介入では、患者の家族に対する心理教育を行った。実際の面接では患者の家族の困りやニーズに応じた助言を行い、他職種で小児リハの中心的な実施者であるST、OTへ見立てを共有するなどして、リハビリの実施をより円滑に行うことが出来るようにした。病棟患者への心理介入では、患者への臨床心理面接や定期的な声掛けなどを実施し、医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携しながら患者の心理状態の把握や支援を行った。また患者の家族支援も積極的に行い、スタッフや患者、患者家族のニーズに応じた関わりを工夫して行った。職員へのメンタルヘルスでは前職員の退職で中断していた相談室を年度途中より再開し、予約不要で相談が出来るような体制を再構築した。今後も利用しやすい心理相談室として、患者様支援、職員支援に努めていきたい。

臨床工学室

【今年度の取り組み】

- A-1. 医療事故・医療過誤の防止
達成目標：医療機器、ME機器の不具合に関するインシデント・アクシデントを年間0件にする。
- B-1. ME機器点検の確実な実施
達成目標：ME機器の定期点検を年度計画表に基づき計画通り、期間内に100%実施する。
- B-2. 血液浄化療法の新たなニーズに対応
達成目標：オンラインHDF、I-HDFを10名以上に実施する。
- C-1. ME機器関連の勉強会の実施
達成目標：ME機器関連の勉強会を年6回以上、実施する。
- C-2. 病棟ラウンドの実施
達成目標：人工呼吸器使用中は1日1回、また、他の使用中のME機器は、週1回のラウンドを実施する。
- D-1. 学会およびセミナー等への参加
達成目標：学会、セミナー等へ年3回以上の参加または、演題発表を行う。

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

【今年度を振り返って】

今年度も部署目標通り、医療機器に関する医療事故を0件にすることが出来た。医療機器の点検も週1の病棟ラウンド、各月ごとの定期点検、メーカーによる点検、消耗品の交換等スケジュール通りに行うことが出来た。

血液浄化部門においても、O-HDF、I-HDFの患者数の増加、吸着療法（レオカーナ）、腹水濾過濃縮再静注法等を実施することができた。今年度から新たにシャントエコーを始め、ブラッドアクセスの管理に努めることが出来た。

外来での内視鏡業務にも入るようになり、病院内での業務範囲が広がった。

来年度も医療事故防止に努めながら、医師、看護師、他職種と連携して質の高いチーム医療を提供できるよう努めていきたい。

放射線室

【今年度の取り組み】

- A-1. X線機器の毎日の点検（始業、終業）
達成目標：毎日始業・終業点検を行う。
- B-1. 撮影実績を前年度より増加に努める。
達成目標：前年度より3%の増加を目指す。
- C-1. 院外研修会への参加、自己学習におけるスキルアップ
達成目標：上期・下期それぞれ2回参加する。
- D-1. 被曝線量管理を行う。
達成目標：全検査100%行う。

【今年度を振り返って】

今年度は外来・入院・健診の検査人数が10060人で前年度より1301人多い14.9%増、検査実績の一般撮影は20.8%増、透視検査は6.1%増、超音波検査は34.1%増とすべてにおいて前年度を大きく上回りました。始業・終業点検も毎日行い大きな装置トラブルもなく被ばく線量管理も100%行うことが出来ました。院外研修も少しずつ対面での開催も増えてきており座学だけでは学べない実技の研修会にも参加できました。来年度も撮影実績の増加に努め患者様の安全を第一に更に検査技術・医療の質の向上を目指し取り組んでいきたいと思っております。

地域医療連携センター

【今年度の取り組み】

- A-1. 介護支援連携指導書作成率向上 ※算定病棟以外の患者支援時に作成していなかった
達成目標：介護支援等連携指導書作成率 75%
- B-1. ベッド稼働率の向上
達成目標：ベッド稼働率 97%
- B-2. 入退院支援加算算定率向上
達成目標：入退院支援加算算定率 90%
- B-3. 残業時間の削減
達成目標：月平均残業時間 8時間
- C-1. インシデント報告書
達成目標：インシデント報告書作成件数 84件以上（1人あたり月1件以上）
- C-2. マニュアル改訂
達成目標：マニュアル改訂率 100%
- D-1. 個々のスキル向上（院外研修への参加を促進）
達成目標：院外研修への参加（1人あたり年6回）
- D-2. 院内勉強会への参加率向上
達成目標：院内勉強会参加率 94%

【今年度を振り返って】

連携機関からの紹介患者をスムーズに入院対応をすることが入退院のバランス調整が出来ずに、対応遅延等を招いてしまった結果、稼働率目標値を達成することが出来なかった。当院を選択して下さった患者、御家族、連携機関に迷惑をかけた状況を反省し、次年度は取り組みを強化していきたい。尚、次年度の病床再編に向けて各病棟種別

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

の特性を生かしたベッドコントロールが出来るように尽力したいと思います。

しかし、各病棟診療報酬算定要件に関しては、基準以上の結果を導き出すことが出来、患者支援においては各職種と協働で介護事業所及び福祉事業所と連携を図り対応をすることが出来た。

機能評価受審に向け、マニュアル整備・環境整備・業務改善等々を部署全体で取り組むことが出来、就労環境の改善を図ることが出来たと思います。

また、個々のスキルアップを図るという目標に対しは前年度同様に各々が反省をする点が多々あった為、次年度は患者さま・御家族への支援強化を図る目的でも個々のスキルアップを図れる環境設定を行っていききたい。尚、新入職員の入職もある為、人材育成にも尽力していききたいと考えています。仕事と生活のバランスを確保し、健康的に業務に取り組めるように尽力したいと思います。

医事課

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足度の視点

達成目標：接遇の向上。医事課全員が同じ様に患者対応ができるようにする。

B-1. 健全経営の視点（財務の視点）

達成目標：毎月の入院未収金新規発生を100万円以下、外来未収金合計を30万円以下にする。

C-1. 医療の質向上の視点（業務プロセスの視点）

達成目標：インシデント・アクシデントレポートの作成を積極的に行う。

D-1. 学習と成長の視点

達成目標：業務の効率化を図り、スタッフのモチベーションを向上させる。

【今年度を振り返って】

今年度は5月8日から新型コロナウイルスが5類へ引き下げられ、患者様やそのご家族、業者様とお話する機会が多くなったことから、質の高い接遇力が求められた事を実感した。医事課のミーティングにて「接遇」をテーマにした資料を用い、上期に2回勉強会を開催したが、下期では勉強会自体の開催をすることができなかった。業務多忙中、隙間時間で目を通せるよう接遇に関する資料を回覧することはできていた。来年度は勉強会の担当を持ち回り制にするなどして、最低でも4回の勉強会を開催し、満足いただける接遇力の向上に努めたい。

未収金に関しては、入院未収金新規発生や外来未収金額残高が目標額まで抑えられなかった。その背景には督促業務が十分に行われていなかったことが考えられる。まずは医事課全体がミーティングを活用し未収金を把握、督促の流れをマニュアルにて周知し、全体で協力して督促業務を行っていききたい。

インシデント、アクシデントのレポート作成では年間48枚の目標に対して半分満たなかった。日常業務を優先し、作成に対する重要性の認識が足りていなかったと感じた。毎朝の事務部朝礼にて事例を報告し、作成に期日を決めるなどして作成率を上げていかなければならない。

業務の効率化に対しては、マニュアル作成が最新のデータに更新を完了した上で機能評価審査を迎えることができた。新人も少なくなってきたおり、全体的に業務に余裕が見えてきている。来年度は次のステップとして、業務内容の改善案立案、改善に対する実行を各々が行っていききたい。

診療報酬・介護報酬の同時改定がある為、情報の収集をしっかり行い知識を身に付ける。他部署スタッフから診療報酬に対して質問を受けても誰もが自信を持って対応できるようにしていく。

総務係

【今年度の取り組み】

A-1. 多言語対応可能な病院づくりを行う

達成目標：院内の案内や掲示物に英語表記を追加できなかった

A-2. 障害者のニーズに対応可能な病院づくりを行う

達成目標：聴覚障害者向けの対応マニュアルを作成したが、手話での対話はまだ対応が難しい

B-1. 年間平均病床稼働率97%以上

達成目標：年間平均病床稼働率96.1%

B-2. スケジュールに沿って病床再編を行う（6月・10月予定）

達成目標：10月の病床再編に際しての保健所届出・厚生局届出は問題なく行え、スケジュール通り出来た

B-3. 年間外来報酬10%増収

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 部門別活動報告

達成目標：年間外来報酬昨年度比較 12.2%減

C-1. 2月の機能評価受審時に評価として、S評価を1項目以上、B評価を5項目以下にする

達成目標：S評価を2項目であり目標達成できたが、B評価は10項目あった

C-2. 機能評価の評価項目で4領域（事務領域）にて、すべての項目においてA評価以上を目指す

達成目標：4領域（事務領域）については、すべてA項目の評価であった

D-1. 院内研究発表会、全国学会にて演題発表

達成目標：全日本病院学会にて10/15に演題発表を行った

D-2. 各職員がそれぞれ年2回以上院外の研修会に参加する

達成目標：職員がそれぞれ院外研修に1回以上参加できなかった

【今年度を振り返って】

今年度は「キラメキテラス」のシェラトン鹿児島やサービス棟のオープンに伴い、患者の多様性を想定して多言語・障害者対応に特化した目標を掲げていたが、達成すべき内容のすべてを完了することができなかった。ただ、多言語対応アプリや自治体が提供する通訳サービスの登録、医療現場に特化した手話の本の購入など一部の内容については達成ができています。経営の視点に関して、病床稼働率年間平均を97%で設定していたが、実績は96.1%で未達となった。また、外来年間報酬についても10%以上増収を目指していたが、結果昨年度より12.2%減収といった結果であった。ただ予定していた6月・10月の病床再編についてはスケジュール通り行うことができた。今年度更新受審であった病院機能評価の審査結果については、S評価2項目で前回より1項目増えた。ただB項目が10項目の結果となり、前回より5項目増加している。4領域（事務）についてはすべてA項目の評価であった。職員の学習と成長への取り組みとして、10月14日・15日に開催された第64回全日本病院学会にて1演題発表を行った。ただ、研修への参加としては積極的な参加ができずに終わっている。今年度の結果を振り返り、来年度は引き続き患者満足の上昇・医療の質向上のために多様性に対応できる現場の環境づくりや病院機能評価の評価内容の見直し、また健全な病院経営・職員の教育のために稼働率達成の必達、今後の病床再編の円滑な申請スケジュールの順守や積極的な学会・研修への参加を行っていきたい。

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 各種委員会

2023 年度 委員会・会議 一覧

	委員会名	開催日	目的
診療関係	診療情報管理委員会	第 3 金曜 (偶数月)	診療録管理室の運営管理、診療録及び諸様式伝票類の検討等を行い、診療上の有効的効率的運営を図る
	給食運営委員会	第 2 月曜 (毎月)	栄養管理・給食管理上の現状、その問題点・課題を把握し、改善策を検討・実施する
	薬事審議会	第 2 金曜 (偶数月)	薬物療法の合理的発展を図る
	褥瘡対策委員会	第 4 月曜 (毎月)	褥瘡を予防することを目的とする
	身体抑制廃止推進委員会	第 4 木曜 (毎月)	身体抑制廃止へ向けて職員の意識向上を図る事を目的とする
	輸血療法委員会	第 4 月曜 (3 ヶ月に 1 回)	院内における輸血に際し、安全かつ適正な輸血療法が出来るよう輸血療法に関する事項について審議する
	口腔機能向上委員会	第 2 水曜 (毎月)	口腔に関する現状を討議することで知識・実技の向上を図ることを目的とする
	地域包括ケア病棟運営委員会	第 1 火曜 (毎月)	地域包括ケア病棟業務に関わる他職種の連携・連絡を図る
	回復期病棟運営委員会	第 1 金曜 (毎月)	回復期リハ病棟業務に関わる他職種の連携・連絡を図る
	トイレ委員会	第 3 水曜 (毎月)	患者さまの排尿自立へむけて、排尿ケアチームで支援を行うことを目的とする。
	コーディング委員会	第 3 金曜 (年に 2 回)	標準的な診療及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする
	通所リハビリテーション	第 1 火曜 (毎月)	通所リハビリテーションの実績や問題点等の現状を把握し、円滑な運営を図る
	クリニカルパス委員会	年 2 回 (6 ヶ月に 1 回)	クリニカルパスを作成することで、患者さまに対し恒常的に同一水準以上の医療を受けられるようにすることで QOL の向上など治療効果を高め、病院全体の医療向上に寄与すること。
	診療管理会議	第 3 金曜 (毎月)	診療の質向上に取り組むとともに、診療に関する協議や周知を図ることを目的とする。
	医局会	第 2・4 金曜 (毎月)	医局運営に関する事項の決定及び周知を図ることを目的とする
教育関係	個人情報管理委員会	必要時	患者さまや職員等に関する個人情報適切に取扱い、患者さまから信頼されることと診療情報の提供を適切に行うことを目的とする
	倫理検討委員会	第 4 火曜 (毎月)	倫理上問題となる症例への対応および倫理に関する教育・研修などにより、患者さま中心の医療を推進するために必要な事項を定める
	教育委員会	第 2 火曜 (毎月)	医療の知識、技術の向上を目的とする
	記録委員会	第 2 金曜 (毎月)	看護の質の向上を目指し、看護記録に関する検討を行い、その体制の整備を図ることを目的とする
	環境美化委員会	第 4 月曜 (毎月)	病院内外の美化に努めることを目的とする
	サービス向上委員会	第 4 火曜 (毎月)	患者さま・ご家族より寄せられたご意見・苦情・提案に関して病院として真摯に取組み、サービスの向上を目的とする
	情報管理委員会	第 2 月曜 (毎月)	情報管理業務の円滑な運営を目的とする
	図書委員会	第 1 金曜 (毎月)	院内図書の円滑な購入及び管理を行う
医療安全対策関係	医療ガス委員会	第 1 月曜 (年 1 回)	医療ガスの使用上の安全確保を目的とする
	労働安全衛生委員会	第 3 火曜 (毎月)	職員の安全と健康を確保することによって病院業務の円滑な運営を図る
	院内感染対策委員会	第 4 月曜 (毎月)	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	医療安全管理委員会	第 1 月曜 (毎月)	医療安全管理対策を総合的に企画、実施することを目的とする
	医療安全カンファレンス	毎週金曜	医療安全管理対策を実効あるものとするを目的とする

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 各種委員会

	看護部感染委員会	第4月曜（毎月）	看護部の感染対策に対する現状を把握し、職員の感染対策に対する意識向上に向けた取り組みを目的とする。
	腰痛予防対策委員会	第4水曜（毎月）	職場の労働安全衛生水準を向上させること
その他	病院運営会議	毎週月曜	良質で安全な医療サービスの提供と、安定的な経営の維持、問題解決を目指し病院の運営方針の決定を行う
	院内スタッフ会議	第3金曜（毎月）	各部署の実績や連絡事項をはじめ、病院の運営方針など院内で決定された内容の伝達を目的とする。
	看護職員負担軽減検討委員会	第3金曜（毎月）	看護職員の負担軽減及び処遇の改善に関する事項を審議する
	マナ美隊（接遇）	第2水曜（毎月）	職員の接遇の向上に努めることを目的とする
	レク行事部会	第3水曜（毎月）	季節にあった催しを患者様と共に取り組み、人とのふれあいを通して気持ちの向上や生きがい、コミュニケーションを目的とする。
	編集委員会	第2火曜（毎月）	広報誌の準備・編集・発送を行う
	機能評価委員会	第1金曜（毎月）	機能評価機構の認定及びその更新を目的とする
	エコアクション委員会	第4水曜 （2ヶ月に1回）	エコアクション21認定及びその更新を目的とする
	未収金会議	第4月曜（毎月）	病院の未収金発生を抑制するための院内の諸手続きを定め、個人未収金の減少を目的とした未収金管理の確立及び維持のために必要な事項を定める

院内研修会 開催状況

■全職員向け

月日	内容	講師	研修分類
4月	接遇・マナーの基本 ～患者・家族とのかかわり方～	学研メディカルサポート eラーニングシステム	接遇
5月	学び直しの標準予防策(スタンダードプリ コーション)	学研メディカルサポート eラーニングシステム	感染対策
6月	チームの力を引き上げる！多職種で取り 組む医療安全	学研メディカルサポート eラーニングシステム	医療安全
	歯科勉強会について	さこだ歯科	その他
7月	感染物の取り扱いについて	ジャパンウェスト 株式会社	感染対策
	安全運転講習について		その他
8月	医療職のためメンタルヘルスケア	学研メディカルサポート eラーニングシステム	その他
	吐物処理について	村上 裕樹 小牧 むつみ	感染対策
9月	医療従事者が知っておくべき個人情報の 適切な取り扱い方	学研メディカルサポート eラーニングシステム	個人情報
	機能評価認定制度について	宮口 光太	その他
10月	基礎からわかるインフルエンザ対策	学研メディカルサポート eラーニングシステム	感染対策
	腰痛予防について	五十峯 かずみ	その他
11月	BLS 勉強会	福德 知	医療安全
12月	放射線従事者等に対する診療用放射線に おける安全管理～患者に納得いただくた めの説明と同意の必要性～	学研メディカルサポート eラーニングシステム	医療安全
	認知症ケア事例検討会	西別府 愛	倫理
	禁煙について	株式会社 Cure App	その他
	医薬品の取り扱いについて	東園 美千代	医療安全
1月	臨床倫理事例検討会	学研メディカルサポート eラーニングシステム	倫理
2月	高齢者虐待における病院の役割	学研メディカルサポート eラーニングシステム	倫理
3月	排尿自立について	内田 洋介 成枝 真紀	診療報酬
	エコアクション	宮口 光太	その他

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 学術活動 院内研修

■看護部院内研究発表会

開催日：2024年1月17日

1. 入院時から始まる退院支援を見据えた情報共有の方法について
～前年度の研究結果を踏まえた取り組み～ 5階：川原 美結
2. 情報ツールを活用した業務の見直し
～申し送りの簡略化にむけて～ 6階：坂本 二千恵
3. エコーを活用したバスキュラーアクセス（VA）管理への取り組み 透析：折小野 理恵
4. 認知症患者における身体拘束ゼロに向けた取り組みについて 3階：杉寄 芹菜
5. 回復期リハ病棟におけるFIM向上のための取り組み
～セルフケア獲得に向けた病棟リハビリ介入を通して～ 4階：相良 奈知
6. 上部内視鏡検査におけるアイスドロップ法を試みて 外来：美野 汐里

■介護部院内研究発表会

開催日：2024年3月4日

1. オムツの当て方の見直し～スタッフの技術・意識の向上を目指して～ 3階病棟：鳥越 直美
2. 手指消毒の習慣化 ～消毒液消費率アップを目指して～ 4階病棟：山内 将馬
3. 患者様のプライバシーを守るために 5階病棟：佐藤 実
4. 下肢拘縮予防への取り組み 6階病棟：末吉 利佳
5. eスポーツの導入 通所リハビリ：川淵 順子

■第22回 院内研究発表会

開催日：2024年3月22日

1. 認知症患者における身体拘束ゼロに向けた取り組みについて 3階病棟：福德 知
2. 実践！レセプト業務改善と働き方改革 医事課：古川 佳世
3. 健診による紙の使用削減「リデュース」活動
～ペーパーレス化に向けての第一歩～ トータルウェルネスセンター：堂免 知弘
4. 上部内視鏡検査におけるアイスドロップ法を試みて 外来：美野 汐里
5. 下肢拘縮予防への取り組み 6階病棟：末吉 利佳
6. 多職種協働で取り組む歩行自立度評価の検者間信頼性の検証 リハビリ室：東畑 耕平

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 実習受入れ

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 実習受入れ

看護部

月 日	学校名	参加人員
5月9日～5月25日	鳳凰高等学校 専門課程 成人看護Ⅱ臨地実習	7名
5月29日～6月23日	鳳凰高等学校 基礎課程 基礎看護臨地実習	5名
8月28日～9月14日	鳳凰高等学校 専門課程 成人看護Ⅱ臨地実習	7名
9月19日～9月20日	鳳凰高等学校 基礎課程 基礎看護臨地実習	10名
9月21日～9月22日	鳳凰高等学校 基礎課程 基礎看護臨地実習	10名
10月16日～10月26日	鳳凰高等学校 専門課程 成人看護Ⅰ臨地実習	5名
11月6日～12月1日	鳳凰高等学校 基礎課程 成人老年看護臨地実習	5名
5月29日～6月16日	医療技術専門学校 成人・老年看護学実習Ⅱ	4名
7月24日～8月10日	医療技術専門学校 成人・老年看護学実習Ⅱ	2名
10月23日～11月10日	医療技術専門学校 成人・老年看護学実習Ⅱ	5名
12月11日～12月21日	医療技術専門学校 基礎看護学実習②	5名
R6.2月5日～2月21日	医療技術専門学校 看護過程実習	5名
R6.1月30日～1月31日	神村学園専修学校 成人期 ヘルスプロモーション実習	5名
R6.2月13日～2月14日	神村学園専修学校 成人期 ヘルスプロモーション実習	3名
11月13日～12月1日	県立鹿児島高等特別支援学校	1名
	計	79名

地域医療連携センター

月 日	学校名	参加人員
8月1日～9月1日	宮崎福祉医療カレッジ 社会福祉学科	2名

リハビリテーション室

月 日	学校名	参加人員
4月17日～6月10日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 理学療法学科	1名
5月8日～7月1日	鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻	1名
5月15日～6月30日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
5月22日～6月17日	麻生リハビリテーション大学 言語聴覚学科	1名
7月24日～9月15日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1名
7月24日～9月15日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1名
7月31日～8月2日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 理学療法学科	1名
8月7日～9月29日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 言語聴覚学科	1名
9月11日～9月15日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚学科	1名
9月18日～9月22日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1名
9月19日	鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻	5名
10月30日～12月26日	熊本保健科学大学 言語聴覚学科	1名
11月13日～12月8日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
1月29日～2月2日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1名
2月5日～2月9日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1名
2月19日～2月21日	鹿児島大学 医学部保健学科 理学療法専攻	1名
3月4日～3月8日	神村学園専修学校	1名
		21名

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 実習受入れ

栄養室

月 日	学校名	参加人員
8月16日～8月29日	鹿児島県立短期大学 生活化学科 食物栄養学専攻	2名

臨床工学室

月 日	学校名	参加人員
7月18日～7月31日	鹿児島医療工学専門学校	2名

JOY メディカルクリニック 介護医療院おはな

2023 年度 医療法人玉昌会 JOY メディカルクリニック・介護医療院おはな

《理 念》

行動指針「低賞感微」に沿った医療・介護サービスを提供します

《基本方針》

1. 患者さま・利用者さまの尊厳や権利を尊重した医療・介護を行います
2. 患者さまの視点に立ち、良質で安心・安全な医療・介護の提供に努めます
3. 地域包括ケアシステムの構築に寄与し、全世代に対応した医療・介護・福祉サービスを含めた生活支援サービス提供を目指します
4. 『健康経営宣言』に則り、病院および在宅サービス事業部の健全な運営を行い、安心して働きがいのある職場づくりに取り組みます
5. 健診事業や健康増進事業に取り組み、職員や地域住民の健康管理や病気および介護予防に取り組みます入力してください

《運営方針》

1. 患者さんの医療・介護の質の確保と安全に努めます
2. 慢性腎臓病（CKD）を中心とした腎疾患診療部門の充実を図ります
3. 健診事業による5疾病の未病・予防に取り組みます
4. 『健康経営宣言』に則り、療養・職場環境の改善に努めます
5. 人財の確保および育成に努めます
6. 地域共生社会の実現に取り組みます
7. 地域のニーズにあった病院機能の見直しを行います
8. 将来の病院機能を見据えた病床機能の再編に取り組みます
9. 加治木温泉病院の新築移転に向けての取り組みを進めます

JOY メディカルクリニック・介護医療院おはなの沿革

- | | |
|-------------|---|
| 2022 年 12 月 | JOY メディカルクリニック開院
介護医療院おはな開院 病床数 60 床 |
| 2022 年 12 月 | 難病の患者に対する医療等に関する法律第 14 条第 1 項の規定による指定医療機関 指定（JOY メディカルクリニック・介護医療院おはな） |
| 2022 年 12 月 | 生活保護法に基づく指定医療機関 指定（JOY メディカルクリニック・介護医療院おはな） |
| 2022 年 12 月 | 診療・検査医療機関 指定（JOY メディカルクリニック） |
| 2023 年 1 月 | 労災保険指定医療機関 指定（JOY メディカルクリニック） |

JQY メディカルクリニック・介護医療院おはな 2023 年度概要

名 称 医療法人玉昌会 JQY メディカルクリニック
介護医療院おはな

所在地 〒899-5231
鹿児島県始良市加治木町反土 2156 番地 5
TEL (0995) 73-3356 FAX (0995) 62-0120 (JQY メディカルクリニック)
TEL (0995) 63-8889 FAX (0995) 62-0120 (介護医療院おはな)

【JQY メディカルクリニック】

開設者 理事長 高田 昌実

管理者 院長 濱田 浩志

診療科目 内科

社会保険等指定

保険医療機関、生活保護、労災保険、難病医療等指定医療機関、
外来対応医療機関（新型コロナウイルス）

施設基準

情報通信機器を用いた診療に係る基準

【介護医療院おはな】

開設者 理事長 高田 昌実

管理者 院長 濱田 浩志

療養室数 60 室

施設基準

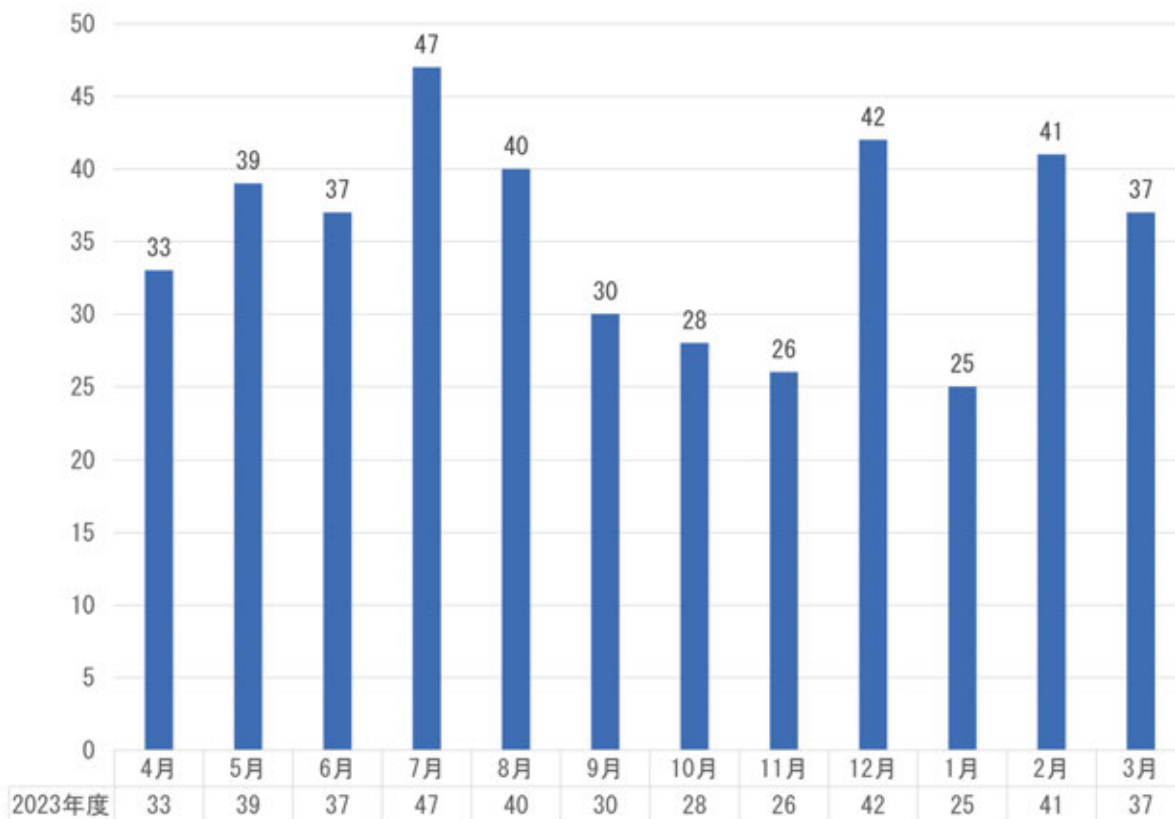
Ⅱ型介護医療院サービス費Ⅰ、夜間勤務条件基準 加算型Ⅳ、
身体拘束廃止取組の有無 基準型、安全管理体制 基準型、
栄養ケア・マネジメントの実施、療養環境基準（廊下） 基準型、
療養環境基準（療養室） 基準型、若年性認知症入所者受入加算、
栄養マネジメント強化体制、療養食加算、集団コミュニケーション療法、
リハビリテーション提供体制 理学療法Ⅰ、作業療法、言語聴覚療法、その他、
排せつ支援加算、自立支援促進加算、科学的介護推進体制加算、
安全対策体制、サービス提供体制強化加算 加算Ⅱ、
介護職員処遇改善加算 加算Ⅰ、LIFE への登録

その他

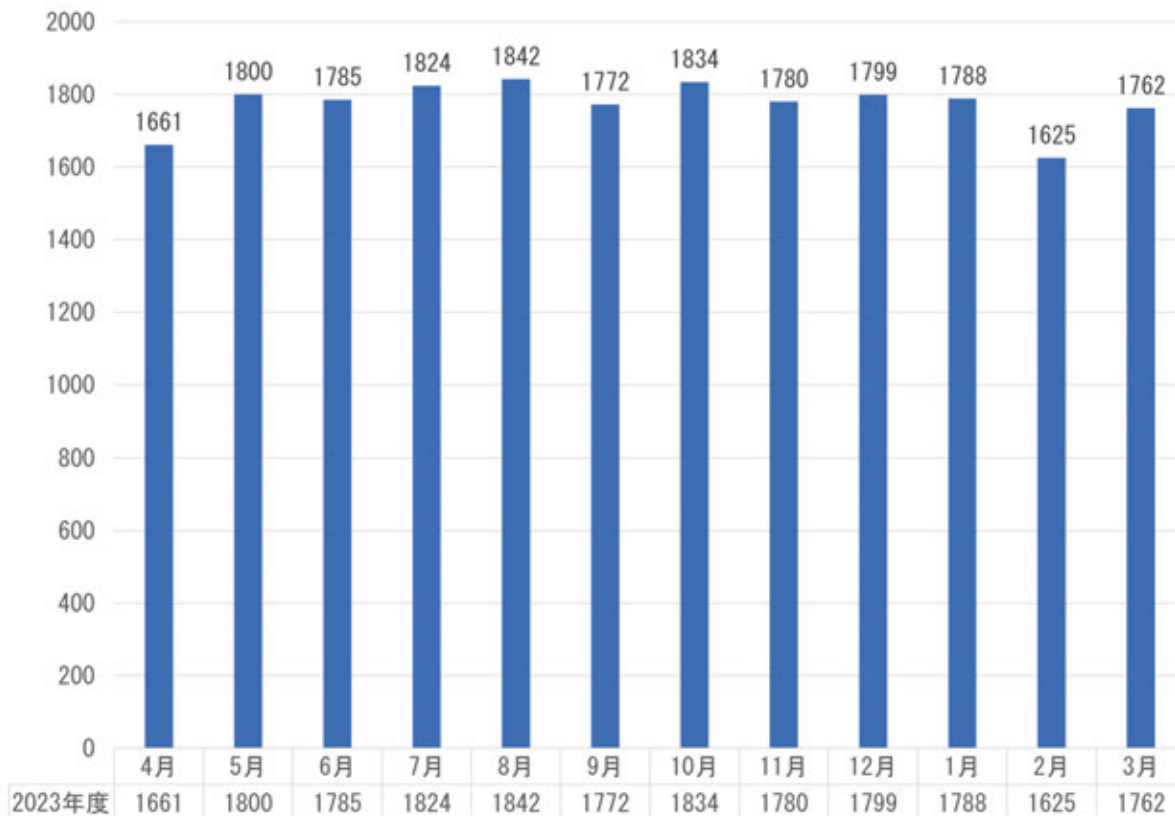
難病医療等指定医療機関、生活保護指定医療機関、不在者投票実施指定

JOY メディカルクリニック・介護医療院おはな 統計

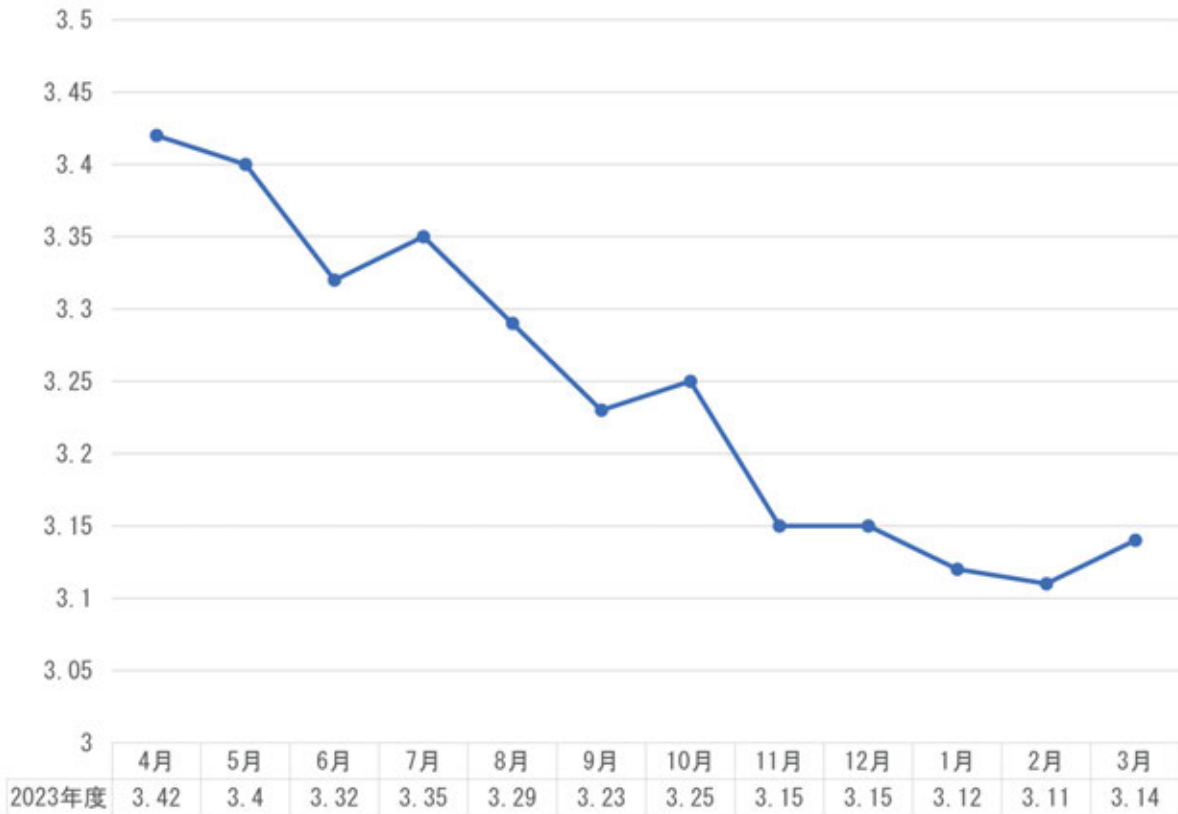
2023 年度 JOY メディカルクリニック 患者延数



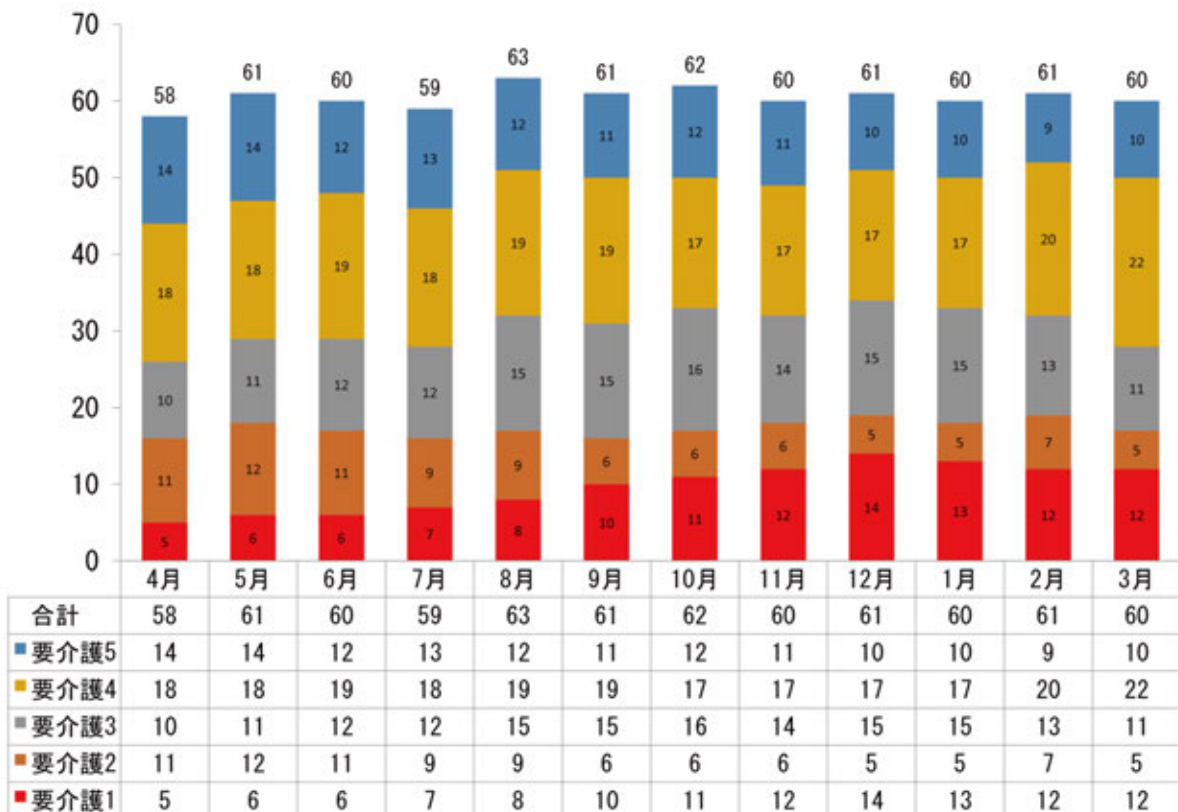
2023 年度 介護医療院おはな 入所者延数



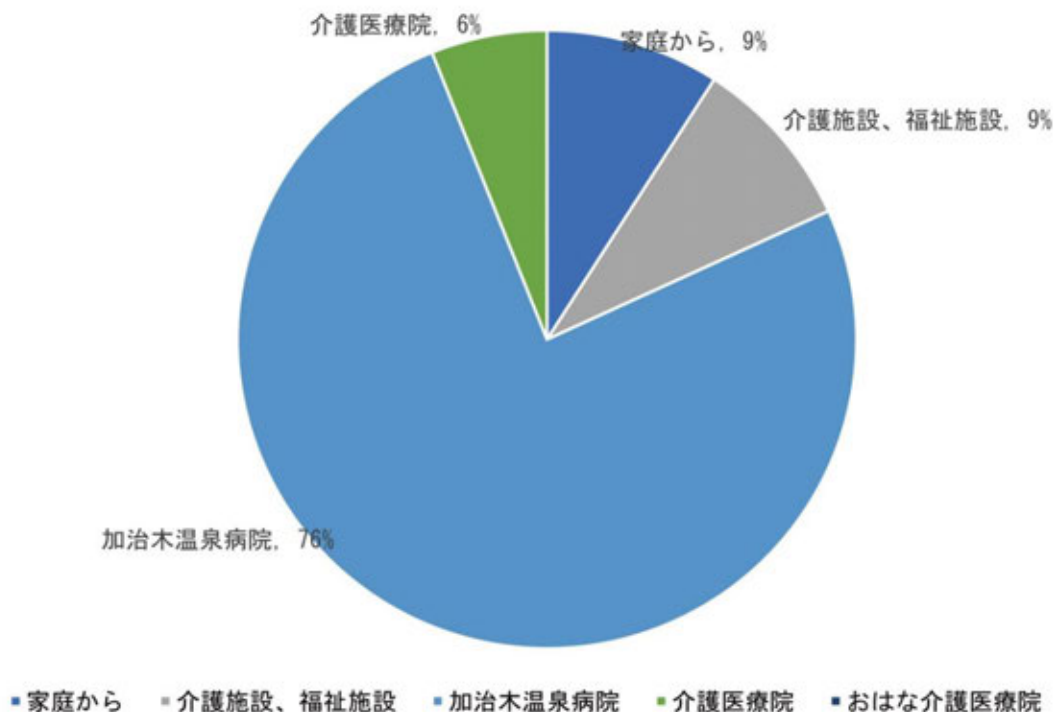
2023 年度 介護医療院おはな 平均介護度



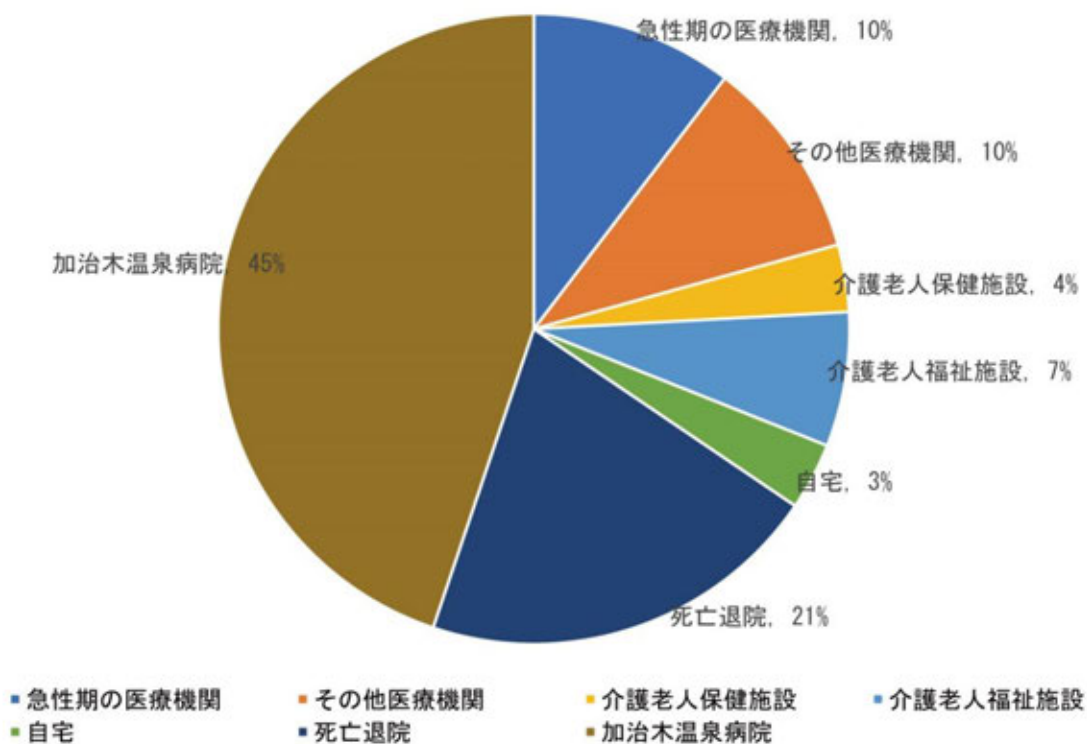
2023 年度 介護医療院おはな 介護度別分布



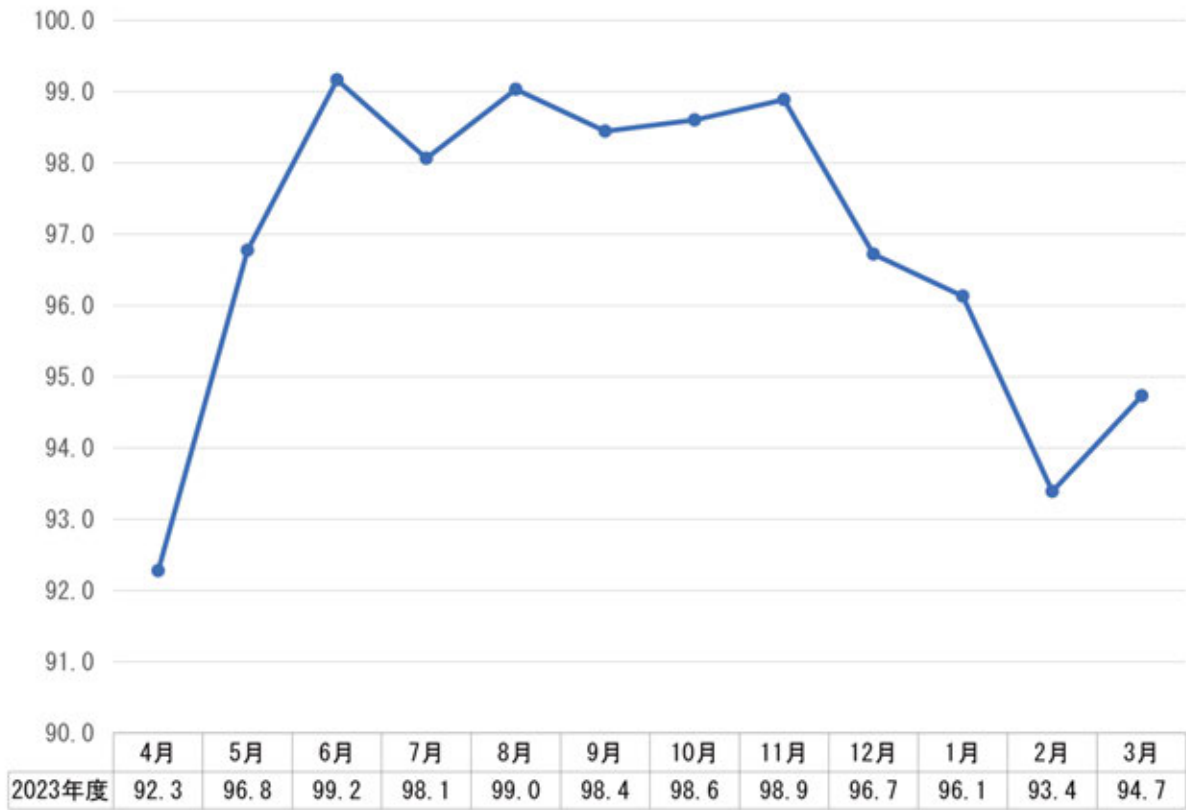
2023 年度 介護医療院おはな 紹介元別割合



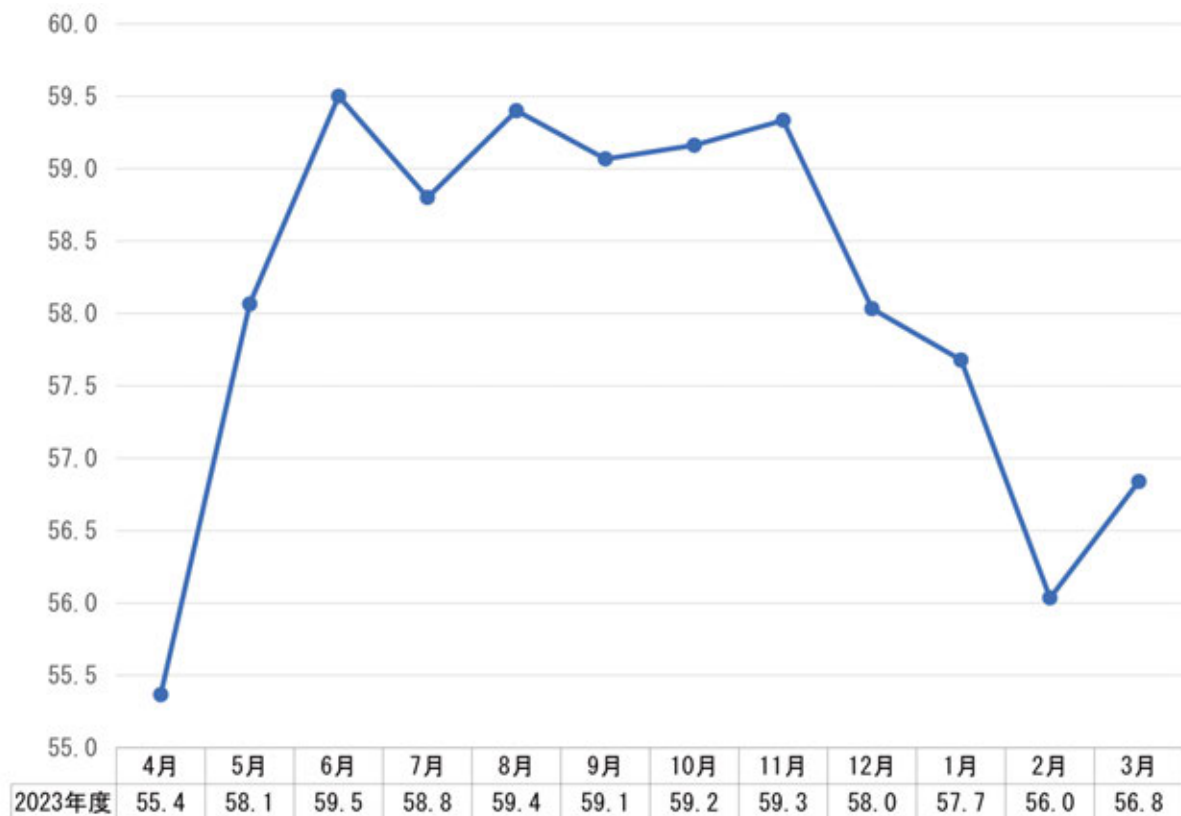
2023 年度 介護医療院おはな 逆紹介元別割合



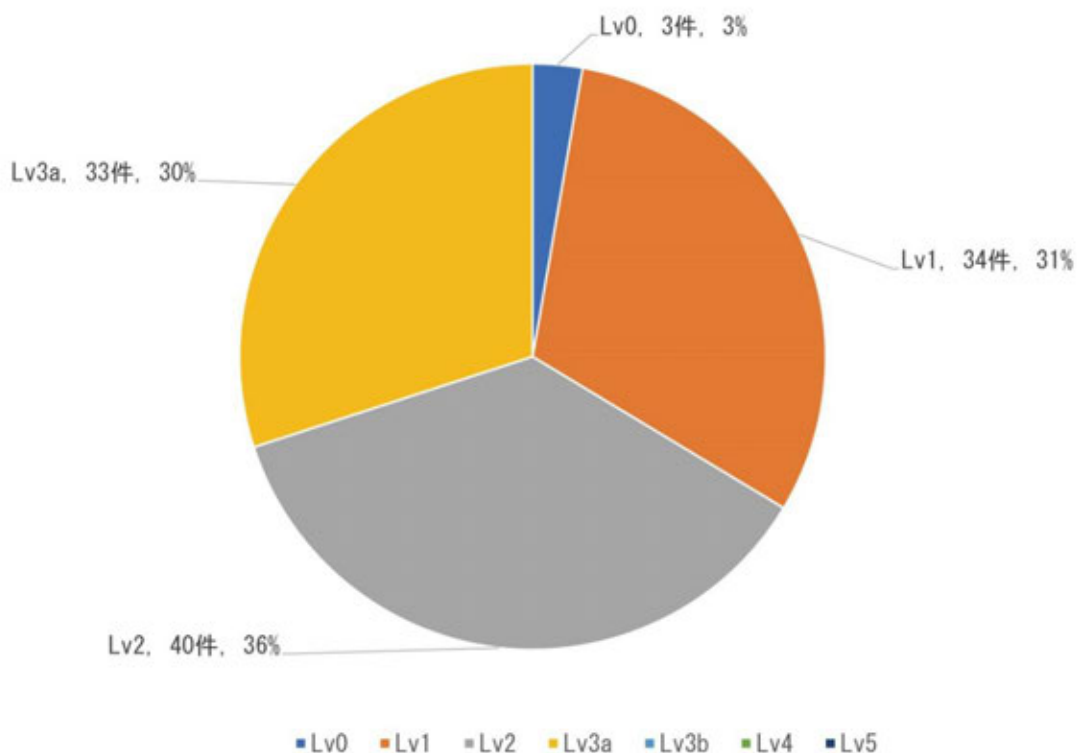
2023 年度 介護医療院おはな 稼働率



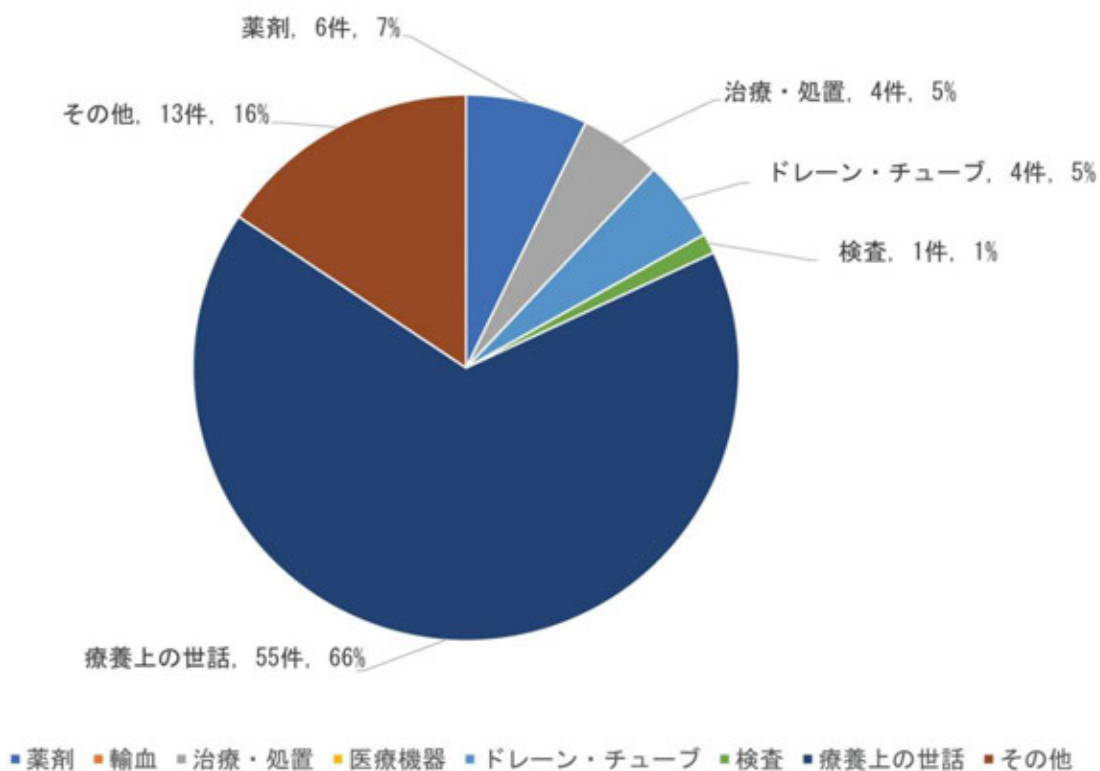
2023 年度 介護医療院おはな 平均入所者数



2023 年度 介護医療院おはな 事故レベル別件数



2023 年度 介護医療院おはな 要因別発生件数



JOY メディカルクリニック・介護医療院おはな 部門別活動報告

看護部

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域包括ケアシステムを意識した活動の強化
達成目標：ケアプランに沿った看護計画の修正。新規入所時のACPの確認
- B-1. 入院病床稼働率向上
達成目標：9月には100%達成したが、コロナ感染症や看取り症例あり、年間平均稼働率96.8%
- C-1. 医療・介護の質向上。業務負担の軽減
達成目標：認知症、ターミナルケアの研修会。看取りに対する意識向上が図れた。管理者による年間4回の職員との面談を実施。心身面のフォロー、業務負担軽減を図った
- D-1. 専門性の強化
達成目標：看取り、認知症、人権擁護、ケアマネ資格取得・更新、喀痰吸引指導、救命救急研修など介護施設に飛鳥な専門的知識の向上が図れた。

【今年度を振り返って】

今年度は、看取り体制の構築と職員の意識向上に取り組んだ。入所者が穏やかな最期が過ごされるよう支援、ご家族からの「住み慣れた、おはなで最後まで」の言葉に寄り添う介護の提供が出来た。介護の専門的知識の向上にむけ、積極的に研修会参加、資格取得に取り組んだスタッフがいた。一方で研修会へ参加するスタッフには偏りがみられたため、個々の目標に沿った研修会参加への計画が必要である。また、働き続けられる環境づくり、多様な勤務形態を導入し離職防止を図った。コロナ感染症の発生・看取り症例に伴い、入所・在宅支援への遅れがあったが、稼働率100%を目指し、加治木温泉病院との連携、外部からの入所調整に取り組んだ。介護の人手不足による多重業務、腰痛などの身体的負担が心配された。タスクシフト・シェアを行い、業務の効率化と業務負担軽減、時間外勤務時間軽減を図った。

医事係

【今年度の取り組み】

- A-1. 接遇の向上、改善
達成目標：満足度調査で事務に対する満足度90%以上
- B-1. 増収対策、安定経営への取り組み
達成目標：新規届出もしくは増収に関する提案1つ以上（1年間に2つ以上）
- B-2. 増収対策、安定経営への取り組み
達成目標：年度末までに稼働率90%（54床）以上を達成する
- C-1. インシデントアクシデントに対する意識の向上、改善
達成目標：1人6枚以上提出
- D-1. 教育体制の向上
達成目標：全国の学会で1演題発表

【今年度を振り返って】

満足度調査の準備・実施や、経常利益の黒字化に対する提案、全国学会での発表など、多くの項目は達成できた。次年度は報酬改定もあるので、更なる増収対策に取り組みたい。また、入所者・職員満足度向上に向けて取り組みたい。

介護医療院おはな 各種委員会

2023 年度 委員会・会議 一覧

	委員会名	開催日	目的
診療関係	栄養管理委員会	第2木曜	栄養管理・給食管理上の現状、その問題点・課題を把握し、改善策を検討・実施することにより円滑で適性な運営を図る
	口腔衛生管理委員会	第4木曜	口腔に関する現状を討議し、健全に維持するために職員の知識・技術向上を図ることを目的とする
教育関係	看護部教育委員会(合同)	3ヶ月に1回	看護職、介護職の知識・技術の向上と協同を目的とする
	看護部教育委員会(CW)	第1木曜	介護職の知識・技術の向上を目的とする
	虐待防止対策委員会	第3木曜	虐待等の発生の防止・早期発見に加え、虐待等が発生した場合はその発生を確実に防止するための対策を検討し、職員に周知徹底を図る
	看護部教育委員会(Ns)	第3木曜	知識・技術の向上、主体性と自主性のある看護職の育成
医療安全対策関係	褥瘡対策委員会	第2木曜	褥瘡を予防することを目的とする
	院内感染対策委員会	第4木曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	看護部記録委員会	第4木曜	看護記録について勉強会や監査を行い記録の充実を図る
	事故防止検討委員会	第3木曜	安全対策・事故防止に対する取り組みを行う
	身体拘束適正化検討委員会	第3木曜	身体的拘束等の適正化のための対策を検討し職員に周知徹底を図る
その他	介護医療院おはな運営会議	第4木曜	良質で安全な医療・介護サービスの提供と、安定的な経営の維持、問題解決を目指し介護医療院の運営方針の決定を行う

在宅事業

2023 年度 医療法人玉昌会 在宅サービス事業部

《経営理念》

「いつまでも健やかに・・・

ー私たちの願いです。」

「貴方らしく暮らすために・・・私たちは地域に貢献します。」

《経営目標》

私たち医療法人玉昌会は、

地域の医療・介護及び福祉のシームレスな連携を構築します。

地域の皆様の安心・安全・健康に貢献します。

「生き生き」暮らす環境を提供します。

在宅サービス事業部の概要

名称 医療法人玉昌会 在宅サービス事業部
開設者 高田 昌実

◇◇◇ 鹿児島地区 ◇◇◇

訪問介護ヘルパーステーション 甲東 鹿児島市新町 5 番 19 号高田ビル 405	TEL099-219-2670	1998 年 5 月開設
居宅介護支援事業所キラメキ 鹿児島市荒田 1 丁目 16-3 YU FIRST BLDG. 4 階	TEL099-203-0172	1999 年 10 月開設
デイサービス 風の街 鹿児島市堀江町 6-3	TEL099-248-8112	2011 年 5 月開設
看護小規模多機能型居宅介護 星の街 鹿児島市堀江町 6-3	TEL099-248-8136	2011 年 5 月開設
住宅型有料老人ホーム ほりえ 鹿児島市堀江町 6-3	TEL099-248-8111	2011 年 5 月開設
訪問看護ステーション まむ鹿児島 鹿児島市堀江町 6-3	TEL099-248-8450	2012 年 7 月開設
キラメキテラス看護小規模多機能型居宅介護 麗 鹿児島市高麗町 22-16	TEL099-230-7122	2021 年 3 月開設

◇◇◇ 始良地区 ◇◇◇

居宅介護支援事業所 めく杜 始良市加治木町反土 2156-5	TEL0995-62-0106	1999 年 10 月開設
訪問看護ステーション まむ 始良市西餅田 202-3	TEL0995-55-4649	2008 年 3 月開設
デイサービス しあわせ通りらぶ (2024 年 4 月 30 日 休止) 始良市加治木町反土 2156-5	TEL0995-62-5950	2016 年 4 月開設
グループホーム 木もれ日 (2024 年 4 月 30 日 休止) 始良市加治木町反土 2156-1	TEL0995-62-5915	2009 年 4 月開設
グループホーム 花いちもんめ (2024 年 4 月 30 日 休止) 始良市加治木町木田 4888-4	TEL0995-62-2983	2016 年 4 月開設
住宅型有料老人ホーム おはな別館 始良市西餅田 202-3	TEL0995-65-2040	2011 年 6 月開設
看護小規模多機能型居宅介護 お福 始良市西餅田 202-3	TEL0995-65-1234	2021 年 10 月開設
看護小規模多機能型居宅介護 とまり木 (2024 年 3 月 31 日 休止) 始良市加治木町反土 2156-1	TEL0995-62-5916	2020 年 10 月開設

在宅サービス事業部 部門別活動報告

住宅型有料老人ホーム おはな別館

【今年度の取り組み】

A-1. 利用者様の満足度向上

達成目標：緊急時において主治医、看護小規模多機能の訪問看護と連携を図ることで下期 1 月にご入居者様のお看取りをさせていただくことができた。

B-1. おはな別館の健全運営

達成目標：平均入居者率 19.0 名 稼働率 95.3% 満床 4 か月推移することができた。

C-1. リスクマネジメントの強化

達成目標：事業所ミーティングにてインシデント・アクシデント・事故報告をし、事故発生時には対策を検討、在宅会議にて報告している。しかし、年間報告の集約・分析・職員への報告を未実施である。

C-1. 法令遵守に基づくサービスの提供

達成目標：立ち入り検査受信し改善項目（長期収支計画の作成）あり改善を行った。

D-1. 業務に関する基礎知識の習得 学習意欲の向上

達成目標：4 月に研修計画を立案し、重点項目である身体拘束・高齢者虐待・認知症、感染対策を取り入れるも決まった職員のみで参加率は低く未達成である。

【今年度を振り返って】

今年度は、目標平均入居者数 19 名・目標平均稼働率 95%に対し、年間平均入居者数実績 19.0 名、年間平均稼働率 95.3%と、目標は達成することができました。要因としては、おはな本館の転換に際し転居者 5 名の受け入れを行い満床となるも、同じくおはな本館から職員の配置転換もあったため人件費増となりました。

下半期に看護小規模多機能お福と連携し、施設内でのお看取りを 1 名させていただくことができ、ご利用者様ご家族様の満足度に努めることができました。又、本年度コロナ渦にて開催できませんでした対面式での運営懇談会を開催でき、利用者家族の皆様との情報共有を図ることが出来ました。

新型コロナウイルスのクラスター感染を経験し、ご利用者様やご家族様にはご心配ご迷惑をお掛けした年でした。今後も、引き続き感染症対策を進めてまいります。

住宅型有料老人ホーム ほりえ

【今年度の取り組み】

A-1. ご家族様・ご入居者様の満足度率向上

達成目標：ほりえ全体でのイベント実施。満足度調査による満足度率 85%以上

B-1. 既存事業所の健全経営

達成目標：予算書に基づく事業運営年、平均値 26.1 名

C-1. リスクマネジメントの強化

達成目標：リスクマネジメント事例に対して、毎月のカンファレンス実施、他事業所事例検討

C-2. 法令遵守に基づくサービスの提供

達成目標：立入検査を見据え、事業所自己評価を行う

D-1. 業務に関する基礎知識の習得

達成目標：年間研修計画に基づいた研修参加率 65%、BCPに基づいた防災訓練の実施

【今年度を振り返って】

今年度より少しずつではあるが、コロナによる面会制限の緩和、経年劣化における建物内居室等リフォーム等を実施。入居者やご家族の満足度向上に繋げる。入居に関しては、夫婦での入居事例も視野に入れ、夫婦居室を増やし、定員 27 名から 30 名への定員変更、空床対策として短期入所を実現、要支援の方を含む 2 名の受入れを実施した。又、適切な環境、健康管理を行うため毎月モニタリングを実施し、入居後の生活向上に努めた。入居者の生活を管理する上で、非常災害等に対する対応が求められている中、法人内にてBCP（事業継続計画）における大規模災害模擬訓練に参加。連絡体制や状況把握への取り組みを行う。今後はBCPに対しての意識、計画についての周知、把握を徹底していきたい。

看護小規模多機能型居宅介護 お福

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者様の満足度向上①
達成目標：満足度調査を実施し、調査結果を運営推進会議や利用者ご家族へ公表する。
- A-2. 利用者様の満足度向上②
達成目標：サービスの質の向上や業務改善について検討し、改善事例があれば実施し評価を行う。
- B-1. 既存事業所の健全経営
達成目標：登録平均を24名。
- C-1. リスクマネジメントの強化
達成目標：毎月の定例ミーティングでインシデント・アクシデント報告・事故報告・車両事故報告を行い、対応策を検討する。また、年間の報告件数を集約・分析し、結果を全事業所に報告する。
- D-1. 法令遵守に基づくサービスの提供
達成目標：自己点検票にて自己点検（評価）を実施する。
- E-1. 業務に関する基礎知識の習得
達成目標：事業所内で研修計画を作成し、研修テーマや講師担当などを取り決め実施する。

【今年度を振り返って】

今年度は、目標登録平均者数23名に対し、年間登録平均者数実績24名と達成した結果でした。次年度も、医療機関や居宅介護支援事業所、地域包括支援センターなど周囲の関連事業所との連携を図り、迅速な対応に努めたいと思います。また、運営指導も実施され運営の仕方についても行政から指摘を頂きましたが、問題なく完了しております。

コロナ禍において今まで運営推進会議においても紙面開催で実施しておりましたが、今年度は対面式にて開催を再開でき、地域の方々のご意見を頂きながら運営が行えたと思います。10月には建昌自治会の運動会にも参加させて頂きました。今後も地域の方々との交流を図っていききたいと思います。

今年度8月より管理者及びケアマネージャーが変更となり、新たな体制を構築しながらの運営にて看取り対応や、医療ニーズがある方への対応、認知症を患っている方の対応等、業務内容を見直しながら対応出来た1年であったと思います。今後も、利用者様が住み慣れた地域で安心・安全な生活を送ることが出来るよう地域内でサポートし合いながら、本人らしい暮らしの実現に向けて支援していきます。

看護小規模多機能型居宅介護 とまり木

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者様の満足度向上
達成目標：年間計画に基づく満足度調査の実施、集計、集計結果公表。
業務改善事例があれば、実施し評価を行う。
- B-1. 既存事業所の健全運営
達成目標：登録実稼働平均25.7名、継続した各種加算の取得。
- C-1. リスクマネジメントの強
達成目標：毎月のミーティングでインシデント・アクシデント報告、事故報告、車両事故報告、検討会を実施する（毎月）。
毎月の在宅介護で件数と事例を報告する。年間の報告件数を集約・分析し結果を事業所職員に報告する。
- D-1. 法令順守に基づくサービスの提供
達成目標：事業所で自己点検表にて評価を行い年度内にて事業所で実施報告を行う。
- E-1. 業務に関する基礎知識の習得
達成目標：事業所内で研修計画を作成し実施する。研修内容やテーマ、講師担当を決め実施する。事業所内ミーティング等で勉強会の実施。重点項目として身体拘束、高齢者虐待、認知症、医療に関して研修を行う。

【今年度を振り返って】

今年度より看護小規模多機能型居宅介護での短期利用（ショートステイ）の受け入れを行い、居宅変更せず

在宅サービス事業部 部門別活動報告

一定の期間ショートステイを利用者様に提供することができた。コロナ禍で入院中の利用者様のご逝去されたり、在宅復帰が難しい利用者様等が重なることで稼働率を大きく下回る結果となった。介護職員不足等の事情により、3月末をもって事業休止することとなりました。利用者様を始め、地域の方々、関係機関にお世話になりました。誠に有難うございました。

看護小規模多機能型居宅介護 星の街

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者様の満足度向上
達成目標：満足度調査、集計実施
- B-1. 健全経営
達成目標：稼働実績 21 名の達成。
- C-1. リスクマネジメントの強化
達成目標：利用者様の安全への取り組みの実践
- D-1. 業務に関する基礎知識の習得、個々のスキルアップ 知識の向上
達成目標：外部研修へ研修参加を促し伝達講習の実施。

【今年度を振り返って】

経営面は、平均稼働人数達成出来た月もあったが、大幅な稼働には至らなかった。満足度調査を実施し満足度 92%の結果となり、利用者やその家族から暖かい言葉を頂いた。新型コロナウイルス感染対策を行いながら、レクリエーションでは年間スケジュールに合わせ計画書、報告書を作成し、事業所内でのイベントや・外出レクなどを行った。利用者にとっても喜んで頂いた。介護度の高い利用者の受け入れから、終末期ケアまでの利用者を積極的に受け入れた。経管栄養、導尿、看取り等の医療必要度の高い利用者を受け入れ、事業所としてケアの質の向上や多職種の連携を重視し、業務改善やフィードバックによる意見交換などを設け、ケアの統一を図った。リスクマネジメントの強化として急変対応など、ケアカンファレンスを都度行い、情報共有に努め介護と看護で支えていけるように努めた。外部研修では、介護職員等によるたんの吸引等の実務研修、介護福祉士による排泄ケアの講習受講、専門分野における個別研修などスキルアップへの取り組みがあった。今年も引き続き、事業所のケアの質の向上に努めると共に、より利用者様の安心安全にむけた様々な取り組みを実施したい。

キラメキテラス看護小規模多機能型居宅介護 麗

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者様の満足度向上
達成目標：満足度調査の実施 集計 集計結果の公表 接遇、マナーに関する報告ゼロ
- B-1. 健全経営
達成目標：登録実稼働 月平均 18.3 名
- C-1. リスクマネジメントの強化
達成目標：インシデント・アクシデント、車両事故の報告ゼロ 内部監査計画書の作成 事業所自己点検シートの記入
- D-1. 業務に関する基礎知識の習得、学習意欲の向上
達成目標：BCP、ハザードマップの作成を行い、高麗町の防災訓練や地域住民と介護予防に取り組む年間計画に沿った研修会の実施とオンラインを含む外部研修への参加

【今年度を振り返って】

医療行為が必要な重症の利用者を受け入れ、家族の介護負担軽減、退院後の在宅復帰支援を事業所理念とし 365 日 24 時間の運営を行っている。地域密着型サービスとして住み慣れた地域で生活を継続していくため「その人らしさ」を大事にし、通い、泊り、訪問介護、訪問看護を柔軟に組み合わせ支援継続している。2023 年度の事業所目標の達成状況は、利用者様の満足度向上の視点では満足度調査の実施、公表を行うことができた。その結果として中重度の受け入れを行い地域に貢献できていると考える。事業運営ではじめて看取り支援があり、家族とコミュニケーションを図り、ご本人の望む形での最後を迎えることができた。健全経営の面では稼働目

標を下回る結果となった。リスクマネジメントの強化の視点では車両事故の発生があり未達成となった。業務に関する基礎知識の習得の視点ではBCPの初動訓練の実施、高麗町の防災訓練参加、町内保育園との連携等実施し達成となった。運営推進会議からの地域情報から連携を行えている。学習意欲の視点では年間計画における機械の確保、オンライン研修機会の確保を行い達成となった。

グループホーム 木もれ日

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者様の満足度向上
達成目標：接遇、マナーについての勉強会を実施し、苦情報告ゼロを目指す
満足度評価の実施及び集計結果の公表を行う
- B-1. 既存事業所の健全経営
達成目標：利用者月平均 8.5 名以上
定期的に広報活動を行い、退去時のスムーズな入所に繋がるよう待機者を確保する
サテライトである花いちもんめと木もれ日とで人員の柔軟な配置を行い、人員の適正化を図る
- C-1. リスクマネジメントの強化
達成目標：インシデント・アクシデント報告・車両事故報告について、全事業所で情報共有数することで同じような事例の事故を未然に防ぐ
- C-2. 法令順守に基づくサービスの提供
達成目標：事業所の自己点検シートの記入、内部監査の実施
- D-1. 地域ケアシステムの構築、地域共生社会の実現・学習意欲の向上
達成目標：BCPの作成を行い、地域の防災訓練や地域住民と介護予防に取り組む
年間計画に沿った研修会の実施とオンラインを含む外部研修へ参加する

【今年度を振り返って】

利用者月平均 8.5 名以上という今年度の目標に対し、年間を通して月平均稼働率 8.7 名と、安定した稼働を維持することができました。また、今年度より感染対策を行いながら運営推進会議の事業所開催や地域行事への参加も再開され、地域住民の方にも、より、グループホーム木もれ日を知っていただく良い機会になったのではないかと思います。

1 月には、良質なサービス水準を確保しサービスの質の向上を図ることを目的とした外部評価を受審し、大きな指摘事項はありませんでした。

介護職員不足等諸般の事情により、4 月末をもって事業休止することとなりましたが、地域の皆様や関係事業者の皆様には開設以来大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

グループホーム 花いちもんめ

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者様の満足度向上
達成目標：毎月、管理者会議でイベント「、食事、接遇について議題を設け話し合うようにしていく。
話し合いの内容について、改善案を抽出し、実施した内容等をしっかりと記載。満足度評価を行う。
- B-1. 既存事業所の健全経営
達成目標：稼働率 95.0%、一日平均 8.5 名以上利用
予算書に基づく事業運営を行う
- C-1. リスクマネジメントの強化
達成目標：毎月インシデントアクシデント報告・事故報告・車両事故報告会を実施する。
年間報告件数を集約・分析し管理者会議で報告する。
- D-1. 法令遵守に基づくサービスの提供
達成目標：内部監査計画に沿って、内部監査の実施。(評価表に事業所名と監査日を記入する)
- E-1. 地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現
学習意欲の向上
達成目標：事業所にてBCPの作成を行い、各地域の防災訓練や地域住民と介護予防に取り組む。

在宅サービス事業部 部門別活動報告

年間計画に沿った研修会の実施とオンラインを含む外部研修への参加。

【今年度を振り返って】

利用者月平均 8.5 名以上という今年度の目標に対し、年間を通して月平均稼働率 8.6 名と、安定した稼働を維持することができました。また、今年度より感染対策を行いながら運営推進会議の事業所開催や地域行事への参加も再開され、地域住民の方にも、より、グループホーム花いちもんめを知っていただく良い機会になったのではないかと思います。

1 月には、良質なサービス水準を確保しサービスの質の向上を図ることを目的とした外部評価を受審し、大きな指摘事項はありませんでした。

介護職員不足等諸般の事情により、4 月末をもって事業休止することとなりましたが、地域の皆様や関係事業者の皆様には開設以来大変お世話になり、心から感謝申し上げます。

デイサービス しあわせ通り らぶ

【今年度の取り組み】

A-1. 利用者様への対応改善

達成目標：満足度調査の集計結果公表。

業務改善事例があれば、実施し評価を行う。

B-1. 事業所の健全経営

達成目標：延べ回数平均 526 名。1 日利用平均 20.2 名。

※人員配置不足および事業所休止予定にともない年末より新規受け入れ不可

C-1. インシデント・車両事故報告の削減

達成目標：ミーティングにてインシデント・アクシデント報告・事故報告・車両事故報告・検討会を実施する（毎月）。毎月の在宅会議で件数と事例を報告する。年間の報告件数を集約・分析し結果を事業所職員に報告する。

C-2. 法令遵守体制を整える

達成目標：自己点検を実施し、改善を行う。

D-1. 院内・院外研修への参加率の向上

達成目標：年間研修計画に基づく勉強会の実施。

【今年度を振り返って】

年間を通じて利用回数目標に対して延べ回数実績が、平均 335 名（目標比 63%）・1 日平均 12.8 名の実績にて目標は未達成となりました。今年度は人員配置不足が続き事業所運営が厳しい状況ではありましたが、地域へ根付いたデイサービスとして総合事業対象者の受け入れを継続的に実施し、重度介護が必要な方々の受け入れも継続し、日々職員間で利用者様への対応について話し合い試行錯誤しながら対応させていただきました。又、看護師の配置・リハビリ職種の配置を継続して行い、機能訓練や医療ニーズが高い利用者の受け入れも行って参りました。

12 月の運営指導では、1 点指摘事項はありましたがその他は特に指摘事項ありませんでした。部署内の研修については計画を立てて継続的に実施することができました。

2024 年 4 月で事業所休止となることが決定しましたが、しあわせ通りらぶを最後まで利用したいとほとんどの方が 4 月末までの利用を希望されました。そして無事に全員次のご利用先に繋げることができました。今回 4 月末を持って休止となりますが、長年お世話になった地域の方々、関係機関各位に感謝申し上げます。

デイサービス 風の街

【今年度の取り組み】

A-1. ご利用者様の満足度向上

達成目標：満足度調査実施。苦情 0 にする。

B-1. 既存事業所の健全運営

達成目標：月平均利用者数 12.5 名。

C-1. リスクマネジメントの強化

達成目標：インシデント・アクシデント、車両事故報告を最小限におさえる。

C-2. 法令順守に基づくサービスの提供

達成目標：自己点検を行い、必要書類の整備を行う。

D-1. 学習意欲の向上

達成目標：勉強会参加率 65%。

BCP を基に防火訓練計画の立案、実施。

【今年度を振り返って】

令和5年度は利用者様満足度調査において、満足度率 58%という評価を頂き、のこりの 42%は普通であるという評価。不満であるという評価が 0%であり、イベント行事に力を入れたことが評価されていた。

経営的には職員の確保が困難なことにより日曜日を休止させた事もあり、前年度終了時の稼働率を上回る事が難しく、新規利用者の相談は随時、頂き新規利用者は増加していたが入院などが続き、稼働率の向上に結ぶつけることが出来なかった。

質の向上の視点からは、自己点検票に基づき、書類の不備や漏れなどの確認を実施。

地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現へ向け、法人全体として大規模災害模擬訓練を実施することが出来た。

訪問看護ステーション まむ

【今年度の取り組み】

A-1. 利用者様の満足度向上

達成目標：法人内の専門看護師による同行訪問を開始し、利用者様の在宅生活の質の向上に繋がった。

満足度調査の結果：回収率 82.2% 全ての項目によって高評価であった。

B-1. 既存事業所の健全経営

達成目標：訪問延べ回数 329 回 医療 109 回／介護 220 回。

C-1. リスクマネジメントの強化

達成目標：インシデント 1 件、アクシデント 1 件、車両事故 1 件。

C-2. 法令順守に基づくサービスの提供

達成目標：全国訪問看護事業協会の自己評価表を用いて実施。事業所課題の明確化に繋がった。

D-1. 業務に関する基礎知識の習得・学習意欲の向上

達成目標：事業所内での勉強会を実施しました。院内勉強会・各自セミナーを含む外部研修やオンライン研修に参加し自己研鑽に努めた。

【今年度を振り返って】

年間を通して稼働の変動が大きかったが、医療機関からの新規依頼等で、医療訪問件数は増加傾向にあった。

地域活動として、鹿児島国体の救護活動の参加や鹿児島県災害訓練等の活動にも積極的に参加した。

今年度も看護学生の実習受け入れを 6 か月実施した。

訪問看護ステーション まむ鹿児島

【今年度の取り組み】

A-1. 利用者様の満足度の把握と向上

達成目標：1 回／年、満足度調査の実施、集計、結果公表。アンケートの結果を反映した業務改善案の設定。

B-1. 訪問看護利用者数の向上、稼働率の維持向上

達成目標：訪問延回数上半期 9 月 295 回、下半期 3 月 325 回。

C-1. 報告の徹底

達成目標：インシデント報告の情報共有と改善に向けた対策。

D-1. 勉強会及び、カンファレンスの実施、質の向上

達成目標：部署内勉強会の項目に、事例検討会を追加して行う。個人研修計画書の作成、研修参加後のフィードバック。

【今年度を振り返って】

本年度は、退院直後の医療介入、新規受け入れ、ご自宅でのお看取り等、医療訪問件数は増加し、積極的な外部利用者の獲得を目指すことが出来た。新年度も、日々の業務改善を行い、業務分担と効率化、スケジュールの見直し、外部利用者獲得の為に定期的な広報活動を実施してゆく。

在宅サービス事業部 部門別活動報告

また、突発的な依頼へのスムーズな対応、緊急時対応、在宅での看取り等、より幅広いニーズに応えられるように、各個人の研修計画に沿った研修参加とフィードバックを行い、事業所全体のスキル向上に向けた取り組みを継続、知識技術を高めていく。

また、ストレスのない働きやすい職場環境を念頭に置き、スタッフの安定した定着を図れるよう努め、スタッフの教育にも取り組んでいきたい。

今後も心を込めた看護の提供、選ばれるステーションとなるよう、スタッフ全員協力体制で取り組み、ご利用者様、ご家族様がより安心して在宅での生活が送れるように、寄り添ってゆきたいと考える。

訪問介護ヘルパーステーション 甲東

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者様の満足度向上
達成目標：接遇・ケア・環境整備等による苦情（苦情相談2件以下）。
- B-1. 事業所の健全経営
達成目標：訪問介護1日訪問件数12件及び医療との連携構築の為、入院患者への介護保険外サービス（自費支援サービス）の提供
- C-1. リスクマネジメントの強化
達成目標：定例ミーティングにおいて、インシデント・アクシデント報告会を実施。原因、対策の分析、周知徹底を行い、再発防止に努める。
- D-1. 法令遵守に基づくサービスの提供
達成目標：運営指導に基づく内部監査計画書の作成、実施。
- D-2. 業務に関する基礎知識の習得
達成目標：定例ミーティングにおける勉強会の実施。
担当制を行う事で、認知症ケア、感染症、BCP等についての知識向上、専門性を養う。

【今年度を振り返って】

現在スタッフが有料老人ホームと兼務している為、入居者におけるヘルパー業務と外部利用者数件における自費支援サービスの提供のみ。入居者に関してはヘルパーの視点から、サービス提供責任者にて研修会を行い、ケアに対する接遇強化を図る。障害福祉サービスに関しては9月に運営指導が実施。指摘事項については早急に対応を行い、職員間にて内容把握、理解に努めた。今年度より法人内にて、非常災害時に対してのBCP（事業継続計画）における大規模災害模擬訓練が実施。今後は職員に対してBCPについての周知、計画内容の把握に努めていきたい。

居宅介護支援事業所 めく杜

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者様の満足度向上
達成目標：感染症対策を考慮した年間事業計画を立案し実行。
満足度調査の実施と結果を公表し苦情報告ゼロを目指す。
- B-1. 事業所の健全経営
達成目標：新規獲得数 月2件、介護72件、予防9件。集中減算にならないように取り組む。
特定事業所加算（Ⅱ）の算定が継続できる。
- C-1. リスクマネジメントの強化
達成目標：インシデント、アクシデント報告、検討会実施。在宅会議での件数と事例報告。年間の報告件数を集約・分析し職員へ報告。
- C-2. 法令遵守に基づくサービスの提供
達成目標：自己点検シートでの評価、考察。内部監査を受けて評価、修正を行う。
ケアプラン点検での指導助言を受けて必要個所の見直しを行う。
- D-1. 地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現、学習意欲の向上
達成目標：事業所のBCP作成と関係機関とのシュミレーションを行う。
重点項目としての研修会参加を受け運営規程を修正する。
年間計画に沿って研修会へ参加し事情書内での情報共有を行う。

【今年度を振り返って】

新型コロナウイルス感染症も5類と移行となり、リモート研修から集参加型の研修が増え、学びの機会も増えた。また、ご利用者様、ご家族様への相談支援も直接でき、すぐに対応ができることで、満足度調査では良い評価を得られた。後半、職員も増え、新規利用者獲得ができるようになり件数も増え目標件数へ近づくことができた。しかし、特定事業所加算算定までは要件を持たせず、取得できない状態である。事業所のBCP作成を実施したが、シュミレーションまでには至らず、今後、計画的に実施していく予定である。次年度の、介護報酬改定に向けての勉強会へ積極的に参加し、各自がしっかりと理解できるように取り組んできた。改定後も確実に取り組めるよう、努力していきたい。

居宅介護支援事業所 キラメキ

【今年度の取り組み】

A-1. 利用者様に信頼されるケアマネジャー

達成目標：毎週、情報連絡会議を開催し、利用者の情報共有に努め担当変更やクレームは無かった。
退職者による人員不足にて利用者の減少はやむを得なかった。

B-1. 事業所の健全経営

達成目標：入退職があったが、どうにか職員数が3名となり安定してきた。3月より新規も多く引き受けている。R6年度4月からの特定事業所加算Ⅲの算定準備を整えた。

C-1. ケアマネジメントプロセスの遵守

達成目標：主任ケアマネ取得者2名。全職員が主任ケアマネまでであり資質の高い事業所体制が整った。
外部研修も各自2回以上参加あり。

D-1. 業務に関する知識・最新情報の取得

達成目標：研修への参加も積極的に行い、主ケア研修を受講し、全職員が主任ケアマネとなった。
さらに質の高い事業所づくりを目指す。

【今年度を振り返って】

今年度も数名の退職者があり、事業所体制を整えること、また利用者の確保が厳しい状況であった。2月より新入職員が入り、事業所体制がやっと整った。7月より、人員不足により特定事業所加算の算定が出来なくなりましたが、令和6年4月より、特定事業所加算Ⅲの再算定が出来るように準備を整えた。ケアマネジャーがモチベーションを取り戻しケアマネジメント業務に専念できるよう、介護保険や鹿児島地区の状況に合わせて持続可能な業務遂行ができるように努めます。

在宅サービス事業部内研修

在宅サービス事業部内各事業所において、独自の取り組みや研究を行っており、年に一度、両地区合同で研究発表会を開催しています。

【第1回在宅合同研究発表会 ZOOMによりハイブリット開催】

○実施日：2024年2月9日（金）17：30

○会場：介護医療院おはな 1階リハフロア
有料老人ホームほりえ 1階デイフロア

《演題》始良地区

- ① 「通所介護事業所Aにおけるcog-evo導入が認知機能に与える影響」
通所介護事業所しあわせ通りらぶ 藤原 敦美
- ② 「療育ケア児と家族を支える訪問看護導入の取り組み」
～療育ケアが必要な子供と家族に、訪看スタッフができること～
訪問看護ステーションまむ 柳田 和江

《演題》鹿児島地区

- ③ 「癌末期利用者の離島への帰省をサポートする看護」
～その人らしく生きるために～
訪問看護ステーションまむ鹿児島 川名 理恵
- ④ 「看護多機だからこそこできる伴走型支援の重要性」
～在宅での排泄介助を見直し支援する～
ケアレジデンス星の街 永田 綾香

在宅合同勉強会

事業部内の勉強会も月1回のペースで開催。今期は以下のテーマで開催しました。

○主催：在宅サービス事業部教育委員会

○実施日：毎月1回、定例的に実施

○対象：在宅サービス事業部の職員

※新型コロナウイルス感染症により感染状況により実施判断

【鹿児島地区・始良地区 ZOOMによるハイブリット開催】

開催月	テーマ
4月	研究発表への取り組み方
5月	職員の腰痛予防対策
6月	感染対策について（食中毒）
7月	緊急時の対応（心臓マッサージ、AEDの使用方法について）
8月	看護小規模多機能型居宅介護について～事業所独自の取り組み紹介～
9月	災害対策（BCPについて）
10月	健康講座～あなたの未来を変えるのはだれですか～
11月	ハラスメントについて
12月	リスクマネジメントについて
1月	介護医療院について～介護医療院の特性と在宅との連携について～
2月	在宅研究発表
3月	報酬改定について

社会福祉法人 幸友会

社会福祉法人幸友会 かずみ保育園

○法人理念

Be HAPPY
地域に愛され 地域に必要とされ
関わる全ての人々を幸せに導く法人を目指します。

○保育理念

乳幼児期の体験は一生の宝物
私たちは子どもの限りない可能性を大切に保育いたします。

○保育目標

子どもの成長を支える3つの約束



○保育方針

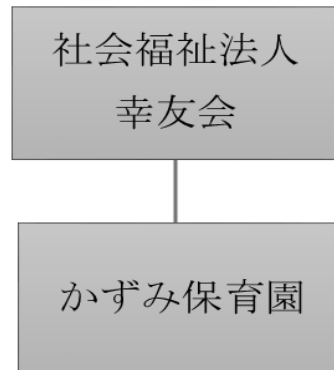
豊かな人間性をもった、子どもを育成いたします

新・保育所保育指針を基に「豊かな人間性の育成」を方針として保育いたします。乳幼児期はこれからの人格形成の基礎を培う、とても大切な時期です。和やかであり、家庭的な雰囲気の中で子どもの発達を見守り、個々の自主性を尊重する保育を目指します。保護者の皆さまと共にお子様を見守り、サポートいたします。子どもたちの健やかな成長と幸せを心から願っております。

○職員行動指針

他者を理解し、今ある環境に感謝する
私たちはこの指針を全職員の共通の目標とします

社会福祉法人幸友会 組織図



かずみ保育園の沿革

- 1979年 4月 社会福祉法人幸友会 かずみ保育園 開園 定員 60名
- 1990年 5月 保育にスイミングを導入
- 2001年 4月 保育に空手導入
- 2002年 4月 乳幼児専門保育 エミーズハウス 開設
- 2003年 6月 子育てサロン ひまわり 開設
- 2004年 2月 創立 25周年を記念してチャリティーリズム発表会を加音ホールで行う
- 2006年 11月 保育に子どもヨガを導入
- 2006年 12月 保育に硬筆を導入
- 2006年 12月 保育にカードあそびを導入
- 2010年 3月 加治木町社会福祉協議会より保育活動で行ってきた 1円献金の寄付に対し感謝状を頂く
- 2011年 3月 かずみグラウンド 駐車場整備
- 2014年 4月 虫歯ゼロを目指し フッ化物洗口を導入
- 2014年 5月 保育に英語あそびを導入
- 2014年 10月 大規模災害想定避難訓練 実施
- 2015年 4月 保護者向け メール配信システム導入
- 2015年 6月 事務所側エントランス整備
- 2015年 8月 かずみサマーキッズスクール開催（夏期休みに伴う学童保育）
- 2015年 8月 保育園正門扉整備
- 2015年 12月 かずみウィンターキッズスクール開催（冬期休みに伴う学童保育）
- 2016年 8月 コンビネーション遊具購入
- 2018年 5月 保育に言葉の教室導入（加治木温泉病院との連携）
- 2019年 4月 園長・副園長に医療福祉従事者を配置し、チーム保育の実践
- 2019年 9月 幼児教育・保育の無償化に関する説明会実施
- 2019年 10月 MBCラジオ「朝のモーニングスマイル」収録
- 2020年 1月 令和元年度 第3回 始良市幼保小連携研修会（加治木幼稚園ブロック）
公開保育にて近隣の小学校・保育園・幼稚園職員来園
- 2020年 9月 保育に運動の教室導入（ウェルビークラブとの連携）
- 2020年 10月 保育にプログラミング（ゲーム）導入
- 2021年 3月 積み木の贈呈式実施（株）浪漫 よかあんべさんより
- 2022年 1月 MBCラジオ「朝のモーニングスマイル」収録
- 2022年 3月 事務所横フリースペース改装
- 2023年 3月 かずみグラウンド人工芝スペース作成
- 2023年 7月 「かごしま健康企業宣言」参加
- 2024年 3月 健康経営優良法人 2024（中小規模法人部門）認定取得

かずみ保育園の概要

名 称 社会福祉法人幸友会 かずみ保育園

所在地 〒899-5231

鹿児島県始良市加治木町反土 1420 番地 1

Tel 0995-62-0657

Fax 0995-62-0659

E-Mail kids-world.kazumi@apricot.ocn.ne.jp

URL <http://www.kazumihoikuen.com>

園児定員	60 名	クラス数	6 クラス (年齢別)
開所時間	7:00am~6:00pm	延長保育	6:00pm~7:00pm

外部指導

〈こどもヨガ〉

- 正しい呼吸法を身につけ 体のバランスを整えることで、集中力が育ちます。

〈スイミング〉

- 水に親しむことで水への恐怖心をなくし、また 専門のスタッフの指導により、正しい泳法を学ぶことができます。

〈英 語〉

- ネイティブの外国人講師によるレッスンで、英語の正しい発音や基礎を身につけ、グローバルに羽ばたく子どもを育てます。

〈空 手〉

- 空手を通し、礼儀作法はもちろんのこと、たくましい体と心も育てます。

〈言葉の教室〉

- 言語聴覚士による正しい言葉の発音と、使い方等の基礎を学び育てます。

〈運動の教室〉

- フィットネスクラブのインストラクターが正しい体の使い方を学びます。

かずみ保育園 職員研修

◆園内研修

開催日	研修内容	参加人数
7月15日	接遇研修	13
10月7日	感染研修	11
12月9日	虐待予防研修	12

◆その他外部参加研修一覧

開催日	研修会名	主催	参加人数
4月24日	感染症対策・新型コロナウイルス5類への変更で何が変わる	鹿児島県保育連合会	1
6月5日	幼児保育	保育所等キャリアアップ研修会	1
7月5日	BCPを作成しよう	鹿児島県保育連合会	1
7月22日	こどもの発達と遊び・災害時の適切な対応と保育所(園)のあり方	始良市保育協議会	3
8月5日～6日	乳児保育・対応研修	始良市保育協議会	3
8月7日	令和5年度鹿児島県就学相談・支援担当者協議会	鹿児島県特別支援教育課	1
8月12日	発達段階別絵本の選び方、読み方、遊び方	鹿児島県保育連合会	1
8月19日	虐待に関する対応について	始良市保育協議会	1
8月22日	令和5年度保育技術協議会	鹿児島県教育委員会・鹿児島県	1
9月8日～9日	保健衛生・安全対策(キャリアアップ)	鹿児島県保育連合会	1
1月17日～18日	安全衛生推進者養成講座	アイムセーフ	1
1月22日～23日	マネジメント(キャリアアップ)	鹿児島県保育連合会	1
2月22日	退職時に関する手続き	鹿児島県社会保険協会	1

2023 年度 主な年間行事

4月

入園式、春の遠足

5月

子どもの節句、前期園児健診

6月

運動会、歯科検診

7月

七夕会、あお組だけのスペシャル保育

8月

夏祭り

9月

十五夜会

10月

後期園児健診

11月

秋の遠足、観劇

12月

リズム発表会、クリスマス会

1月

鏡開き

2月

節分豆まき、マラソン大会

記念写真撮影

3月

雛祭り、お別れ遠足、卒園式

毎月

誕生会、避難訓練、英語教室、空手教室、ヨガ教室、言葉の教室、運動の教室



夏祭り



スペシャル保育



運動会



マラソン大会



クリスマス会



壮行会



リズム発表会



卒園式

株式会社 JOY

株式会社 JOY

経営理念

Make Your JOY

「あなたに会えてよかった・・・」と喜んで頂けることが私たちの喜びです。
私たちはそんな出会いの場とサービスを提供することを、もっとも大切な使命と
こころえています。

行動指針（姿勢、行動、挑戦）

1. 五つの出会いに、丁寧に向き合います。
2. お互いを敬い、学び合う相互理解の精神をモットーに出会いを大切にします。
3. いつも笑顔・身だしなみ・美しい言葉づかい・立ち居振る舞いに真心をこめてお
応えします。
4. 喜ばれるサービスの為に、日々学び研鑽します。

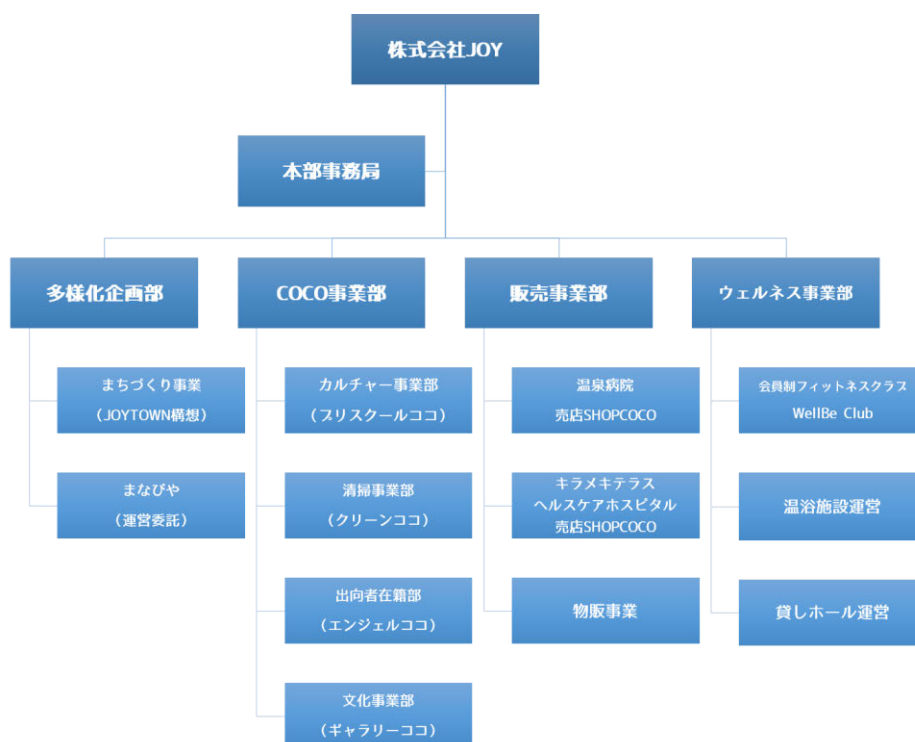
Important Things ～五つの出会い～

1. JOYとお客様の出会い
2. JOYと社員との出会い
3. 社員とお客様との出会い
4. お客様とお客様の出会い
5. 社員と社員の出会い

事業内容 ～持続可能な“wellness”環境の創出～



組織図



株式会社JOY 各事業所の概要

COCO事業部 (Community・Communication)

〈カルチャー事業〉

街の小さなお教室 プリスクール・ココ

鹿児島市大黒町 1-3-8F TEL099-227-5535 2004年5月 開設

〈ギャラリー事業〉

ギャラリー・COCO

鹿児島市新町 5-19 TEL099-227-5535 2006年4月 開設

〈清潔環境応援隊〉

クリーン・COCO

鹿児島市新町 5-19 TEL099-227-5535 2009年10月 開設

〈業務サポートチーム〉

エンジェル・COCO

鹿児島市新町 5-19 TEL099-227-5535 2010年8月 開設

販売事業部

〈売店事業〉

加治木温泉病院 売店SHOP・COCO

始良市加治木町木田 4714 TEL0995-62-0001(内線 252) 2007年8月 開設

キラメキテラスヘルスケアホスピタル 売店SHOP・COCO

鹿児島市高麗町 43番 30号 TEL099-203-0727 2021年2月 開設

ウェルネス事業部

〈会員制フィットネスクラブ事業 / 温浴施設・多目的貸しホール運営〉

WellBe Club (ウェルビークラブ)

始良市東餅田 1181 TEL0995-65-2020 2017年11月 開設

2023 年度トピックス

■『親子でハッピー♡マルシェ』開催
親子で楽しんで頂けるイベント開催



■Global Wellness Day開催
家族連れ等、多世代でご参加いただく様子もみられました



■トライアスロン 佐藤 錬選手 講演会
世界で活躍するトップアスリート佐藤選手による体験談やトレーニング方法についての講演会を開催しました



■WellBe Club 6周年イベント
6周年イベントウィーク



医療法人玉昌会×We I I Be C l u b ココカラ診断 開催
ミニマルシェ開催



■みんなの水辺サポート

水辺サポート推進事業として松原地区別府川堤防のボランティア清掃を実施



■We I I Be C l u b 松原なぎさ市出店&ステージ出場

12月24日に開催された松原なぎさ市へブース出店し、ステージ出場では、多世代で行えるリズム体操を発表しました



■MBC南日本放送年末特番「てげてげの大人の社会科見学～大みそかSP～」に出演
MBCタレントの野口たくおさんと学生スタッフさんに施設をご案内しました



■スポーツ庁「スポーツエールカンパニー2024」に認定

株式会社JOYは従業員が行うスポーツ活動の支援や促進に向けた取組を実施している企業としてスポーツ庁より「スポーツエールカンパニー2024」に認定されました



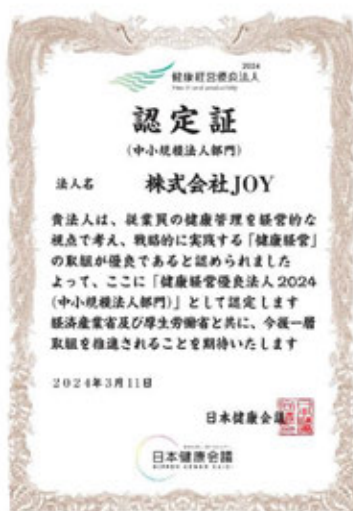
■ショップココ催事

高級パンの催事特別販売を行いました。



■「健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）」認定

株式会社JOYは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度である「健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）」に認定されました。



玉昌会グループ 2023 年度年報

(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

発行日 2024 年 9 月

発行者 医療法人玉昌会 理事長 高田昌実

鹿児島県鹿児島市泉町 2 番 3 号そうしん本店ビル 4F

TEL 099-226-8036

FAX 099-226-8874